

平成23年度 (2011)
授 業 概 要 (授業シラバス)
徳島大学 歯学部

歯学部	2
歯学科	2
口腔保健学科	151

歯学部 — 歯学科 授業概要

● 歯学科

解剖学 (1)A・B 講義 ...北村・山下/2年(後期).....	5
解剖学 (1)C 講義 ...北村・角田・島田・吉田/3年(前期).....	7
解剖学 (1) 実習 ...北村・山下・角田/2年(後期), 3年(前期).....	9
解剖学 (2) A・B 講義 ...羽地・樋浦・沼子・瀬戸口/2年(後期).....	11
解剖学 (2) 実習 ...羽地・樋浦/2年(後期).....	13
解剖学 (2) C 講義 ...羽地/3年(前期).....	15
解剖学 (2) 実習 ...羽地・樋浦/3年(前期).....	16
生理学 A・B 講義 ...細井・赤松・長谷川/2年(後期).....	17
生理学 C・D 講義 ...細井・赤松・長谷川/3年(前期).....	19
生理学 実習 ...細井・赤松・長谷川/3年(前期).....	21
生化学 A・B 講義 ...野間・三好/2年(後期).....	23
生化学 C・D 講義 ...野間・三好・堀口・中田・伊藤・松本/3年(前期).....	25
生化学 実習 ...野間・三好・堀口/3年(前期).....	27
病理学 A・B 講義 ...石丸・泉・松本/3年(前期).....	29
病理学 C・D 講義 ...石丸・野地/3年(後期).....	31
病理学 実習 ...石丸・新垣・山田/3年(後期).....	33
細菌学 A・B 講義 ...三宅・弘田・村上・櫻井/2年(後期).....	35
細菌学 C・D 講義 ...三宅・弘田・村上・菅井/3年(前期).....	37
細菌学 実習 ...三宅・弘田・根本・村上/3年(後期).....	39
薬理学 A・B 講義 ...吉本・石川・水澤・岩田・福井・玉置・中屋・板東・栗島/3年(前期).....	40
薬理学 C・D 講義 ...吉本・石川・水澤・岩田・福井・玉置・中屋・板東・栗島/3年(後期).....	42
薬理学 実習 ...吉本・石川・水澤・岩田・森谷・伊井/3年(後期).....	44
歯科理工学 A 講義 ...浅岡・日浅/2年(後期).....	45
歯科理工学 B 講義 ...浜田/2年(後期).....	46
歯科理工学 C 講義 ...浅岡・浜田・関根・日浅・吉山・亙理/3年(前期).....	48
歯科理工学 実習 ...浅岡・浜田・関根・日浅/3年(前期).....	49
衛生学/公衆衛生学 講義 ...伊藤・片岡・福井・日野出・石本・井崎/3年(後期).....	51
予防歯科学 A 講義 ...伊藤・片岡・福井・日野出/3年(後期).....	53
予防歯科学 B 講義 ...伊藤・片岡・福井・中垣・滝波・酒井/4年(前期).....	55

予防歯科学 実習 ... 伊藤・片岡・福井・酒井/4年(前期).....	57
歯科保存学 (1)A 講義 ... 松尾・中江・中西・寺下/3年(後期).....	58
歯科保存学 (1)B 講義 ... 松尾・中江・中西・菅/4年(前期).....	60
歯科保存学 (1) 実習 ... 松尾・中江・中西・菅・湯本・細川・高橋・平尾/4年(前期, 後期).....	62
歯科保存学 (2)A 講義 ... 永田・木戸・笠原/3年(後期).....	64
歯科保存学 (2)B 講義 ... 永田・大石・二宮・西川/4年(前期).....	66
歯科保存学 (2) 実習 ... 永田・木戸・大石・二宮・堀部・米田・稲垣・美原/4年(前期), 4年(後期).....	68
歯科補綴学 (1)A 講義 ... 市川・永尾・友竹・本釜・長尾/3年(後期).....	70
歯科補綴学 (1)B 講義 ... 市川・羽田・岡・柏原・渡邊/4年(前期).....	72
歯科補綴学 (1) 実習 ... 市川・永尾・友竹・柏原・本釜・渡邊・長尾・内藤/4年(前期), 4年(後期).....	74
歯科補綴学 (2)A 講義 ... 西川・竹内・細木・坂東・中野/3年(後期).....	76
歯科補綴学 (2)B 講義 ... 久保・西川・細木・郡・重本・大倉・薩摩/4年(前期).....	78
歯科補綴学 (2) 実習 ... 久保・西川・竹内・細木・郡・重本・大倉・薩摩/4年(前期), 4年(後期).....	80
口腔外科学 (1)(口腔内科)AB 講義 ... 東・松本・桃田・茂木・青田・木村・由良/4年(前期).....	82
口腔外科学 (1)(口腔内科)C 講義 ... 東・松本・桃田・茂木・青田/4年(後期).....	85
口腔外科学 (2)(口腔外科)A 講義 ... 宮本・永井・藤澤・玉谷・内田・宮内・湯淺・大江・工藤・高丸/4年(前期).....	87
口腔外科学 (2)(口腔外科)BC 講義 ... 宮本・永井・藤澤・玉谷・内田・宮内・湯淺・大江・工藤・高丸/4年(後期).....	89
歯科矯正学 A 講義 ... 田中・黒田・堀内・高田/4年(前期).....	91
歯科矯正学 B 講義 ... 田中・黒田・堀内・高田/4年(後期).....	93
歯科矯正学 実習 ... 田中・黒田・堀内・泰江・藤原・川合・木内/4年(後期).....	95
小児歯科学 A 講義 ... 三留・有田・原田・郡・小口・高木/4年(前期).....	97
小児歯科学 B 講義 ... 三留・有田・原田・郡・白川/4年(後期).....	99
小児歯科学 実習 ... 三留・有田・原田・郡・尼寺・阿部・上田(山口)/4年(後期).....	101
歯科放射線学 A 講義 ... 誉田・前澤/4年(前期).....	102
歯科放射線学 B 講義 ... 細木・高橋・森田・古川/4年(後期).....	104
歯科放射線学 実習 ... 誉田・細木・高橋・前田・菅原・工藤・森田/4年(後期).....	106
歯科麻酔科学 A 講義 ... 北畑・富岡・江口・高石/4年(前期).....	108
歯科麻酔科学 B 講義 ... 北畑・富岡・江口・高石/4年(後期).....	110
内科学 (1) ... 藤中・粟飯原・遠藤・竹内・梶・佐藤・松井・和泉/4年(前期).....	112
内科学 (2) ... 岩瀬・添木・山田・若槻・岡村・岡本・木村・六車・山口・楠瀬・竹中・北村/4年(前期).....	113
内科学 (3) ... 吾妻・岸・後東・柿内・東・豊田・青野・埴淵/4年(前期).....	114
外科学 (1) ... 兼松・溝渕・神原・田代・寺嶋・三好・佐々木・他/4年(後期).....	115

外科学 (2) ...先山・監崎・滝沢・山本・鳥羽・中川・中川/4年(後期).....	116
小児科学(隣接医学C) ...森・近藤・小谷/5年(前期).....	117
神経精神医学(隣接医学B) ...大森/5年(前期).....	118
臨床検査医学(隣接医学C) ...土井・安部・長井・松浦・野間・水野/5年(前期).....	119
皮膚科学(隣接医学A) ...石上・村尾・宮島・古北/5年(前期).....	120
整形外科(隣接医学B) ...加藤・高田・江川・松浦/5年(前期).....	121
耳鼻咽喉科学(隣接医学A) ...田村・阿部・関根・北村/5年(前期).....	122
産科婦人科学(隣接医学B) ...山本・加地・田中・吉田/5年(前期).....	123
眼科学(隣接医学A) ...四宮・江川・長澤・井上/5年(前期).....	124
泌尿器科学(隣接医学B) ...福森・高橋・井崎・中達/5年(前期).....	125
栄養学(隣接医学C) ...二川・竹谷・奥村/5年(前期).....	126
医事法制/法医学(隣接医学C) ...西村/5年(前期).....	127
臨床心理学 ...佐藤・原・境・内海・福森/3年(後期).....	128
医学細胞生物学・人類遺伝学 ...片桐・親泊・小迫・坂井・真板・高橋・谷上/3年(後期).....	129
口腔と健康 ...徳島大学病院副病院長・徳島大学病院(歯科部門)教授・他/1年(前期).....	131
歯科臨床示説 ...臨床系研究室・診療科等教員/6年(通年).....	132
歯学概論 ...学部長・8基礎系研究室教授/1年(後期).....	133
早期体験実習 ...河野・他/2年(前期).....	134
研究基礎ゼミ ...基礎系研究室教員・臨床系研究室・診療科(部)教員/3年(後期).....	135
歯科英語 ...羽地・野間・吉本・永田/3年(後期).....	136
医の原則と態度 ...河野・大石・篠原・吉田・村澤/4年(後期).....	137
社会と歯科医療 ...伊藤・東・白山・寺岡・久米・早雲・吉田・薦田・森・佐藤・山上・秋田・川井/5年(後期).....	138
加齢歯科学 ...市川・北村・吉本・伊藤・松尾・永田・北畑・羽田・日野出・永尾・久保・東・本釜・横山・森戸・佐藤・七條・宇高/5年(前期, 後期).....	139
バイオマテリアル・バイオエンジニアリング ...浅岡・市川・重本・誉田・浜田・内藤・渡邊・久保・広田・菅原・里村/5年(後期).....	141
統合臨床講義 ...臨床系研究室・診療科(部)教員・基礎系研究室教員/5年(前期).....	142
総合歯科学1 ...基礎系教員/6年(前期).....	143
総合歯科学2 ...臨床系教員・他/6年(前期).....	144
総合歯科学3 ...北村・永田・三宅・松尾・伊藤・木戸・二宮・大石/6年(後期).....	145
総合歯科学4 ...基礎系教員/6年(後期).....	147
総合歯科学5 ...臨床系教員・他/6年(後期).....	148
バイオマテリアル(口腔インプラント治療学講義) ...市川・友竹・藤澤・郡・大江/5年(後期).....	149

解剖学(1)A・B 講義

2 単位 2 年 (後期)

Anatomy(1)

北村 清一郎・教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 山下 菊治・准教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学)

【授業目的】人体を構成する器官系(系統)のうちの骨格系, 筋系, 循環系, 神経系の肉眼解剖的構造を学習し, 人体の構造を系統別に理解する。

【授業概要】解剖学総論, 筋学, 脈管学, 末梢神経学, 中枢神経学に分けて, 人体の概要を理解するとともに, 筋系, 循環系, 神経系の肉眼解剖学的構造を学習し, 人体解剖実習に必要な知識を修得する。骨格系の講義は, 実習講義として, 解剖学(1)実習に含める。

【授業形式】講義

【授業方法】講義(スライド, プリント)

【授業場所】第2講義室

【授業テーマ】人体の構造を系統別に捉える。

【キーワード】筋肉, 心臓, 血管, 神経, 脳, 脊髄

【先行科目】『基礎生物学/基礎生物学 DI』(1.0), 『基礎生物学/基礎生物学 DII』(1.0)

【関連科目】『解剖学(2)実習』(0.5), 『解剖学(2)A・B 講義』(0.5), 『解剖学(2)C 講義』(0.5)

【履修上の注意】毎回の授業の講義事項のキーワードをあらかじめ提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習し, 理解した内容を予習帳にまとめ, 講義開始時に提出する。②受講者は毎回受講後に, キーワードについての予習内容を学習成果を基に復習帳に書き直し, 次回の授業開始時に提出する。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 人体を構成する細胞, 組織, 器官, 系統の定義と相互の関連を説明できる。
2. 人体を構成する系統の概略を説明できる。
3. 人体の部位を解剖学的に説明できる。 <D-2-1>
4. 人体の方向用語を正確に用いることができる。 <D-2-1>
5. 筋の付着, 作用, および附属器の概略を説明できる。 <D-2-3-(2)>
6. 人体を構成する筋を部位毎に列挙し, 作用を説明できる。 <D-2-3-(2)>
7. 表情筋と咀嚼筋の構成と機能を説明できる。 <F-2-1>
8. 頸部の筋の構成と機能を説明できる。 <F-2-1>

9. 人体の主要な関節の運動に関わる筋を, 関節の作用毎に列挙できる。 <D-2-3-(2)>
10. 心臓の構造を説明できる。 <D-2-3-(3)>
11. 肺循環と体循環の2系統を説明できる。 <D-2-3-(3)>
12. 動脈, 毛細血管および静脈の構造を説明できる。 <D-2-3-(3)>
13. 主な動脈と静脈を列挙できる。 <D-2-3-(3)>
14. リンパの循環路とリンパ節の構造を説明できる。 <D-2-3-(3)>
15. リンパ性組織とリンパ性器官を説明できる。 <D-2-3-(11)>
16. 造血器を説明できる。 <D-2-3-(11)>
17. 頭頸部の脈管系を説明できる。 <F-2-1>
18. 胎児循環を説明できる。 D-2-3-(3)
19. 脳神経の種類, 走行, 線維構築および支配領域を説明できる。 <D-2-3-(5)>
20. 三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構築を説明できる。 <F-2-1>
21. 末梢神経系の機能分類(体性神経系と自律神経系)を説明できる。 <D-2-3-(5)>
22. 交感神経系と副交感神経系の構造を説明できる。 <D-2-3-(5)>
23. 脊髄神経の種類と走行および支配領域の概略を説明できる。 <D-2-3-(5)>
24. 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。 <D-2-3-(5)>
25. 錐体路と錐体外路系が通る経路とこれらによる筋の支配様式を説明できる。 <D-2-3-(5)>
26. 主要な求心性伝導路の経路を説明できる。 <D-2-3-(5)>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	解剖学総論	解剖学とは	人体の構成, 人体の区分, 方向用語	1,2,3,4	北村
2.	筋学	筋学総論	筋の付着と作用, 筋の付属器	5	〃
3.	〃	頭部の筋	表情筋, 咀嚼筋	7	〃
4.	〃	頸部の筋	浅頸筋, 側頸筋, 前頸筋, 後頸筋	8	〃
5.	〃	上肢の筋	浅胸筋, 浅背筋, 上肢帯の運動と筋	6,9	〃
6.	〃	〃	肩甲筋, 上腕・前腕・手の筋	〃	〃
7.	〃	体幹の筋	深背筋, 深胸筋	〃	〃

8.	”	”	腹部の筋	”	”
9.	”	下肢の筋	下肢帯の筋, 大腿の筋	”	”
10.	”	”	下腿の筋, 足の筋	”	”
11.	脈管学	総論	定義と区分, 体循環と肺循環	11,12	山下
12.	”	心臓 肺循環	心臓の位置と外景, 内景, 特殊心筋線維 心膜, 肺動脈, 肺静脈	10	”
13.	”	動脈系	大動脈弓, 外頸動脈, 内頸動脈	13,17	”
14.	”	”	鎖骨下動脈, 胸大動脈	13	”
15.	”	”	腹大動脈, 内・外腸骨動脈	”	”
16.	”	静脈系	上大静脈, 頭頸部の静脈	13,17	”
17.	”	”	門脈, 奇静脈系, 胎児循環	13,18	”
18.	”	リンパ系	概説, 脾臓, 頭頸部のリンパ系	14,15,16	”
19.	末梢神経学	総論	定義と区分, 基本構成	21	”
20.	”	脊髄神経系	頸神経叢, 腕神経叢	23	”
21.	”	”	胸神経, 腰神経叢, 仙骨神経叢, 陰部神経叢	”	”
22.	”	脳神経系	概説, 動眼神経	19	”
23.	”	”	三叉神経	19,20	”
24.	”	”	顔面神経, 舌咽神経, 迷走神経, 舌下神経	19	”
25.	”	自律神経系	概説, 交感神経系	22	”
26.	”	”	副交感神経系	”	”
27.	中枢神経学	中枢神経系の内景	総論, 脊髄の構造	24,25,26	北村
28.	”	”	脳幹	”	”
29.	”	”	小脳, 間脳	”	”
30.	”	”	大脳, 伝導路	”	”

【成績評価】評価は、大項目「筋学」、「脈管学」、「末梢神経学」毎に筆記試験で行う。中項目「中枢神経系の内景」については、解剖学(1)実習の中項目「中枢神経系の外景(講義と実習)」「脳実習」と合わせて、大項目「中枢神経学」として解剖学(1)実習に含め、試験を行う。試験は2年次後期中に実施し、100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】各筆記試験に対して1回のみ行う。

【教科書】

- ◇教科書:「人体解剖学(改訂第41版)」藤田恒太郎 著, 1993年(南江堂)
- ◇プリント:プリントを配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217374>

【連絡先】

- ⇒ 北村清一郎(kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・教授室/633-7319) (オフィスアワー: 火~ 金 16:15-17:45)
- ⇒ 山下菊治(kikuji@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・准教授室/633-9120) (オフィスアワー: 月~ 金 16:15-17:45)

【備考】講義は水曜日の1・2時限目に実施される。

解剖学(1)C 講義

1 単位 3 年 (前期)

Anatomy(1)

北村 清一郎・教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 角田 佳折・助教 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 島田 和幸・非常勤講師 / 鹿児島大学

吉田 篤・非常勤講師 / 大阪大学

【授業目的】 人体解剖学は、体を骨格系や内臓系などの系統別に分けて論ずる系統解剖学と、体の各領域について、異なる系統のものも一括して、その構造全体を対象として論ずる局所解剖学に分けられる。解剖(1)A・Bは系統解剖学的に人体を理解しようとするものである。これに対して、解剖学(1)Cでは、歯科医師に必要な頭頸部(顎顔面口腔領域を中心とする)の構造を局所解剖学的に学習するとともに、頭頸部諸構造の個体発生を学習し、頭頸部の総合的な捉え方を修得する。

【授業概要】 歯科医師として必要な頭頸部(顎顔面口腔領域を中心とする)の局所解剖学的知識を、頭頸部の部位毎に学習するとともに、頭頸部の骨格系や筋系、および神経系や内臓系の個体発生を総合的に学習する。非常勤講師による特別講義は解剖学への学生の興味を高めるためのもので、解剖学におけるトピックス的事項や局所解剖学的事項をテーマに実施される。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義(スライド、プリント)

【授業場所】 第3講義室

【授業テーマ】 顎顔面口腔領域の構造を局所解剖学的ならびに個体発生学的に捉える。

【キーワード】 頭頸部, 口腔, 咽頭, 顎関節, 三叉神経

【先行科目】 『解剖学(1)A・B 講義』(1.0), 『解剖学(1) 実習』(1.0)

【関連科目】 『解剖学(2) 実習』(0.5), 『解剖学(2) A・B 講義』(0.5), 『解剖学(2) C 講義』(0.5)

【履修上の注意】 毎回の授業の講義事項のキーワードをあらかじめ提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習し、理解した内容を予習帳にまとめ、講義開始時に提出する。②受講者は毎回受講後に、キーワードについての予習内容を学習成果を基に復習帳に書き直し、次回の授業開始時に提出する。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 口唇と頬, 口腔前庭, 口蓋, 口腔底の局所解剖構造を説明できる。 <F-2-2>
2. 口腔粘膜の特徴を部位毎に説明できる。 <F-2-2>
3. 舌の構造と機能を説明できる。 <F-2-2>

4. 構音器官としての口腔の形態を図示できる。 <F-2-2>
5. 顎関節の構造と機能を説明できる。 <F-2-1>
6. 咽頭と喉頭, および前頸部の局所解剖構造を説明できる。 <F-2-1>
7. 頭頸部内臓の個体発生と器官発生を概説できる。 <D-2-2> <F-2-3>
8. 口腔・顎顔面領域の加齢による変化を説明できる。 <F-2-3> <D-2-4>
9. 舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。 <F-2-3>
10. 三叉神経系の中樞投射を説明できる。 <F-2-1>
11. 嚥下の機序を説明できる。 <F-2-1>
12. 下顎の随意運動の基本を説明できる。 <F-2-1>
13. 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 <F-4-3>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	頭頸部の局所解剖学	顔	口唇と頬, 表情筋, 耳下腺	1	北村
2.	〃	顔と口腔	顔面の神経と脈管, 口腔総論, 口腔前庭	1,2,4	〃
3.	〃	口腔	口蓋, 舌下部, 舌, 歯と歯肉に分布する神経	1,3,4	〃
4.	〃	口峽と咽頭腔・喉頭腔	口峽, 咽頭腔, 口蓋筋と咽頭筋, 喉頭腔, 嚥下	4,6,11	〃
5.	〃	咀嚼筋隙	頭・顔面の筋膜, 咀嚼筋隙とは, 頬脂肪体, 翼突下顎隙, 翼口蓋窩	1,6,12	〃
6.	〃	顎関節	構造総論, 下顎窩, 下顎頭, 関節軟骨, 関節円板, 関節円板の機能的意義, 関節包, 関節腔, 補強靭帯	5	〃
7.	〃	前頸部	区分, 皮下, 筋膜, オトガイ下三角, 顎下三角, 下顎後窩	6	〃
8.	〃	頸部内臓, 顎口腔領域の加齢変化	頸部の内臓, 頸動脈鞘, 外側頸部, 咽頭傍腺, 顎口腔領域の加齢変化	6,8,9,13	〃
9.	〃	頭頸部諸器官の個体発生	初期発生	7	角田
10.	〃	〃	頭頸部内臓の個体発生と器官発生	〃	〃
11.	〃	〃	舌と唾液腺の発生	9	〃

12~13.	特別講義	三叉神経系の中樞投射	痛みの概念, 三叉神経と痛み, 求心線維の投射, 咀嚼運動の神経機構	10	吉田
14~15.	〃	頭頸部の臨床解剖学	顔面の筋の臨床解剖学	1	島田

【成績評価】評価は、大項目「頭頸部の局所解剖学」について筆記試験で行う。試験は3年次前期中に実施し、100点満点で60点以上のものを合格とする。大項目「特別講義」については、講義終了直後に講義内容をレポートにまとめて提出してもらう。レポートは5点満点で評価し、中項目「三叉神経系の中樞投射」については大項目「中枢神経学」の試験の点数に、中項目「頭頸部の臨床解剖学」については大項目「頭頸部の局所解剖学」の試験の点数に、それぞれ加算する。

【再試験】1回のみ行う。

【教科書】

- ◇教科書:「人体解剖学(改訂第41版)」藤田恒太郎 著, 1993年(南江堂)
- ◇教科書:「臨床家のための口腔顎顔面解剖アトラス」北村清一郎 編著, 2009年(医歯薬出版)
- ◇プリント:プリントを配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217375>

【連絡先】

- ⇒ 北村清一郎(kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・教授室/633-7319) (オフィスアワー: 火~ 金 16:15-17:45)
- ⇒ 角田佳折(sumida@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・第2研究室/633-7320) (オフィスアワー: 火~ 金 16:15-17:45)

【備考】講義は水曜日の1・2・3時限目(5週のみ)に実施される。

解剖学(1) 実習

Anatomy(1)

4 単位 2 年 (後期), 3 年 (前期)

北村 清一郎・教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 山下 菊治・准教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学)

角田 佳折・助教 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学)

【授業目的】 解剖学(1)A・B 講義で履修した内容を、実際に自分の目で確かめ、より理解を深めることを目的として、人体乾燥骨標本(骨学実習)と脳と脊髄(脳実習)の観察、および人体の解剖(系統解剖実習)を行う。

【授業概要】 骨学実習では、実習講義の形で講義を行って後、人体乾燥骨格・骨標本を観察し、人体の骨格を構成する骨の名称と位置、連結関係、左右の鑑別、各骨の主要部位の名称と役割を学習する。脳実習では、中枢神経系の外景についての実習講義を行って後に、脳と脊髄の観察を行い、主要部位の名称と位置、各部位間での位置的関係を学習する。系統解剖実習では、6人に1体の割で人体の解剖を行い、人体の主要構造の形や役割、主要構造間の位置的関係を学習する。実習講義はセクション毎に9回行う。人体の解剖は、手法は局所解剖的である。したがって、ここでは、2年次後期に学んだ系統解剖学の知識を局所解剖学的知識に置き換える訓練を行うことになる。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習(1回の実習は240分として組まれている)

【授業場所】 解剖実習室

【授業テーマ】 講義で得た静的な知識を、自らの眼で確認して動的に捉え直すとともに、系統別に細分化された知識を統合的なものにする。

【キーワード】 骨格系, 中枢神経系, 人体解剖

【先行科目】 『解剖学(1)A・B 講義』(1.0), 『解剖学(2)A-B 講義』(1.0)

【関連科目】 『解剖学(2)実習』(0.5), 『解剖学(2)C 講義』(0.5)

【履修上の注意】 原則として、実習全回出席をもって履修を認定する。骨学と中枢神経学に関しては、毎回の実習講義の講義事項のキーワードをあらかじめ提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習し、理解した内容を予習帳にまとめ、講義開始時に提出する。②受講者は毎回受講後に、キーワードについての予習内容を学習成果を基に復習帳に書き直し、次回の授業開始時に提出する。③予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 人の骨格の概要を説明できる。 <D-2-3)-(2)>
2. 骨の基本構造と結合様式を説明できる。 <D-2-3)-(2)>
3. 人の骨格を構成する各骨の名称と位置、左右の鑑別、主要構造の名称と <D-2-3)-(2)>
4. 頭蓋の構成と構造を説明できる。 <F-2-1)>

5. 人の主要関節の形態的特徴や運動の様式を説明 <F-2-3)-(2)>
できる。
6. 脳と脊髄の主要部位の名称と位置、各部位間で <D-2-3)-(5)>
の位置的関係を説明できる。
7. 人の筋系を構成する筋の名称、位置および役割 <D-2-3)-(2)>
を説明できる。
8. 人の心臓の形、および内腔での血液の流れを説 <D-2-3)-(3)>
明できる。
9. 人の動脈系の分布の概略を説明できる。 <D-2-3)-(3)>
10. 人の静脈系の分布の概略を説明できる。 <D-2-3)-(3)>
11. 人のリンパ系の分布の概略を説明できる。 <D-2-3)-(3)>
12. 人の脳神経系の分布の概略を説明できる。 <D-2-3)-(5)>
13. 人の脊髄神経系の分布の概略を説明できる。 <D-2-3)-(5)>
14. 人の各内臓の名称、形、位置、主要構造の名称、 <D-2-3)>
および役割を説明できる。
15. 人の聴覚器と視覚器の構造の概略を説明できる。 <D-2-3)-(4)>
16. 人の顎・口腔・顔面領域の局所解剖構造を説明 <F-2-1)> <F2-2)>
できる。
17. 生と死に関わる倫理的問題を説明できる。 A-2

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 骨学	骨学総論講義と骨学実習	骨格の概要、骨の外形と構造; 頭蓋と体幹の骨の観察	1,3,5	北村, 角田
2. "	靱帯学総論講義と骨学実習	連結の種類、関節の構造; 頭蓋と体幹の骨の観察	2,3,5	"
3. "	頭蓋総論講義と骨学実習	頭蓋の概観、頭蓋骨と顔面骨; 頭蓋と体幹の骨の観察	4,3,5	"
4. "	人の骨格の特徴の講義と骨学実習	進化過程における骨格の形態的变化; 頭蓋と体幹の骨の観察	1,3,5	"
5. "	頭蓋各論講義と骨学実習	骨鼻腔、頭蓋側面; 頭蓋と体幹の骨の観察	4,3,5	"
6~7. "	骨学実習	骨学口頭試問の準備	3,5	"
8. 中枢神経学	外景の講義と脳実習	脊髄の外景と内景、脳の概観、脳膜、脳の血管、脳神経の根、中脳; 全景、および橋・延髄の腹側面; 脊髄と脳の観察	6	"

9.	”	”	小脳, 第四脳室, 小脳を分離, 橋・延髄の背面と錐体路, 間脳の下面と大脳の切半; 脊髄と脳の観察	”	”
10.	”	”	外套, 大脳辺縁系, 大脳半球の連合線維とレンズ核側脳室と尾状核, 間脳, 大脳半球・間脳の断面; 脊髄と脳の観察	”	”
11~42.	系統解剖実習		詳細は別途配付	5~ 17	北村, 山下, 角田

【成績評価】大項目「骨学」:評価は, 実習と講義の内容を合わせて, 2年次後期に口頭試問で行う。体幹と四肢の骨については, 骨格系を十分理解していると判断されれば合格とし, 頭蓋については, さらに臨床教育に十分対応できる知識も身につけていると判断されれば合格とする。大項目「中枢神経系」:評価は, 脳実習と講義内容の内容を合わせて2年次後期に筆記試験で行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。系統解剖実習:各セクション(9セクション)毎のレポートと, レポートの内容を遺体で説明させる口頭試問, および気管切開に係るレポートと, 実習見学に来た看護学生への説明内容に係る口頭試問でもって総合的に評価を行う。実習成果が十分に得られていると判断されれば合格とする。

【再試験】大項目「骨学」・「中枢神経系」:1回のみ行う。系統解剖実習:実習成果が不十分とみなされる学生に対してはレポートの提出を求め, 再度評価を行う。

【教科書】

- ◇実習書:「解剖実習の手びき(改訂11版)」寺田春水・藤田恒夫 著, 1994年, (南山堂)
- ◇実習書:「人体解剖学(改訂第41版)」藤田恒太郎 著 1993年, (南江堂)
- ◇プリント:プリントを配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217373>

【連絡先】

- ⇒ 北村清一郎(kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・教授室/633-7319) (オフィスアワー: 火~ 金 16:15-17:45)
- ⇒ 山下菊治(kikuji@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・准教授室/633-9120) (オフィスアワー: 月~ 金 16:15-17:45)
- ⇒ 角田佳折(sumida@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・第2研究室/633-7320) (オフィスアワー: 火~ 金 16:15-17:45)

【備考】

- ◇2年次後期 水曜日4・5・6・7時限目(15週), 3年次前期 水・金曜日4・5・6・7時限目(水曜13週, 金曜14週)
- ◇系統解剖実習:詳細は別途配付。

解剖学 (2) A・B 講義

2 単位 2 年 (後期)

Anatomy (2)

羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学), 樋浦 明夫・准教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

沼子 千弥・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 瀬戸 口 烈司・非常勤講師 / 京都大学

【授業目的】1. 人体の構造は様々な細胞が集まって組織ができ、組織が組み合わさって器官ができあがり、さらに器官が集まって成立する。このような細胞、組織および器官の形態と機能を理解する。

2. ヒトの歯は魚やワニの歯と異なり、ひとつひとつの形と働きが異なっている。ヒトの歯のひとつひとつの形態と機能を理解し、歯の異常と植立方向などの特徴を知り、それぞれの歯を識別する能力を養う。

【授業概要】1. それぞれの細胞、組織および器官が各々の機能に応じて、どのような形態変化を示すかという視点から授業する。

2. ヒトの歯の一般的な形態を理解し、切歯、犬歯、小白歯、大白歯へと移行するとき、それぞれの歯の形がどのように変化していくかを教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】指定した教科書に添って講義する。適宜、プリント、模型及びスライド等を併用する。

【授業場所】第 2 講義室

【授業テーマ】1. 細胞、組織、器官の相互関係から人体を理解する。

2. ヒトの歯の形態と機能を理解する。

【キーワード】細胞の構造、組織、歯

【履修上の注意】解剖学 (2)AB の授業では 15 回の授業で毎回講義事項の「キーワード」を提示する。講義は毎回出席し、ノートをとること。① 毎回次回の講義内容について簡潔に説明する。受講者は各自予習して、学習した内容をノートにまとめる。② 受講者は毎回講義後に復習し、授業のエッセンスをノートにまとめ、理解する。③ 予習・復習ノートの提出を求めることがある。④ 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。⑤ 予習・復習をすることも出席評価に含まれる。講義内容に関する質問はオフにイスアワーに受けるが、緊急の場合はこの限りではない。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 細胞膜、核、細胞内小器官、細胞骨格及び細胞死を説明できる。 <D-1-(3)-1,2,5>
2. 細胞の接着装置と接着分子を説明できる。 <D-1-(4)-1,2>
3. 身体を構成する組織の構造と機能を説明できる。 <D-2-(3)-1,2,3,4,8>
4. 軟骨内骨化と膜内骨化及び骨の改造機構を説明できる。 <D-2-(3)-5,6>

5. 消化管の基本構造と機能を説明できる。 <D-2-(3)-血液-1,2,3>
6. 肝臓の小葉構造を説明できる。 <D-2-(3)-消化器系-1>
7. 膵臓の外分泌腺と内分泌腺を説明できる。 <D-2-(3)-消化器系-2>
8. 気管と肺の小葉構造を説明できる。 <D-2-(3)-消化器系-3>
9. 泌尿器の組織構造を説明できる。 <D-2-(3)-呼吸器系-1,2>
10. 生殖器の組織構造を説明できる。 <D-2-(3)-泌尿器系-1>
11. 各内分泌器官と構造と機能及び分泌されるホルモンを説明できる。 <D-2-(3)-生殖器系-1>
12. 視覚、聴覚及び平衡感覚の組織構造を説明できる。 <D-2-(3)-内分泌系-1>
13. 歯の構造と機能を説明できる。 <D-2-(3)-感覚器系-1,2,3>
14. 歯種を鑑別できる。 <F-2-(4)-1-4>
15. 咬合の定義を説明できる。 <F-2-(4)-1-2>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 細胞	細胞の構造	細胞膜、核、細胞内小器官、細胞骨格、組織と器官、細胞死の形態、細胞接着、細胞接着分子	1,2	樋浦
2. "	組織の成り立ち、細胞死	上皮、支持、筋、神経組織	1, 2	"
3. 組織	4 つの組織	軟骨内骨化と膜内骨化、赤血球、白血球、骨髄、リンパ	4,5	"
4. "	骨組織、血液、リンパ	一般的構造、食道、胃、小腸、大腸の粘膜の構造	6	"
5. 消化器	消化管	肝小葉を構成する細胞	7	"
6. "	肝臓	膵臓の外分泌腺と内分泌腺	8	"
7. "	膵臓	気道の粘膜、肺小葉の構造 (血液空気関門の微細構造)	9	"
8. 呼吸器	気管	ネフロン構造 (血液尿関門の微細構造)	10	"
9. "	肺	曲精管の構造、成熟卵胞の構造、性ホルモン	11	"
10. 泌尿器	腎臓	ネフロン構造 (血液尿関門の微細構造)	10	"
11. 生殖器系	精巣、卵巣	曲精管の構造、成熟卵胞の構造、性ホルモン	11	"

12.	内分泌	下垂体, 甲状腺	下垂体と甲状腺の構造とそれらの構成細胞から分泌されるホルモンの作用機構	12	”
13.	”	上皮小体, 副腎	上皮小体及び副腎の構造とそれらの構成細胞から分泌されるホルモンの作用機構	”	”
14.	感覚器系	視覚器 (眼球)	骨迷路と膜迷路の構造	13	”
15.	平行聴覚器	(内耳)	平衡器と聴覚器の構造	”	”
16.	歯牙解剖学総論 (1)	歯の進化と歯の比較解剖学	角質歯, 皮歯, 真歯	14	羽地
17.	歯牙解剖学総論 (2)	歯の解剖学概論	歯の外形, 内景, 歯の固定, 歯牙記号, 歯式	15	”
18.	永久歯 (1)	切歯 (1)	上顎中切歯, 上顎側切歯	14,15	”
19.	永久歯 (2)	切歯 (2)	下顎中切歯, 下顎側切歯	”	”
20.	永久歯 (3)	犬歯	上顎犬歯, 下顎犬歯, 上下顎犬歯の比較	”	”
21.	永久歯 (4)	小白歯 (1)	上顎第1小白歯, 上顎第2小白歯, 上顎小白歯の比較	14 15	”
22.	永久歯 (5)	小白歯 (2)	下顎第1小白歯, 下顎第2小白歯, 下顎小白歯の比較	14,15	”
23.	永久歯 (6)	大白歯 (1)	上顎大白歯と上顎大白歯の形態の推移	”	”
24.	永久歯 (7)	大白歯 (2)	下顎大白歯と下顎大白歯の形態の推移	14 15	”
25.	歯の鑑別	歯の鑑別法	歯種の鑑別, 上下の鑑別, 同一歯群内の順位の鑑別, 左右の鑑別	15	”
26.	乳歯総論	乳歯の特性	永久歯との相違, 乳歯の原始性	14 15	”
27.	乳歯各論	乳白歯	上顎乳白歯, 下顎乳白歯	”	”
28.	歯群	歯群の位置関係	上顎・下顎歯の位置関係, 隣接歯間の位置関係, 植立方向	14 16	”
29.	歯の異常	成因, 形態, 位置及び萌出時期の異常	復古形と未成形, 歯数及び大きさの異常, 異常結節	”	”
30.	咬合	正常咬合, 異常咬合	咬合の定義, 異常咬合の種類, 早期・晚期萌出	”	”

【成績評価】2年次後期試験期間中に筆記試験を行い、成績が100点満点で60点以上の者を合格とする。なお、解剖学(2)の単位は解剖学(2)AB講義、解剖学(2)C講義、解剖学(2)実習の成績を総合評価して認定する。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇ 標準組織学総論 第4版, 藤田恒夫, 藤田尚男著 医学書院, 2004
- ◇ 標準組織学各論 第4版, 藤田恒夫, 藤田尚男著 医学書院, 2010
- ◇ 歯の解剖学 第22版, 藤田恒太郎原著, 桐野忠大, 山下靖雄改訂, 金原出版, 2004

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217378>

【連絡先】

⇒ 羽地 (088-633-7321, tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖第二・教授室))

⇒ 樋浦 (633-9121, hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖第二・准教授室))

解剖学 (2) 実習

2 単位 2 年 (後期)

Anatomy (2)

羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学), 樋浦 明夫・准教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

【授業目的】 1. 講義で習得した知識を基盤として、人体を構成する正常な器官の組織標本を実際に自分の目で観察し、それぞれの器官の組織学的な特徴を理解する。

2. 歯牙解剖学講義で学んだ歯の特徴を基にして、彫刻刀を用い、石膏棒から歯の形を仕上げることにより、それぞれの歯の形態と機能を理解する。

【授業概要】 1. 光学顕微鏡の操作を修得した後、組織標本を顕微鏡下で観察、スケッチすることにより、人体の組織学的構造と機能を理解する。スケッチは、毎回実習終了後に提出して評価を受ける。

2. 歯の解剖学の講義で学んだ歯の特徴を基にして、彫刻刀等を用いて石膏棒からそれぞれの 2 倍大の歯を仕上げることにより、各歯の形態と機能を理解する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 顕微鏡下で各組織を観察、スケッチして人体の微細構造と機能を理解する。、石膏棒を作製し、各歯牙の形態を 2 倍大に彫刻し、歯の形態を理解する。

【授業場所】 第 3 実習室, 解剖実習室

【授業テーマ】 1. 講義で得た知識と本実習で得る顕微鏡的視覚情報を総合する。

2. 石膏棒を用いて歯の形態を彫刻し、各歯牙の解剖学的特徴を理解する。

【履修上の注意】 1. 実習全回出席と全実習スケッチの提出をもって受験資格を認める。

2. 各歯牙の特徴を正確に捉えていない場合は、再度又は再々度彫刻させ提出させる。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 顕微鏡の使用方法を修得する。
2. 上皮組織を細胞レベルで説明できる。
3. 結合組織の構造と機能を説明できる。
4. 軟骨組織の構造と機能を説明できる。
5. 骨組織の構造と機能を説明できる。
6. 血液の細胞成分を説明できる。
7. 筋組織の構造と機能を説明できる。
8. 神経組織の構造と機能を説明できる。
9. 血管の基本構造及び動脈と静脈の違いを説明できる。
10. リンパ節の構造及び構成する主な細胞を説明できる。

11. 消化管の各部位における組織構造を説明できる。

12. 肝臓と膵臓の組織構造を説明できる。

13. 気管と肺の構造と機能を説明できる。

14. 腎臓の構造と機能を説明できる。

15. 精巣, 卵巣, 子宮の構造と機能を説明できる。

16. 下垂体と甲状腺の構造と機能を説明できる。

17. 眼球の構造と機能を説明できる。

18. 上顎中切歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

19. 上顎側切歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

20. 下顎中切歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

21. 上顎犬歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

22. 上顎第一小白歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

23. 下顎第一小白歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

24. 上顎第一大臼歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

25. 下顎第一大臼歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

26. 上顎第一乳臼歯を計測, スケッチし, 石膏棒上でその形態を彫刻できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	組織学実習総論 顕微鏡観察	序論および実習における一般的注意 上皮組織, 支持組織 (1): 結合組織	プレパラート, 顕微鏡の使用説明 単層円柱上皮, 重層扁平上皮, 疎性結合組織, 密性結合組織	1,2,3	羽地, 樋浦
2.	顕微鏡観察	支持組織 (2): 軟骨組織	硝子軟骨, 線維軟骨, 弾性軟骨	4	〃
3.	〃	支持組織 (3): 骨組織	骨単位, 長骨の骨端部 (軟骨内骨化)	5	羽地 樋浦
4.	〃	血液	赤血球, 白血球, 血小板	6	〃
5.	〃	筋組織	平滑筋, 骨格筋, 心筋	7	〃
6.	〃	神経組織	神経細胞, 神経膠細胞, 外套細胞, 神経線維	8	〃
7.	〃	脈管系とリンパ性器官	大動脈, 小動脈, 静脈, リンパ節	9,10	〃
8.	〃	消化器系 1	食道, 胃, 空腸	11	〃
9.	〃	消化器系 2	肝臓, 膵臓	12	〃
10.	〃	呼吸器系	肺, 気管	13	〃

11.	”	泌尿器系	腎臓	14	”
12.	”	生殖器系	精巣, 卵巣	15	”
13.	”	内分泌系, 感覚器系	下垂体, 甲状腺, 眼球	16,17	”
14.	歯型彫刻	切歯	上顎中切歯	18	”
15.	”	”	上顎側切歯	19	”
16.	”	”	下顎中切歯	20	”
17.	”	犬歯	上顎犬歯	21	”
18.	”	小白歯	上顎第一小白歯	22	”
19.	”	”	下顎第一小白歯	23	”
20.	”	大白歯	上顎第一大白歯	24	”
21.	”	”	下顎第一大白歯	25	”
22.	”	乳歯	上顎第一乳歯	26	”

- 【成績評価】 1. 組織標本を用いた筆答試験とスケッチの評価を総合して判定する。
 2. 実習試験と各実習終了後の彫刻を客観的に評価し、総合的に判定する。
 3. なお、解剖学 (2) の単位は解剖学 (2) AB 講義, 解剖学 (2) C 講義, 解剖学 (2) 実習の成績を総合評価して認定する。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ 実習書: プリントを配付する。
- ◇ 参考書: 標準組織学総論 第 4 版, 藤田恒夫, 藤田尚男著 医学書院, 2004
- ◇ 参考書: 標準組織学各論 第 4 版, 藤田恒夫, 藤田尚男著 医学書院, 2010
- ◇ 参考書: 歯の解剖学 第 22 版, 藤田恒太郎原著, 桐野忠大, 山下靖雄改訂, 金原出版, 2004
- ◇ 参考書: 最新歯型彫刻 第 2 版, 尾花甚一編著, 医歯薬出版, 2004

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217376>

【連絡先】

- ⇒ 羽地 (088-633-7321, tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖学第二・教授室))
- ⇒ 樋浦 (633-9121, hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖学第二・助教室))

解剖学 (2) C 講義
Anatomy (2)

1 単位 3 年 (前期)

羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

【授業目的】 2 年次後期で学習した一般組織学についての知識を基盤にし、歯と口腔及びその周組織の正常な構造を顕微鏡レベルで理解し、それに関連する発生学を学ぶ。

【授業概要】 歯と口腔及びその周辺組織が、どのような細胞と組織から成り立ち、お互いにどのように関連して機能しているかを教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 第 2 講義室

【授業テーマ】 歯と口腔の正常な構造と機能、その発生過程と相互関係を理解する。

【履修上の注意】 解剖学 (2)C の授業では 15 回の授業で毎回講義事項の「キーワード」を提示する。講義は毎回出席し、ノートをとること。① 毎回次回の講義内容について簡潔に説明する。受講者は各自予習して、学習した内容をノートにまとめる。② 受講者は毎回講義後に復習し、授業のエッセンスをノートにまとめ、理解する。③ 予習・復習ノートの提出を求めることがある。④ 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。⑤ 予習・復習をすることも出席評価に含まれる。講義内容に関する質問はオフにイスマワーに受けるが、緊急の場合はこの限りではない。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 個体発生と器官発生を概説できる。 <D-2-(2)-1>
2. 味覚器の構造と機能を説明できる。 <D-2-(3)-感覚器系-4>
3. 歯の発生・発育と歯の交換の過程を説明できる。 <F-2-(4)-1-1>
4. 歯の硬組織の構造と機能を説明できる。 <F-2-(4)-1-3>
5. 歯髄の構造と機能を説明できる。 <F-2-(4)-1-4>
6. 歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。 <F-2-(4)-1-5>
7. 皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。 <D-2-(3) 皮膚・粘膜 >
8. 口腔粘膜の特徴を説明できる。 <F-2-(3)-1>
9. 舌の構造と機能を説明できる。 <F-2-(3)-2>
10. 唾液線の構造と機能を説明できる。 <F-2-(3)-5>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔組織学総論, エナメル質 (1)	エナメル質の特性 エナメル小柱, レッチウス条	4	羽地

2.	エナメル質 (2)	エナメル質の特性 組織学的構造	ハンター-シュレーゲル条, エナメル葉, エナメル叢, エナメル紡錘	”	”
3.	象牙質	象牙質の特性 組織学的構造 象牙質の成長線	象牙細管, 原生象牙質, 第二象牙質, 修復象牙質, 象牙質の石灰化, エブネル線	”	”
4.	歯 髄	歯髄の特性 組織学的構造	象牙芽細胞, 歯髄細胞, 歯冠歯髄 表層の構造, 血管と神経, 象牙粒	5	”
5.	セメント質	セメント質の特性 組織学的構造	無細胞セメント質, 有細胞セメント質	4	”
6.	顔面と口腔の発生	顔面組織の起源	一次口蓋, 二次口蓋	1	”
7.	歯の発生と成長 (1)	発生の初期	歯堤, 唇溝堤, 蕾状期歯胚	3	”
8.	歯の発生と成長 (2)	発生の後期	帽状期歯胚, 鐘状期歯胚	”	”
9.	歯周組織 (1)	歯根膜の特性と組織学的構造	シャーピー線維, 歯根膜細胞, 脈管神経隙	6	”
10.	歯周組織 (2)	歯槽骨の特性と組織学的構造	骨芽細胞, 破骨細胞, 束状骨, 層板骨, 支持歯槽骨, 歯の生理的移動	”	”
11.	口腔粘膜 (1)	被覆粘膜	口唇, 軟口蓋	7 8	”
12.	口腔粘膜 (2)	咀嚼粘膜	硬口蓋, 歯肉	”	”
13.	口腔粘膜 (3)	特殊粘膜	舌乳頭, 味蕾, エブネル腺	2 8 9	”
14.	口腔粘膜 (4)	扁桃	舌扁桃, 口蓋扁桃	8	”
15.	唾液線	大唾液腺, 小唾液線	耳下腺, 顎下腺, 舌下腺	10	”

【成績評価】 3 年次前期試験期間中に筆記試験を行い、成績が 100 点満点で 60 点以上の者を合格とする。なお、解剖学 (2) の単位は解剖学 (2) AB 講義, 解剖学 (2) C 講義, 解剖学 (2) 実習の成績を総合評価して認定する。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ カラーアトラス口腔組織発生学 第 3 版, 川崎堅三他編, わかば出版, 2009
- ◇ Ten Cate 口腔組織学 第 6 版, 川崎堅三監訳, 医歯薬出版, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217379>

【連絡先】

⇒ 羽地 (088-633-7321, tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖第二・教授室))

解剖学(2) 実習

1 単位 3 年 (前期)

Anatomy(2)

羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学), 樋浦 明夫・准教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

【授業目的】講義で習得した知識を基盤として、顎・口腔領域の正常な組織標本を実際に自分の目で観察し、人体の組織の構造と機能を理解する。

【授業概要】代表的な顎・口腔領域の組織標本を顕微鏡下で観察、スケッチすることにより、口腔領域の組織の構造と機能を把握し、理解を深める。スケッチは、毎回、実習終了後に提出して評価を受ける。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】第3実習室

【授業テーマ】講義で得た知識と本実習で得る視覚情報を総合する。

【キーワード】エナメル質, 象牙質, セメント質, 歯の発生, 口腔粘膜, 唾液腺

【履修上の注意】実習全回出席と全実習スケッチの提出をもって受験資格を認める。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 歯の組織構造を説明できる。
2. 歯周組織の構成要素とその組織構造を説明できる。
3. 歯の発生段階と組織学的特徴を説明できる。
4. 唾液腺の構造と機能を説明できる。
5. 口腔粘膜を分類し、その組織学的特徴を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	顕微鏡観察	歯 (研磨標本)	エナメル質, 象牙質, セメント質	1	羽地, 樋浦
2.	〃	歯 (脱灰標本)	象牙質, 歯髄	〃	〃
3.	〃	歯周組織	歯根膜, 歯槽骨, セメント質	2	〃
4.	〃	歯の発生 1 歯の発生 2	蕾状期, 帽状期 初期鐘状期, 後期鐘状期	3	〃
5.	〃	大唾液腺	耳下腺, 顎下腺, 舌下腺	4	〃
6.	〃	被覆粘膜 咀嚼粘膜	口唇, 軟口蓋 硬口蓋, 歯肉	5	〃
7.	〃	特殊粘膜	舌乳頭, 舌扁桃, 口蓋扁桃	5,6	〃

【成績評価】プレパラート等を用いた筆答試験およびスケッチの評価を総合して判定する。

【再試験】行う。

【教科書】

◇ 実習書: プリントを配付する。

◇ 参考書: カラーアトラス口腔組織発生学 第3版, わかば出版, 2009

◇ 参考書: Ten Cate 口腔組織学 第6版, 医歯薬出版, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217377>

【連絡先】

⇒ 羽地 (088-633-7321, tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖第二・教授室))

⇒ 樋浦 (633-9121, hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖学第二・准教授室))

生理学 A・B 講義

2 単位 2 年 (後期)

Physiology

細井 和雄・教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学), 赤松 徹也・准教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

長谷川 敬展・助教 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

【授業目的】 正常な内分泌系の働きを学び、内分泌ホルモンの分泌異常がもたらす疾患についても理解を深める。神経の興奮が筋組織に伝わり、筋収縮をもたらすまでの一連のメカニズムを理解する。

【授業概要】 細胞の基本構造を理解し内分泌ホルモンの生成・分泌について学ぶ。内分泌ホルモンの産生臓器、生理作用、機能亢進と機能不全、分泌調節、輸送と代謝等を学ぶ。生殖器系の働きについて学ぶ。神経や筋組織 (興奮性組織) における興奮の発生とその伝達機構、刺激に応答して生じる筋収縮の機構、神経-筋ならびに神経-神経接合部 (シナプス) における刺激伝達の機構について学ぶ。

【授業形式】 講義

【授業方法】 板書、および資料提示装置を利用しながら講義を行う。必要に応じて補助教材を配付することもある。1, 17-30, および 2-16 の各講義はそれぞれ月曜日、および木曜日に並進して行う。

【授業場所】 第 2 講義室

【授業テーマ】 内分泌系の働き、および神経・筋の生理学の基本

【キーワード】 細胞生理, 内分泌系, 生殖, 神経系, 筋収縮, シナプス伝達

【先行科目】 『基礎生物学/基礎生物学 DI』 (1.0), 『基礎生物学/基礎生物学 DII』 (1.0), 『歯学概論』 (1.0)

【関連科目】 『解剖学 (1)A・B 講義』 (0.5), 『解剖学 (2) A・B 講義』 (0.5), 『生化学 A・B 講義』 (0.5), 『薬理学 A・B 講義』 (0.5)

【履修上の注意】 受講者は【授業計画】や【到達目標】を参考に、教科書・配布資料等により授業内容を事前に予習しておくこと。また、毎回授講後に復習し、授業内容およびその関連項目等を復習用ノートにまとめること。試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 人体機能の概略と生体の制御系について説明できる。
2. 遺伝子 (染色体) の構造とセントラルドグマを説明できる。 <D-1-2)-①>
3. 転写と転写調節の機序を説明できる。 <D-1-2)-③>
4. 翻訳の機序を説明できる。 <D-1-2)-④>
5. 細胞膜, 核, および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。 <D-1-3)-①>

6. 細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 <D-1-3)-③>
7. 腺を分泌物の性状, 形態, および分泌機構に基づいて分類できる。 <D-2-3)-(1) 組織 (上皮組織, 支持組織, 筋組織)-③>
8. 受容体を介するホルモン・成長因子・サイトカインによる細胞間の情報伝達機構を概説できる。 <D-1-4)-③>
9. 細胞内シグナル伝達機構を概説できる。 <D-1-4)-④>
10. 各内分泌器官の構造と機能, およびホルモンを説明できる (ホルモンの特徴と機能, 内分泌系と神経系との機能相関を含む)。 <D-2-3)-(8) 内分泌系-①>
11. 膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。 <D-2-3)-(6) 消化器系-③>
12. 軟骨内骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。 <D-2-3)-(1) 組織 (上皮組織, 支持組織, 筋組織)-⑥>
13. 男性生殖器, 女性生殖器の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(10) 生殖器系-①>
14. ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-⑦>
15. 神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-⑧>
16. 筋組織の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(1) 組織 (上皮組織, 支持組織, 筋組織)-⑧>
17. 骨格筋の構造と機能を説明できる (収縮の特徴, および筋収縮の機序を含む)。 <D-2-3)-(2) 運動器系-④>
18. シナプスにおける興奮伝達を概説できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-⑨>
19. 神経伝達物質の種類と機能を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-⑩>
20. 末梢神経系の機能分類 (体性神経系と自律神経系) を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-②>
21. 交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-③>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序論		生理学序論	1	細井
2. 細胞生理	細胞の基本構造	細胞内小器官, 遺伝子情報	2-5	赤松
3. ”	分泌過程の細胞生理	蛋白質の生合成, 分泌の生理	5-7	”
4. 内分泌	内分泌学序論	ホルモンと受容体, 情報伝達系	8, 9	”

5~6.	”	視床下部・下垂体	視床下部・下垂体系, 下垂体ホルモンと視床下部ホルモン, 成長ホルモン	10	”
7.	”	甲状腺	甲状腺ホルモンの生成, 代謝, 作用と分泌調節	”	長谷川
8~9.	”	膵臓	インスリン・グルカゴンの作用と分泌調節, 血糖調節, 糖尿病	10, 11	”
10~11.	”	副腎	副腎髄質ホルモンとストレス説, 皮質ホルモンによる糖質および電解質の代謝調節, 分泌調節	10	”
12~13.	”	カルシウム代謝の内分泌性制御	骨の生理学, カルシトニン, PTH, ビタミンD3の作用, 骨の病気	10, 12	赤松
14~16.	生殖	性腺	生殖腺, 精巣, 卵巣の働きと調節, 妊娠と分娩	10, 13	”
17.	細胞の興奮発生と興奮伝導	刺激と興奮	興奮性組織, 興奮の発生とその性質, 静止膜電位, 活動電位	1, 14	細井
18.	”	膜電位	静止膜電位, 活動電位	1, 15	”
19.	”	興奮発生の機序	活動電位と膜電流, 電位依存性イオンチャネルの構造と機能	”	”
20.	”	興奮伝導	興奮の三原則, 伝導の機序, 跳躍伝導	”	”
21.	骨格筋の収縮	骨格筋の種類と構造, 筋線維の構造	骨格筋の種類と構造, 筋線維の構造	16, 17	”
22.	”	筋収縮, 興奮収縮関連	単収縮, 強縮, 筋線維膜における活動電位発生から収縮までの機構	”	”
23.	”	筋収縮力学, 筋のエネルギー発生	アクトミオシンの構造と滑走説による筋収縮の分子モデル, 熱産生, ATPの分解と再合成, 収縮のエネルギー源	”	”
24.	シナプス伝達	神経伝達	神経筋接合部(終板)の構造, 骨格筋および平滑筋における神経筋伝達	18	”
25.	”	中枢神経系のシナプス伝達	興奮性シナプス後電位(EPSP), 抑制性シナプス後電位(IPSP), シナプス前抑制, 反回抑制	”	”
26.	”	神経伝達物質	神経伝達物質の生成と放出, 神経伝達物質とその受容体	18, 19	”
27~28.	”	中枢のシナプスによる興奮伝達の統合, シナプス伝達の可塑性	シナプス電位の加重, ニューロン間のシナプス結合	18	”
29.	自律神経系	自律神経系の構成と作用	交感神経系, 副交感神経系, 内臓求心性線維, 自律神経系の作用	20, 21	”
30.	”	自律神経系の受容体	交感神経系および副交感神経系の伝達物質と受容体, その他の伝達物質と受容体	19	”

【成績評価】評価は筆記試験により行う。試験は2年次後期の試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】一度のみ行う。ただし、本試験の点数が著しく低い場合は再試験を行わないこともある。

【教科書】

- ◇教科書:生理学テキスト, 第6版, 文光堂, 2010
- ◇参考書:人体の正常構造と機能 [全10巻縮刷版], 日本医事新報社, 2008
- ◇参考書:ギャノン生理学, 原書22版, 丸善, 2006
- ◇参考書:オックスフォード生理学, 第2版, 丸善, 2005
- ◇参考書:新生理学, 第4版, 文光堂, 2003

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217336>

【連絡先】

- ⇒ 細井 (088-633-7323, hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (木 16:40-17:40/6F 口腔分子生理学・教授室))
- ⇒ 赤松 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (金17:00-18:00/6F 口腔分子生理学・第2研究室))
- ⇒ 長谷川 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, thase@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (水16:40-17:40/6F 口腔分子生理学・第2研究室))

生理学 C・D 講義

2 単位 3 年 (前期)

Physiology

細井 和雄・教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学), 赤松 徹也・准教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

長谷川 敬展・助教 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

【授業目的】人体の各臓器・組織の働きについて理解する。また、神経系、および内分泌系による各臓器・組織の調節機構について学習・理解する。生体の情報受容機構と中枢における入出力の制御機構について理解する。

【授業概要】消化吸収 (肝臓, 膵臓を含め), 血液, 循環, 呼吸, 排泄, 唾液と唾液腺, 味覚, 顎反射, 発声等の機序について学ぶ。骨格筋の制御機構, 感覚器による情報受容とその中枢機構について学ぶ。

【授業形式】講義

【授業方法】板書, および資料提示装置を利用しながら講義を行う。必要に応じて補助教材を配付する。1-15, および 16-30 の各講義はそれぞれ月曜日, および木曜日に並進して行う。

【授業場所】第 3 講義室

【授業テーマ】内臓の各器官の働き, および骨格筋の制御, 中枢機構, 感覚の受容とその中枢機構

【キーワード】内分泌系, 運動神経系, 感覚神経系, 循環器系, 消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 口腔生理学

【先行科目】『生理学 A・B 講義』(1.0)

【関連科目】『生理学 実習』(0.5), 『解剖学 (1)C 講義』(0.5), 『解剖学 (2) C 講義』(0.5), 『生化学 C・D 講義』(0.5), 『薬理学 C・D 講義』(0.5)

【履修上の注意】受講者は【授業計画】や【到達目標】を参考に, 教科書・配布資料等により授業内容を事前に予習しておくこと。また, 毎回授講後に復習し, 授業内容およびその関連項目等を復習用ノートにまとめること。試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

- (<> 内はコアカリ対応)
1. 消化管 (食道, 胃, 小腸, 大腸) の基本構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(6) 消化器系-①>
 2. 肝臓の構造と機能, および胆汁の分泌経路を説明できる。 <D-2-3)-(6) 消化器系-②>
 3. 膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。 <D-2-3)-(6) 消化器系-③>
 4. 赤血球, 白血球, および血小板の形成過程と機能を説明できる。 <D-2-3)-(11) 血液・造血器・リンパ網内系-③>
 5. 止血と血液凝固の機序を説明できる (線溶系を含む)。 <D-2-3)-(11) 血液・造血器・リンパ網内系-④>

6. 心臓の構造と機能を説明できる (心臓の刺激 (興奮) 伝導系, 心筋の特徴, 標準的心電図波形, および心音を含む)。 <D-2-3)-(3) 循環器系-①>
7. 肺循環と体循環の 2 系統を説明できる。 <D-2-3)-(3) 循環器系-②>
8. 動脈, 毛細血管, および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 <D-2-3)-(3) 循環器系-③>
9. 血液循環と血管運動の調節機構を説明できる。 <D-2-3)-(3) 循環器系-④>
10. 血液脳関門を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-⑤>
11. 気道系 (鼻腔, 副鼻腔, 気管, 気管支) の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(7) 呼吸器系-①>
12. 肺臓の構造と機能を説明できる (内呼吸, 外呼吸, および呼吸運動の機序とその調節系を含む)。 <D-2-3)-(7) 呼吸器系-②>
13. 腎臓と尿路 (尿管, 膀胱, 尿道) の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(9) 泌尿器系-①>
14. 体液の量と組成, および浸透圧の調節機構を説明できる (酸-塩基平衡を含む)。 <D-2-3)-(9) 泌尿器系-②>
15. 水代謝と主な電解質の出納を説明できる。 <D-2-3)-(9) 泌尿器系-③>
16. 唾液腺の構造と機能を説明できる (分泌調節を含む)。 <F-2-2)-(5)>
17. 唾液の性状と役割を説明できる (構成成分とその機能を含む)。 <F-2-2)-(4)>
18. 味覚の受容と伝達, 中枢における神経機構を説明できる。 <D-2-3)-(4) 感覚器系-④>
19. 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる (主要な自律機能 (呼吸, 循環, 体温) の調節中枢の働きを含む)。 <D-2-3)-(5) 神経系-④>
20. 反射, 半自動運動, 随意運動の発現と調節の機序を説明できる。 <D-2-3)-(5) 神経系-⑥>
21. 皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(4) 感覚器系-①>
22. 深部感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(4) 感覚器系-②>
23. 嗅覚器・味覚器の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(4) 感覚器系-④>
24. 視覚器, 聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。 <D-2-3)-(4) 感覚器系-③>
25. 下顎反射の機序を説明できる。 <F-2-1)-(7)>

26. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 <F-2-2)-⑥>
 27. 嚥下の機序を説明できる。 <F-2-1)-⑧>
 28. 構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。 <F-2-2)-⑦>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	消化管の機能	消化管運動の神経支配	内在・外来神経による消化管運動の調節および反射	1-3	赤松
2.	〃	消化酵素の分泌・消化・吸収	消化酵素の分泌と消化・吸収	〃	〃
3.	〃	消化管ホルモン	消化管ホルモンによる消化器系の調節	〃	〃
4.	血液と循環	血液	血液, 赤血球, 止血と凝固系, 血液型	4, 5	〃
5.	〃	心臓	心臓, 刺激伝導系, 心電図	6	〃
6.	〃	循環とその調節	血管系, 毛細循環, リンパ,	7-9	〃
7.	〃	特殊部位の循環	脳の循環, 環状循環, 胎盤の血行	7-10	〃
8.	口腔生理学 (1)	唾液と唾液腺	唾液, 唾液腺の構造と唾液分泌 唾液分泌の神経機構	16, 17	〃
9.	〃	味覚	味覚の受容と伝達, 中枢における神経機構	18, 23	〃
10.	呼吸	肺の機能	呼吸器の構造・換気	11, 12	長谷川
11.	〃	ガスの運搬	酸素・二酸化炭素の運搬, ボーア効果, ホールデン効果	〃	〃
12.	〃	呼吸の調節	呼吸と中枢における反射, 呼吸リズムの神経機序	12, 19	〃
13.	排泄	腎臓の構造と機能	腎臓の構造と尿の生成, 排尿	13-15	〃
14.	〃	腎機能の調節	尿細管における再吸収・分泌とホルモンによる調節	〃	〃
15.	〃	体液調節	体液量・組成・浸透圧の調節, 酸塩基平衡	〃	〃
16.	運動系	脊髄	脊髄の構造, 運動神経, 筋紡錘とゴルジ器官, 脊髄反射	19, 20	細井
17.	〃	脳幹	脳幹の神経結合, 伸張反射の調節, 脳幹の姿勢反射	〃	〃
18.	〃	小脳	小脳の解剖学的機能的区分と神経回路網, 小脳による運動調節機構	〃	〃
19.	〃	大脳基底核, 大脳皮質	大脳基底核の構成・機能および病態生理学, 運動性皮質, 運動性皮質への出入力路, 運動性皮質の電気生理学	〃	〃

20.	感覚総論	感覚	感覚と受容器の種類, 刺激の受容, 感覚の強度と局在	21, 22	〃
21.	体性感覚	体性感覚とその受容器, 感覚の伝導路	体性感覚の種類および受容器の種類と分布, 感覚の伝導路	〃	〃
22.	〃	大脳皮質の体性感覚野, 痛覚	感覚野の構成と役割, 痛みの受容, 内蔵痛覚と関連連, 頭痛と歯痛	〃	〃
23.	嗅覚	嗅覚	嗅覚の受容と中枢機構	23	〃
24.	聴覚・前庭感覚	聴覚	内耳の構造と聴覚の中枢機構	24	〃
25.	〃	前庭感覚	前庭器の構造と機能	〃	〃
26.	視覚	眼球の光学系と網膜での光受容	眼球の構造と網膜での光受容	〃	〃
27.	〃	視覚の中枢機序	視覚の中枢経路, 視覚野	〃	〃
28.	口腔生理学 (2)	顎運動と下顎の反射, 咀嚼筋	顎位と下顎の反射, 咀嚼筋の名称と働き	25, 26	〃
29.	〃	嚥下と嘔吐	嚥下反射機構, 嘔吐反射機構	27	〃
30.	〃	発声	発声筋, フォルマント	28	〃

【成績評価】評価は筆記試験により行う。試験は3年次前期の試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】一度のみ行う。ただし、本試験の点数が著しく低い場合は再試験を行わないこともある。

【教科書】

- ◇教科書:生理学テキスト, 第6版, 文光堂, 2010
- ◇参考書:人体の正常構造と機能 [全10巻縮刷版], 日本医事新報社, 2008
- ◇参考書:基礎歯科生理学, 第5版, 医歯薬出版, 2008
- ◇参考書:ギャノン生理学, 原書22版, 丸善, 2006
- ◇参考書:オックスフォード生理学, 第2版, 丸善, 2005
- ◇参考書:新生理学, 第4版, 文光堂, 2003

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217337>

【連絡先】

- ⇒ 細井 (088-633-7323, hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (木 16:40-17:40/6F 口腔分子生理学・教授室))
- ⇒ 赤松 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (金17:00-18:00/6F 口腔分子生理学・第2研究室))
- ⇒ 長谷川 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, thase@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (水16:40-17:40/6F 口腔分子生理学・第2研究室))

生理学 実習

Physiology

1 単位 3 年 (前期)

細井 和雄・教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学), 赤松 徹也・准教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

長谷川 敬展・助教 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

【授業目的】 人体の生理機能を、実際に自分の目で確かめ、測定し、その手技を習得する。さらに計測結果 (数値) を統計処理などにより整理し、正しく図表に現す。得られた結果の生理学的意義について理解する。

【授業概要】 測定原理を理解し、器具・装置操作の実際を学んだ後に、自分自身または相互に被検者となって、検査・測定を行う。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習

【授業場所】 第 1 実習室

【授業テーマ】 人体諸機能のいくつかを実際に測定し、数値化の過程を体験する。

【キーワード】 咀嚼筋, 筋電図, 心電図, 心電図解析, 口腔感覚, 味覚, 咀嚼, 咀嚼能率

【先行科目】 『基礎生物学/基礎生物学 DI』 (1.0), 『基礎生物学/基礎生物学 DII』 (1.0), 『生理学 A・B 講義』 (1.0)

【関連科目】 『生理学 C・D 講義』 (0.5)

【履修上の注意】 原則として、全回出席をもって履修を認定する。
実習手順・内容、あるいは関連する課題等に対する理解度を評価するための試験 (筆記試験・口頭試問・実技試験を含む) を行うので、実習目的・意義や測定結果の解析・解釈は勿論のこと、各課題についても十分に理解すること。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 各種生理機能の測定器具・機器を使って正しい測定ができる。
2. 測定法の原理を説明できる。
3. 計測値のデータ処理ができる。
4. 簡単な統計処理を行うことができる。
5. 実習報告書を作成できる。
6. 咀嚼筋の位置・形状を説明できる。 D-2-3)-(2) 運動器系-④
7. 筋電図用電極の準備・装着ができる。
8. 筋電図を記録し、解析することができる。
9. 心電図を記録し、解析することができる。 D-2-3)-(3) 循環器系-①
10. 味覚・歯の感覚等の各種口腔感覚を説明できる。 D-2-3)-(4) 感覚器系-④
11. 咀嚼値と咀嚼能率を説明できる。 F-2-2)-⑥
12. 咀嚼能率を測定し、解析することができる。 F-2-2)-⑥

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 講義	実習講義 項目説明	各項目 (特に、まだ講義が終了していない項目) に関する予習と要約。 各項目の内容と到達目標等の解説。	2~5	全教員
2. デモ実習	実機デモ	各項目について、機器・器具類の使用法説明や使用上の注意を受けたのち、実際に操作してみる。	1~12	”
3. 筋電図	咀嚼筋筋電図	被検者の所定箇所にて電極等を装着し、食物咀嚼時における開口筋・閉口筋の筋電図を記録する。 各自交代して被検者となる。	1~8	”
4. 循環機能	心電図	被検者数名を選び、心電図を記録する。	1~5, 9	”
5. 感覚	口腔感覚の検査	口腔内における諸感覚の閾値や精度を相互に検査する。	1~5, 10	”
6. 咀嚼能	咀嚼値の測定と咀嚼能率の算出	所定の方法により各自自身の咀嚼値を求め、石原式と Mannley 式で咀嚼効率を算出・比較する。	1~5, 11, 12	”
7. 実習評価	実習内容・課題等に対する理解度評価	筆記試験・口頭試問・実技試験により、理解度を評価する。	1~12	”
8. 総括	講評・総括説明	今回の実習で、達成できた目標と、不十分に終わった目標とをそれぞれ説明するとともに、実習中の反省や今後注意すべきこと等を指摘する。	2~15	”

【成績評価】 全項目を誠実に (実習態度も含む) 履修した上で、実習内容・課題等に対する理解度を、実習日 1 日を用いて行う試験 (筆記試験・口頭試問・実技試験を含む) により評価し、所定の水準を満たすものを合格とする。

【再試験】 原則として行わないが、必要と判断した場合に、一度のみ何らかの再試験 (口頭試問、課題レポートを含む) を行うこともある。

【教科書】

- ◇ 実習書: 当講座作製の実習指針書を配付する。
- ◇ 参考書: 第 6 版 歯学生理学実習書, 2006 年 (医歯薬出版株式会社)
- ◇ 参考書: 新・生理学実習書, 日本生理学会 編, 1991 年 (南江堂)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217335>

【連絡先】

- ⇒ 細井 (088-633-7323, hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー:
(木 16:40-17:40/6F 口腔分子生理学・教授室))
- ⇒ 赤松 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (金17:00-18:00/6F 口腔分子生理学・第2研究室))
- ⇒ 長谷川 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, thase@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (水16:40-17:40/6F 口腔分子生理学・第2研究室))

【備考】 不注意による怪我・感電・感染・汚染等の事故を起こさないよう、各自気を配り相互に注意しあうこと。使用した机や器具類の清掃・洗浄は、各実習項目終了後、毎回行うこと。

生化学 A・B 講義

2 単位 2 年 (後期)

Biochemistry

野間 隆文・教授 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学), 三好 圭子・講師 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学)

【授業目的】 生体の営みを分子のレベルで理解するために, ①生体を構成する 4 大構成成分 (タンパク質, 脂質, 糖質, 核酸) の構造と機能, ②生命維持活動に必要なエネルギー代謝, ③遺伝情報の流れ, について学習する.

【授業概要】 ヒトを中心とする哺乳動物の生体成分の構造とその機能について学ぶ.

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (スライド, プリント)

【授業場所】 第 2 講義室

【授業テーマ】 生命現象を物質レベルの動きで捉える.

【履修上の注意】 ① 毎回, 受講日までにシラバスに記載された授業予定の項目を確認し, 教科書の講義範囲部分を読んで予習しておくこと. ② 受講後は新たな知識を各自で整理し, 復習すること. ③ 受講後レポート作成を求められた場合は期日を厳守して提出すること. ④ 試験は学生便覧の歯学部規則を満たし, 指示されたレポートの提出が完了している者に対して行う.

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 細胞の構造と機能を説明できる. <D-1-1)-①②③>
2. 基本的な生体を構成する分子を列挙し, その構造と機能を説明できる. <D-1-1)-①②③>
3. アミノ酸とタンパク質の化学構造と機能を述べる. <D-1-1)-①>
4. 糖質, 脂質, アミノ酸, 核酸の分解経路を説明できる. <D-1-1)-①②③>
5. 糖質, 脂質, アミノ酸, 核酸の合成経路を述べる. <D-1-1)-①②③>
6. ミトコンドリアの構造と機能について説明できる. <D-1-1)-④>
7. エネルギー代謝を調節するホルモンを列挙し, その代謝調節機序を説明できる. <D-1-1)-④>
8. 生体酸化と ATP 生成の機序, ならびに生物エネルギーの概要を説明できる. <D-1-1)-④>
9. 酵素の機能を列挙し, それが触媒する化学反応を説明できる. <D-1-1)-⑤>
10. 熱力学の法則を説明できる. <D-1-1)-④>
11. 生体のエネルギー利用について説明できる. <D-1-1)-④>

12. 生体膜の構造と機能について説明できる. <D-1-3)-①>
13. 膜タンパク質の構造と機能について説明できる. <D-1-1)-①>
14. 膜を介した物質の輸送について説明できる.
15. 遺伝子 (染色体) の構造とセントラルドグマを説明できる. <D-1-2)-①>
16. DNA 複製と修復を説明できる. <D-1-2)-②>
17. 転写と転写調節を説明できる. <D-1-2)-③>
18. 翻訳の機序を説明できる. <D-1-2)-④>
19. 遺伝子操作法を説明できる. <B-1-4)-③>
20. ホルモンの種類とその作用を説明できる. <D-1-4)-③>
21. 細胞内でのタンパク質の輸送と分泌機構が説明できる. <D-1-4)-③④>
22. 情報伝達機構を説明できる. <D-1-3)-⑤, D-1-4)-③④>
23. 細胞周期と細胞分裂を説明できる. <D-1-3)-④>
24. がん遺伝子及びがん抑制遺伝子の構造と機能を説明できる.
25. 基本的な生体を構成する分子を列挙し, その構造と機能を説明できる. <D-1-1)-①②③>
26. 代謝を統合的に理解し, 説明できる.

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	イントロダクション	生化学とは	年間予定, 教科書, 科学的根拠		野間
2.	酵素	性質, 分類, 酵素反応速度論	ミカエリス・メンテン速度式, ラインウィーバー・バークプロット, 酵素阻害	9	三好
3.	〃	触媒, 酵素活性の調節	触媒機構, アロステリック効果	〃	〃
4.	糖質	単糖, 二糖とオリゴ糖, 多糖, 複合糖質	立体異性体, ホモ/ヘテロ多糖, プロテオグリカン	4,5	〃
5.	糖質の代謝	解糖, 糖新生	解糖系, ピルビン酸代謝, 糖新生	4,5,8	〃
6.	〃	ペントースリン酸経路, グリコゲン代謝	ペントースリン酸経路, グリコゲン代謝	〃	〃
7.	好氣的代謝 I	クエン酸回路	酸化還元反応, クエン酸回路	〃	野間
8.	好氣的代謝 II	電子伝達, 酸化的リン酸化 (その 1)	電子伝達経路, ATP 合成, 酸化的リン酸化	6,8,9	〃
9.	〃	酸化的リン酸化 (その 2), 酸化的ストレス	活性酸素, 抗酸化酵素, 抗酸化分子	〃	〃

10.	脂質と膜	脂質の分類	脂肪酸, トリアシルグリセロール, スフィンゴ脂質, リポタンパク質, イソプレノイド	4,5	”
11.	”	膜	構造, 機能	12,13,14	”
12.	脂質代謝	脂肪酸とトリアシルグリセロール	脂肪酸の分解, 完全酸化, 生合成	4,5	”
13.	”	膜脂質の代謝	リン脂質, スフィンゴ脂質	”	”
14.	”	イソプレノイドの代謝	コレステロール代謝	”	”
15.	窒素代謝 I	合成:アミノ酸の生合成	アミノ酸代謝, アミノ基の反応	2,4,5	”
16.	”	合成:アミノ酸の生合成反応	Cl, グルタチオン, アルカロイド, ヌクレオチド, ヘム	”	”
17.	”	合成:神経伝達物質	GABA, カテコラミン, セロトニン, ヒスタミン, 一酸化窒素	”	”
18.	窒素の代謝 II	分解:アミノ酸の異化	脱アミノ, 尿素回路, アミノ酸炭素骨格の異化	3,4	”
19.	”	分解:ヌクレオチドの分解	プリン, ピリミジンの異化	2,4,5	”
20.	”	分解:ヘムの生体内変換	ビリルビン代謝, 抱合	”	”
21.	代謝の総合的理解	細胞間情報伝達	ホルモンカスケード, 増殖因子, 第2メッセンジャー, ステロイドと甲状腺ホルモン, インスリン受容体	4,5,20,21,22,25,26	”
22.	”	代謝の統合	消化・吸収, 摂食・代謝制御	”	”
23.	核酸	DNA	構造, 染色体, クロマチン, ゲノム	15,25	”
24.	”	RNA, ウイルス	tRNA, rRNA, mRNA, hnRNA, ウイルスの構造	15,17,19,25	”
25.	遺伝情報	複製, 修復	DNA複製フォーク, 岡崎フラグメント, DNA修復	15,16,23	”
26.	”	組換え	普遍的, 部位特異的, 転位	16,19	”
27.	”	転写, 遺伝子発現	RNAポリメラーゼと転写因子, RNAプロセッシング, ゲノミクス	17,24	”
28.	タンパク質の合成	遺伝暗号	コドン・アンチコドン, アミノアシルtRNAシンテターゼ反応	18	”
29.	”	タンパク質の合成 (1)	翻訳の開始, 伸長, 終結	”	”
30.	”	タンパク質の合成 (2)	翻訳後調節	”	”

【成績評価】評価は筆記試験により行い、試験は2年次後期試験期間中に実施する。

100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇ 教科書:「マッキー生化学(第4版)」市川厚・監修, 2010年(化学同人)
- ◇ プリント:必要に応じてプリントを配付する。
- ◇ 参考書:Essential 細胞生物学, 第2版, 2005年(南江堂)
- ◇ 参考書:イラストレイテッドハーパー・生化学,(第27版), 2007年(丸善)
- ◇ 参考書:ヴォート生化学, 第3版, 2005年(東京化学同人)
- ◇ 参考書:レーニンジャーの新生化学, 第4版, 2007年(広川書店)
- ◇ 参考書:ストライヤー生化学, 第6版, 2008年(東京化学同人)
- ◇ 参考書:口腔生化学, 第4版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇ 参考書:岩波生物学辞典, 第4版, 1996(岩波書店)
- ◇ 参考書:生化学辞典, 第4版, 2007(東京化学同人)
- ◇ 参考書:分子細胞生物学辞典, 第2版, 2008(東京化学同人)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217332>

【連絡先】

- ⇒ 野間 (088-633-7325, ntaka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第1研究室)
- ⇒ 三好 (088-633-7326, miyoshi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第2研究室)

生化学 C・D 講義

2 単位 3 年 (前期)

Biochemistry

野間 隆文・教授 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学), 三好 圭子・講師 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学), 堀口 大吾・助教 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学)

中田 博・非常勤講師, 伊藤 孝司・非常勤講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 松本 高広・非常勤講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 生体の営みを分子のレベルで理解するために、「生化学 A・B」で学習したことを基礎にして, ①高次生体構造とその機能, ②人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組み及びそれに伴う変化や異常による病態, ③口腔内構造物の発生・分化・機能, ④グループ学習法や発表技法, について学習する。

【授業概要】 ヒトを中心とする哺乳動物が示すさまざまな生命現象を物質の動きとして理解する方法を学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (スライド, プリント及びプレゼンテーション)

【授業場所】 第 3 講義室

【授業テーマ】 生命現象を物質レベルの動きで捉える。

【履修上の注意】 ① 毎回, 受講日までにシラバスに記載された授業予定の項目を確認し, 教科書の講義範囲部分を読んで予習しておくこと。② 受講後は新たな知識を各自で整理し, 復習すること。③ 受講後レポート作成を求められた場合は期日を厳守して提出すること。④ 試験は学生便覧の歯学部規則を満たし, 指示されたレポートの提出が完了している者に対して行う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 遺伝子 (染色体) の構造とセントラルドグマを説明できる。 <D-1-2)-①>
2. DNA 複製と修復を説明できる。 <D-1-2)-②>
3. 転写と転写調節を説明できる。 <D-1-2)-③>
4. 翻訳の機序を説明できる。 <D-1-2)-④>
5. メンデルの遺伝の法則と遺伝病を説明できる。
6. 遺伝子診断と遺伝子治療の方法を説明できる。 <B-1-4)-①>
7. 遺伝子操作法を説明できる。 <B-1-4)-③>
8. ホルモンの種類とその作用を説明できる。 <D-1-4)-③>
9. 細胞内でのタンパク質の輸送と分泌機構が説明できる。 <D-1-4)-③④>
10. 情報伝達機構を説明できる。 <D-1-3)-⑤, D-1-4)-③④>
11. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。 <D-1-3)-②>
12. 細胞周期と細胞分裂を説明できる。 <D-1-3)-④>
13. 主な細胞外マトリックス分子の構造と働きを説明できる。 <D-1-4)-⑤>

14. がん遺伝子及びがん抑制遺伝子の構造と機能を説明できる。

15. カルシウムの機能について説明できる。

16. 硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。 <D-2-3)-(1)-⑦>

17. 糖質, 脂質, アミノ酸, 核酸の分解経路を説明できる。 <D-1-1)-①②③>

18. 糖質, 脂質, アミノ酸, 核酸の合成経路を述べることができる。 <D-1-1)-①②③>

19. 基本的な生体を構成する分子を列举し, その構造と機能を説明できる。 <D-1-1)-①②③>

20. 歯の発生, 発育および交換の過程を説明できる。 <F-3-1)-①>

21. 唾液の性状と役割を説明できる。(構成成分とその機能を含む。) <F-2-2)-④>

22. 唾液腺の構造と機能を説明できる。(分泌調節を含む。) <F-2-2)-⑤>

23. 主な口腔疾患 (う蝕, 歯周疾患, 不正咬合) の予防を説明できる。 <C-3-2)-①>

24. 炎症の定義を説明できる。(発症機序を含む。) <D-4-4)-①>

25. 炎症細胞の種類と働きを説明できる。 <D-4-4)-②>

26. 歯周組織の発生, 構造および機能を説明できる。 <F-3-1)-⑤>

27. 代謝を統合的に理解し, 説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	イントロダクション	歯科における生化学	前期予定, 教科書		野間
2.	医科遺伝学 (1)	遺伝学基礎	メンデルの法則, 遺伝性疾患	5	堀口
3.	医科遺伝学 (2)	ゲノム変異と多型	変異, 多型	1,5	〃
4.	医科遺伝学 (3)	統計遺伝学	単一遺伝子疾患, 多因子疾患, 連鎖, 組換え	1,2,5,6	〃
5.	医科遺伝学 (4)	集団遺伝学	ハーディー・ワインベルグの法則, 連鎖不平衡	1,2	〃
6.	医科遺伝学 (5)	免疫遺伝学	免疫系による抗原認識, 自己・非自己の区別, 遺伝的多様性	1,5,6	〃
7.	医科遺伝学 (6)	疾患遺伝学 (1)	先天性異常, ヘモグロビン異常	1,4,5,6	〃
8.	医科遺伝学 (7)	疾患遺伝学 (2)	神経・筋疾患, ミトコンドリア異常症	1,5,6	〃

9.	口腔生化学 (1)	骨と歯の発生と分化の分子メカニズム (1)	硬組織の起源, 体軸	10,11,13,16,20	三好
10.	口腔生化学 (2)	骨と歯の発生と分化の分子メカニズム (2)	骨・歯の形成とホメオボックス遺伝子	”	”
11.	口腔生化学 (3)	結合組織の生化学 (1)	コラーゲン, エラスチン, プロテオグリカン	13,16	”
12.	口腔生化学 (4)	結合組織の生化学 (2)	接着性タンパク質, 細胞外マトリックス, 上皮とケラチン	”	”
13.	口腔生化学 (5)	骨と歯に特有な有機成分	骨・象牙質・セメント質の共通成分, エナメルタンパク質, 象牙質シアロリントタンパク質	”	”
14.	口腔生化学 (6)	骨と歯の無機成分	ヒドロキシアパタイト, エナメル質アパタイトの特徴, エナメル質の無機成分の特徴	”	”
15.	口腔生化学 (7)	硬組織の形成と吸収	軟骨細胞・骨芽細胞・骨細胞・破骨細胞の分化と機能発現調節, 骨のリモデリング, エナメル質, 象牙質の形成	10,13,16	”
16.	口腔生化学 (8)	石灰化の機構	血清中のカルシウムとリン酸の活動度積, 骨の石灰化, エナメル質と象牙質の石灰化	13,15,16	”
17.	口腔生化学 (9)	血清カルシウムの恒常性とその調節機構	血清カルシウムの恒常性, 副甲状腺ホルモン, カルシトニン, ビタミンD	8,10,15,16	”
18.	口腔生化学 (10)	唾液の生化学	唾液分泌のメカニズム, 唾液の有機成分・無機成分,	9,10,15,19,21,22	”
19.	口腔生化学 (11)	プラーク	ペリクルとプラークの形成, 歯肉縁上・縁下プラーク, 舌苔, 歯石	15,16	”
20.	口腔生化学 (12)	う蝕の生化学	う蝕発生のしくみ, う蝕の予防	10,15,16,23	”
21.	口腔生化学 (13)	炎症と免疫	生体防御機構の構築, 炎症・免疫細胞の発生・分化, 炎症の経過と炎症細胞の機能, ケミカルメディエーター, 免疫	10,19,24,25	野間
22.	口腔生化学 (14)	歯周組織と歯周疾患	歯周組織の構造と組成, 歯周組織の破壊と再生	19,26	”
23.	口腔生化学 (15)	がん (1)	細胞の増殖, がん細胞の特徴	10,11,12,13	”
24.	口腔生化学 (16)	がん (2)	がん遺伝子, がん抑制遺伝子, 発ガン因子	14	”
25.	特別講義 (1)	生体における多糖類の機能	多糖類の構造と機能 (1)	13,17,18,27	中田
26.	特別講義 (2)	”	多糖類の構造と機能 (2)	”	”
27.	特別講義 (3)	先天性代謝疾患	ライソゾーム蓄積病 (1)	1,5,6, 17, 18, 27	伊藤

28.	特別講義 (4)	”	ライソゾーム蓄積病 (2)	1,5,6,17,18,27	”
29.	特別講義 (5)	モデル生物を用いた歯科医学研究	モデル生物の作出	1,5,6,7	松本
30.	特別講義 (6)	”	モデル生物の機能解析	”	”

【成績評価】評価は筆記試験により行い、試験は3年次前期試験期間中に実施する。

100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇教科書: 「人類遺伝学ノート」徳永勝士・編, 2007年(南山堂)
- ◇教科書: 口腔生化学, 第4版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇教科書: 「マッキー生化学(第4版)」市川厚・監修, 2010年(化学同人)
- ◇プリント: 必要に応じてプリントを配付する。
- ◇参考書: Essential 細胞生物学, 第2版, 2005年(南江堂)
- ◇参考書: イラストレイテッドハーパー・生化学,(第27版), 2007年(丸善)
- ◇参考書: ヴォート生化学, 第3版, 2005年(東京化学同人)
- ◇参考書: レーニンジャーの新生化学, 第4版, 2007年(広川書店)
- ◇参考書: ストライヤー生化学, 第6版, 2008年(東京化学同人)
- ◇参考書: 歯と口と健康-生きるよろこびを支える口の科学, 初版, 1998年(医歯薬出版)
- ◇参考書: なるほど現代歯塾-健康で快適な生活のために, 初版, 2007年(医歯薬出版)
- ◇参考書: 病態栄養専門医テキスト-認定専門医をめざすために, 日本病態栄養学会 編集, 2009年(南江堂)
- ◇参考書: 医科遺伝学(改訂第2版), 松田一郎・監修, 1999年(南江堂)
- ◇参考書: 岩波生物学辞典, 第4版, 1996年(岩波書店)
- ◇参考書: 生化学辞典, 第4版, 2007年(東京化学同人)
- ◇参考書: 分子細胞生物学辞典, 第2版, 2008年(東京化学同人)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217333>

【連絡先】

- ⇒ 野間 (088-633-7325, ntaka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第1研究室)
- ⇒ 三好 (088-633-7326, miyoshi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第2研究室)
- ⇒ 堀口 (088-633-7326, thoriguc@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第2研究室)

生化学 実習

1 単位 3 年 (前期)

Biochemistry

野間 隆文・教授 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学), 三好 圭子・講師 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学), 堀口 大吾・助教 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学)

【授業目的】 生化学講義で履修した内容を、実際に自分の目で確かめ、より理解を深めることを目的として生体成分の分離・定量や遺伝子操作の手技を習得する。さらに疾患モデル動物を用いて、その病因・病態を分子レベルで理解し、臨床生化学の基礎を確立する。

【授業概要】 生化学的操作の基本を学んだ後に、物質の分離分析法や疾患モデル動物を用いた病態解析法を学習する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習

【授業場所】 第2 講義室・第2 実習室

【授業テーマ】 講義で得た静的な知識を動的に捉え直し、知識を統合する。

【履修上の注意】 ①受講者は、実習書によって予習し、実習内容を事前に理解すること。また、実習で必要な持参品を確認し、忘れずに持参すること。②受講者は、実習ノートを用意し、新たな知識を整理すること。実習によって得られたデータのみならず、気づいた点、疑問点やその解決結果を記録しておくこと。③毎回、実習レポートを作成することにより内容を復習し、期日厳守で実習レポートを提出すること。④実習全回出席と全回実習レポートの提出をもって、筆記試験の受験資格を認定する。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 実験機械・器具の使用方法を説明できる。
2. クロマトグラフィーの原理とアミノ酸の分離、同定法が説明できる。
3. ビュレット法の原理を理解し、タンパク質の定量法が説明できる。
4. タンパク質の定量における標準曲線の意義を説明できる。
5. アミラーゼによるデンプンの分解過程を理解し、アミラーゼ活性測定法を説明できる。
6. 酵素反応速度論を説明し、Km と Vmax を求めることができる。
7. 電気泳動の原理を説明できる。
8. PCR の原理を説明し、遺伝子診断への応用を説明できる。
9. 糖尿病、肝炎の原因とその病態を説明できる。
10. 血糖値および GPT, G6Pase の酵素活性の測定法を説明し、これらの生化学的検査による疾患の診断的意義を説明できる。
11. 核酸の定量法を説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	序論並びにクロマトグラフィーの実際	実習での一般的注意 器具の点検と洗浄 薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離同定	実習用機械・器具の使用方法 ガラス器具の洗浄方法 クロマトグラフィーの原理、未知アミノ酸の同定	1,2	全員
2.	タンパク質・核酸の分離同定・定量と酵素の Kinetics	タンパク質の定量 唾液のアミラーゼ活性	ビュレット法によるタンパク質の定量、標準曲線の作成法 唾液のアミラーゼ活性の測定	3,4,5	〃
3.	〃	酵素の Km と Vmax 値 SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動	ラット肝可溶性画分中の GPT 活性の測定 唾液タンパク質の SDS ゲル電気泳動と主要成分の同定	6,7	〃
4.	〃	PCR 法とアガロースゲル電気泳動	PCR 法による DNA 増幅と電気泳動	7,8	〃
5.	疾患モデル動物を用いる実験	マウスの採血と肝摘出 血糖値	実験的糖尿病、四塩化炭素投与による急性肝障害 酵素法による血糖値の測定	9,10	〃
6.	〃	マウスの血漿および肝の GPT 活性	マウス肝ホモジネートの調製 酵素活性値の算出法及び表記法	〃	〃
7.	〃	マウス肝のグルコース-6-リン酸ホスファターゼ活性	Fiske-Subbarow 法による無機リン酸の定量と疾患、マウスの肝 G6Pase 活性の測定	〃	〃
8.	〃	核酸の定量	ジフェニルアミンによる DNA の定量、オルシノールによる RNA の定量	11	〃

【成績評価】 評価は筆記試験により行い、試験は講義 CD の筆記試験と同日に実施する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ 実習書: プリント教材 (分子医化学編) を配付する。
- ◇ 参考書: マッキー生化学, 第 4 版, 2010 年 (化学同人)
- ◇ 参考書: Essential 細胞生物学, 第 2 版, 2005 年 (南江堂)
- ◇ 参考書: イラストレイテッド ハーパー・生化学, (第 27 版), 2007 年 (丸善)
- ◇ 参考書: 生化学辞典第 4 版, 2007 年 (東京化学同人)
- ◇ 参考書: 分子生物学・免疫学キーワード辞典, 第 2 版, 2003 年 (医学書院)
- ◇ 参考書: 蛋白質・酵素の基礎実験法, 改訂第 2 版, 1994 年 (南江堂)

- ◇ 参考書:核酸の一般的分離・定量法, 初版, 1969年(東京大学出版会)
- ◇ 参考書:病態生化学, 第2版, 1988年(丸善)
- ◇ 参考書:歯と口腔の健康, 初版, 1997年(医歯薬出版)
- ◇ 参考書:生化学実習, 初版, 2006年(医歯薬出版)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217331>

【連絡先】

- ⇒ 野間 (088-633-7325, ntaka@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第1研究室)
- ⇒ 三好 (088-633-7326, miyoshi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第2研究室)
- ⇒ 堀口 (088-633-7326, thoriguc@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00/5F 分子医化学・第2研究室)

病理学 A・B 講義

2 単位 3 年 (前期)

Pathology

石丸直澄・准教授 / 歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学), 泉啓介・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 松本耕三・

【授業目的】疾患の成立をトータルな生命現象として総論的に理解することを目的として, 臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。

【授業概要】生命現象としてのヒトの病気を正常からの逸脱として臓器・組織・細胞・物質レベルで理解し, 構造と機能の両面から学習する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (スライド, PC, プリント, 一部学生による発表)

【授業場所】第 3 講義室

【授業テーマ】生命現象としての病気を臓器・組織・細胞・物質レベルで総論的に理解する。

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしているものに対して実施する。病理学 A・B の授業では 15 回の授業で, 予習復習によりレジュメの作成を求める。① 毎回次回の講義内容について簡潔に説明する。受講者はこの説明を基に各自予習して, 学習した内容をノート (予習帳) にまとめること。② 受講者は毎回講義後に復習し, 授業のエッセンスをノート (復習帳) にまとめること。③ 予習帳, 復習帳の提出を求めることがある。④ 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。⑤ 予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 細胞障害と組織障害の原因を列举し, 実例を挙げて説明できる。 <D-4-(1)-1>
2. 壊死の多様性, 病因, 意義及び形態的所見の特徴を説明できる。 <D-4-(1)-2>
3. ネクロシスとアポトーシスとの違いを説明できる。 <D-4-(1)-3>
4. 萎縮と仮性肥大を説明できる。 <D-4-(1)-4>
5. 修復と再生の異同を説明できる。 <D-4-(2)-1>
6. 化生を説明できる。 <D-4-(2)-2>
7. 創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 <D-4-(2)-3>
8. 肉芽組織, 器質化の意義とその転帰を説明できる。 <D-4-(2)-4>
9. 虚血, 充血及びうっ血の徴候, 原因及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-1>
10. 出血の原因, 種類及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-2>

11. 血栓症の形態学, 成因と条件及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-3>
12. 塞栓症について塞栓の運ばれる経路, 塞栓の種類及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-4>
13. 梗塞の種類, 形態及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-5>
14. 浮腫の原因とその転帰を説明できる。 <D-4-(3)-6>
15. ショックの原因と成因を説明できる。 <D-4-(3)-7>
16. 免疫寛容を説明できる。 <D-3-免疫-4>
17. アレルギーの分類を説明できる。 <D-3-免疫-5>
18. 免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 <D-3-免疫-6>
19. 炎症の定義を説明できる。 <D-4-(4)-1>
20. 炎症細胞の種類と働きを説明できる。 <D-4-(4)-2>
21. 炎症の分類, 病理組織学的変化及び経時的変化を説明できる。 <D-4-(4)-3>
22. 炎症の原因別分類と病因特異性組織変化を説明できる。 <D-4-(4)-4>
23. 腫瘍の定義を説明できる。 <D-4-(6)-1>
24. 腫瘍の組織発生を説明できる。 <D-4-(6)-2>
25. 増殖性病変の多様性, 形態及びその意義を説明できる。 <D-4-(6)-3>
26. 異形成, 退形成及び分化を説明できる。 <D-4-(6)-4>
27. 腫瘍の異型性と多形性を説明できる。 <D-4-(6)-5>
28. 局所における腫瘍の増殖, 浸潤及び転移を説明できる。 <D-4-(6)-6>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	病因論	内因	一般的素因, 個人的素因		林
2.	〃	外因	環境要因, 栄養素因		〃
3.	細胞障害	代謝異常	糖・蛋白・核酸代謝異常	1	〃
4.	〃	〃	脂質・色素代謝異常	〃	〃
5.	〃	変性萎縮	壊死, アポトーシス	2,3	〃
6.	増殖と再生	肥大と過形成	作業性肥大, 代償性肥大	4	石丸

7.	〃	再生と化生	再生能, 生理的再生	5,6	〃
8.	〃	創傷治癒	肉芽組織, 器質化	7,8	〃
9.	循環障害	充血・うっ血・虚血	傍側循環	9	林
10.	〃	出血・血栓	出血性素因, 凝固異常, DIC	10,11	〃
11.	〃	塞栓・梗塞	血流障害, 心筋梗塞	12,13	〃
12.	〃	浮腫, ショック	肺浮腫, 乏血性ショック	14,15	〃
13.	免疫異常	免疫応答	胸腺, 抗体産生, サイトカイン	16	〃
14.	〃	アレルギー	喘息, 遅延型過敏症	17	〃
15.	〃	自己免疫	免疫寛容, 自己抗原	16,18	〃
16.	〃	移植免疫	MHC 拘束	18	〃
17.	炎症/感染	炎症, 感染症	生体防御機構	19,20	石丸
18.	〃	炎症細胞	急性炎症, 慢性炎症	20	〃
19.	〃	炎症の分類	浸出, 化膿, 出血, 増殖	21	〃
20.	〃	特異性炎	結核, 梅毒, ハンセン病	22	〃
21.	腫瘍	腫瘍発生,	遺伝子変異	23,24	林
22.	〃	良性腫瘍, 悪性腫瘍	異型性, 多形性	25	〃
23.	〃	癌化	癌遺伝子, 癌抑制遺伝子	25,26	〃
24.	〃	浸潤, 転移	癌の進展様式	27,28	〃
25.	老化	細胞老化	細胞周期, 老化遺伝子		〃
26.	〃	老化と寿命	早老症, 免疫異常		〃
27.	奇形	先天異常	遺伝要因, 環境要因		〃
28.	演習 (1)	テーマ別に病態の理解を深め, 議論し発表する.	* 5 人 1 班で 12 班. (発表 20 分)		
29.	演習 (2)	〃	〃		
30.	演習 (3)	〃	〃		
31.	特別講義	癌の病理学			泉
32.	〃	実験動物の遺伝解析			松本

【成績評価】評価は記述式筆記試験により行い, 100 点満点で 60 点以上のものを合格とする.

試験は 3 年次冬季休業後の試験期間中に実施する.

【再試験】行う.

【教科書】

- ◇ 教科書は特に指定しない. 項目ごとに要約したプリントを配付する.
- ◇ 参考書:標準病理学 (医学書院, 2006 年)
- ◇ 参考書:新病理学総論 (南山堂, 2001 年)
- ◇ 参考書:イラスト病理学 (文光堂, 2002 年)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217341>

【連絡先】

⇒ 石丸 (ishimaru@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月-金 16:00-18:00/4F 口腔病理学・第2研究室/633-7328))

病理学 C・D 講義
Oral Pathology

2 単位 3 年 (後期)

石丸 直澄・准教授 / 歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学), 野地 澄晴・教授 / 工学部

【授業目的】顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。

【授業概要】顎口腔領域の疾患を正常からの逸脱として臓器・組織・細胞・物質レベルで理解し、構造と機能の両面から学習する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (スライド, PC, プリント)

【授業場所】第 3 講義室

【授業テーマ】生命現象としての顎口腔領域の疾患を組織・細胞・物質レベルで理解する。

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしているものに対して実施する。病理学 C・D の授業では 15 回の授業で、予習復習によりレジュメの作成を求める。① 毎回次回の講義内容について簡潔に説明する。受講者はこの説明を基に各自予習して、学習した内容をノート (予習帳) にまとめること。② 受講者は毎回講義後に復習し、授業のエッセンスをノート (復習帳) にまとめること。③ 予習帳、復習帳の提出を求めることがある。④ 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。⑤ 予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 歯髄炎, 根尖性歯周炎の病因と病態を説明できる。 <F-2-(4)-2-3>
2. 辺縁性歯周炎の特徴を説明できる。 <F-2-(4)-2-4>
3. 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 <F-2-(5)-2-1>
4. 顎口腔領域の感染症について説明できる。 <F-2-(5)-7-2>
5. 顎口腔領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。 <F-2-(5)-2-5>
6. 前癌病変の種類と特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-3>
7. 白板症の特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-15>
8. 扁平苔癬の特徴を説明できる。
9. 顎口腔領域のアレルギー疾患, 自己免疫疾患を説明できる。 <F-2-(5)-7-3>
10. ベーチェット病の特徴を説明できる。
11. 顎口腔領域の歯原性嚢胞を説明できる。 <F-2-(5)-3-4>
12. 顎口腔領域の非歯原性嚢胞を説明できる。 <F-2-(5)-3-6>
13. 顎, 顎関節の病変を説明できる。 <F-2-(5)-4-2>

14. 唾液腺疾患について説明できる。 <F-2-(5)-5-5>
15. シェーグレン症候群の特徴について説明できる。 <F-2-(5)-5-4>
16. 歯原性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-7>
17. エナメル上皮腫の特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-13>
18. 顎口腔領域の腫瘍 (非歯原性) を説明できる。 <F-2-(5)-3-8>
19. 口腔癌の特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-16>
20. 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。 <F-2-(5)-5-2>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	奇形	発生異常	唇裂, 口蓋裂, 唇顎口蓋裂		林
2.	歯	歯の発育異常	異常結節, 癒合歯, 歯内歯		石丸
3.	”	ウ蝕	エナメル質ウ蝕, 象牙質ウ蝕		”
4.	”	歯髄の病変	変性, 歯髄炎	1	”
5.	”	歯周組織の病変	根尖性歯周炎, 辺縁性歯周炎	2	”
6.	粘膜	口腔粘膜病変 (1)	変性, 色素沈着, 金属アレルギー	3,9	林
7.	”	口腔粘膜病変 (2)	感染症, 口内炎	3,4	”
8.	”	口腔粘膜病変 (3)	角化性病変, 皮膚科疾患	3	”
9.	”	口腔粘膜病変 (4)	ベーチェット病, 自己免疫疾患	3,9,10	”
10.	”	前癌病変	白板症, 紅板症	7	”
11.	”	口腔癌	疫学, 腫瘍発生, 分化度	19	”
12.	嚢胞	顎口腔領域の嚢胞 (1)	歯原性嚢胞	11	”
13.	”	顎口腔領域の嚢胞 (2)	非歯原性嚢胞	12	”
14.	顎骨	顎骨・顎関節の病変 (1)	骨髄炎, 外傷	13	”
15.	”	顎骨・顎関節の病変 (2)	顎関節症, 顎関節炎, 関節リウマチ	”	”
16.	唾液腺	唾液腺の病変 (1)	加齢変化, 化生	14	”
17.	”	唾液腺の病変 (2)	ウイルス感染, シェーグレン症候群	15	”
18.	腫瘍	歯原性腫瘍 (1)	歯の発生, 良性腫瘍	16	”
19.	”	歯原性腫瘍 (2)	エナメル上皮腫, 悪性腫瘍	17	”

20.	”	非歯原性腫瘍 (1)	良性腫瘍, 軟部腫瘍	18	”
21.	”	非歯原性腫瘍 (2)	悪性腫瘍, 骨肉腫	”	”
22.	”	非歯原性腫瘍 (3)	白血病, 悪性リンパ腫	”	”
23.	”	非歯原性腫瘍 (4)	神経系腫瘍, メラニン産生腫瘍	20	”
24.	”	唾液腺腫瘍 (1)	良性腫瘍	”	”
25.	”	唾液腺腫瘍 (2)	悪性腫瘍	”	”
26.	特別講演	発生と分化の分子機構			野地

【成績評価】評価は記述式筆記試験により行い、100点満点で60点以上のものを合格とする。

試験は3年次終了後の試験期間中に実施する。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇教科書は特に指定しない。項目ごとに要約したプリントを配付する。
- ◇参考書:歯学生のための病理学, 口腔病理編 (医歯薬出版, 1999年)
- ◇参考書:口腔病理学 I, II (永末書店, 1989年)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217342>

【連絡先】

⇒ 石丸 (ishimaru@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月-金 16:00-18:00/4F口腔病理学・第2研究室/633-7328))

病理学 実習

2 単位 3 年 (後期)

Pathology

石丸 直澄・准教授 / 歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学), 新垣 理恵子・助教 / 歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学)

山田 安希子・助教 / 歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学)

【授業目的】 人体の病的変化を肉眼観察と顕微鏡観察を通して臓器・組織・細胞レベルで理解する。

【授業概要】 生命現象としてのヒトの疾患を肉眼観察と顕微鏡観察を通して臓器・組織・細胞レベルで理解し、学習する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 顕微鏡実習 (スライド, その他), 剖検例の肉眼観察 (病理解剖室)

【授業場所】 第 3 実習室

【授業テーマ】 講義で得られた人体の病的変化の理解を臓器・組織・細胞レベルで総合的に認識する。

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしているものに対して実施する。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 光学顕微鏡の操作方法を説明できる。
2. 細胞障害と組織障害の病理組織学的変化を説明できる。 <D-4-(1)-1>
3. 壊死の形態的所見の特徴を説明できる。 <D-4-(1)-2>
4. 肉芽組織, 器質化の病理組織学的所見の特徴を説明できる。 <D-4-(2)-4>
5. 虚血, 充血及びうっ血の徴候, 原因及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-1>
6. 血栓症の形態学及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-3>
7. 梗塞の形態及び転帰を説明できる。 <D-4-(3)-5>
8. 炎症細胞の種類と働きを説明できる。 <D-4-(4)-2>
9. 特異性炎の病理組織学的変化を説明できる。 <D-4-(4)-4>
10. 腫瘍細胞の異型性と多形性を説明できる。 <D-4-(6)-5>
11. 白板症の病理組織学的特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-15>
12. 扁平苔癬の病理組織学的特徴を説明できる。
13. 顎口腔領域の歯原性嚢胞を説明できる。 <F-2-(5)-3-4>
14. 唾液腺疾患の組織所見について説明できる。 <F-2-(5)-5-5>
15. 歯原性腫瘍の種類と病理学的特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-7>
16. エナメル上皮腫の病理学的特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-13>
17. 顎口腔領域の腫瘍 (非歯原性) を説明できる。 <F-2-(5)-3-8>

18. 口腔癌の病理組織学的特徴を説明できる。 <F-2-(5)-3-16>

19. 唾液腺腫瘍の種類と病理組織学的特徴を説明できる。 <F-2-(5)-5-2>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当	
1.	細胞障害	代謝障害	空胞変性, 脂肪変性, 他	2	全員
2.	組織反応 創傷治癒	増殖・肥大 器質化	心肥大, 水腎症, 他 肉芽組織, 胃潰瘍, 他	4	〃
3.	循環障害	うっ血, 水腫 虚血, 出血	うっ血肝, 肺水腫, 他 肺出血, DIC, 他	5	〃
4.	炎症	臓器炎	気管支肺炎, 結核, 他	8,9	〃
5.	〃	真菌症	カンジダ, アスペルギルス, 他	〃	〃
6.	腫瘍	良性腫瘍	子宮筋腫, 脂肪腫, 他	10	〃
7.	〃	悪性腫瘍 (1)	胃癌, 乳癌, 肝癌, 他	〃	〃
8.	〃	悪性腫瘍 (2)	白血病, 骨肉腫, 他	〃	〃
9.	歯髄 歯周組織	歯髄炎 歯周炎	象牙粒, 急性炎, 他 辺縁性歯周炎, 他		〃
10.	口腔粘膜	口腔粘膜病変	白板症, 扁平苔癬, 他	11	〃
11.	感染	顎口腔領域の感染症	サイトメガロ感染, 他	8,9	〃
12.	唾液腺	唾液腺病変	慢性唾液腺炎, 唾石症	8,14	〃
13.	嚢胞	顎口腔領域の嚢胞	歯根嚢胞, 粘液嚢胞, 他	13	〃
14.	口腔腫瘍	歯原性腫瘍 (1)	エナメル上皮腫, 他	15,16	〃
15.	〃	歯原性腫瘍 (2) 良性腫瘍, 悪性腫瘍 唾液腺腫瘍	歯牙腫, セメント質腫, 他 乳頭腫, 口腔癌, 他 多形性腺腫, ワルチン腫瘍, 他	15,17,18,19	〃

【成績評価】 評価は顕微鏡観察に基づく記述式筆記試験により行い, 100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

試験は 3 年次終了後の試験期間中に実施する。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ 実習書, 教科書は特に指定しない.
- ◇ 参考書:組織病理アトラス (文光堂, 2005)
- ◇ 参考書:口腔病理アトラス (文光堂, 2006)
- ◇ 参考書:口腔病理カラーアトラス (医歯薬出版, 2000)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217340>

【連絡先】

- ⇒ 石丸 (ishimaru@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月-金 16:00-18:00/4F口腔病理学・第2研究室/633-7328))
- ⇒ 新垣 (088-633-7328, arakaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月-金 16:00-18:00/4F口腔病理学・第2研究室))
- ⇒ 山田 (aki.yamada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月-金 16:00-18:00/4F口腔病理学・第2研究室/633-7328))

細菌学 A・B 講義

Microbiology

2 単位 2 年 (後期)

三宅 洋一郎・教授 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 弘田 克彦・講師 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

村上 圭史・助教 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 櫻井 純・非常勤講師 / 徳島文理大学

【授業目的】 微生物の種類と特性を理解する。感染と生体の防御機構を理解する。防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

【授業概要】 口腔領域および全身の感染症の病態、原因となる微生物、治療法および予防法、さらに感染症に対する人の防御機構である免疫系などについて学ぶ科目である。これを学ぶことにより感染症の基礎的な知識、理論を身につける。病原微生物は大きく分けて、細菌、真菌、原虫およびウイルスがある。それらの構造、増殖、生理、病原性について学び、それらをもとに診断法、治療法、予防法に関する基本的な理論を学ぶ。また、微生物遺伝、消毒と滅菌、化学療法などについても学ぶ。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義により行う。各講義においてレジュメを配布しそれに従って講義を行う。

【授業場所】 第2 講義室

【授業テーマ】 病原微生物について理解する。

【キーワード】 微生物, 感染症, 化学療法, 滅菌と消毒, 免疫

【履修上の注意】 細菌学 A・B の 15 回の授業における講義事項を、授業計画の内容欄に「キーワード」として提示する。1. 受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。2. 受講者は毎回授業後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また、予習時の内容と復習時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。3. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。4. 予習、復習をすることが出席の評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 微生物学, 病原微生物学の概要, 学ぶことに意義を理解する。
2. 細菌, 真菌, ウイルス及び寄生虫の形態学的特徴と生理学的性状を説明できる。 <D-3-1> 感染-1)
3. 細菌, 真菌, ウイルス及び寄生虫の遺伝子について説明できる。
4. 細菌, 真菌, ウイルス及び寄生虫のヒトに対する感染成立機序とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 <D-3-1> 感染-2)
5. 清潔と不潔の区分及び滅菌と消毒の意義, 原理及び代表的な方法を説明できる。 <D-3-1> 感染-3)

6. 化学療法の目的, 原理及び作用機序を説明できる。 <D-3-1> 感染-4)
7. 自然免疫と獲得免疫の異同を説明できる。 <D-3-2> 免疫-1)
8. 細胞性免疫と体液性免疫の異同を説明できる。 <D-3-2> 免疫-2)
9. リンパ性組織とリンパ性器官を説明できる。 <D-3-2> 免疫-3)
10. 免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。 <D-3-2> 免疫-3)
11. 免疫寛容を説明できる。 <D-3-2> 免疫-4)
12. アレルギーの分類を説明できる。 <D-3-2> 免疫-5)
13. 免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 <D-3-2> 免疫-6)
14. ワクチンの種類と問題点を説明できる。 <D-3-2> 免疫-7)
15. 免疫疾患について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	序論	微生物学とは	微生物学で何を学ぶか, なぜ学ぶか	1	三宅
2.	〃	感染症とは	感染症とは何か, 歯科との関わり	〃	〃
3.	〃	微生物とは	微生物の種類, 特徴, 性状	〃	〃
4.	細菌学総論	細菌の構造	細胞膜, 細胞壁, 細胞質, メソソーム, リボソーム等	2	〃
5.	〃	〃	核酸, 鞭毛, 線毛, 莢膜, 芽胞等	〃	〃
6.	〃	微生物遺伝	核酸の構造, 複製, 機能	3	村上
7.	〃	〃	突然変異	〃	〃
8.	〃	〃	形質転換, 接合, 形質導入, 分子遺伝等	〃	〃
9.	〃	〃	ファージの構造, 種類, 複製, 機能等	〃	〃
10.	〃	代謝	増殖様式, 栄養と発育条件	2	三宅
11.	〃	〃	物質輸送, エネルギー獲得機構	〃	〃
12.	〃	〃	菌体成分生合成	〃	〃
13.	〃	感染	宿主寄生体関係	4	〃
14.	〃	〃	寄生体側因子	〃	〃
15.	〃	〃	宿主側因子, 感染の成立, 治療法, 予防法	〃	〃

16.	”	毒素	毒素の種類, 構造	”	櫻井
17.	”	”	毒素の作用機序	”	”
18.	”	化学療法	化学療法とは, 選択毒性, 作用機序	6	三宅
19.	”	”	各種薬剤, 使用法, 問題点	”	”
20.	”	消毒と滅菌	滅菌の意義, 原理と方法	5	”
21.	”	”	消毒の意義, 原理と方法	”	”
22.	免疫学	イントロダクション	免疫とは, 生体防御とは	7	弘田
23.	”	免疫の種類	自然免疫とは, 獲得免疫とは,	”	”
24.	”	免疫応答	免疫の成立, 免疫担当細胞	9,10	”
25.	”	”	抗原, 抗体, 補体, 抗原抗体反応	8	”
26.	”	”	細胞性免疫とは	”	”
27.	”	”	免疫の調節	11,14	”
28.	”	アレルギー	アレルギーの分類	12	”
29.	”	”	アレルギーの発症機序	13	”
30.	”	免疫疾患	自己免疫疾患, 免疫不全	15	”

【成績評価】筆答試験により行う。試験は2年次後期試験期間中に行う。100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】原則として1回行う。

【教科書】

- ◇教科書:特に教科書は指定しないが, 自分の使いやすいものを参考にすることを勧める。
- ◇プリント:レジュメを配布しそれに従って講義を行う。必要に応じて参考資料を配付する。
- ◇参考書:Medical Microbiology (G.F. Brooks, J.S. Butel, S.A. Morse eds., Lange/McGraw-Hill)
- ◇参考書:微生物学(森良一他編集, 医学書院)
- ◇参考書:医系免疫学(矢田純一著, 中外医学社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217353>

【連絡先】

- ⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 村上 (088-633-7330, mkeiji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

細菌学 C・D 講義

Microbiology

2 単位 3 年 (前期)

三宅 洋一郎・教授 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 弘田 克彦・講師 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

村上 圭史・助教 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 菅井 基行・非常勤講師 / 広島大学

【授業目的】 微生物の種類と特性を理解する。口腔細菌の特徴と病原性を理解する。

【授業概要】 口腔領域および全身の感染症の病態, 原因となる微生物についてさらに詳しく学ぶ科目である。これを学ぶことによりう蝕, 歯周病およびその他の感染症の基礎的な知識, 理論を身につける, 臨床と密接に関わる科目である。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義により行う。各講義においてレジュメを配布しそれに従って講義を行う。

【授業場所】 第3 講義室

【授業テーマ】 病原微生物について理解する。

【キーワード】 病原細菌, 真菌, 原虫, ウイルス, 口腔細菌

【履修上の注意】 細菌学 C・D の 15 回の授業における講義事項を, 授業計画の内容欄に「キーワード」として提示する。1. 受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。2. 受講者は毎回授業後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また, 予習時の内容と復習時の内容を比較して, 学習の成果を確認すること。3. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。4. 予習, 復習をすることが出席の評価に含まれる。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 細菌, 真菌, ウイルス及び寄生虫のヒトに対する感染成立機序とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 <D-3-1> 感染-2>
2. 個々の細菌の性状及び病原性を説明できる。 <D-3-1> 感染-2>
3. 個々の真菌の性状及び病原性を説明できる。 <D-3-1> 感染-2>
4. 個々の原虫の性状及び病原性を説明できる。 <D-3-1> 感染-2>
5. 個々のウイルスの性状及び病原性を説明できる。 <D-3-1> 感染-2>
6. 口腔細菌叢の成立とその特徴を説明できる。 <F-3-2> 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因-5>
7. う蝕の病因と病態を説明できる。 <F-3-2> 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因-1>
8. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。 <F-3-2> 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因-4>

9. 病因としての口腔細菌, 歯垢及び歯石を説明できる。 <F-3-2> 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因-5>
10. 口腔細菌の全身への影響を説明できる。 <F-2-4>-(2) 炎症とアレルギー-2,6,10>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	細菌学各論	グラム陽性菌	ブドウ球菌	1,2	菅井
2.	〃	〃	レンサ球菌, その他の陽性球菌	〃	村上
3.	〃	〃	グラム陽性桿菌 (1)	〃	〃
4.	〃	〃	グラム陽性桿菌 (2)	〃	弘田
5.	〃	グラム陰性菌	グラム陰性球菌, シュードモナス等	〃	三宅
6.	〃	〃	腸内細菌 (1)	〃	〃
7.	〃	〃	腸内細菌 (2)	〃	〃
8.	〃	〃	ビブリオ, その他の陰性桿菌	〃	〃
9.	〃	〃	嫌気性桿菌	〃	〃
10.	〃	スピロヘータ・マイコプラズマ	種類, 構造, 増殖, 病原性	〃	〃
11.	〃	リケッチア・クラミジア	種類, 増殖, 病原性, 治療法	〃	〃
12.	医真菌学	総論	種類, 構造, 増殖, 病原性, 化学療法	1,3	〃
13.	〃	各論	カンジダ, アスペルギルス, クリプトコッカス, その他	〃	〃
14.	原虫学	総論	種類, 構造, 増殖, 病原性, 化学療法	1,4	〃
15.	〃	各論	トリコモナス, アメーバ, マラリア, ニューモシスチス等	〃	〃
16.	ウイルス学	ウイルス学総論	ウイルスとは, 構造, 種類	1,5	〃
17.	〃	〃	ウイルスの感染, 増殖, 化学療法	〃	〃
18.	〃	ウイルス各論	ポックスウイルス, ヘルペスウイルス, アデノウイルス	〃	〃
19.	〃	〃	オルソミクソ・パラミクソウイルス, トガウイルス	〃	〃

20.	〃	〃	フラビウイルス, ビコルナウイルス, ラブドウイルス	〃	〃
21.	〃	〃	肝炎ウイルス, レトロウイルス, その他	〃	〃
22.	口腔細菌学	イントロダクション	口腔細菌とは, 疾患との関わり	6,9	〃
23.	〃	う蝕	う蝕の病因論	7,9	弘田
24.	〃	〃	う蝕と免疫	7	〃
25.	〃	〃	う蝕に続発する感染症	〃	〃
26.	〃	〃	治療法, 予防法	〃	〃
27.	〃	歯周病	歯周病とは, 原因菌	8,9	三宅
28.	〃	〃	組織破壊メカニズム	8	〃
29.	〃	〃	治療法, 予防法	〃	〃
30.	〃	口腔細菌と全身	口腔細菌による口腔領域以外の感染症	10	〃

【成績評価】筆答試験により行う。試験は3年次前期試験期間中に行う。100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】原則として1回行う。

【教科書】

- ◇教科書:特に教科書は指定しないが, 自分の使いやすいものを参考にすることを勧める。
- ◇プリント:レジュメを配布しそれに従って講義を行う。必要に応じて参考資料を配付する。
- ◇参考書:Medical Microbiology (G.F. Brooks, J.S. Butel, S.A. Morse eds., Lange/McGraw-Hill)
- ◇参考書:微生物学(森良一他編集, 医学書院)
- ◇参考書:医系免疫学(矢田純一著, 中外医学社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217354>

【連絡先】

- ⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 村上 (088-633-7330, mkeiji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

細菌学 実習

1 単位 3 年 (後期)

Microbiology

三宅 洋一郎・教授 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 弘田 克彦・講師 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

根本 謙・助教 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 村上 圭史・助教 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

【授業目的】細菌学の講義で学んだ微生物学, 免疫学を実際に体験することによって, 理解をより深める。現在では分子生物学の分野においても微生物は頻繁に用いられているので, その取り扱いに習熟する。

【授業概要】講義で学んだ微生物学, 免疫学に関する実験を行う。微生物に関してはその基本的な取り扱い方法, 観察方法, 分離方法, 培養方法, 同定方法を学ぶ。また, 口腔内のう蝕や歯周病に関連する細菌を実際に分離, 培養, 同定などを行う。さらに微生物遺伝の基本, 免疫学的手法についても学ぶ。

【授業形式】実習

【授業方法】実習。

【授業場所】第 1 実習室

【授業テーマ】講義で得た病原微生物についての知識を体験し, 理解を深める。

【キーワード】形態観察, 分離・培養, 細菌の同定, 遺伝学的手法, 免疫学的手法

【履修上の注意】実習全回出席と全実習レポートの提出をもって, 受験資格を認定する。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 微生物の観察方法を説明できる。
2. 微生物の分離培養法を説明できる。
3. 微生物の同定法を説明できる。
4. トランスフォーメーションを説明できる。
5. 抗原抗体反応を説明できる。
6. 口腔細菌の分離培養, 同定方法を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	細菌学	細菌の観察	培養, 染色, 顕微鏡観察	1,2	全員
2.	〃	病原体の検出・同定	分離培養, 生化学的試験	2,3	〃
3.	〃	細菌数測定	段階希釈法	3	〃
4.	〃	微生物遺伝	トランスフォーメーション	4	〃
5.	免疫学	抗原抗体反応	ELISA 法	5	〃
6.	〃	〃	凝集反応, 沈降反応	〃	〃
7.	口腔細菌学	口腔レンサ球菌	分離培養, 生化学試験	6	〃
8.	〃	歯周病関連菌	嫌気培養法	〃	〃

【成績評価】実習ノートを教員がチェック, 必要に応じてレポートの提出を求める。全ての実習終了後に筆記または口答による試験を行う。

【再試験】原則として 1 回行う。

【教科書】

- ◇ 実習書: プリントを配布する。
- ◇ 参考書: 口腔細菌アトラス (清水文彦監修, 堀川高大他編, 医歯薬出版)
- ◇ 参考書: 細菌学実習提要 (東京大学医科学研究所学友会, 丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217352>

【連絡先】

- ⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 根本 (088-633-7330, nemoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 村上 (088-633-7330, mkeiji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

薬理学 A・B 講義

2 単位 3 年 (前期)

Pharmacology

吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 石川 康子・准教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤 典子・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)
 岩田 武男・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 福井 裕行・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 玉置 俊晃・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 中屋 豊・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 板東 浩・非常勤講師, 桑島 正道・非常勤講師

【授業目的】薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。

【授業概要】薬物と生体の相互作用の結果おこる現象や作用機序について、個体レベル、細胞レベルおよび分子レベルで学ぶ。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (プリント, スライド)

【授業場所】第 3 講義室

【授業テーマ】薬物の作用および薬物と生体の相互作用を生理学的・生化学的基礎から理解する。

【履修上の注意】

- ・受講者は毎回の講義において、予習・復習の内容を予習・復習帳にまとめること。
- ・予習・復習帳の提出を求めることがある。
- ・試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 薬物療法を説明できる。 <D-5-(2)-1>
2. 薬物作用の基本的形式と分類を述べることができる。 <D-5-(2)-2>
3. 主な薬物の作用点および作用機序を説明できる。 <D-5-(2)-3>
4. 生体内の情報伝達のメカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
5. 細胞内の情報伝達のメカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
6. 薬理作用を規定する要因 (用量と反応, 感受性) を説明できる。 <D-5-(2)-4>
7. 薬物の連用の影響 (薬物耐性, 蓄積および薬物依存) を説明できる。 <D-5-(2)-5>
8. 薬物の併用 (協力作用, 拮抗作用, 相互作用) を説明できる。 <D-5-(2)-6>
9. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 <D-5-(3)-1>
10. 薬物動態 (吸収, 分布, 代謝, 排泄) を説明できる。 <D-5-(3)-2>
11. 主な薬物の有害作用を述べることができる。 <D-5-(4)-1>
12. 医薬品の分類を説明できる。 <D-5-(1)-1>

13. 毒薬, 劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる。 <D-5-(1)-2>
14. 日本薬局方を説明できる。 <D-5-(1)-3>
15. 末梢神経系における細胞間情報伝達について知り, その興奮・抑制をきたす薬物について作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
16. 中枢神経系における細胞間情報伝達および病態について知り, その興奮・抑制をきたす薬物について作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
17. オータコイドの生理・病態について知り, 受容体拮抗薬・合成阻害薬の作用点・作用メカニズムを理解する。 <D-5-(2)-3>
18. 循環のメカニズム・生理について知り, 心臓, 動脈, 静脈の経路ごとの特徴を把握し, それぞれ興奮・抑制をきたす薬物を理解する。 <D-5-(2)-3>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	薬理学総論	薬理学概念	薬理学の歴史, 薬理学の分類, 薬理学の領域	1	吉本
2~3.	”	薬理作用と作用機序	薬物作用の種類, 薬物の作用点と選択性, 受容体を介する薬物の作用, 受容体を介さない薬物の作用, 薬物の化学構造と薬物活性	2,3	”
4~6.	”	受容体と細胞内情報伝達系	受容体の構造と種類, 受容体と細胞内情報伝達系, 細胞内情報伝達系	4,5	岩田
7~10.	”	薬理作用を規定する要因	用量と反応, 生体の感受性, 薬物アレルギー・薬物の蓄積・耐性・依存, 薬物の併用と相互作用, 薬物側の因子 (bioavailability)	6,7	吉本 石川
11~13.	”	薬物動態	薬物の適用方法, 薬物の生体膜通過, 吸収, 薬物の血中動態, 分布, 代謝, 排泄	8,9,10	石川
14.	”	薬物の副作用	副作用, 有害作用	11	吉本

15~16.	〃	臨床薬理学の概要	医薬品とその開発, 日本薬局方, 処方の実際, 薬物適用上の注意	12,13,14	〃
17~21.	薬理学各論	末梢神経作用薬	コリン作動性薬物, コリン作動性効果遮断薬, アドレナリン作動性薬物, アドレナリン作動性効果遮断薬, アドレナリン作動性ニューロン遮断薬, 神経節に作用する薬物, 神経筋接合部に作用する薬物	15	石川
22~25.	〃	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬, 催眠薬, 鎮静薬, アルコール類, 抗痙攣薬, 向精神薬, 脳代謝賦活薬, 中枢性筋弛緩薬, 中枢神経興奮薬, LSD, マリファナ等	16	吉本
26~27.	〃	オータコイド	ヒスタミン, セロトニン, アンギオテンシン, キニン, エイコサノイド	17	福井
28~30.	〃	循環系作用薬	強心薬, 抗不整脈薬, 抗狭心症薬, 降圧薬	18	吉本 中屋

【成績評価】評価は筆記試験により行う。試験は3年次前期試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇プリント:必要に応じてプリントを配付する。
- ◇参考書:歯科薬理学, 第5版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇参考書:現代歯科薬理学, 第4版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇参考書:New 薬理学, 第5版, 2007年(南江堂)
- ◇参考書:臨床薬理学, 第2版, 2003年(医学書院)
- ◇参考書:カラー図解 これならわかる薬理学, 2006年(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
- ◇参考書:イラストレイテッド薬理学, 原書4版, 2009年(九善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217366>

【連絡先】

- ⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・教授室))
- ⇒ 石川 (088-633-7332, isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・准教授室))
- ⇒ 水澤 (分子薬理学, 088-633-9137, mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))
- ⇒ 岩田 (088-633-9137, iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))

薬理学 C・D 講義

2 単位 3 年 (後期)

Pharmacology

吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 石川 康子・准教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤 典子・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)
 岩田 武男・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 福井 裕行・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 玉置 俊晃・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 中屋 豊・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 板東 浩・非常勤講師, 桑島 正道・非常勤講師

【授業目的】薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。

【授業概要】薬物と生体の相互作用の結果おこる現象や作用機序について、個体レベル、細胞レベルおよび分子レベルで学ぶ。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (プリント, スライド)

【授業場所】第 1 講義室

【授業テーマ】薬物の作用および薬物と生体の相互作用を生理学的・生化学的基礎から理解する。

【履修上の注意】

- ・受講者は毎回の講義において、予習・復習の内容を予習・復習帳にまとめること。
- ・予習・復習帳の提出を求められることがある。
- ・試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

- 利尿薬・輸液について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 血液疾患治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 呼吸器病治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 消化器病治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 平滑筋に作用する薬物について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 内分泌疾患治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- ビタミンの作用、静脈栄養・経腸栄養について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 糖尿病、脂質異常症、痛風治療薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 局所麻酔薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 鎮痛薬・解熱鎮痛薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 抗炎症薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 防腐薬・消毒薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>

- 腐蝕薬と収斂薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 抗感染症薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 免疫調節薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 抗悪性腫瘍薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 中毒治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 口腔疾患に用いられる薬物の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 漢方薬の特徴を説明できる。 <D-5-(2)-3>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1~2.	薬理学各論	体液平衡作用薬	腎臓の機能, 利尿薬	1	玉置
3.	〃	血液系作用薬	抗凝血薬, 貧血に用いられる薬物, 抗血小板薬	2	吉本
4.	〃	呼吸器系作用薬	呼吸興奮薬, 鎮咳薬, 去痰薬, 抗喘息薬	3	〃
5.	〃	消化器系作用薬	消化管・肝・膵疾患治療薬	4	石川
6.	〃	平滑筋作用薬	収縮薬, 弛緩薬	5	〃
7~8.	〃	内分泌系作用薬	ホルモンおよび拮抗薬	6	吉本
9~10.	〃	代謝系作用薬	糖尿病・脂質異常症・痛風・肥満治療薬	8	吉本 桑島
11~12.	〃	ビタミン・栄養, 輸液	ビタミン薬, 静脈栄養, 経腸栄養, 輸液	1, 7	水澤
13~14.	歯科薬理学各論	局所麻酔薬	コカイン, 合成局所麻酔薬	9	石川
15~16.	〃	麻薬性鎮痛薬	モルヒネ関連の鎮痛薬, 拮抗薬	10	〃
17.	〃	解熱鎮痛薬	非ピリン系・ピリン系薬	〃	〃
18~19.	〃	抗炎症薬	ステロイド系抗炎症薬, 非ステロイド系抗炎症薬	11	吉本
20.	〃	防腐薬	防腐, 消毒	12	石川
21.	〃	腐蝕薬と収斂薬	腐蝕, 収斂	13	〃

22~24.	〃	抗感染症薬	抗菌薬, 抗ウイルス薬, 抗真菌薬, 抗結核薬, 抗原虫薬	14	吉本
25.	〃	免疫系作用薬	免疫刺激薬, 免疫抑制薬, 抗アレルギー薬	15	〃
26~27.	〃	抗悪性腫瘍薬	抗腫瘍薬, 分子標的治療薬	16	石川
28.	〃	中毒と薬	中毒, 解毒薬	17	吉本
29.	〃	口腔疾患治療薬, 漢方薬	歯内療法薬, 歯周疾患治療薬, 口腔粘膜治療薬, 漢方医学, 漢方薬の特徴	18, 19	〃
30.	〃	口腔機能作用薬	唾液腺・味覚・骨に作用する薬	18	石川

【成績評価】 評価は筆記試験により行う。試験は3年次後期試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ プリント:必要に応じてプリントを配付する。
- ◇ 参考書:歯科薬理学, 第5版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇ 参考書:現代歯科薬理学, 第4版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇ 参考書:New 薬理学, 第5版, 2007年(南江堂)
- ◇ 参考書:臨床薬理学, 第2版, 2003年(医学書院)
- ◇ 参考書:カラー図解 これならわかる薬理学, 2006年(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
- ◇ 参考書:イラストレイテッド薬理学, 原書4版, 2009年(九善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217367>

【連絡先】

- ⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・教授室))
- ⇒ 石川 (088-633-7332, isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・准教授室))
- ⇒ 水澤 (分子薬理学, 088-633-9137, mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))
- ⇒ 岩田 (088-633-9137, iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))

薬理学 実習

1 単位 3 年 (後期)

Pharmacology

吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 石川 康子・准教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤 典子・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)

岩田 武男・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 森谷 真紀・非常勤講師 / 香川小児病院, 伊井 節子・非常勤講師 / 老健施設平成アメニティー

【授業目的】講義で学んだ薬物を、実際に動物あるいは摘出臓器に作用させ、その効果を観察することにより、生体の機能と薬理作用の関係を具体的かつ総合的に把握する。

【授業概要】実験動物の取り扱い方、薬理学的実験法を習得するとともに、薬物の効果を確認する。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】第2実習室

【授業テーマ】講義で学んだ静的な知識を動的に捉え直し、知識を統合する。

【履修上の注意】実習全回出席と全実習レポートの提出をもって、受験資格を認定する。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 実験機械・器具の使用方法を説明できる。
2. 実験動物の苦痛を認知し、動物実験の必要性和倫理的配慮について説明できる。
3. 麻酔薬の効果を説明できる。
4. 血圧に影響を及ぼす薬物の効果を説明できる。
5. 唾液分泌に作用する薬物の作用を説明できる。
6. 鎮痛薬の作用を説明できる。
7. 薬物代謝酵素の多型について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	到達目標	担当
1.	安全衛生	実習を中心とした学生生活における安全衛生について説明・討議を行う。	1, 2	全員
2.	イントロダクション	機器・器具の操作法や使用上の注意点, 小動物の取り扱い方を説明する。	〃	〃
3.	中枢神経作用薬	麻酔薬の作用	3	〃
4.	末梢神経作用薬	唾液分泌に作用する薬物の作用	5	〃
5.	循環系作用薬	全身血圧に対する薬物の作用	4	〃
6.	鎮痛薬	熱刺激に対する鎮痛薬の作用	6	〃
7.	薬物代謝酵素	遺伝子多型の検出	7	〃

8. 実習の反省	実習内容について討議する。	1-7	〃
----------	---------------	-----	---

【成績評価】評価はレポートおよび筆記試験により行い、試験は講義 C・D の筆記試験と同時 (3 年次後期試験中) に実施する。100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】実習書: プリントを配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217365>

【連絡先】

⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・教授室))

⇒ 石川 (088-633-7332, isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・准教授室))

⇒ 水澤 (分子薬理学, 088-633-9137, mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))

⇒ 岩田 (088-633-9137, iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))

歯科理工学 A 講義

1 単位 2 年 (後期)

Dental Engineering

浅岡 憲三・教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 日浅 雅博・助教 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

【授業目的】 歯科材料に要求される物性と所要の性質を発現するための成形，加工法を理解することを目的として，①材料の変形，劣化，破壊挙動の評価法，②材料の組成，組織と物性の関係について学習する。

【授業概要】 構造物の物理的，化学的，機械的性質の評価法について理解し，材料の組成設計，ナノ構造の制御と物性との関係についての基本的な概念について学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (プリント，スライド等を適宜用いる。)

【授業場所】 第 2 講義室

【授業テーマ】 材料の構造と性質の相関を理解する。

【キーワード】 材料，材料力学，結晶構造，相平衡，物性

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 高分子材料，セラミック材料，金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。 <E-1-1>
2. 生体材料の力学的，物理的，化学的および生物学的所要性質を説明できる。 <E-1-2>
3. 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 <E-1-3>
4. 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。 <E-1-4>
5. 印象材の種類と性質を説明できる。 <E-2-1>
6. 歯科用石こうの種類と特性を説明できる。 <E-2-2>
7. ワックスの種類と特性を説明できる。 <E-2-3>
8. レジンの重合，金属の鋳造・熱処理およびポーセレン焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 <E-2-4>
9. 切削・研磨用材料と使用機器の特徴を説明できる。 <E-2-5>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	連続体力学	固体の構造と性質概論	連続体力学と材料科学	1,2 浅岡
2.	〃	材料力学 1	応力と歪	〃 〃
3.	〃	材料力学 2	構造力学	〃 〃

4.	〃	材料力学 3	変形と破壊	〃	〃
5.	〃	材料力学 4	粘弾性変形	〃	〃
6.	〃	材料力学 5	材料試験法	〃	〃
7.	材料設計学	結晶構造と物性 1	点欠陥と拡散	〃	〃
8.	〃	結晶構造と物性 2	転位と塑性変形，焼鈍し	〃	〃
9.	〃	組織と物性 1	状態図 1: 相律，固溶体	1,2,8	〃
10.	〃	組織と物性 2	状態図 2: 共晶，包晶合金	〃	〃
11.	〃	組織と物性 3	状態図 3: 鉄と鋼	〃	〃
12.	〃	組織と物性 4	熱処理と物性	〃	〃
13.	材料科学	材料の性質 1	材料の物理的性質	1,2	〃
14.	〃	材料の性質 2	材料の腐食と防食	1,2,3	〃
15.	〃	材料の性質 3	材料の毒性と生体親和性	〃	日浅

【成績評価】 筆記試験 80 点，平常点 (授業中の演習，課題レポートなど) 20 点の合計 100 点満点で 60 点以上 のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ プリント: 必要に応じてプリントを配布する。
- ◇ 参考書: 「スキナー歯科材料学 第 8 版」, R.W. Phillips 著, 三浦維四 他訳, 医歯薬出版 (1985)
- ◇ 参考書: 「新訂 初級金属学」, 北田正弘 著, アグネ (2006)
- ◇ 参考書: 「材料工学入門 増訂版」, M. F. Ashby 他著, 堀内良 他訳, 内田老鶴圃 (1999)
- ◇ 参考書: 「材料工学」, M. F. Ashby 他著, 堀内良 他訳, 内田老鶴圃 (1989)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217237>

【連絡先】

⇒ 浅岡 (088-633-7333, asaoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (asaoka@dent.tokushima-u.ac.jp/月・火17:00-18:00/2F生体材料工学・第1研究室/633-7333))

歯科理工学 B 講義

1 単位 2 年 (後期)

Dental Engineering

浜田賢一・准教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

【授業目的】 歯科で用いられる材料の適切な成形・加工法を理解するために、① 歯科用のレジン、印象材、ワックス、石こう、埋没材の特性と成形法、② 金属の鋳造法、接合法、③ 歯科用の材料の切削・研磨法、について学習する。

【授業概要】 歯科で用いられる各種材料の特性を理解し、それに基づいた最適な成形・加工法を習得する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (プリント、プロジェクト等を適宜用いる。)

【授業場所】 第 2 講義室

【授業テーマ】 歯科で用いられる材料の特性と成形・加工法を理解する。

【キーワード】 歯科材料, 歯科生体材料

【関連科目】 『歯科理工学 A 講義』 (1.0)

【履修上の注意】 歯科理工学 B の講義では、各回の講義内容に対応した予習課題と復習課題を提示するので、指定された締め切りまでに解答を提出すること。なお、両課題の解答が提出されない場合、その回の講義は欠席と扱う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 高分子材料, セラミック材料, 金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。 <E-1-1>
2. 生体材料の力学的, 物理的, 化学的および生物学的所要性質を説明できる。 <E-1-2>
3. 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 <E-1-3>
4. 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。 <E-1-4>
5. 印象材の種類と性質を説明できる。 <E-2-1>
6. 歯科用石こうの種類と特性を説明できる。 <E-2-2>
7. ワックスの種類と特性を説明できる。 <E-2-3>
8. レジンの重合, 金属の鋳造・熱処理およびポーセレン焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 <E-2-4>
9. 切削・研磨用材料と使用機器の特徴を説明できる。 <E-2-5>
10. 金属の接合法と特徴を説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	高分子材料	ポリマー概論 1	歯科用ポリマーの種類と用途	1,2,3,8	浜田
2.	〃	ポリマー概論 2	ポリマーの重合と構造	〃	〃
3.	〃	ポリマー概論 3	ポリマーの特性と接着	〃	〃
4.	〃	印象材 1	弾性印象材	2,5	〃
5.	〃	印象材 2	非弾性印象材	〃	〃
6.	〃	ワックス	歯科用ワックス	2,7	〃
7.	無機材料	模型材	模型用石こう	2,6	〃
8.	高分子材料	歯科用レジン 1	床用レジン (加熱重合レジン)	2,3,8	〃
9.	〃	歯科用レジン 2	床用レジン (常温重合, 射出成形レジン)	〃	〃
10.	材料加工学	歯科精密鋳造 1	金属の性質と鋳型	2,8	〃
11.	無機材料	埋没材 1	石こう系埋没材	〃	〃
12.	〃	埋没材 2	リン酸塩系埋没材, その他の埋没材	〃	〃
13.	材料加工学	歯科精密鋳造 2	鋳造操作と鋳造欠陥	〃	〃
14.	〃	金属の接合	ろう付けと溶接	2,10	〃
15.	〃	切削と研磨	切削・研削・研磨用材料と器具	2,9	〃

【成績評価】 筆記試験 80 点, 演習・課題等 20 点の合計 100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。再試験不合格の場合、次年度の筆記試験によって判定する。

【教科書】

- ◇ プリント:MLS サーバからダウンロードして印刷の上, 授業時に持参のこと。
- ◇ 参考書: 「スタンダード歯科理工学 第 4 版 -歯科生体材料・歯科材料-」, 西山實 他編著, 学建書院 (2009)
- ◇ 参考書: 「臨床歯科理工学」, 宮崎隆 他編著, 医歯薬出版 (2006)
- ◇ 参考書: 「目で見える歯科理工学 -歯科領域と生体材料-」, 中村正明 他監修, 医歯薬出版 (1992)
- ◇ 参考書: 「現代歯科理工学」, 長谷川二郎 他編, 医歯薬出版 (1996)
- ◇ 参考書: 「新歯科材料・器械 第 2 版」, 川上道夫 著, 医歯薬出版 (1994)

【WEB 頁】 <http://150.59.246.93/mls/index.php>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217310>

【連絡先】

⇒ 浜田 (生体材料工学分野 第2研究室, 088-633-7334, hamada@dent.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: (月・水16:00-18:00))

歯科理工学 C 講義

1 単位 3 年 (前期)

Dental Engineering

浅岡 憲三・教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 浜田 賢一・准教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

関根 一光・助教 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 日浅 雅博・助教 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 吉山 昌宏・非常勤講師 / 岡山大学, 亘理 文夫・非常勤講師 / 北海道大学

【授業目的】 歯科で用いられる材料の適切な成形法を理解するために、「歯科理工学 A, B」で学習したことを基にして、①成形法による材料の微細構造の変化とそれによる物性の変化、②成形法による物性、機能の変化を踏まえた最適な成形、加工法、について学習する。

【授業概要】 歯科治療で用いられる材料の技工法、材料操作と物性の関係を理解し、最適な成形、加工法を習得する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (プリント, スライド等を適宜用いる。)

【授業場所】 第 2 講義室

【授業テーマ】 歯科で用いられる材料の特性と成形法を理解する。

【キーワード】 歯科材料, 歯科生体材料

【先行科目】 『歯科理工学 A 講義』(1.0), 『歯科理工学 B 講義』(1.0)

【履修上の注意】 歯科理工学 C の講義では、各回の講義内容に対応した予習課題と復習課題を提示するので、指定された締め切りまでに解答を提出すること。なお、両課題の解答が提出されない場合、その回の講義は欠席と扱う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 高分子材料, セラミック材料, 金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。 <E-1-1>
2. 生体材料の力学的, 物理的, 化学的および生物学的所要性質を説明できる。 <E-1-2>
3. 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 <E-1-3>
4. 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。 <E-1-4>
5. レジンの重合, 金属の鋳造・熱処理およびポーセレン焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 <E-2-4>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	金属材料	歯科用合金 1	金合金 1	1,2,3,5	浅岡
2.	〃	歯科用合金 2	金合金 2	〃	〃
3.	〃	歯科用合金 3	銀合金	〃	〃

4.	〃	歯科用合金 4	耐熱合金	〃	〃
5.	〃	歯科用合金 5	アマルガム	〃	〃
6.	〃	歯科用合金 6	歯科矯正用材料	〃	日浅
7.	〃	歯科用合金 7	口腔外科用材料	〃	浜田
8.	高分子材料	歯科用レジン 3	硬質レジン	〃	〃
9.	〃	歯科用レジン 4	コンポジットレジン	〃	〃
10.	セラミック材料	歯科用セメント	合着用セメントと充填用セメント	1,2,3,4	関根
11.	〃	リン酸カルシウム	リン酸カルシウムの化学	1,2,3	〃
12.	〃	陶材 1	陶材の用途と性質	1,2,3,5	〃
13.	〃	陶材 2	金属焼付陶材	〃	〃
14.	材料科学のまとめ	歯科材料と臨床	歯質接着材料	1,2,3	吉山
15.	〃	材料と生体反応	歯科材料の安全性	〃	亘理

【成績評価】 筆記試験 80 点, 平常点 (授業中の演習, 課題レポートなど) 20 点の合計 100 点満点で 60 点以上 のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ プリント: 必要に応じてプリントを配布する。
- ◇ 参考書: 「スキナー歯科材料学 第 8 版」, R.W. Phillips 著, 三浦維四 他訳, 医歯薬出版 (1985)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217311>

【連絡先】

- ⇒ 浅岡 (088-633-7333, asaoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・火)17:00-18:00/2F 生体材料工学・第 1 研究室)
- ⇒ 浜田 (生体材料工学分野 第 2 研究室, 088-633-7334, hamada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水)16:00-18:00/2F 生体材料工学・第 2 研究室)
- ⇒ 関根 (生体材料工学 第 3 研究室, 088-633-7335, sekine@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水・木 16:00-18:00)

歯科理工学 実習

Dental Engineering

2 単位 3 年 (前期)

浅岡 憲三・教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 浜田 賢一・准教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

関根 一光・助教 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 日浅 雅博・助教 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

【授業目的】 材料の微細構造と特性の相関に関する理解と、材料の用途に応じた所要性質の理解を基に、成形法による材料の微細構造の変化とそれによる性質、形状などの変化を実験的に確認し、用途に応じた最適な成形法についての理解を深める。

【授業概要】 歯科材料および歯科生体材料の性質についての基本的知識を再確認し、鋳造、加工、熱処理、材料試験について学習する。実習は 12 名程度を 1 つのグループとして実施する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習

【授業場所】 第 2 実習室

【授業テーマ】 実習を通じて歯科材料、歯科生体材料の特性と成形法に関する理解を深める。

【キーワード】 歯科材料, 歯科生体材料

【先行科目】 『歯科理工学 A 講義』(1.0), 『歯科理工学 B 講義』(1.0)

【関連科目】 『歯科理工学 C 講義』(1.0)

【履修上の注意】 歯科理工学実習では、各回の実習内容に対応した予習課題を提示するので、指定された締め切りまでに解答を提出すること。なお、予習課題の解答の提出と、実習レポートの提出がない場合、その回の実習は欠席と扱う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 高分子材料, セラミック材料, 金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。 <E-1-1>
2. 合着材の種類と成分および特性を説明できる。 <E-1-4>
3. 印象材の種類と性質を説明できる。 <E-2-1>
4. 歯科用石こうの種類と特性を説明できる。 <E-2-2>
5. ワックスの種類と特性を説明できる。 <E-2-3>
6. レジンの種類と性質, 重合の仕組みを説明できる。 <E-2-4>
7. 金属の鋳造について使用機器と関連づけて説明できる。 <E-2-4>
8. 金属の熱処理について説明できる。 <E-2-4>
9. ポーセレンの種類と性質, 焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 <E-2-4>
10. 金属のろう付け法の特徴を説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 鋳造	鋳造と鋳造精度	鋳型の膨張, 適合性, 鋳造欠陥, 研削	7	全員
2. ろう付け	ろう付けと接合強さ	自在ろう付け, 接合強さ	10	〃
3. 加工硬化と熱処理	圧下率と熱処理温度, 熱処理時間	硬さ, 加工硬化と焼鈍, 再結晶温度, 結晶成長	1,8	〃
4. 材料試験と金属組織	引張り試験と金属組織観察	応力-歪曲線, 降伏応力, 耐力, 弾性率, アマルガムの組織, 共晶組織	1	〃
5. 石こう	石こうの硬化機構	石こうの膨張, 粉液比	1,4	〃
6. セメント	セメントの硬化機構	練和条件と硬化時間・被膜厚さ・強さ	1,2	〃
7. 埋没材	石こう系埋没材, リン酸塩系埋没材	硬化膨張, 吸水膨張, 加熱膨張, 強さ	1,7	〃
8. 陶材	陶材の焼結	焼成収縮, 焼成温度, 強さ, 透光性	1,9	〃
9. ワックス	粘弾性変形	変形と残留応力	1,5	〃
10. 印象材	弾性印象材の性質	寸法変化, 弾性歪, 永久歪	1,3	〃
11. レジン	常温重合レジン, 加熱重合レジン, コンポジットレジン	組成と重合特性, ポリマー粉末の溶解, 重合熱測定, 寸法変化, 重合条件の異なる重合体の観察	1,6	〃

【成績評価】 実習全回の出席と全実習レポートの提出を義務づける。レポートは実習各項目についてグループ全体の実験データを整理した後、各個人がデータの解析と考察を行って作成する。各レポートの内容と課題の解答を点数化したものを合計し、100 点満点中 60 点以上であれば合格とする。

【再試験】 筆記試験によって再評価を行う。

【教科書】 MLS サーバにある実習書を印刷し、1 冊に綴じて持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217309>

【連絡先】

⇒ 浅岡 (088-633-7333, asaoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・火 17:00-18:00/2F 生体材料工学・第 1 研究室))

⇒ 浜田 (生体材料工学分野 第 2 研究室, 088-633-7334, hamada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水 16:00-18:00))

- ⇒ 関根 (生体材料工学 第3研究室, 088-633-7335, sekine@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水)16:00-18:00)
- ⇒ 日浅 (生体材料工学分野 第3研究室, 088-633-7335, mhiasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月・水 16:00-18:00)

衛生学/公衆衛生学 講義

1 単位 3 年 (後期)

Hygiene/Public Health/Preventive Medicine

伊藤 博夫・教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 片岡 宏介・准教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学)

福井 誠・助教 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 日野出 大輔・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 石本 寛子・非常勤講師, 井崎 ゆみ子・准教授 / 保健管理センター

【授業目的】個人と集団の両者を対象として、健康の保持・増進と疾病の予防の実現を図る衛生学の全体像を理解することにより、歯科医師法第 1 条で定められた“歯科医師の任務”を遂行するための、必須の素養を身に付ける。

【授業概要】健康の概念を明確化し、その保持・増進 (保健), すなわち疾病の予防から、生活の質 (QOL) の向上のための方法論を総合的に学習する。人間集団の健康問題を社会ならびに環境との関係から分析し、問題解決法の立案, 遂行, 評価を行うための基礎を学習する。本科目においては、歯科医師以外の医療専門職にも共通して必須の、予防医学・保健学に関する事項を中心としつつ、ライフステージに応じた公衆衛生行政の枠組みの中での歯科保健の推進についても学習する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (教科書, プリント, スライド) および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる。

【授業場所】第 3 講義室

【授業テーマ】疾病の予防と健康の保持増進

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしているものに対して行う。出席率が 2/3 以下の者、および 2 回以上無断欠席をした者は原則として受験を認めない。①本授業では、毎回の講義事項のキーワードを提示している。受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回抗火の後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏める事。また、予習時の内容と復讐時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。③予習復習ノートの提出を求める場合がある。予習、復習することが成績評価に含まれる。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 健康の概念を説明できる。 <C-1-①>
2. 疾病の概念, 種類及び予防を概説できる。 <C-1-③>
3. 歯科医師法を説明できる <C-2-1)-①>
4. わが国の保健・医療制度を説明できる。 <C-2-2)-①>
5. 介護保険制度を説明できる。 <C-2-2)-③>
6. 社会福祉制度を説明できる <C-2-2)-④>
7. 高齢者のおかれた社会環境を説明できる <C-2-2)-⑤>
8. 障害者のおかれた社会環境を説明できる <C-2-2)-⑥>

9. ノーマライゼーションの考え方を説明できる <C-2-2)-⑦>
10. 地域医療に求められる役割と機能および体制等, 地域医療の在り方を概説できる。 <C-2-2)-⑧>
11. 地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる <C-2-2)-⑨>
12. 環境による健康への影響を説明できる。 <C-2-3)-①>
13. 環境基準と環境汚染を説明できる。 <C-2-3)-②>
14. 第一次, 第二次及び第三次予防を説明できる。 <C-3-1)-①>
15. プライマリ・ヘルス・ケアとヘルス・プロモーションを説明できる。 <C-3-1)-③>
16. ライフステージにおける予防を説明できる <C-3-2)-③>
17. 集団レベルの予防と健康管理 (地域保健, 学校保健, 産業保健) を説明できる。 <C-3-2)-④>
18. 主な保健医療統計 (人口動態・静態統計, 患者調査, 医療施設調査, 医師・歯科医師・薬剤師調査, 歯科疾患実態調査, 学校保健統計調査) を説明できる。 <C-4-2)-①>
19. 主な健康指標 (平均寿命, 平均余命, 新生児・乳幼児死亡率) を説明できる。 <C-4-2)-②>
20. 感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。
21. 国民の栄養と食品の安全についての問題点と制度を概説できる。
22. ストレスと精神保健の関係, および精神保健福祉活動の現状と動向を説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序論	衛生学・公衆衛生学の領域	健康の定義, 衛生学とは, 疾病・障害の定義, 疾病の自然史, 予防の 3 相 5 段階,	1,2,3,14,15	伊藤
2. "	健康の測定と健康指標	健康水準, 健康指標, 種々の比率, 人口静態・動態統計, 生活と健康, 公衆衛生	18,19	"
3. 疾病予防と健康管理	1. 生活習慣病の予防	生活習慣病の予防, リスクファクター, 健康管理, 悪性新生物, 心疾患, 脳血管疾患, 健康増進,	2,15	片岡
4. "	2. 感染症の予防	感染症成立の条件, 予防と流行防止対策, 輸入伝染病, 院内感染, 感染症新法,	2,18	"

5.	環境予防医学	1. 環境と健康	地球環境の変化, 環境の評価, 物理的, 化学的, 生物学的環境要因	12	〃
6.	〃	2. 空気と水	空気の衛生と大気汚染, 水の衛生と水質汚濁, 下水,	12,13	福井
7.	〃	3. 環境保全	環境基本法, 環境基準, 廃棄物処理, 医療廃棄物, リサイクル	13	〃
8.	食生活と健康	国民栄養 食品保健	栄養所要量, 国民栄養の問題点, 肥満, 食品の成分, 食品の安全性, 添加物, 食中毒, 保健機能食品	19	日野出
9.	地域保健と公衆衛生活動(地域保健行政)	公衆衛生活動のしくみと歯科公衆衛生/地域歯科保健	わが国の保健・医療制度, 地域保健法, 保健所, 市町村保健センター	4,16,17	伊藤
10.	〃	母子保健と母子歯科保健制度	母子保健法, 児童福祉法, 妊産婦健診, 1歳6か月児・3歳児歯科健診, 妊産婦・乳幼児の歯科保健	〃	片岡
11.	〃	学校保健と学校歯科保健制度	学校保健関係職員, 学校歯科医, 学校保健委員会, 保健教育, 保健管理, 組織活動	〃	伊藤
12.	地域保健と衛生行政	学校保健・精神保健(特別講義)	学校保健, 学校における精神保健:心のメカニズム, ストレスと精神疾患, 精神保健福祉活動(メンタルヘルスケア)	20	井崎
13.	地域保健と公衆衛生活動(地域保健行政)	産業衛生と産業歯科保健	労働安全衛生法, 産業歯科医, 職業性疾患, 作業環境管理, 定期健診, 特殊健診, トータルヘルスプロモーション	4,16,17	福井
14.	〃	高齢者のための保健医療システム	法規, QOL, ADL, 高齢者の口腔保健管理, 介護保険法, 介護予防	4,5,6,7,8,9	伊藤
15.	地域保健と衛生行政	自治体の公衆衛生活動(特別講義)	プライマリー・ヘルス・ケア, ヘルスプロモーション, 集団アプローチ, ハイリスクアプローチ, わが国の保健・医療制度, 地域保健	4,15,17	石本

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217369>

【連絡先】

- ⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水・金16:00~ 17:00/5F 予防歯学・教授室))
- ⇒ 片岡 (予防歯学, 088-633-7337, kataoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 木 16:00~ 17:00, /5F 予防歯学・第1研究室))
- ⇒ 福井 (088-633-7337, fmakoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00~ 18:00, /5F 予防歯学・第1研究室))

【成績評価】 全授業の終了後、筆記試験を行う。筆記試験の得点が満点の60%以上の者を合格とするが、出席実績および授業中に出すレポート課題等の提出実績と内容を総合的に評価した日常点を加味して最終成績とし、これが60%以上であれば筆記試験60%未満でも合格とする。

【再試験】 1回だけ実施する。再試の評価に日常点は加味されない。

【教科書】

- ◇ ※注) 指定教科書を購入して授業に出席すること。
- ◇ 指定教科書: シンプル衛生公衆衛生学 2011, 鈴木庄亮, 久道茂 編, 南江堂 2,400 円
- ◇ 参考書: スタンダード衛生・公衆衛生, 飯塚喜一ほか編, 学建書院 5,500 円
- ◇ 参考書: スタンダード社会歯科学, 石井拓男ほか編, 学建書院 4,500 円

予防歯科学 A 講義

1 単位 3 年 (後期)

Preventive Dentistry

伊藤 博夫・教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 片岡 宏介・准教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 福井 誠・助教 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学)

日野出 大輔・非常勤講師 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

【授業目的】 歯科基礎医学の各科目の知識に基づき、口腔の健康な状態の特徴と病的変化を理解し、それを自ら解説できるようになる。そして歯科の2大疾患である齲蝕症と歯周疾患を中心に、歯科疾患の病因に基づく予防と、健康の保持・増進の科学的方法論の基本を身につける。

【授業概要】 3 年生前期までに学習した、歯科基礎医学の各科目、なかでも特に口腔解剖学、細菌学、生理学を統合化および再構成し、口腔の健康な状態を理解する。そして歯科の2大疾患である齲蝕症と歯周疾患を中心に、病的変化の特徴と、それを引き起こす要因について学習し、病因に基づく歯科疾患の予防の原理と、健康の保持・増進の科学的方法論の基本を身につける。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド、プリントなどを適宜用いる。協同学習形式を適宜取り入れる

【授業場所】 第3 講義室

【授業テーマ】 口腔の健康の保持増進と口腔疾患の予防 (病因に基づく予防法)

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしているものに対して行う。出席率が2/3 以下の者、および2 回以上無断欠席をした者は原則として受験を認めない。①本授業では、毎回の講義事項のキーワードを提示している。受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回抗火の後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏める事。また、予習時の内容と復讐時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。③予習復習ノートの提出を求める場合がある。予習、復習することが成績評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 健康と疾病の概念を説明できる。 <C-1-①>
2. 口腔と全身の健康との関連を説明できる。 <C-1-②>
3. 疾病の概念、種類及び予防を概説できる。 <C-1-③>
4. 歯科医師法を説明できる。 <C-2-1)-①>
5. 第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。 <C-3-1)-①>
6. 主な口腔疾患 (う蝕、歯周疾患、不正咬合) の予防を説明できる。 <C-3-2)-①>
7. う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。 <C-3-2)-②>

8. 口腔疾患の疫学的指標を説明できる。 <C-4-1)-③>
9. ワクチンの意義と問題点を説明できる。 <D-3-2)-⑦>
10. 口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。 <F-1-6)-(2)-①>
11. セルフケアを行えるように適切な動機づけができる。 <F-1-6)-(2)-②>
12. 適切な口腔清掃法を指導できる。 <F-1-6)-(2)-③>
13. 適切な食事指導 (栄養指導) を実施できる。 <F-1-6)-(2)-④>
14. 生活習慣に関して適切に指導できる。 <F-1-6)-(2)-⑤>
15. 唾液の性状と役割を説明できる。 <F-2-2)-④>
16. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。 <F-3-2)-④>
17. 口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。 <F-3-2)-⑤>
18. う蝕の症状と診断を説明できる。 <F-3-3)-(1)-①>
19. う蝕の予防と治療の方法を説明できる。 <F-3-3)-(1)-②>
20. 歯周疾患の症状を説明できる。 <F-3-3)-(3)-①>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	予防歯科学の基盤	序論	予防歯科学の基本的概念、授業オリエンテーション	1,2,4 伊藤
2.	口腔の健康の基礎	総論	歯科疾患の予防 予防歯科学全体像のサーベイ	1,2,3,5,6 ”
3.	”	健康と口腔環境 I	口腔の機能 (消化、味覚、発音、発語)、唾液 (ドライマウス、唾液成分とう蝕、唾液の緩衝作用、抗菌作用)、その他の機能	2,15 ”
4.	”	健康と口腔環境 II	歯面への沈着物 (歯垢、歯石、着色性沈着物、その他の沈着物)、口腔常在細菌叢	6,17 ”
5.	”	歯・口腔環境の保全と健康	ワークショップ (問題の発見、気づき): あなたはなぜ歯を磨く	2,6,11 伊藤, 福井
6.	口腔疾患の予防	う蝕予防 I	う蝕成因説、う蝕の発生機序、う蝕と微生物	6,18,19 伊藤
7.	”	う蝕予防 II	う蝕の疫学的特徴、う蝕活動性、う蝕予防法	6,8 ”
8.	”	う蝕予防 III	う蝕予防と食生活、代用糖、栄養	6,13,14 日野出

9.	”	う蝕予防Ⅳ フッ素とう蝕予防	フッ素(自然界, 代謝, 測定法), う蝕予防のメカニズム, フッ化物によるう蝕予防法, フッ素の毒性, 歯のフッ素症	6,7,19	片岡
10.	”	う蝕予防Ⅴ	シーラント, キシリトール, 再石灰化ほか	6,19	”
11.	”	歯周疾患とその予防Ⅰ	分類, 発生のメカニズム, 歯周病と微生物, 病原性細菌と病原因子, 歯周組織の免疫応答	6,16,20	伊藤
12.	”	歯周疾患とその予防Ⅱ	歯周疾患の疫学指標(歯周ポケット, アタッチメントレベル, 歯肉出血), 疫学的特徴	6,8,16	”
13.	”	歯周疾患とその予防Ⅲ	口腔細菌の歯周病原性	6,16,17	片岡
14.	”	ワクチンによる予防	粘膜免疫学, 経口経鼻ワクチン	6,9	”
15.	”	地域歯科保健概論	母子歯科保健, 学校歯科保健, 産業歯科保健, 成人・高齢者歯科保健, 歯科公衆衛生学	3,5,6	伊藤
16.	試験				

⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水・金16:00~17:00/5F 予防歯学・教授室))

⇒ 片岡 (予防歯学, 088-633-7337, kataoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~木16:00~17:00/5F 予防歯学・第1研究室))

⇒ 福井 (088-633-7337, fmakoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~金17:00~18:00/5F 予防歯学・第1研究室))

【成績評価】全授業の終了後、筆記試験を行う。筆記試験の得点が満点の60%以上の者を合格とするが、出席実績および授業中に出すレポート課題等の提出実績と内容を総合的に評価した日常点を加味して最終成績とし、これが60%以上であれば筆記試験60%未満でも合格とする。

【再試験】一度だけ実施する。再試の評価に日常点は加味されない。

【教科書】

- ◇教科書は指定はしないが、下記に紹介する教科書などから自分の好みに合う1冊を購入することを強く勧める。また、下に示す参考書など、できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。
- ◇教科書:新予防歯科学 第3版(上・下), 医歯薬出版, 2003
- ◇教科書:新口腔保健学 第1版, 医歯薬出版, 2009
- ◇教科書:臨床家のための口腔衛生学 改定4版, 永末書店, 2009
- ◇参考書:予防歯科実践ハンドブック, 医歯薬出版, 2004
- ◇教科書:実践予防歯科 医歯薬出版, 1999
- ◇参考書:国民衛生の動向, 厚生統計協会, 2009
- ◇参考書:歯科保健指導関係資料, 口腔保健協会, 2009
- ◇参考書:解説歯科疾患実態調査, 口腔保健協会, 2007
- ◇参考書:スタンダード社会歯科学 第3版, 石井拓男ほか編, 学建書院, 2008

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217259>

【連絡先】

予防歯科学 B 講義

1 単位 4 年 (前期)

Preventive Dentistry

伊藤 博夫・教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 片岡 宏介・准教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 福井 誠・助教 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学)

中垣 晴男・非常勤講師 / 愛知学院大学, 滝波 修一・非常勤講師 / 北海道大学, 酒井 徹・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 疫学を理解し, 科学的根拠に基づいた歯科疾患の予防と口腔の健康増進の実践技法を解説できるようになる. 集団を対象とした場合 (地域保健活動) と個人を対象とした場合 (歯科臨床) の相違点と共通点を説明できるようになる.

【授業概要】 3 年次後期に行った予防歯科学 A と衛生学の学習成果に基づき, 人々が能動的に口腔の健康を保持・増進するための, 歯科医師による支援・指導の理論と技法を理解する. 集団あるいは個人を対象とした口腔健康管理を実践・指導できるようになり, 国際保健協力への応用の理論を理解する. 疫学を理解し, 最新の科学的根拠を疾患予防に適用させる方法を学習する.

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド, プリントなどを適宜用いる. 協同学習形式を適宜取り入れる.

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 口腔の健康の保持増進と口腔疾患の予防 (集団レベルの予防の理論と実践)

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしているものに対して行う. 出席率が 2/3 以下の者, および 2 回以上無断欠席をした者は原則として受験を認めない. ①本授業では, 毎回の講義事項のキーワードを提示している. 受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること. ②受講者は毎回抗火の後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏める事. また, 予習時の内容と復讐時の内容を比較して, 学習の成果を確認すること. ③予習復習ノートの提出を求める場合がある. 予習, 復習することが成績評価に含まれる.

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 口腔と全身の健康との関連を説明できる. <C-1-②>
2. プロフェッショナル・ケア, セルフ・ケア及びコミュニティ・ケアを説明できる <C-3-1)-②>
3. 主な口腔疾患 (う蝕, 歯周疾患, 不正咬合) の予防を説明できる. (予防塞, プラークコントロールを含む) <C-3-2)-①>
4. ライフステージにおける予防を説明できる. <C-3-2)-③>

5. 集団レベルの予防と健康管理 (地域歯科保健, 学校歯科保健, 産業歯科保健) を説明できる. <C-3-2)-④>
6. 疫学と EBM の概念を説明できる. <C-4-1)-①>
7. 口腔疾患の疫学的指標を説明できる. <C-4-1)-③>
8. 主な保健医療統計 (人口動態・生態統計, 患者調査, 医療施設調査, 医師・歯科医師・薬剤師調査, 歯科疾患実態調査, 学校保健統計調査) を説明できる <C-4-2)-①>
9. 口腔の健康やリスクを評価し, 対象者に説明できる <F-1-6)-②)-①>
10. セルフケアを行えるように適切な動機づけができる <F-1-6)-②)-②>
11. 適切な口腔清掃法を指導できる <F-1-6)-②)-③>
12. 適切な食事指導 (栄養指導) を実施できる <F-1-6)-②)-④>
13. 生活習慣に関して適切に指導できる <F-1-6)-②)-⑤>
14. 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる. <F-2-4)-②)-②>
15. 口臭の原因と診断及びその予防について説明できる
16. 保健医療における国際協力について説明できる
17. スクリーニング検査を説明できる C-4-1)-②
18. 調査方法と統計的分析法を説明できる C-4-2)-③

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	予防歯科学 B 序論	オリエンテーション	予防歯科学 B の目標, 予防歯科学 A の学習事項の確認	2,3,4,9	伊藤
2.	プラークコントロール I	物理的なコントロール	口腔清掃の種類, 清掃用具, 種々のブラッシング法, セルフケア, プロフェッショナルケア	2,3,10,11	〃
3.	プラークコントロール II	非物理的なコントロール	化学的コントロール, 生物学的コントロール, 歯磨剤と成分	2,3	〃
4.	口腔疾患の予防	臨床における齲蝕予防法	シーラント, フッ化物局所応用, 齲蝕活動性試験	2,3,9,10	片岡
5.	〃	臨床における歯周病予防法	歯周炎, 歯肉炎, 歯周基本治療, SPT, 禁煙指導	〃	〃

6.	歯・口腔の健康診断	検診と事後措置	歯科検診の種類、方法、検診項目、スクリーニングレベル、事後措置、指導、主な歯科関連医療統計	5,6,10	福井
7.	口腔の健康管理	口臭の原因・治療・予防	口臭の分類、原因物質、診断	3,15	〃
8.	〃	栄養・食生活と口腔および全身の健康	食事摂取基準、栄養調査、食事記録法、栄養指導	12,13	酒井
9.	〃	口腔と全身の健康の関係	歯周病の宿主免疫応答、歯性病巣感染、感染性心内膜炎、脳心臓血管疾患、メタボリックシンドローム、早産未熟児、糖尿病、骨粗鬆症	1,14	伊藤
10.	疫学と EBD	1. 疫学の概念	疫学の定義、目的、対象、方法、疾病の分類、疾病発生の多要因説、宿主要因、病原要因、環境要因、疫学モデル	6;7,17,18	〃
11.	〃	2. 疫学研究の方法	対象の選定と調査、標本の抽出、記述疫学、分析疫学、実験疫学	〃	〃
12.	〃	3. 疫学指標と臨床疫学	疫学指標の所要要件、代表値、分散度、分布、比と比率 4)Evidence-Based Medicine (EBM) の考え方、オッズ比、相対危険度、寄与危険度、因果関係の判定、交絡、有意性	〃	〃
13.	歯科公衆衛生活動	国際歯科保健(特別講義)	国際保健医療協力と歯科保健、発展途上国援助活動の実際	16	滝波
14.	〃	地域歯科保健の推進1(特別講義)	健康日本 21, その他	5	中垣
15.	〃	地域歯科保健の推進2(特別講義)	〃	〃	〃
16.	修了試験	下記	下記		

【成績評価】全授業の終了後、筆記試験を行う。筆記試験の得点が満点の60%以上の者を合格とするが、出席実績および授業中に出すレポート課題等の提出実績と内容を総合的に評価した日常点を加味して最終成績とし、これが60%以上であれば筆記試験60%未満でも合格とする。

【再試験】一度だけ実施する。再試の評価に日常点は加味されない。

【教科書】

- ◇教科書の指定はしないが、下記に紹介する教科書などから自分の好みに合う1冊を購入することを強く勧める。また、下に示す参考書など、できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。
- ◇教科書:新予防歯科学 第3版(上・下), 医歯薬出版, 2003
- ◇教科書:新口腔保健学 第1版, 医歯薬出版, 2009
- ◇教科書:臨床家のための口腔衛生学 改定4版, 永末書店, 2009

- ◇参考書:数字に弱いあなたの驚くほど危険な生活, ゲルト・ギーゲレンツァー著, 早川書房 1,900円
- ◇参考書:予防歯科実践ハンドブック, 医歯薬出版, 2004
- ◇教科書:実践予防歯科 医歯薬出版, 1999
- ◇参考書:国民衛生の動向, 厚生統計協会, 2009
- ◇参考書:歯科保健指導関係資料, 口腔保健協会, 2009
- ◇参考書:解説歯科疾患実態調査, 口腔保健協会, 2007
- ◇参考書:スタンダード社会歯科学 第3版, 石井拓男ほか編, 学建書院, 2008

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217260>

【連絡先】

- ⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水・金16:00~17:00/5F 予防歯学・教授室))
- ⇒ 片岡 (予防歯学, 088-633-7337, kataoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~木16:00~17:00/5F 予防歯学・第1研究室))
- ⇒ 福井 (088-633-7337, fmakoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~金17:00~18:00/5F 予防歯学・第1研究室))

予防歯科学 実習

1 単位 4 年 (前期)

Hygiene/Public Health

伊藤 博夫・教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 片岡 宏介・准教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学)

福井 誠・助教 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 酒井 徹・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 衛生学・予防歯科学の講義で習得した知識について十分理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。

【授業概要】 下記に示す基礎実習、示説演習、見学などを行い、衛生学・予防歯科学の素養を習得するとともに、環境衛生や公衆歯科衛生についても基本的な技術を身につける。

【授業形式】 実習

【授業方法】 基礎実習、演習、歯ブラシ工場見学

【授業場所】 第1または第2実習室

【授業テーマ】 口腔の健康の保持増進と口腔疾患の予防を実践するための知識と技術の統合

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 環境による健康への影響を説明できる。 <C-2-3>-①<
2. 環境基準と環境汚染を説明できる。 <C-2-3>-②<
3. う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。 <C-3-2>-②<
4. 口腔疾患の疫学的指標を説明できる <C-4-1>-③<
5. 口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。 <F-1-6>-②-①<
6. 適切な口腔清掃法を指導できる。 <F-1-6>-②-③<
7. 唾液の性状と役割を説明できる。 <F-2-2>-④<
8. 口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。 <F-3-2>-⑤<
9. う蝕の症状と診断を説明できる。 <F-3-3>-①-①<
10. う蝕の予防と治療の方法を説明できる。 <F-3-3>-①-②<
11. 歯周疾患の症状を説明できる。 <F-3-3>-③-①<
12. 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。 <F-3-3>-③-②<

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 環境保健	環境測定	気温、気湿、カタ冷却力、気動、輻射熱、感覚温度、不快指数、騒音、空気中のCO ₂ 、COの測定、飲料水の理化学的試験(pH、フッ素イオン、硬度、残留塩素の測定など)	1,2	伊藤, 片岡, 福井

2.	口腔健康管理	う蝕・歯周病のリスク診断	Lactobacillus viable count, 唾液の緩衝能測定, その他市販のう蝕活動性試験, 唾液鮮血試験などの歯周病スクリーニングテスト	5,7,8	〃
3.	〃	歯科集団検診	口腔診査(う蝕, 歯周病など)	9,10,11,12	〃
4.	〃	口腔保健指導	TBIの相互実習, フッ化物洗口, 高齢者口腔ケア予備実習	3,6,10,12	〃
5.	〃	栄養調査法	食物摂取頻度調査による栄養調査法, 24時間思い出し法による栄養調査法		酒井, 福井
6.	〃	歯ブラシ工場見学	歯ブラシの製造工程を見学	6	伊藤, 片岡, 福井
7.	疫学と衛生統計	歯科疾患に関する指標の測定	DMF, PMA index, CPITN, OHI, O'LearyのPlaque Control Record	4,5	福井, 片岡
8.	〃	衛生統計演習	上記実習で得られたデータの集計及び統計処理	4	伊藤, 片岡, 福井

【成績評価】 全回出席を原則とする。実習態度、実習の技術的評価と到達度、レポートによる実習の理解度などから総合的に評定する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 実習帳を配布する。できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217258>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水・金16:00~ 17:00/5F 予防歯学・教授室))

⇒ 片岡 (予防歯学, 088-633-7337, kataoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 木16:00~ 17:00/5F 予防歯学・第1研究室))

⇒ 福井 (088-633-7337, fmakoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/5F 予防歯学・第1研究室))

歯科保存学 (1)A 講義 Conservative Dentistry

1 単位 3 年 (後期)

松尾 敬志・教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 中江 英明・准教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学)
中西 正・講師 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 寺下 正道・非常勤講師 / 九州歯科大学

【授業目的】1) 歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し, その病因を理解する。2) それらの疾患を認識するための診査法を知り, 正しい診断が行える能力を養う。3) 各種の治療・予防法について, その方法の背景や意義, 術式, 術後経過についての知識を修得し, 治療法の臨床的選択を理解する。4) 歯科に特徴的な治療法, すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。

【授業概要】歯科保存学 (1)A では, 保存修復学の講義形式の授業形態を基本とするが, 課題や症例を通じての問題解決型学習も行う。

【授業形式】講義

【授業方法】講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる。

【授業場所】第3講義室

【授業テーマ】歯の硬組織に対する診断, 予防と治療法

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 歯の硬組織の構造と機能を説明できる。 <F-3-1)-③>
2. 口腔細菌, 歯垢および歯石について説明できる。 <F-3-2)-⑤>
3. 歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 <F-3-2)-①>
4. う蝕の症状と診断を説明できる。 <F-3-3)-①-①>
5. う蝕の予防と治療の方法を説明できる。 <F-3-3)-①-②>
6. 歯の硬組織疾患の診査と検査および診断ができる。 <F-3-4)-①-⑫>
7. インフォームド・コンセントの定義と重要性を説明できる。 <A-4-①>
8. 窩洞形成の意義と方法を説明できる。 <F-3-4)-①-⑦>
9. 歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。 <F-3-4)-①-①>
10. 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 <F-3-4)-①-④>
11. 歯髄保護の種類を述べ, その重要性を説明できる。 <F-3-4)-①-⑤>
12. 修復材料と修復法の種類と特徴およびその適応を説明できる。 <F-3-4)-①-②>
13. 接着材と合着材の種類と成分及び特性を説明できる。 <E-1-④>
14. 修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。 <F-3-4)-①-①>
15. 歯痛の機序を説明できる。 <F-3-2)-⑥>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	総論	歯科保存学序説	歯科保存学の目的および歯の構造と特徴	1	松尾
2.	〃	う蝕	う蝕の病因と病態, および治療法	2,3,4,5,15	中江
3.	〃	診査と診断	診査と診断の基本的概念とインフォームドコンセント	6,7,15	松尾
4.	〃	窩洞	窩洞の種類・名称・要件, および窩洞形態	8	〃
5.	〃	修復法	保存修復の種類と適応, 修復材料の一般的性状	9,12	〃
6.	〃	修復前処置	防湿法, 歯間分離法, 隔壁法, 除痛法	10,15	中西
7.	〃	〃	消毒と滅菌, 歯髄保護, 仮封	10,11,15	松尾
8.	各論	成形修復	セメント修復	12,13,14	〃
9.	〃	〃	コンポジットレジン修復	〃	〃
10.	〃	〃	象牙質接着	12,13	〃
11.	〃	インレー修復	メタルインレー修復 (1)	12,14	〃
12.	〃	〃	メタルインレー修復 (2)	〃	〃
13.	〃	〃	コンポジットレジンインレー修復, ポーセレンインレー修復	〃	〃
14.	〃	ラミネートベニア修復	ポーセレンラミネートベニア修復, レジンベニア修復	〃	寺下
15.	〃	合着	合着用セメントの種類, 性状, 臨床対応	13	松尾

【成績評価】講義終了後に試験を行い, 講義に対する理解の程度と保存修復学に関する知識を評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】一回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 参考書:保存修復学 21, 第三版, 永末書店, 2006
- ◇ 参考書:新保存修復学, 第 1 版, クインテッセンス出版, 1994
- ◇ 参考書:The Art and Science of Operative Dentistry, Third edition, Mosby, 1995

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217299>

【連絡先】

- ⇒ 松尾 (0886337339, matsuo@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・教授室))
- ⇒ 中江 (088-633-7340, nakae@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 木17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 中西 (633-7340, tadashi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))

歯科保存学 (1)B 講義
Conservative Dentistry

1 単位 4 年 (前期)

松尾 敬志・教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 中江 英明・准教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学)
 中西 正・講師 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 菅 俊行・講師 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学)

【授業目的】 1) 歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し, その病因を理解する。2) それらの疾患を認識するための診査法を知り, 正しい診断が行える能力を養う。3) 各種の治療・予防法について, その方法の背景や意義, 術式, 術後経過についての知識を修得し, 治療法の臨床的選択を理解する。4) 歯科に特徴的な治療法, すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。

【授業概要】 歯科保存学 (1)B では, 保存修復学と歯内療法学の講義形式の授業形態を基本とするが, 課題や症例を通じての問題解決型学習も行う。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 歯の硬組織, 歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患に対する診断, 予防と治療法

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 象牙質知覚過敏症の病因, 病態, 診断および治療法を説明できる。 <F-3-3)-(4)-①>
2. 歯髄の構造と機能を説明できる。 <F-3-1)-(4)>
3. 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 <F-3-2)-(3)>
4. 歯髄・根尖歯周組織疾患の症状, 診断および治療法を説明できる。 <F-3-3)-(2)-①>
5. 根管充填の目的, 時期および方法を説明できる。 <F-3-3)-(2)-②>
6. 歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。 <F-3-3)-(2)-③>
7. 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療時における偶発症について, 種類, 処置および予防を説明できる。 <F-3-3)-(2)-④>
8. 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。 <F-3-3)-(2)-⑤>
9. 歯の変色の原因, 種類および処置を説明できる。 <F-3-3)-(2)-⑥>
10. 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎の処置法の種類と適応症, 予後および手順と留意点を説明できる。 <F-4-2)-(5)>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	各論	象牙質知覚過敏症	象牙質知覚過敏症の成因とその治療法	1	菅
2.	総論	歯内疾患	歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の分類と特徴	2	松尾
3.	〃	〃	歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の診断と治療の基本	3,4	〃
4.	各論	歯髄疾患	歯髄の保存療法	3,4,10	中西
5.	〃	〃	覆髄法	〃	〃
6.	〃	〃	歯髄切断法	〃	松尾
7.	〃	〃	抜髄法	3,4	〃
8.	〃	〃	根管治療	3,4,10	〃
9.	〃	〃	根管充填	5,10	〃
10.	〃	根未完成歯の治療法	アペキシフィケーションとアペキソゲネシス	10	中江
11.	〃	外傷歯の治療	亀裂歯, 歯冠破折, 歯根破折, 脱臼と嵌入	3,4,6	〃
12.	〃	歯の漂白	歯の変色と原因と治療法	9	〃
13.	〃	歯内歯周病変	歯内歯周病変の診断と治療法	3,4	〃
14.	〃	保存治療における偶発症	保存修復および歯内療法時の偶発症の予防と治療	7	〃
15.	〃	外科的歯内療法	意義と目的, および種類と術式	3,4,8	〃

【成績評価】 講義終了後に試験を行い, 講義に対する理解の程度と保存修復学および歯内療法学に関する知識を評価する。そして歯科保存学第一実習における評価と総合して, 臨床実習への可否判定を行う。100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 1 回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 参考書: 歯学生のための歯内療法学, 第 1 版, 医歯薬出版, 2000
- ◇ 参考書: エンドドンティクス 第三版, 永末書店, 2010
- ◇ 参考書: Pathways of the Pulp, Ninth edition, Mosby, 2005
- ◇ 参考書: 保存修復学 21 第三版, 永末書店, 2006

- ◇ 参考書: The Art and Science of Operative Dentistry, Third edition, Mosby, 1995
- ◇ 参考書: 新保存修復学, 第1版, クインテッセンス出版, 1994

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217300>

【連絡先】

- ⇒ 松尾 (0886337339, matsuo@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・教授室))
- ⇒ 中江 (088-633-7340, nakae@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 木17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 中西 (633-7340, tadashi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 菅 (088-633-7340, suge@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 水, 金17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室)

歯科保存学 (1) 実習

3 単位 4 年 (前期, 後期)

Conservative Dentistry

松尾 敬志・教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 中江 英明・准教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学)

中西 正・講師 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 菅 俊行・講師 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 湯本 浩通・助教 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学)

細川 義隆・助教 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 高橋 加奈子・助教 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 平尾 功治・助教 / 病院

【授業目的】 歯科保存学講義で履修した内容を, 模型あるいは患者の口腔内を想定したマネキンを用いて実際に各種の保存修復処置および歯内療法を行い, 臨床実習に進む前により理解を深め, 治療技術を習得することを目的とする。

【授業概要】 実習前に各人が実習項目を理解した上で, 指導教員の説明およびデモンストレーションに従って, 模型歯を用いて, 各種保存修復処置, 歯内療法を施術する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習型式 ビデオ, スライドを適宜用いる。

【授業場所】 第 5 実習室

【授業テーマ】 歯の保存修復および歯内療法に関する基本的な技術を, 臨床実習を行う前に, 模型を用いて修得する。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 歯種別の形態と特徴を説明できる。 <F-3-1)-②>
2. う蝕を確実に除去できる。
3. 窩洞形態を理解し, 適切な窩洞形成ができる。
4. 歯髄保護の術式を適切に実施できる。 <F-3-4)-(1)-①>
5. 修復材料と修復法の種類と特徴およびその適応を説明できる。 <F-3-4)-(1)-②>
6. 修復法に関する模型上での基本的操作ができる。 <F-3-4)-(1)-③>
7. 簡単な歯冠修復処置を行うことができる。 <F-3-4)-(1)-③>
8. 鋳造法を理解し, 適切なインレーを作製できる。
9. 歯髄の保存療法を適切に実施できる。
10. 歯髄・根尖歯周組織疾患の簡単な症例を処置できる。 <F-3-3)-(2)-⑧>
11. 根管充填の意義を理解し, 適切な根管充填ができる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 保存修復	ガイダンス, 歯の形態観察と模型作成	実習内容の説明, 器具貸与, ① 6, ① 石膏模型作製, 軟化象牙質除去練習	1,2	全員
2. ”	窩洞形成	① 6 1 級インレー窩洞形成 (4 倍大石膏模型)	3	”

3.	”	”	① 6 2 級インレー窩洞形成 (4 倍大石膏模型)	”	”
4.	”	”	① 3 級および 5 級レジン窩洞形成 (4 倍大石膏模型)	”	”
5.	”	成形修復	③ グラスアイオノマーセメント修復 (WSD), ④ コンポジットレジン修復 (5 級)	3,4,5,6,7	”
6.	”	”	① 2 コンポジットレジン修復 (3・4 級) および ① 7 コンポジットレジン修復 (1 級)	”	”
7.	”	”	① 6 コンポジットレジン修復 (2 級)	”	”
8.	”	”	① 4 アマルガム修復 (1 級)	”	”
9.	”	インレー修復	① 6 メタルインレー窩洞形成 (2 級)	3,4,5,6,7,8	”
10.	”	”	① 6 印象採得および咬合採得, 作業模型調製	6,8	”
11.	”	”	咬合器装着, 暫間レジンインレー作製	”	”
12.	”	”	Wax up	”	”
13.	”	”	埋没	”	”
14.	”	”	鋳造	”	”
15.	”	”	研磨と合着	”	”
16.	”	”	① 5 メタルインレー窩洞形成 (2 級), 印象採得, 作業模型調製	3,6,8	”
17.	”	”	Wax up, 模型提出	6,8	”
18.	歯内療法	歯髄の保存療法	① 5 覆髄, ① 1 断髄 (顎模型)	4,9	”
19.	”	歯髄の除去療法	① 6 抜髄および根管形成 (顎模型)	10	”
20.	”	根管処置法	① 6 根管形成および根管充填 (顎模型)	10,11	”
21.	”	歯髄の除去療法と根管処置法	① 6 抜髄と根管形成 (顎模型)	10	”
22.	”	”	① 6 根管形成, 根管充填 (顎模型)	10,11	”

23.	〃	〃	.4 抜髄と根管形成 (顎模型)	10	〃
24.	〃	〃	.4 根管形成, 根管充填 (顎模型)	10,11,	〃
25.	実習試験	実習試験	実習試験	1-11	〃

【成績評価】 1) 実習の主要なステップにおいて模型を提出して採点を行う。(50点) 2) 模型実習終了後, 保存修復学と歯内療法学に関する試験を行う。(50点) 1)と2)を合計し, 100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】 実習書:プリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217298>

【連絡先】

- ⇒ 松尾 (0886337339, matsuo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00~ 18:00/2F1保存・教授室))
- ⇒ 中江 (088-633-7340, nakae@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 木17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 中西 (633-7340, tadashi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 菅 (088-633-7340, suge@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 水・金17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 湯本 (633-7340, yumoto@dent.dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・第2研究室))
- ⇒ 細川 (633-7340, hosokawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 高橋 (kanakot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 木17:00~ 18:00/2F1保存・第3研究室))
- ⇒ 平尾 (088-633-7340, koujihirao@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火~ 金17:00~ 18:00/2F1保存・第2研究室)

歯科保存学 (2)A 講義

1 単位 3 年 (後期)

Periodontology and Endodontology

永田 俊彦・教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学), 木戸 淳一・准教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)

笠原 信治・非常勤講師 / 笠原歯科クリニック

【授業目的】 歯周病の発症原因と病態を理解するとともにそれらの治療法について学習する。

【授業概要】 歯周組織で展開される生体反応を科学的に把握理解を深める。また、歯周病が多因子疾患であることを学習するとともに、診断のための検査法および一般的な治療法を理解した上で、これらの診断法や治療法の長所や欠点について考察できる能力を養う。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式:板書, プリントに加え, 適宜, 提示装置, スライド, ビデオ, パソコンを利用する。

【授業場所】 第3 講義室

【授業テーマ】 歯周病 (歯肉炎, 歯周炎) の病態と治療

【キーワード】 歯周病, 病因, 病態, 治療

【履修上の注意】 学生の自発的な学習 (予習, 復習) を促すために, 講義ごとに質問を行う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 歯周病の種類および臨床像を説明できる。 <F-3-2)-(4),(5)>
2. 歯周組織の解剖, 生理的機能, 代謝について説明できる。 <F-3-1)-(5)>
3. 歯周病原菌が有する種々の作用を述べる事ができる。 <F-3-2)-(4),(5)>
4. 歯周組織で展開される宿主反応を説明できる。 <F-3-2)-(4),(5)>
5. 歯周病の危険因子 (リスクファクター) を述べる事ができる。 <F-3-3)-(3)-①,②>
6. 歯周病と全身との関わりを説明することができる。 <F-3-3)-(3)-①,②>
7. 歯周病の診査法と評価法を述べる事ができる。 <F-3-3)-(3)-①,②>
8. 歯周病に対する治療計画の立て方を理解している。 <F-3-3)-(3)-②>
9. 初期治療 (歯周基本治療) について説明できる。 <F-3-3)-(3)-③,⑤,⑥>
10. 歯周外科治療の種類と術式について述べる事ができる。 <F-3-3)-(3)-④,⑤,⑥>
11. 根分岐部病変について述べる事ができる。 <F-3-3)-(3)-③,④,⑤,⑥>

12. 歯周治療における咬合治療, 矯正・補綴治療について説明できる。 <F-3-3)-(3)-②>, <F-3-3)-(4)-①>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯周病学概論	歯周病とは?	歯周病の臨床像, 疫学	1	永田
2.	歯周組織の基礎知識	歯周組織の形態と機能	歯周組織の解剖・生理・生化学	2	〃
3.	歯周病の種類	歯周病の分類と病型	歯肉炎, 慢性歯周炎, 侵襲性歯周炎, 全身疾患関連の歯周炎など	1,2	〃
4.	歯周病の病因	局所因子	歯垢, プラーク保持因子	3	〃
5.	〃	宿主反応	歯周組織における免疫反応	4	〃
6.	〃	修飾因子 (リスクファクター)	生活習慣, 喫煙, 年齢, 性別などの影響	5	〃
7.	全身疾患と歯周病	糖尿病, 心疾患, AIDS, 骨粗鬆症など	歯周病と全身疾患との相互関係	4,5,6	〃
8.	中間まとめ	歯周病の病因と病態	パワーポイントによるまとめ	1-6	〃
9.	歯周治療の実際	歯周病の診査法と評価法	ポケット測定, X線診査, 歯周病原菌検査, 生化学検査	7	木戸
10.	〃	歯周治療の組立て方	プラーク保持因子, 全身修飾因子	7,8	〃
11.	〃	歯周基本 (初期) 治療	原因除去療法	9	〃
12.	〃	歯周外科処置	ポケット搔爬術, ENAP, 歯肉切除術, フラップ手術	10	笠原
13.	〃	〃	歯肉歯槽粘膜手術, 歯槽堤形成術	〃	木戸
14.	〃	根分岐部病変	根分岐部病変の種類と治療法	11	〃
15.	〃	最終治療	咬合治療, 矯正治療, 補綴治療	12	〃

【成績評価】 全講義終了後, 筆記試験を行い総合的な理解度を評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。なお, 歯科保存学 (2) の単位は歯科保存学 (2)A・B 講義および歯科保存学 (2) 実習の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】 1 回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 参考書: 「臨床歯周病学」初版, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 参考書: 「ザ・ペリオドントロジー」初版, 永末書店, 2009
- ◇ 参考書: 「プログレッシブテクニク・臨床医のための歯周治療」初版, 永末書店, 2001
- ◇ 参考書: 「ワイン・エンドドンティックセラピー」初版, 医歯薬出版, 1980

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217302>

【連絡先】

- ⇒ 永田 (088-633-7343, nagata@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・教授室))
- ⇒ 木戸 (kido@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室/633-7344))

歯科保存学 (2)B 講義

1 単位 4 年 (前期)

Periodontology and Endodontology

永田俊彦・教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学), 大石慶二・講師 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)
二宮雅美・助教 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学), 西川聖二・非常勤講師 / 西川歯科クリニック

【授業目的】 歯周治療の種類と内容を理解するとともに再生治療を含めた今後の展望について学習する。

根尖性歯周組織疾患の病因と病態を理解するとともにそれらの治療法について学習する。

【授業概要】 歯周治療について理解し、治療法の現状と将来展望について明確に理解する。

根尖性歯周組織疾患がどのようなものか理解するとともに、その治療法の概要を修得する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 板書、プリントに加え、適宜、提示装置、スライド、ビデオ、パソコンを利用する。

【授業場所】 第4講義室

【授業テーマ】 歯周病 (歯肉炎, 歯周炎) の病態と治療
根尖性歯周疾患の病態と治療

【キーワード】 歯周病, 歯内疾患

【先行科目】 『歯科保存学 (2)A 講義』 (1.0)

【到達目標】

1. 歯周組織再生療法について説明できる。 <F-3-3)-(3)-③,④,⑤>
2. 薬物療法およびメンテナンスについて説明できる。 <F-3-3)-(3)-②>
3. 歯周治療後の治癒像および合併症について述べる。 <F-3-3)-(3)-⑤>
4. 根尖性歯周組織疾患の病因と成り立ちについて説明できる。 <F-3-3)-(2)-①,③>
5. 根尖性歯周組織疾患の種類, 症状, 診査法, 診断法について説明できる。 <F-3-3)-(2)-①,③,⑤,⑦>
6. 根尖性歯周組織疾患の治療法 (含む救急処置) を説明できる。 <F-3-3)-(2)-③>
7. 感染根管における根管形成法, 根管治療法を説明できる。 <F-3-3)-(2)-①,②>
8. 歯内外科処置について説明できる。 <F-3-3)-(2)-①>
9. 歯内歯周病変について述べる。 <F-3-3)-(2)-①,③,⑤>

10. 根尖性歯周組織疾患の治療時における偶発症に <F-3-3)-(2)-④> 関して説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当	
1.	歯周治療の実際	歯周組織再生療法	GTR 法, 成長因子	1	二宮
2.	”	薬物療法, メンテナンス	LDDS, 抗生物質療法, メンテナンスの意義	2	”
3.	歯周治療の予後	歯周治療後の治癒像及び合併症	象牙質知覚過敏症, 歯肉退縮など	3	永田
4.	歯周病の病態 (復習)	慢性歯周炎と侵襲性歯周炎	両者の鑑別診断, 治療, 予後	”	”
5.	症例示説	歯周治療のまとめ	歯周基本治療, 歯周外科治療, 歯周組織再生療法の実際	1-3	西川
6.	パリオドンタルメディシン	全身疾患と歯周病	糖尿病と歯周病	”	永田
7.	根尖性歯周組織疾患	根尖性歯周組織疾患の成因と種類	根尖病巣の成立機転, 種類, 症状	4	”
8.	”	根尖性歯周組織疾患の診査と診断	診査法, 鑑別診断法	5	”
9.	”	根尖性歯周組織疾患の治療法	急性症状への対応, 感染根管治療	6	大石
10.	”	”	根管形成法,	7	”
11.	”	”	根管治療薬, 根管充填法	”	”
12.	”	”	歯内外科治療	8	”
13.	”	”	歯周歯内病変, 偶発症	9,10	”
14.	症例示説	根尖病巣の治癒	感染根管治療, 歯内外科処置	4-10	永田
15.	総括	歯周歯内治療の将来展望	Q and A によるまとめ	1-10	”

【成績評価】 全講義終了後、筆記試験を行い総合的な理解度を評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。なお、歯科保存学 (2) の単位は歯科保存学 (2)A・B 講義および歯科保存学 (2) 実習の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】 1 回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 参考書: 「臨床歯周病学」初版, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 参考書: 「ザ・ペリオドントロジー」初版, 永末書店, 2009
- ◇ 参考書: 「プログレッシブテクニク・臨床医のための歯周治療」初版, 永末書店, 2001
- ◇ 参考書: 「エンドドンティクス 21」初版, 永末書店, 2000.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217303>

【連絡先】

- ⇒ 永田 (088-633-7343, nagata@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・教授室))
- ⇒ 大石 (088-633-7344, ohishik@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))
- ⇒ 二宮 (088-633-7344, ninomiya@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 木18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))

歯科保存学(2) 実習

1 単位 4 年(前期), 4 年(後期)

Periodontology and Endodontology

永田 俊彦・教授/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学), 木戸 淳一・准教授/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学)

大石 慶二・講師/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学), 二宮 雅美・助教/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学)

堀部 ますみ・助教/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学), 米田 哲・助教/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学), 稲垣 裕司・助教/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学)

美原 智恵・助教/歯学科 歯科保存学第二講座(歯周歯内治療学)

【授業目的】歯周治療および歯内治療を行う際の診査法および術式について理解するとともに、自らの手でそれをシミュレートする。

【授業概要】歯周治療実習では、模型を使って SRP の実際を前歯部と臼歯部で行うのに加え、固定法、外科処置法の手順を習得する。また、ブタの下顎骨を用いてフラップ手術を体験する。歯内治療実習では、彎曲根管での処置法を習得するとともに、根充材の除去など実際の感染根管治療で遭遇することの多い術式を体得する。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】第 5 実習室

【授業テーマ】歯周治療および歯内治療に必要な基本的な技術を身につける。

【キーワード】歯周病, 歯内疾患

【先行科目】『歯科保存学(2)A 講義』(1.0), 『歯科保存学(2)B 講義』(1.0)

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. ペリオドンタルプローベが使用できる。 <F-3-3>-(3)-⑦<
2. グレーシーキュレットを用いて前歯部および臼歯部のルートプレーニングができる。 <F-3-3>-(3)-⑦<
3. レジンボンディング法を用いて外式固定ができる。 <F-3-3>-(3)-⑦<
4. A -スプリント法を用いて内式固定ができる。 <F-3-3>-(3)-⑦<
5. 模型およびブタ下顎骨を用いて外科処置の実際を体得する。 <F-3-3>-(3)-⑧<
6. 彎曲根管の歯内処置ができる。 <F-3-3>-(2)-⑧<
7. 側方加圧法による根管充填ができる。 <F-3-3>-(2)-⑧<
8. 根管充填材(ガッタパーチャポイント)を根管から除去できる。 <F-3-3>-(2)-⑧<

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 実習の準備	実習書, 器具, 模型の準備	実習書のファイリング, 器具の確認, 模型の調整, 実習の心得		全員

2.	歯周組織検査と治療	精密検査, 前歯部 SRP	プローベおよびグレーシーキュレットを用いた診査と処置	1,2	〃
3.	歯周治療	臼歯部 SRP	グレーシーキュレットを用いた処置	2	〃
4.	〃	暫間固定法	ボンディング法, A-スプリント法	3,4	〃
5.	〃	歯周外科処置	模型を用いた歯肉切除術, フラップ手術	5	〃
6.	〃	〃	ブタ下顎骨を用いたフラップ手術	〃	〃
7.	根管治療	彎曲根管の処置	人工歯を用いた彎曲根管の抜髄	6	〃
8.	〃	根管充填	彎曲根管の根管充填	7	〃
9.	〃	根充材の除去	溶剤を用いたガッタパーチャポイントの除去	8	〃
10.	〃	根管形成と根管充填	ポイント除去後に根管形成を行い, 根管充填する	6,7	〃

【成績評価】出席点に加え、適宜小テストを行うとともに、提出した模型を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。なお、歯科保存学(2)の単位は歯科保存学(2)A・B 講義および歯科保存学(2)実習の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】1 回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 実習書:実習書を配布する(各自がプリントをバインダーにファイルする)。
- ◇ 参考書: Clinical Periodontology (Newman, Takei, Carranza), 9th ed., W.B. Saunders Company, 2002.
- ◇ 参考書: Pathway of the Pulp (Cohen, Burns), 7th ed., Mosby, 1998.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217301>

【連絡先】

- ⇒ 永田 (088-633-7343, nagata@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)18:00~ 19:00/3F 2 保存・教授室))
- ⇒ 木戸 (kido@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)18:00~ 19:00/3F 2 保存・第2研究室))

- ⇒ 大石 (088-633-7344, ohishik@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))
- ⇒ 二宮 (088-633-7344, ninomiya@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))
- ⇒ 堀部 (088-6337344, horibe@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))
- ⇒ 米田 (kome@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))
- ⇒ 稲垣 (088-633-7344, yinazo@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))
- ⇒ 美原 (088-633-7344, chie@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/3F 2保存・第2研究室))

歯科補綴学(1)A 講義

1 単位 3 年 (後期)

Removable Prosthodontics

市川 哲雄・教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 永尾 寛・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

友竹 偉則・講師 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 本釜 聖子・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

長尾 大輔・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

【授業目的】 歯列の全部欠損に対する補綴修復の意義と方法, 高齢者の身体的, 精神的及び心理的特徴および口腔健康管理の重要性を理解する。

【授業概要】 欠損補綴が困難で, 歯の欠損が患者にとっていかに不幸なことであるか, 歯と口腔, 顎の機能の大切さを認識し, 義歯による補綴処置の診査, 診断, 治療, ケアについて理解する。さらに, 有床義歯学の観点から高齢者歯科医療について理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる。一部, 学生発表形式を用いる。

【授業場所】 第3 講義室

【授業テーマ】 無歯顎者の治療と高齢者歯科医療

【キーワード】 全部床義歯, 高齢者の補綴治療, 無歯顎補綴治療

【関連科目】 『歯科補綴学(1)B 講義』(0.5), 『歯科補綴学(1) 実習』(0.5)

【履修上の注意】 歯科補綴学(1)A の授業では第1 回目の授業で全講義の内容, キーワードを提示する。①受講者は毎回受講前に, 講義内容, キーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に, 学習成果を基に講義内容, キーワードについて再度内容を簡潔にまとめ, 予習時の内容と比較して学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 可撤性義歯の目的と意義及び具備条件を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-1)> |
| 2. 即時義歯の目的と意義を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-2)> |
| 3. 治療用義歯の目的と意義を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-3)> |
| 4. 可撤性義歯の種類と適応症を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-4)> |
| 5. 可撤性義歯の支持機構, 把持機構及び維持機構を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-5)> |

- | | |
|---|---------------------------|
| 6. 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-6)> |
| 7. 可撤性義歯の構成要素を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-7)> |
| 8. 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-8)> |
| 9. 下顎運動の記録法を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-9)> |
| 10. 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき, 各基本的操作を適切に行うことができる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-10)> |
| 11. 可撤性義歯の製作過程における基本的手技ができる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-11)> |
| 12. 可撤性義歯の調整, リライニング, リベース及び修理を適切に行うことができる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-13)> |
| 13. 可撤性義歯装着後における定期検診の重要性を説明し, 指導できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥- 可撤性義歯-14)> |
| 14. 老化の身体的, 精神的及び心理的特徴を説明できる。 | <F-2-(6)-2)-1)> |
| 15. 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 | <F-2-(6)-2)-2)> |
| 16. 高齢者に多く見られる疾患を説明できる。 | <F-2-(6)-2)-3)> |

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	全部床義歯学	概説	欠損補綴と無歯顎者の動態, 全部床義歯の概要, 構成要素	1,4,7,14-16	市川
2.	〃	〃	全部床義歯に必要な解剖学・生理学	1,7,14-16	〃
3.	〃	診査・診断	全部床義歯のための診査, 診断, 前処置	〃	〃
4.	〃	印象採得	印象採得概論(印象理論, 印象に必要な解剖を含む)	5	永尾
5.	〃	〃	印象採得各論(ダイナミック印象含む, 作業用模型作製まで)	〃	〃
6.	〃	咬合採得	咬合採得概論(口腔機能, 下顎運動含む)	8,9	〃
7.	〃	〃	咬合採得各論	〃	〃

8.	”	”	咬合器とフェースボウ (咬合器装着, 顎路測定含む)	”	”
9.	”	人工歯の選択	人工歯の選択 (人工歯の種類, 選択基準, 前歯部の排列)	10	”
10.	”	人工歯排列	排列方法	6	”
11.	”	”	咬合様式 (主として臼歯部排列)	”	”
12.	”	蝕義歯試適	歯肉形成と蝕義歯試適 (咬座印象, チェックバイトにもふれる)	5	本釜
13.	”	重合, 研磨	レジン重合から研磨, 咬合調整	10,11	長尾
14.	”	義歯装着	義歯装着, 患者教育, 術後管理, リライニング	12,13	友竹
15.	”	修理, 特殊義歯	義歯修理, 特殊義歯 (暫間, 移行, 即時義歯), 金属床, オーバーデンチャー	2-4	”

【成績評価】 全部床義歯学について筆記試験を行い, 評価する。

テスト (100 点満点) で 60 点以上を合格とする。出欠席状況も考慮する。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 参考書: 全部床義歯補綴学 第 3 版, 医歯薬出版, 1998
- ◇ 参考書: 床義歯学 第 2 版, クインテッセンス出版, 1995
- ◇ 参考書: 標準補綴学総論 コンプリートデンチャー 第 1 版, 医学書院, 1990

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217320>

【連絡先】

- ⇒ 市川 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復歯学部部門・顎口腔再建医学講座・口腔顎顔面補綴学分野教授室, 088-633-7346, ichi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00))
- ⇒ 永尾 (口腔顎顔面補綴学, 088-633-9129, kan@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第4研究室))
- ⇒ 友竹 (tomotake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・資料室/633-7347))
- ⇒ 本釜 (hongama@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第4研究室/633-9129))
- ⇒ 長尾 (ndaisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第3研究室/633-7347))

歯科補綴学 (1)B 講義

1 単位 4 年 (前期)

Removable Prosthodontics

市川 哲雄・教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 岡 謙次・助教 / 病院
 柏原 稔也・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 渡邊 恵・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

【授業目的】 歯列の一部欠損に対する補綴修復の意義と方法, 高齢者の身体的, 精神的及び心理的特徴および口腔健康管理の重要性を理解する。

【授業概要】 欠損補綴が困難で, 歯の欠損が患者にとっていかに不幸なことであるか, 歯と口腔, 顎の機能の大切さを認識し, 義歯による補綴処置の診査, 診断, 治療, ケアについて理解する。さらに, 有床義歯学の観点から高齢者歯科医療について理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる。一部, 学生発表形式を用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 部分無歯顎者の治療と高齢者歯科医療

【キーワード】 部分床義歯, 高齢者の補綴治療

【先行科目】 『歯科補綴学 (1)A 講義』 (1.0)

【関連科目】 『歯科補綴学 (1)A 講義』 (0.5), 『歯科補綴学 (1) 実習』 (0.5)

【履修上の注意】 歯科補綴学 (1)B の授業では第 1 回目の授業で全講義の内容, キーワードを提示する。①受講者は毎回受講前に, 講義内容, キーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に, 学習成果を基に講義内容, キーワードについて再度内容を簡潔にまとめ, 予習時の内容と比較して学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. 可撤性義歯の目的と意義及び具備条件を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-1)> |
| 2. 可撤性義歯の種類と適応症を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-4)> |
| 3. 可撤性義歯の支持機構, 把持機構及び維持機構を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-5)> |
| 4. 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-6)> |
| 5. 可撤性義歯の構成要素を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-7)> |

- | | |
|--|------------------------------|
| 6. 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-8)> |
| 7. 下顎運動の記録法を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-9)> |
| 8. 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき, 各基本的操作を適切に行うことができる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-10)> |
| 9. 可撤性義歯の製作過程における基本的手技ができる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-11)> |
| 10. 可撤性義歯の設計原理を理解し, 口腔内診察・検査, 診断模型及びエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-12)> |
| 11. 可撤性義歯装着後における定期検診の重要性を説明し, 指導できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-14)> |
| 12. 高齢者に多く見られる疾患を説明できる。 | <F-2-(6)-2)-3)> |
| 13. 顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 | <F-2-(5)-4)-1)> |
| 14. 顎関節疾患 (外傷, 脱臼, 顎関節症, 顎関節強直症) を概説できる。 | <F-2-(5)-4)-2)> |
| 15. 心身相関を説明できる。 | <F-2-(6)-4)-1)> |
| 16. 心身症を説明できる。 | <F-2-(6)-4)-2)> |
| 17. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。 | <F-2-(6)-4)-3)> |
| 18. 心理テストを説明できる。 | <F-2-(6)-4)-4)> |
| 19. デンタルインプラントの種類と特性を説明できる。 | <F-2-(4)-2)-⑥-デンタルインプラント-1)> |

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	部分床義歯学 概説	部分無歯顎者の病態, 部分床義歯の概要, 機能的要件	1-3,5,10,12	市川
2.	”	”	”	”
3.	”	維持装置	3	”
4.	”	維持装置, アタッチメント	”	”
5.	”	連結装置	”	”

6.	〃	診査診断	診査, 診断, 治療計画, 前処置	10	〃
7.	〃	設計	設計総論	〃	〃
8.	〃	〃	設計, 各論	〃	〃
9.	〃	印象採得	印象採得 (アルタード印象含む), 咬合採得	3,6,7	〃
10.	〃	人工歯排列	人工歯排列, 咬合	4,8	〃
11.	〃	試適, 装着	歯肉形成, 試適, 重合	8,9,11	渡邊
12.	〃	〃	調整, 装着, 術後管理	〃	柏原
13.	顎関節症, 歯科心身症	総論	顎関節症, 歯科心身症	13-18	羽田
14.	義歯治療の材料	材料	補綴材料 (ティッシュコンディショニング, 金属, 埋没材, レジンなど, 軟質裏装材含む)	8	岡
15.	インプラント	総論	インプラント概論, 各論 (補綴前外科処置を含む)	19	市川

【成績評価】部分床義歯学について筆記試験を行い, 評価する。
テスト (100 点満点) で 60 点以上を合格とする。出欠席状況も考慮する。

【再試験】行う

【教科書】

- ◇ 参考書:標準パーシャルデンチャー 第2版, 医学書院, 1998
- ◇ 参考書:歯学生のパーシャルデンチャー 第1版, 医歯薬出版, 1999
- ◇ 参考書:小部分床義歯学 第1版, 学建書院, 1995
- ◇ 参考書:McCracken's Removable Partial Prosthodontics 9th ed. Mosby Co, 1997

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217321>

【連絡先】

- ⇒ 市川 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復医歯学部門
・顎口腔再建医学講座・口腔顎顔面補綴学分野教授室, 088-633-7346, ichi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00))
- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171))
- ⇒ 岡 (088-633-7347, koka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火~ 金17:00~ 18:00/2F1補綴・第3研究室))
- ⇒ 柏原 (toshiya@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 渡邊 (megushi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歯科補綴学(1) 実習

Removable Prosthodontics

3 単位 4 年 (前期), 4 年 (後期)

市川 哲雄・教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 永尾 寛・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)
 友竹 偉則・講師 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 柏原 稔也・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)
 本釜 聖子・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 渡邊 恵・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)
 長尾 大輔・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 内藤 禎人・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

【授業目的】 講義で得た知識をもとに、全部床義歯および部分床義歯製作の基本的な手技を修得する。

【授業概要】 本実習は徳島大学歯学部のなかで最も時間数が多く、個人単位で、しかも、完成までの連続した実習であるため、欠席するとその分装置 (作品) の完成が遅れることになる。常に体調を整えてすべての実習に参加することも大切な課題の一つである。また、装置 (作品) の上手下手よりも実習に取り組む姿勢、熱意を重要視したい。

【授業形式】 実習

【授業方法】 模型実習型式

【授業場所】 第5実習室

【授業テーマ】 全部床義歯および部分床義歯の製作方法の修得

【キーワード】 全部床義歯, 部分床義歯

【先行科目】 『歯科補綴学(1)A 講義』(1.0), 『歯科補綴学(1)B 講義』(1.0)

【履修上の注意】 やむを得ず欠席する場合は速やかに担当教員に連絡すること

【到達目標】

1. 可撤性義歯の目的と意義及び具備条件を説明できる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-1)>
2. 可撤性義歯の種類と適応症を説明できる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-4)>
3. 可撤性義歯の支持機構、把持機構及び維持機構を説明できる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-5)>
4. 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-6)>
5. 可撤性義歯の構成要素を説明できる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-7)>
6. 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-8)>
7. 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-10)>
8. 可撤性義歯の製作過程における基本的な手技ができる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-11)>

9. 可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内診察・検査、診断模型及びエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。 <F-2-(4)-2)-⑥-可撤性義歯-12)>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 全部床義歯学	ガイダンス, 個人トレー製作	実習説明, トレー外形線, 個人トレーの圧接	1,2,3,5,7,8	学生を4班に分け, 各班1人のチーフインストラクターをつける。
2. "	咬合床の製作	基準線の記入, リリーフ, ブロックアウト, 床用材料圧接	7,8,9	"
3. "	"	咬合堤の製作	6,8	"
4. "	咬合採得	ファントムを使った咬合採得	"	"
5. "	咬合器装着	スプリットキャスト, 咬合器装着, フェイスポートランスファー(デモ)ゴシックアーチ(デモ), チェックバイト(デモ), 顎路調節(デモ)	4,6,7,8	"
6. "	人工歯排列	上顎前歯人工歯排列	4,8	"
7. "	"	下顎前歯人工歯排列	"	"
8. "	"	下顎臼歯人工歯排列	"	"
9. "	"	上顎臼歯人工歯排列	"	"
10. "	歯肉形成	蠟義歯完成	8	"
11. "	埋没, 咬合器再装着	埋没(デモ), 咬合器再装着	7,8	"
12. "	レジン重合, 削合	流膿, 填入(デモ), 中心咬合位の削合	"	"
13. "	削合	割出, 咬合器再装着(デモ), 偏心位の削合	"	"
14. "	研磨	形態修正, 研磨(デモ)	8	"
15. "	完成	提出物の完成	"	"

16.	部分床義歯学	ガイドンス, 個人トレー製作	平行測定, トレー外形線, リリーフ, ブロックアウト, スペーサー, ストッパー, 個人トレーの圧接	1,2,3,5,7,8	”
17.	”	レスト座形成	床外形線, サバイング, レスト座形成	3,8	”
18.	”	設計	リリーフ, ブロックアウト, ワイヤー屈曲	3,5,8,9	”
19.	”	耐火模型作製	ワイヤークラスプ研磨, 複印象, 模型材注入	7,8	”
20.	”	ワックスアップ	耐火模型表面処理, ワックスアップ	”	”
21.	”	埋没	スプルーイング, 埋没	”	”
22.	”	鋳造	鋳造, 形態修正, 研磨	”	”
23.	”	咬合床作製	床用材料圧接, 咬合堤	6,7,8	”
24.	”	咬合採得	咬合採得, 人工歯排列	4,6,7,8	”
25.	”	歯肉形成	人工歯排列, 歯肉形成	8	”
26.	”	削合	歯肉形成, 削合 (中心咬合位)	7,8	”
27.	”	重合, 設計	埋没・流蠟・填入・重合, 症例配当	”	”
28.	”	研磨	開輪・割り出し・形態修正・研磨, 設計	”	”
29.	”	設計	症例検討会, 症例再配当	8	”
30.	”	完成	提出物完成	”	”

【成績評価】全部床義歯学実習と部分床義歯学実習について筆記試験を行い、それぞれについて評価する。また、作品、実習態度も評価の対象とする。

全部床義歯学実習:テスト(50点)+実習点(50点)の100点満点で60点以上を合格とする。

部分床義歯学実習:テスト(50点)+実習点(50点)の100点満点で60点以上を合格とする。

※実習点とは、出席状況、作品、実習態度を評価したもの

【再試験】行わない

【教科書】

◇参考書:第4版 コンプリートデンチャーテクニク, 医歯薬出版, 1996

◇参考書:第3版 パーシャルデンチャーテクニク, 医歯薬出版, 1999

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217319>

【連絡先】

⇒ 市川 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復歯学部部門・顎口腔再建医学講座・口腔顎顔面補綴学分野教授室, 088-633-7346, ichi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00))

⇒ 永尾 (口腔顎顔面補綴学, 088-633-9129, kan@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第4研究室))

⇒ 友竹 (tomotake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・資料室/633-7347))

⇒ 柏原 (toshiya@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第1研究室/633-7347))

⇒ 本釜 (hongama@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第4研究室/633-9129))

⇒ 渡邊 (megushi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・資料室/633-7347))

⇒ 長尾 (ndaisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第3研究室/633-7347))

⇒ 岡島 . (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・第3研究室/633-7347))

⇒ 内藤 . (オフィスアワー: (月~ 金)17:00~ 18:00/2F1補綴・資料室/633-7347))

歯科補綴学 (2)A 講義

1 単位 3 年 (後期)

Fixed Prosthodontics

西川啓介・講師/歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 竹内久裕・講師/歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

細木眞紀・助教/歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 坂東永一・非常勤講師, 中野雅徳・非常勤講師/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 顎口腔機能について理解し, 障害がある場合に主として固定性の補綴物により回復するために必要な検査, 診断, 治療法を学習する。

【授業概要】 冠橋義歯学 (クラウン・ブリッジ) の総論, つまり歯と歯周組織で咬合力を負担する様式の歯科補綴学に関する学理と術式の基本的事項について修得する。冠橋義歯学 (クラウン・ブリッジ) の各論, つまり最も基本である金属冠及び橋義歯の構造, 適応症, 目的, 臨床的意義, 要件, 製作法について修得するとともに, 顎機能障害 (顎関節症) について基本的事項を理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド, プロジェクターを適宜用いる。

【授業場所】 第3講義室

【授業テーマ】 咬合と顎口腔機能の回復, 維持, 増進

【履修上の注意】 歯科補綴学 (2)A では 15 回の授業で毎回の講義資料を WEB ページを用いて公開する。

- ①受講者は各回の講義資料を閲覧し事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。
- ②受講者は毎回受講後に学習成果を基に講義資料を復習し, 学習の成果を確認すること。
- ③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。
- ④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。 <F-3-4)-(1)-①>
2. 修復材料と修復法の種類と特徴およびその適応を説明できる。 <F-3-4)-(1)-②>
3. 修復法に関する模型上での基本的操作ができる。 <F-3-4)-(1)-③>
4. 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 <F-3-4)-(1)-④>
5. 研究模型と作業模型の製作方法を説明できる。 <F-3-4)-(1)-⑨>
6. 橋義歯の意義と具備条件を説明できる。 <F-3-4)-(2)-①>
7. 橋義歯の種類と特徴を説明できる。 <F-3-4)-(2)-②>
8. 支台装置とポンティックの選択, 特徴および製作法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-③>
9. 橋義歯における支台歯形成の方法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-④>

10. 橋義歯の製作に必要な材料の特性と各基本的操作を説明できる。 <F-3-4)-(2)-⑥>
11. 橋義歯の製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-⑦>
12. 橋義歯の設計を適切にできる。 <F-3-4)-(2)-⑩>
13. 顎関節の構造と機能を説明できる。 <F-2-1)-(⑤)>
14. 下顎の随意運動の基本を説明できる。 <F-2-1)-(⑥)>
15. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 <F-2-2)-(⑥)>
16. 顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 <F-2-4)-(4)-①>
17. 顎関節疾患 (外傷, 脱臼, 顎関節症, 顎関節強直症) を概説できる。 <F-2-4)-(4)-②>
18. 咬合異常と咀嚼障害の原因と診察, 検査, 診断および治療方針を説明できる。 <F-2-4)-(8)-①>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯冠補綴	冠橋義歯学総論	概説, 歴史, 要件	1,2	西川
2.	〃	金属冠	種類, 適応, 支台形態	2,4	〃
3.	〃	前装冠	〃	〃	〃
4.	〃	間接法術式 1	印象採得, 作業模型	3,5	〃
5.	〃	間接法術式 2	蝋型採得, 埋没	3	〃
6.	〃	間接法術式 3	鑄造, 調整, 装着	〃	〃
7.	〃	陶材・非金属材料	種類, 適応	2	細木
8.	〃	咬合概論	下顎位, 下顎運動, 咬合器	14,15	坂東
9.	橋義歯	橋義歯 1	概説, 構造, 名称	6,7	竹内
10.	〃	橋義歯 2	ポンティック, 支台形態	8,9	〃
11.	〃	橋義歯 3	診断, 設計	12	〃
12.	〃	橋義歯 4	製作, 術式	10,11	〃
13.	顎機能	咬合と顎機能障害	概説	16,17	中野
14.	〃	顎関節症 1	診断	17,18	竹内
15.	〃	顎関節症 2	治療	〃	〃

【成績評価】冠橋義歯学について筆記試験を行い、100点満点で60点以上を合格とする。歯科補綴学(2)の単位は歯科補綴学(2)A・B講義、歯科補綴学(2)実習の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇参考書:クラウン・ブリッジ補綴学 第3版, 医歯薬出版, 2004
- ◇参考書:クラウンブリッジテクニック, 医歯薬出版, 2008
- ◇参考書:イラストレイテッド・クリニカルデンティストリー 3, 医歯薬出版, 2001
- ◇参考書:標準クラウン・ブリッジ補綴学, 医学書院, 1989
- ◇参考書:顎関節症入門, 医歯薬出版, 2001
- ◇参考書:顎関節症, 永末書店, 2003

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217323>

【連絡先】

- ⇒ 西川 (088-633-7350, keisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第3研究室))
- ⇒ 竹内 (咬合管理学 第二研究室, 088-633-7350, htake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第2研究室))
- ⇒ 細木 (0886-633-7350, hosoki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F補綴科資料室))

歯科補綴学 (2)B 講義

1 単位 4 年 (前期)

Fixed Prosthodontics

久保吉廣・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 西川啓介・講師 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

細木眞紀・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 郡元治・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 重本修伺・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

大倉一夫・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 薩摩登啓子・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

【授業目的】顎口腔機能について理解し、障害がある場合に主として固定性の補綴物により回復するために必要な検査、診断、治療法を学習する。

【授業概要】冠橋義歯学 (クラウン・ブリッジ) の各論のうち、診療室において必要となる臨床術式の基本的事項について修得するとともに、睡眠時ブラキシズム、スポーツ歯学、デンタルインプラント、歯科用金属アレルギー、顎顔面補綴等について歯科補綴学との関連をふまえて基本的事項を理解する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 スライド、プロジェクターを適宜用いる。

【授業場所】第 4 講義室

【授業テーマ】咬合と顎口腔機能の回復、維持、増進

【履修上の注意】歯科補綴学 (2)B では 15 回の授業で毎回の講義資料を WEB ページを用いて公開する。

- ①受講者は各回の講義資料を閲覧し事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。
- ②受講者は毎回受講後に学習成果を基に講義資料を復習し、学習の成果を確認すること。
- ③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。
- ④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

- 1. 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明できる。 <F-3-4)-(1)-(5)>
- 2. 支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。 <F-3-4)-(1)-(6)>
- 3. 窩洞形成と支台歯形成の意義と方法を説明できる。 <F-3-4)-(1)-(7)>
- 4. 仮封ならびに暫間装置の意義、種類および特徴を説明できる。 <F-3-4)-(1)-(8)>
- 5. 平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。 <F-3-4)-(1)-(10)>
- 6. 修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。 <F-3-4)-(1)-(11)>
- 7. 歯の硬組織疾患の診査と検査および診断ができる。 <F-3-4)-(1)-(12)>
- 8. 修復後の適切なメンテナンスができる。 <F-3-4)-(1)-(14)>

- 9. 歯髄保護の術式を適切に実施できる。 <F-3-4)-(1)-(15)>
- 10. リテーナーの意義を説明できる。 <F-3-4)-(2)-(5)>
- 11. 橋義歯の維持管理の目的と方法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-(8)>
- 12. フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。 <F-3-4)-(2)-(9)>
- 13. 歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。 <F-3-4)-(2)-(10)>
- 14. 橋義歯の装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。 <F-3-4)-(2)-(13)>
- 15. 下顎の随意運動の基本を説明できる。 <F-2-1)-(6)>
- 16. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 <F-2-2)-(6)>
- 17. 咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。 <F-2-4)-(8)-(1)>
- 18. デンタルインプラントの種類と特性を説明できる。 <F-3-4)-(4)-(1)>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	臨床術式	診査・診断	診察, 検査, 診断, 治療方針	7,13	西川
2.	”	支台歯形成	前処置, 器具, 方法	1,3,9	”
3.	”	支台築造	意義, 種類, 方法	2	重本
4.	”	テンポラリークラウン・ブリッジ	”	4,10	薩摩
5.	”	印象採得・咬合採得	種類, 方法	5	”
6.	”	咬合調整	概説, 方法	8	西川
7.	”	FGP 法, 咬合様式	概説, 意義, 種類, 方法	12	”
8.	”	合着・メインテナンス・修理	意義, 種類, 方法	6,8,11,14	大倉
9.	各論	睡眠時ブラキシズム	概説, 症例供覧	17	”
10.	”	スポーツ歯学	概説, 術式, 症例供覧	”	久保
11.	”	顎顔面補綴	”	”	”

12.	〃	歯科用金属アレルギー	〃	〃	細木
13.	〃	6 自由度顎運動	概説, 測定, 解析方法	15,16	重本
14.	〃	デンタルインプラント1	意義, 種類, 方法	18	郡
15.	〃	デンタルインプラント2	術式, 症例供覧	〃	〃

【成績評価】冠橋義歯学について筆記試験を行い、100点満点で60点以上を合格とする。歯科補綴学(2)の単位は歯科補綴学(2)A・B講義、歯科補綴学(2)実習の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇参考書:クラウン・ブリッジ補綴学 第3版, 医歯薬出版, 2004
- ◇参考書:クラウンブリッジテクニック, 医歯薬出版, 2008
- ◇参考書:臨床咬合学事典, 医歯薬出版, 1997
- ◇参考書:イラストレイテッド・クリニカルデンティストリー 3, 医歯薬出版, 2001
- ◇参考書:標準クラウン・ブリッジ補綴学, 医学書院, 1989

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217324>

【連絡先】

- ⇒ 久保 (088-633-9171, kubo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第4研究室))
- ⇒ 西川 (088-633-7350, keisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第3研究室))
- ⇒ 細木 (0886-633-7350, hosoki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F補綴科資料室))
- ⇒ 郡 (088-633-7350, koori@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月火水17:00~ 18:00/2F2補綴・第4研究室))
- ⇒ 重本 (088-633-7350, shigemo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月火水金17:00~ 18:00/2F補綴科資料室))
- ⇒ 大倉 (088-633-7350, ookura@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第4研究室))
- ⇒ 薩摩 (088-633-7350, satsuma@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月火水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第3研究室))

歯科補綴学(2) 実習

3 単位 4 年 (前期), 4 年 (後期)

Fixed Prosthodontics

久保吉廣・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 西川啓介・講師 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

竹内久裕・講師 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 細木眞紀・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 郡元治・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

重本修伺・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 大倉一夫・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 薩摩登啓子・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

【授業目的】顎模型を使用し冠・橋義歯の製作を行うことにより、講義で得た知識を実践する手技を修得する。

【授業概要】歯科補綴学は、顎口腔系の機能を回復し維持する補綴物を具現化する臨床歯科学の一分野である。例えば日々の臨床で補綴物は 1/100mm(10μm)の精度で調整されているが、この精度は旋盤加工であっても熟練を要する値である。補綴臨床ではそれを口腔内でしかも free hand で実現しているのである。講義で学ぶ理論を実践するために必要なこのような感覚と技術の基礎を修得する。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】第 5 実習室

【授業テーマ】補綴臨床に必要な感覚と技術の基礎の修得

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 修復法に関する模型上での基本的操作ができる。 <F-3-4)-(1)-③>
2. 支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。 <F-3-4)-(1)-⑥>
3. 窩洞形成と支台歯形成の意義と方法を説明できる。 <F-3-4)-(1)-⑦>
4. 仮封ならびに暫間装置の意義、種類および特徴を説明できる。 <F-3-4)-(1)-⑧>
5. 研究模型と作業模型の製作方法を説明できる。 <F-3-4)-(1)-⑨>
6. 平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。 <F-3-4)-(1)-⑩>
7. 簡単な歯冠修復処置を行うことができる。 <F-3-4)-(1)-⑬>
8. 橋義歯の意義と具備条件を説明できる。 <F-3-4)-(2)-①>
9. 支台装置とポンティックの選択、特徴および製作方法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-③>
10. 橋義歯における支台歯形成の方法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-④>
11. 橋義歯の製作に必要な材料の特性と各基本的操作を説明できる。 <F-3-4)-(2)-⑥>
12. 橋義歯製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 <F-3-4)-(2)-⑦>
13. 橋義歯の設計を適切にできる。 <F-3-4)-(2)-⑪>

14. 支台装置の製作過程における基本的手技ができる。 <F-3-4)-(2)-⑫>
15. 印象材の種類と性質を説明できる。 <E-2-①>
16. 歯科用石膏の種類と特性を説明できる。 <E-2-②>
17. ワックスの種類と特性を説明できる。 <E-2-③>
18. レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびポーセレン焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 <E-2-④>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	ガイダンス, 顎模型調整	ガイダンス, 顎模型調整	器材検査, 顎模型咬合調整	1,8	全員
2.	診断用模型製作	診断用模型製作	印象採得(アルジネート印象材), 診断用模型完成	1,5,13	〃
3.	ㄥ⑤6⑦Br	支台歯形成	ㄥ5 支台歯形成	1,3,10	〃
4.	〃	〃	ㄥ7 支台歯形成	〃	〃
5.	〃	個歯トレー作製	個歯トレー用印象採得, 個人トレー製作	1,11	〃
6.	〃	〃	レジン個歯トレー製作	〃	〃
7.	〃	精密印象採得	ㄥ⑤6⑦精密印象準備	〃	〃
8.	〃	〃	ㄥ⑤6⑦精密印象(シリコーン印象材), 咬合採得	1,12,15	〃
9.	〃	作業模型製作	分割可撤式作業模型製作 1	1,5,16	〃
10.	〃	〃	分割可撤式作業模型製作 2	1,5	〃
11.	〃	〃	咬合器装着, マージン部のトリミング	1,5,6	〃
12.	〃	支台装置製作 ポンティック製作	ㄥ5 蝕型採得	1,14,17	〃
13.	〃	〃	ㄥ7 蝕型採得	〃	〃
14.	〃	〃	ㄥ6 ポンティック蝕型採得, 頬面コア, 舌面コア	1,9,17	〃

15.	〃	〃	ㄥ6 ポンティック蝨型採得, 窓開け	〃	〃
16.	〃	〃	ㄥ56, ㄥ7 埋没	1,18	〃
17.	〃	〃	ㄥ56, ㄥ7 鑄造, 試適, 咬合調整	〃	〃
18.	〃	〃	ㄥ56ㄥ7咬合面コア(模型上), 鑲着用埋没	〃	〃
19.	〃	鑲着, 研磨	鑲着, 研磨, 咬合調整	〃	〃
20.	〃	ブリッジ完成	ㄥ6 硬質レジン築盛, 研磨, 完成	〃	〃
21.	1┃硬質レジン前装冠	支台歯形成	前装冠支台歯形成(生活歯想定)	1,3	〃
22.	〃	メタルフレーム製作	蝨型採得, 頬面コア	1,14,17	〃
23.	〃	〃	窓開け, 埋没	〃	〃
24.	〃	〃	鑄造, 咬合調整, 研磨	1,18	〃
25.	〃	完成	硬質レジン築盛, 研磨, 完成	〃	〃
26.	1┃築造体	築造窩洞形成	築造窩洞形成(失活歯想定)	1,2,3	〃
27.	〃	築造体製作	印象採得(シリコーン印象材), 咬合採得 作業用模型製作	1,2,15,16	〃
28.	〃	〃	作業用模型分割, トリミング, 蝨型採得, 埋没	1,2	〃
29.	〃	〃	鑄造, 試適, 研磨, 仮封冠製作	1,2,4,18	〃
30.	実習試験		実技テスト	1,7	〃

【成績評価】実習作品, 実習態度, 実技テストの総合判定を行い, 100点満点で60点以上を合格とする。歯科補綴学(2)の単位は歯科補綴学(2)A・B講義, 歯科補綴学(2)実習の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇実習書:冠・橋義歯学(実習指針), 徳島大学歯学部歯科補綴学第二講座
- ◇参考書:クラウンブリッジテクニク, 医歯薬出版, 2008

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217322>

【連絡先】

- ⇒久保 (088-633-9171, kubo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月火水金17:00~ 18:00/2F補綴・第4研究室/633-7350))
- ⇒西川 (088-633-7350, keisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F補綴・第3研究室))
- ⇒竹内 (咬合管理学 第二研究室, 088-633-7350, htake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火水金17:00~ 18:00))

- ⇒細木 (0886-633-7350, hosoki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F補綴科資料室))
- ⇒郡 (088-633-7350, koori@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月火水17:00~ 18:00/2F2補綴・第4研究室))
- ⇒重本 (088-633-7350, shigemo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月火水金17:00~ 18:00/2F補綴科資料室))
- ⇒大倉 (088-633-7350, ookura@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第4研究室))
- ⇒薩摩 (088-633-7350, satsuma@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火水金17:00~ 18:00/2F2補綴・第3研究室))

口腔外科学(1)(口腔内科)AB 講義

2 単位 4 年 (前期)

Oral and Maxillofacial Surgery(Oral Medicine)

東雅之・教授 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 松本文博・講師 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学)

桃田幸弘・講師 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 茂木勝美・助教 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 青田桂子・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

木村哲雄・非常勤講師 / 大阪警察病院, 由良義明・非常勤講師 / 大阪大学

【授業目的】超高齢化社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。

【授業概要】患者との接し方、情報収集の仕方、局所症状の診方、全身状態の捉え方および臨床検査などの診断の進め方について基本的知識・技術・態度を理解する。また、自然治癒力の促進と薬物療法の基本を理解するとともに、口腔病変と全身状態の関連性についても理解する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 プリント、スライド、ビデオを適宜用いる

【授業場所】第4講義室

【授業テーマ】医療面接のありかた、診断の進め方、診療録のまとめ方、顎・顔面領域に生じる疾患に対する口腔内科的治療。

【履修上の注意】口腔外科学(1)(口腔内科)AB 講義の授業では15回の授業で毎回講義事項の「キーワード」を提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。又予習時の内容と復習時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 安全への配慮と事故防止策について説明できる。
2. 感染防止とスタンダードプリコーションについて説明できる。
3. 医療面接の役割を説明できる。 B-2-2)
4. 身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 B-2-2)
5. 診断結果と治療方針を適切に説明できる。 B-2-2)
6. 患者のプライバシーに配慮できる。 B-2-2)
7. 守秘義務と情報提供の重要性を理解し、適切な取り扱いができる。 B-2-2)

8. 清潔と不潔の区分及び滅菌と消毒の意義、原理及び代表的な方法を説明できる。 D-3-1)-③
9. 炎症の定義を説明できる。 D-4-4)-①
10. 炎症の分類、病理組織学的変化及び経時的变化を説明できる。 D-4-4)-②
11. 炎症の原因別分類と病因特異性組織変化を説明できる。 D-4-4)-③
12. 薬物療法(原因療法、対症療法)を説明できる。 D-5-2)-①
13. 薬物の作用機序を説明できる。 D-5-2)-②
14. 薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)を説明できる。 D-5-2)-③
15. 薬理作用を規定する要因を説明できる。 D-5-2)-④
16. 薬物の連用の影響(薬物耐性、蓄積及び薬物依存)を説明できる。 D-5-2)-⑤
17. 薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。 D-5-2)-⑥
18. 抗癌剤を分類し、作用機序の概略と副作用を説明できる。
19. 薬物の一般的副作用・有害作用と口腔・顎顔面領域に現れる副作用・有害作用を説明できる。 D-5-4)-①
20. 診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 F-1-1)
21. 主訴を的確に捉えることができる。 F-1-1)
22. 的確に病歴を聴取し、要点を抽出できる。 F-1-1)
23. 問診、視診、触診および打診などによって現症を的確に把握できる。 F-1-1)
24. 診査所見から必要な検査を想定できる。 F-1-1)
25. 患者の心理と行動を理解し、配慮できる。 F-1-1)
26. インフォームドコンセントを行うことができる。 F-1-1)
27. 必要に応じて医科に対診できる。 F-1-1)
28. 医療情報を他の医療機関に提供または求めることができる。 F-1-1)
29. 処方と処方箋の作成方法を説明できる。 F-1-1)
30. 歯科治療と全身疾患との関連性を理解し、説明できる。 F-1-1)-②

- 31. 診査所見と検査所見を適切に診療録に記載できる。 F-1-1)-(10)
- 32. 臨床検査の基準値を知り、異常値の重要性を説明できる。 F-1-1)-(15)
- 33. 歯科治療中の全身状態に影響を及ぼす疾患を説明できる。 F-1-3)-(1)-(5)
- 34. 歯科治療時に留意すべき服用薬物を説明できる。 F-1-3)-(1)-(6)
- 35. 小児、妊娠および高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。 F-1-3)-(1)-(7)
- 36. 全身疾患を有する患者への薬物適用上の注意を説明できる。 F-1-3)-(1)-(8)
- 37. 口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。 F-1-6)-(2)①
- 38. セルフケアを行えるように適切な動機づけができる。 F-1-6)-(2)②
- 39. 適切な口腔清掃法を指導できる。 F-1-6)-(2)③
- 40. 適切な食事指導(栄養指導)を実施できる。 F-1-6)-(2)④
- 41. 生活習慣に関して適切に指導できる。 F-1-6)-(2)⑤
- 42. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 F-2-2)-⑥
- 43. 疾患に伴う身体的・精神的問題を包括的に把握できる。
- 44. 身体的・精神的問題を社会生活まで含めて包括的に支援できる。
- 45. 疼痛緩和治療に関連した薬物を理解し、説明できる。
- 46. 疼痛緩和治療の実際を理解し、説明できる。
- 47. 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 F-2-4)-(2)②
- 48. 急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 F-2-4)-(2)③
- 49. 炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 F-2-4)-(2)④
- 50. 口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。 F-2-4)-(2)⑤
- 51. 菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。 F-2-4)-(2)⑥
- 52. 一般的な消炎療法の意義と特徴を説明できる。 F-2-4)-(2)⑦
- 53. 主な炎症を概説できる。 F-2-4)-(2)⑧
- 54. 歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。 F-2-4)-(2)⑩
- 55. 消炎手術を概説できる。 F-2-4)-(2)⑪
- 56. 軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 F-2-4)-(3)③
- 57. 口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を概説できる。 F-2-4)-(3)④

- 58. 口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)②
- 59. 口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全とそれらの症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)③
- 60. 口腔・顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患およびその症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)④
- 61. 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑤
- 62. 口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑥
- 63. 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑦
- 64. 口腔・顎顔面領域に症状を現す代謝障害と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑧
- 65. 口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑨
- 66. ヒト免疫不全ウイルス感染症の症状と検査法を説明できる。 F-2-4)-(7)⑩
- 67. 咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。 F-2-4)-(8)①
- 68. 嚥下障害を概説できる。 F-2-4)-(8)②
- 69. 味覚障害を概説できる。 F-2-4)-(8)④
- 70. 要介護高齢者の歯科治療を説明できる。 F-4-3)⑥
- 71. 摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。 F-4-3)⑦

【授業計画】

	大項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔内科診断法	医療面接と診察方法	3, 4, 5, 20, 21, 22, 23, 25, 37	東
2.	同上	検査方法, 生体機能検査, 口腔・顎機能の検査など	20, 24, 32	〃
3.	〃	安全への配慮と事故防止策,	1, 2, 8, 26, 68	〃
4.	〃	診療録・処方箋・紹介状の作成	6, 7, 27, 28, 29, 31	〃
5.	口腔と全身の関連	循環器疾患と歯科治療	30, 33, 34, 65	松本
6.	同上	呼吸器疾患と歯科治療	〃	〃
7.	〃	消化器疾患と歯科治療	〃	〃
8.	〃	代謝性疾患と歯科治療	30, 33, 34, 66	〃
9.	〃	腎・泌尿器疾患と歯科治療	30, 33, 34, 65	桃田

10.	〃	妊娠と歯科治療	30, 33, 34, 35, 65	茂木
11.	〃	免疫・アレルギーと歯科治療	30, 33, 34, 61, 65, 68	松本
12.	〃	感染症と院内感染	30, 33, 34, 60, 65, 66, 68	茂木
13.	同上(口腔から全身へ)	誤嚥性肺炎, 睡眠時無呼吸症候群, 歯性病巣感染	37, 54	桃田
14.	同上	摂食・嚥下障害, 要介護者の口腔管理, 口腔ケア	37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 69, 70, 72, 73	東
15~18.	〃	緩和ケア	37, 43, 44, 45, 46	茂木
19.	同上(全身から口腔へ)	口腔に症状を現す全身疾患, 糖尿病と歯性感染症, 味覚障害	62, 63, 64, 66, 67, 71	松本
20.	同上	口腔に症状を現す骨系統疾患・症候群		〃
21.	歯科薬物療法	薬物療法総論, 抗菌薬, ステロイド, 鎮痛薬	12, 13, 14, 15, 16, 17, 19, 25, 35, 36, 52, 65	茂木
22.	同上	癌化学療法総論	18, 19, 25, 28, 65	〃
23.	〃	癌化学療法各論	〃	〃
24.	悪性腫瘍その他の治療	免疫療法, 温熱療法, 光線力学療法		〃
25.	顎口腔の炎症とアレルギー	炎症総論, アレルギー総論	9, 10, 11, 48, 49, 53	桃田
26~27.	同上	歯性感染症	47, 51, 54, 55, 60	〃
28.	〃	特異性炎	50	
29.	顎口腔の嚢胞	軟組織の嚢胞	58, 59	東
30.	講義総括	国家試験対策		

- ⇒ 桃田 (088-633-7352, momota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 茂木 (088-633-7354, kmotegi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 青田 (088-633-7352,) (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)

【成績評価】 評価は筆記試験により行い,6割以上の得点を有する者を合格とする。

【再試験】 実施する。

【教科書】

- ◇ 1) 宮崎 正編:口腔外科学, 医歯薬出版, 第2版, 2000年
- ◇ 2) 尾崎登喜雄編:口腔内科学, 飛鳥出版, 2008年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217273>

【連絡先】

- ⇒ 東 (088-633-7351, azumasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 松本 (088-633-7352, fumihito@dentclin.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)

口腔外科学(1)(口腔内科)C 講義

1 単位 4 年 (後期)

Oral and Maxillofacial Surgery(Oral Medicine)

東雅之・教授 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 松本文博・講師 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学)

桃田幸弘・講師 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 茂木勝美・助教 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 青田桂子・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 超高齢化社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。

【授業概要】 患者との接し方、情報収集の仕方、局所症状の診方、全身状態の捉え方および臨床検査などの診断の進め方について基本的知識・技術・態度を理解する。また、自然治癒力の促進と薬物療法の基本を理解するとともに、口腔病変と全身状態の関連性についても理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 プリント、スライド、ビデオなど適宜使用する。

【授業場所】 第4講義室

【授業テーマ】 医療面接のありかた、診断の進め方、診療録のまとめ方、顎・顔面領域に生じる疾患に対する口腔内科的治療。

【履修上の注意】 口腔外科学(1)(口腔内科)C 講義の授業では15回の授業で毎回講義事項の「キーワード」を提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。又予習時の内容と復習時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 唾液の性状と役割を説明できる。 F-2-2)④
2. 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 F-2-4)-(2)①
3. 主な粘膜疾患を概説できる。 F-2-4)-(2)⑨
4. 前癌病変(白板症, 紅板症)の特徴, 性状および治療法を概説できる。 F-2-4)-(3)⑨
5. 前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 F-2-4)-(2)⑩
6. 唾石症の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)①
7. 流行性耳下腺炎の原因ウイルス, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)③
8. シェーグレン症候群の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)④

9. 小唾液腺疾患を概説できる。 F-2-4)-(5)⑤
10. 三叉神経痛の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(6)①
11. 顔面神経麻痺の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(6)②
12. 口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患と検査法を列挙できる。 F-2-4)-(7)①
13. 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑦
14. 口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑨
15. 心身相関を説明できる。 F-4-5)①
16. 心身症を説明できる。 F-4-5)②
17. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。 F-4-5)③
18. 心理テストを説明できる。 F-4-5)④
19. 舌痛症を概説できる。 F-4-5)⑤

【授業計画】

	大項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔粘膜疾患	前癌病変	2, 3, 4, 5	東
2.	同上	口内炎, アфта	2, 3, 14	桃田
3.	〃	ウイルス性疾患	2, 3	〃
4.	〃	薬剤性病変, 色素異常	2, 3, 13	〃
5.	唾液腺疾患	発生, 発育異常	1	東
6.	同上	炎症性疾患	7	〃
7.	〃	その他の疾患	6, 8, 9	〃
8.	血液疾患	赤血球異常	12 14	松本
9.	同上	白血球異常	12	〃
10.	〃	出血性素因	〃	〃
11.	神経疾患	神経痛, 神経麻痺	10 11	茂木
12~13.	心因性病態	歯科心身症	15 16 17 18 19	桃田

14.	特別講義			
15.	講義総括	国家試験対策		東

【成績評価】評価は筆記試験により行い、6割以上の得点を有する者を合格とする。

【再試験】実施する。

【教科書】

- ◇ 1) 宮崎 正編:口腔外科学, 医歯薬出版, 第2版, 2000年
- ◇ 2) 尾崎登喜雄編:口腔内科学, 飛鳥出版, 2008年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217274>

【連絡先】

- ⇒ 東 (088-633-7351, azumasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 松本 (088-633-7352, fumihiro@dentclin.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 桃田 (088-633-7352, momota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 茂木 (088-633-7354, kmotegi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 青田 (088-633-7352,) (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)

口腔外科学(2)(口腔外科)A 講義

1 単位 4 年 (前期)

Oral & Maxillofacial Surgery

宮本 洋二・教授/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 永井 宏和・准教授/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学)

藤澤 健司・講師/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 玉谷 哲也・講師/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 内田 大亮・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学)

宮内 美和・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 湯浅 哲也・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 大江 剛・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学)

工藤 景子・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 高丸 菜都美・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学)

【授業目的】 外科的処置に必要な滅菌・消毒の概念・基本的処置法を身につけ、口腔・顎・顔面領域の外傷、先天性・後天性異常の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。

【授業概要】 手術の基本的な手技と器具の操作を示し、具体的な手術法を解説する。口腔・顎・顔面領域の外傷、先天性・後天性異常の病態、診断に必要な検査とその所見並びに治療法を解説する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式、プリント、スライド、ビデオを適宜用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 口腔・頸部を構成する軟部組織、硬組織およびその関連器官の疾病の診断と治療

【履修上の注意】 口腔外科学(2)(口腔外科)A の授業では、講義事項を授業計画の内容欄に「キーワード」として提示する。1. 受講者は各回のキーワードについて事前に予習し、内容を予習帳に簡潔にまとめること。2. 受講者は各回のキーワードについて授業終了後に復習し、内容を復習帳に簡潔にまとめること。また、予習時の内容と復習時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。3. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。4. 予習帳、復習帳の提出を求めることがある。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 <F-1-1)-①>
2. 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。 <F-1-1)-②>
(歯科治療時の対応を含む。)
3. 的確な病歴聴取(現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等)を行い、必要な部分を抽出できる。 <F-1-1)-⑧>
4. 問診、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 <F-1-1)-⑨>
5. 各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 <F-1-1)-⑬>
6. 清潔と不潔の区分及び滅菌と消毒の意義、原理及び代表的な方法を説明できる。 <D-3-1)-③>

7. 粘膜の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。 <F-1-4)-④>
8. 縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。 <F-1-4)-⑤>
9. 手指と術野の消毒について説明できる。(器具の滅菌と消毒を含む。) <F-1-4)-⑥>
10. 粘膜の切開、剥離ができる。 <F-1-4)-⑧>
11. 単純縫合、抜糸ができる。 <F-1-4)-⑨>
12. 一般的な骨折の種類と特徴及び治癒過程を説明できる。 <F-2-4)-(1)-①>
13. 歯の外傷と顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。 <F-2-4)-(1)-②>
14. 外傷時の検査法を列挙できる。 <F-2-4)-(1)-③>
15. 歯の外傷の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。 <F-2-4)-(1)-④>
16. 歯槽骨骨折、上顎骨骨折および下顎骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。 <F-2-4)-(1)-⑤>
17. 骨折の治療原則を説明できる。 <F-2-4)-(1)-⑥>
18. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状と処置法を説明できる。 <F-2-4)-(1)-⑦>
19. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 <F-2-3)-①>
20. 一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。 <F-2-3)-②>
21. 口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天性異常を説明できる。(診断と治療方針を含む。) <F-2-3)-③>
22. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常(不正咬合)を説明できる。(診断と治療方針を含む。) <F-2-3)-④>
23. 口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 <F-2-4)-(7)-①>
24. 顎変形症を概説できる。 <F-2-4)-(7)-②>
25. 臨床歯学教育

【授業計画】

大項目	内容	到達目標	担当
-----	----	------	----

1.	口腔外科診断法	口腔外科学総論	1,2,3,4,5	宮本
2~4.	手術総論	手術学総論 / 消毒・滅菌法, 消毒剤, スタンダードプロセーション, 創傷の治癒, 手術器具, 切開法, 止血法 (止血剤を含む), 骨膜剥離法, 縫合法 (糸結び, 縫合糸, 針の種類を含む)	6,7,8,9,10,11	高丸, 宮本
5.	組織損傷	外傷患者の初期治療, 軟組織外傷, 創傷治癒, 新しい創傷治療	12,14,18	宮本
6.	〃	歯の外傷と歯槽骨骨折 / 診査, 原因, 分類, 治療	13,15,16	内田
7.	〃	顔面骨骨折総論 / 分類, 合併症, 診断, 治療, 治癒機転, 後遺症・異常治癒経過	12,14,16,17	藤澤
8~9.	〃	顎骨骨折各論 / 下顎骨骨折, 関節突起骨折, 上顎骨骨折, 眼窩壁吹き抜け骨折, 頬骨・頬骨弓骨折, 鼻骨骨折	12,16,17	玉谷
10.	先天性および後天性異常	軟組織の異常 / 上皮真珠, 歯肉肥大, 巨唇症, 先天性口唇瘻, 先天性口角瘻, Fordyce 斑, 二重唇, 小口症, 咬筋肥大症, 巨舌症, 舌扁桃, 舌甲状腺, 上唇小帯の異常, 頬小帯の異常, 舌小帯の異常	21	大江
11~12.	〃	顎顔面の先天異常 / 口腔・顔面の発生, 口唇・口蓋裂の症状・発生・統計・治療, 鼻咽腔閉鎖機能障害とその治療	19,20,21,22,23	内田, 宮本
13~14.	〃	顎変形症 / 病態 (原因, 分類, 症状, 診断) と治療	22,24	永井
15.	口腔外科学(2)(口腔外科)Aの総括	国家試験対応および解説 / 国家試験問題を解いてみよう	25	宮本

- ⇒ 永井 (088-633-7354, hnagai@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月17:00~ 18:00/4F口腔外科・助講室)
- ⇒ 藤澤 (088-633-7352, fujisawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火・水17:00~ 18:00/4F口腔外科・助講室)
- ⇒ 玉谷 (088-633-7354, ttama@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月・金17:00~ 18:00/4F口腔外科・助講室)

【成績評価】 評価は筆記試験により行い、試験は4年次前期試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。口腔外科学(2)(口腔外科)の単位は口腔外科学(2)(口腔外科)A講義、口腔外科学(2)(口腔外科)BC講義の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】 1回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 塩田重利, 富田喜内監修:最新口腔外科学, 医歯薬出版, 第4版, 1999年
- ◇ 白砂兼光・古郷幹彦編:口腔外科学, 医歯薬出版, 第3版, 2010年
- ◇ 道 健一, 他編:口腔顎顔面外科学, 医歯薬出版, 初版, 2000年
- ◇ 石川梧朗監修:口腔病理学, 永末書店, 第2版, 1989年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217275>

【連絡先】

- ⇒ 宮本 (口腔疾患制御外科学, 088-633-7353, miyamoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水17:00~ 18:00/4F口腔外科・教授室)

口腔外科学 (2)(口腔外科)BC 講義

2 単位 4 年 (後期)

Oral & Maxillofacial Surgery

宮本 洋二・教授 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学), 永井 宏和・准教授 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学)

藤澤 健司・講師 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学), 玉谷 哲也・講師 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学), 内田 大亮・助教 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学)

宮内 美和・助教 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学), 湯浅 哲也・助教 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学), 大江 剛・助教 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学)

工藤 景子・助教 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学), 高丸 菜都美・助教 / 歯学科 口腔外科学第二講座 (口腔外科学)

【授業目的】口腔・顎・顔面領域の嚢胞性疾患, 腫瘍性疾患, 顎関節疾患の病態を理解し, 診断並びに治療法を修得する。

【授業概要】口腔・顎・顔面領域の嚢胞性疾患, 腫瘍性疾患, 顎関節疾患の病態, 診断に必要な検査とその所見並びに治療法を解説する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式, プリント, スライド, ビデオを適宜用いる。

【授業場所】第 4 講義室

【授業テーマ】口腔・頸部を構成する軟部組織, 硬組織およびその関連器官の疾病の診断と治療

【履修上の注意】口腔外科学 (2)(口腔外科)BC の授業では, 講義事項を授業計画の内容欄に「キーワード」として提示する。1. 受講者は各回のキーワードについて事前に予習し, 内容を予習帳に簡潔にまとめること。2. 受講者は各回のキーワードについて授業終了後に復習し, 内容を復習帳に簡潔にまとめること。また, 予習時の内容と復習時の内容を比較して, 学習の成果を確認すること。3. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。4. 予習帳, 復習帳の提出を求めることがある。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 腫瘍の定義を説明できる。 <D-4-5)-①>
2. 腫瘍の組織発生を説明できる。(発生原因を含む。) <D-4-5)-②>
3. 異形成, 退形成及び分化を説明できる。 <D-4-5)-③>
4. 腫瘍の異型性と多形性を説明できる。 <D-4-5)-④>
5. 良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 <D-4-5)- >
6. 局所における腫瘍の増殖, 浸潤及び転移を説明できる。 <D-4-5)-⑥>
7. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。(相対的禁忌への対応および小手術の適応症と禁忌を含む。) <F-1-4)-①>
8. 小手術の偶発症と合併症を説明できる。 <F-1-4)-②>

9. 抜歯に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。(小手術を含む。) <F-1-4)-③>
10. 粘膜の切開, 剥離に必要な器具の用法を説明できる。 <F-1-4)-④>
11. 縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。 <F-1-4)-⑤>
12. 手指と術野の消毒について説明できる。(器具の滅菌と消毒を含む。) <F-1-4)-⑥>
13. 簡単な抜歯ができる。 <F-1-4)-⑦>
14. 粘膜の切開, 剥離ができる。 <F-1-4)-⑧>
15. 単純縫合, 抜糸ができる。 <F-1-4)-⑨>
16. 埋伏智歯の抜歯法を説明できる。 <F-1-4)-⑩>
17. 顎関節の構造と機能を説明できる。 <F-2-1)-⑤>
18. 顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 <F-2-4)-(3)-①>
19. 顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 <F-2-4)-(3)-②>
20. 口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状, 診断法および治療法を概説できる。 <F-2-4)-(3)-④>
21. 歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 <F-2-4)-(3)-⑤>
22. 非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 <F-2-4)-(3)-⑥>
23. 口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状, 診断法(組織診, 画像診断)および治療法を概説できる。 <F-2-4)-(3)-⑦>
24. エナメル上皮腫の特徴, 症状および治療法を概説できる。 <F-2-4)-(3)-⑧>
25. 口腔癌の特徴, 予防, 症状および治療法を概説できる。 <F-2-4)-(3)-⑩>
26. 腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。 <F-2-4)-(3)-⑫>
27. エプーリスの特徴, 症状および治療法を概説できる。 <F-2-4)-(3)-⑬>
28. 顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 <F-2-4)-(4)-①>

29. 顎関節疾患 (外傷, 脱臼, 顎関節症, 顎関節強直症) を概説できる。 <F-2-4)-(4)-②>
 30. 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。 <F-2-4)-(5)-②>
 31. デンタルインプラントの種類と特性を説明できる。 <F-3-4)-(4)-①>
 32. 臨床歯学教育

【授業計画】

大項目	内容	到達目標	担当
1.	嚢胞・嚢胞類似疾患	嚢胞総論 / 定義, 分類, 治療法	18,19,20,21 宮本
2~3.	”	上皮性嚢胞 (歯原性嚢胞, 炎症性嚢胞), 非歯原性嚢胞, 嚢胞様病変 / 原始性嚢胞, 含歯性嚢胞, 萌出嚢胞, 歯肉嚢胞, 側方性歯周嚢胞, 腺性歯原性嚢胞, 歯根嚢胞, 歯周嚢胞, 鼻口蓋管 (切歯管) 嚢胞, 鼻唇 (鼻歯槽) 嚢胞, 術後性上顎嚢胞, 単純性骨嚢胞, 脈瘤性骨嚢胞	” 内田, 高丸
4~6.	腫瘍・腫瘍類似疾患	口腔腫瘍総論 / 口腔腫瘍の特徴・分類, 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴, 扁平上皮癌の一般的特徴, 口腔癌の特徴・TNM分類, 症状, 診断, 口腔癌の治療 (放射線療法, 化学療法)	1,2,3,4,5,6,24,26 宮本
7.	”	口腔癌① / 舌癌の特徴・治療, 頸部郭清術・放射線療法を含む	24,26 ”
8.	”	口腔癌② / 口底癌・歯肉癌の特徴・治療, 頭頸部の再建手術を含む	” ”
9.	”	口腔癌③ / 頬粘膜癌, 口唇癌, 硬口蓋癌, 上顎洞癌	” ”
10.	”	非上皮性悪性腫瘍 / 肉腫, 悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫, 悪性黒色腫	2,24 永井
11.	”	歯原性腫瘍総論 / 歯原性腫瘍の定義, 2005年のWHOによる歯原性腫瘍分類, 治療法	5,22,24,25 ”
12~15.	”	歯原性腫瘍 / エナメル上皮腫, 歯原性扁平上皮腫, 歯原性石灰化上皮腫, 腺様歯原性腫瘍, 角化嚢胞性歯原性腫瘍, エナメル上皮歯牙腫, 歯牙エナメル上皮線維腫, 歯原性線維腫, 歯原性粘液腫, セメント芽細胞腫, 歯原性癌腫, 歯原性肉腫, 歯原性癌肉腫, 骨関連病変	2,5,22,24,25,27 玉谷, 湯浅
16~17.	腫瘍・腫瘍類似疾患	非歯原性良性腫瘍 / 乳頭腫, 線維腫, 粘液腫, 黄色腫, 血管腫, リンパ管腫, 脂肪腫, 筋腫, 神経系腫瘍, 骨腫, Gardner症候群, 仮骨性線維腫, 軟骨腫, 骨軟骨腫, 巨細胞腫など	5,23,24 内田, 玉谷
18.	”	腫瘍類似疾患 / LCH, エプーリス, 義歯性線維腫, 骨増生, 線維性骨異形成症, 根尖性セメント質異形成症	27,28 玉谷
19~20.	唾液腺疾患	唾液腺腫瘍 / 病態, 診断, 治療法 (外科的療法, 放射線治療, 化学療法)	24,31 永井

21~23.	手術各論	口腔外科小手術 / 抜歯術, 口腔外科小手術, 歯の移植・再植術, 軟組織損傷に対する治療, 口腔上顎洞瘻閉鎖術	7,8,9,10,11,12,13,14,15,16	宮内, 大江
24.	デンタルインプラント	人工歯根	32	藤澤
25.	手術各論	顎骨・軟組織再建 / 骨移植術, 骨延長術, 皮膚・粘膜移植, 有茎皮弁, 遊離皮弁	27	宮本
26.	顎関節疾患	顎関節疾患総論 / 顎関節の構造, 顎関節疾患の診断	29,30	藤澤
27~29.	”	顎関節症 (分類, 症状, 診断, 治療など), 顎関節の発育異常, 炎症, 腫瘍および類似疾患, 顎関節の外傷, 顎関節強直症	”	”
30.	口腔外科学 (2)(口腔外科)BCの総括	国家試験対応および解説 / 国家試験問題を解いてみよう	33	宮本

【成績評価】 評価は筆記試験により行い, 試験は4年次後期試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。口腔外科学 (2)(口腔外科)の単位は口腔外科学 (2)(口腔外科)A 講義, 口腔外科学 (2)(口腔外科)BC 講義の全科目の成績を総合評価して認定する。

【再試験】 1回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 塩田重利, 富田喜内監修:最新口腔外科学, 医歯薬出版, 第4版, 1999年
- ◇ 白砂兼光・古郷幹彦編:口腔外科学, 医歯薬出版, 第3版, 2010年
- ◇ 道 健一, 他編:口腔顎顔面外科学, 医歯薬出版, 初版, 2000年
- ◇ 石川悟朗監修:口腔病理学, 永末書店, 第2版, 1989年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217276>

【連絡先】

- ⇒ 宮本 (口腔疾患制御外科学, 088-633-7353, miyamoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水17:00~ 18:00/4F口腔外科・教授室)
- ⇒ 永井 (088-633-7354, hnagai@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月17:00~ 18:00/4F口腔外科・助講室)
- ⇒ 藤澤 (088-633-7352, fujisawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火・水17:00~ 18:00/4F口腔外科・助講室)
- ⇒ 玉谷 (088-633-7354, ttama@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月・金17:00~ 18:00/4F口腔外科・助講室)

歯科矯正学 A 講義

1 単位 4 年 (前期)

Orthodontics

田中 栄二・教授 / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学), 黒田 晋吾・准教授 / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学)

堀内 信也・助教 (併任) / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学), 高田 隆・非常勤講師 / 広島大学

【授業目的】 歯科矯正治療を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 顎顔面の成長・発達, 歯列や咬合の発育を理解し, 正常咬合と不正咬合について学ぶ。その上で, 不正咬合の診断学および治療学を学習する。さらに, 口唇裂・口蓋裂を伴う患者を含めた先天異常に各種不正咬合や顎変形症の治療を学ぶ。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 顎顔面の成長発育と不正咬合の治療

【履修上の注意】 ①受講者は毎回講義前に予習を行い, 当日配布されるレジュメをもとに復習を欠かさず行うこと。②予習帳, 復習帳の提出を求めることがある。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 矯正治療の目的と意義を説明できる。 <F-4-1)-①>
2. 正常咬合の概念と成立 保持条件を説明できる。 <F-4-1)-②>
3. 不正咬合によって生じる障害を列挙できる。 <F-4-1)-③>
4. 不正咬合の原因, 種類, 診察, 検査, 診断, 治療および予防法を説明できる。 <F-4-1)-④>
5. 咬合異常と咀嚼障害の原因と診察, 検査, 診断および治療方針を説明できる。 <F-2-4)-(8)-①>
6. 頭部エックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2)-⑧>
7. 矯正治療によって生じる医原性障害を挙げ, その処置と予防法を説明できる。 <F-4-1)-⑨>
8. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 <F-2-3)-①>
9. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。 <F-2-3)-⑤>
10. 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 <F-2-1)-①>
11. 顎関節の構造と機能を説明できる。 <F-2-1)-⑤>
12. 顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 <F-2-4)-(4)-①>
13. 顎関節疾患 (外傷, 脱臼, 顎関節症, 顎関節強直症) を概説できる。 <F-2-4)-(4)-②>
14. 下顎の随意運動の基本を説明できる。 <F-2-1)-⑥>

15. 下顎反射の機序を説明できる。 <F-2-1)-⑦>
16. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。
17. 嚥下の機序を説明できる。 <F-2-1)-⑧>
18. 歯列と咬合について説明できる。 <F-2-2)-③>
19. 歯の発生, 発育および交換の過程を説明できる。 <F-3-1)-①>
20. 硝子軟骨, 弾性軟骨および線維軟骨の特徴を説明できる。 <D-2-3)-(1)-⑤>
21. 軟骨内骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。 <D-2-3)-(1)-⑥>
22. 硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。 <D-2-3)-(1)-⑦>
23. 骨の基本構造と結合様式を説明できる。 <D-2-3)-(2)-②>
24. 骨の改造現象と全身および局所因子による調節機構を概説できる。 <D-2-3)-(2)-③>
25. 咀嚼筋, 表情筋, 前頸筋の構成と機能を説明できる。 <F-2-1)-②>
26. 頭頸部の脈管系を説明できる。 <F-2-1)-③>
27. 三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。 <F-2-1)-④>
28. 舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。 <F-2-3)-⑥>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序説		歯科矯正学発達史, 歯科矯正学の定義, 矯正治療の目的	1	田中
2. 成長発育	成長発育概論	全身成長と各臓器型発育のパターン	20,21,22,23,24,25,26,27,28	〃
3.	〃	頭蓋の発生・成長	10	黒田
4.	〃	顔面頭蓋の成長発育	8	堀内
5.	〃	歯の発育, 乳歯列および乳歯咬合 混合歯列および混合歯咬合 永久歯および永久歯咬合, 歯齡 嚥下, 咀嚼, 発音	8,9,16,17,19	高田
6. 咬合	咬合概論と正常咬合	咬合と下顎位, 顎運動 正常咬合の定義・分類	14,15,18	田中

7.	〃	不正咬合	不正咬合の分類	2,3,4,5,6	〃
8.	〃	不正咬合の原因	先天的原因・後天的原因	4,5,6	〃
9.	診断学	概論 診査	矯正診断とは、初診時の患者との対応 一般的診査、全身的・局所的診査	4,5,6,7	〃
10.	〃	検査	全身的検査・局所的検査、機能的検査	4,5,6	〃
11.	〃	症例分析	形態的分析	〃	堀内
12.	〃	〃	機能的分析	4,5,6,11,12,13, 14	黒田
13.	〃	抜歯・非抜歯の判定	抜歯・非抜歯の判定	4,5,6	田中
14.	〃	診断	部分床義歯の構成要素、分類	〃	〃

【成績評価】講義終了後筆記試験を行い、100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】行う

【教科書】

- ◇ 参考書: 歯科矯正学, 医歯薬出版, 2001
- ◇ 参考書: 包括歯科医療対応の矯正歯科治療, 東京臨床出版, 2005
- ◇ 参考書: プロフィットの現代歯科矯正学, クインテッセンス出版, 1989
- ◇ 参考書: 歯科矯正マニュアル, 南山堂, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217313>

【連絡先】

- ⇒ 田中 (088-633-7356, etanaka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F矯正・教授室)
- ⇒ 黒田 (kuroda@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F矯正・第5研究室)
- ⇒ 堀内 (088-633-7357, horiu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F矯正・第1研究室)

歯科矯正学 B 講義

1 単位 4 年 (後期)

Orthodontics

田中 栄二・教授 / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学), 黒田 晋吾・准教授 / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学)

堀内 信也・助教 (併任) / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学), 高田 隆・非常勤講師 / 広島大学

【授業目的】 歯科矯正治療を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 顎顔面の成長・発達, 歯列や咬合の発育を理解し, 正常咬合と不正咬合について学ぶ。その上で, 不正咬合の診断学および治療学を学習する。さらに, 口唇裂・口蓋裂を伴う患者を含めた先天異常に各種不正咬合や顎変形症の治療を学ぶ。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 顎顔面の成長発育と不正咬合の治療

【履修上の注意】 ①受講者は毎回講義前に予習を行い, 当日配布されるレジュメをもとに復習を欠かさず行うこと。 ②予習帳, 復習帳の提出を求めることがある。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 矯正治療の目的と意義を説明できる。 <F-4-1)-①>
2. 不正咬合の原因, 種類, 診察, 検査, 診断, 治療および予防法を説明できる。 <F-4-1)-④>
3. 咬合異常と咀嚼障害の原因と診察, 検査, 診断および治療方針を説明できる。 <F-2-4)-(8)-①>
4. 頭部エックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2)-⑧>
5. 矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 <F-4-1)-⑤>
6. 矯正装置の種類と用途を説明できる。 <F-4-1)-⑥>
7. 矯正治療に必要な力学を説明できる。 <F-4-1)-⑦>
8. 矯正治療によって起こる生体の反応を説明できる。 <F-4-1)-⑧>
9. 一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。 <F-2-3)-②>
10. 口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天異常を説明できる。 <F-2-3)-③>
11. 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。 <F-2-4)-(7)-⑤>
12. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。 <F-2-3)-④>

13. 適切な口腔衛生法を指導できる。

14. 口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 <F-2-4)-(7)-①>

15. 顎変形症を概説できる。 <F-2-4)-(7)-②>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	治療学	概論	矯正治療の開始時期	2,3,4 田中
2.	〃	矯正用材料	矯正用材料	6 堀内
3.	〃	矯正用器具	矯正用器具	〃 黒田
4.	〃	矯正力と固定	矯正力, 固定	7 田中
5.	〃	矯正治療に伴う生体反応	全身的反応, 局所的反応	8 高田
6.	〃	〃	歯の移動のメカニズム	〃 田中
7.	〃	矯正治療における抜歯	抜歯の適応症 抜歯の選択, 連続抜去	2,3,4 〃
8.	〃	矯正装置	マルチブラケット装置, 顎外固定装置等	5,6 〃
9.	〃	〃	床矯正装置, 機能的矯正装置等	〃 〃
10.	〃	矯正歯科治療と口腔衛生	矯正歯科治療と口腔衛生	13 黒田
11.	〃	不正咬合の治療	乳歯列期・混合歯列期の治療	2,3,4 田中
12.	〃	〃	永久歯列期の矯正治療	〃 〃
13.	〃	〃	口唇裂・口蓋裂, 先天異常者の矯正治療	9,10,11,12,14 〃
14.	〃	〃	外科的矯正治療	15 〃
15.	〃	保定 不正咬合の予防	自然的保定, 器械的保定 不正咬合の予防	2,3,4,6 〃
16.	まとめ	〃	歯科矯正学の総括	1 〃

【成績評価】 講義終了後筆記試験を行い, 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 参考書: 歯科矯正学, 医歯薬出版, 2001
- ◇ 参考書: 包括歯科医療対応の矯正歯科治療, 東京臨床出版, 2005
- ◇ 参考書: プロフィットの現代歯科矯正学, クインテッセンス出版, 1989
- ◇ 参考書: 歯科矯正マニュアル, 南山堂, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217314>

【連絡先】

- ⇒ 田中 (088-633-7356, etanaka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F矯正・教授室)
- ⇒ 黒田 (kuroda@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金 17:00-18:00/3F 矯正・第5研究室)
- ⇒ 堀内 (088-633-7357, horiu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金 17:00-18:00/3F 矯正・第1研究室)

歯科矯正学 実習

2単位 4年(後期)

Orthodontics

田中 栄二・教授/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学), 黒田 晋吾・准教授/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学)

堀内 信也・助教/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学), 泰江 章博・助教/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学), 藤原 慎視・助教/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学)

川合 暢彦・助教/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学), 木内 奈央・助教/歯学科 歯科矯正学講座(口腔顎顔面矯正学)

【授業目的】 歯科矯正学講義で履修した矯正装置を自分で作製することで、装置に対する理解を深めることを目的とし、矯正装置の作製方法や技工の手技を修得することを目的とする。

【授業概要】 実習では、歯科矯正治療に用いられる矯正装置のうち基本的な矯正装置を実際に作製する。各担当教員の指導に従い各自が装置を作製する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる

【授業場所】 第5実習室

【授業テーマ】 講義で得た知識をもとに、治療に用いる矯正装置の実際を学ぶ。

【履修上の注意】 ①受講者は毎回実習前に予習し、学習のポイントをノートにまとめておくこと。 ②実習開始前に復習確認のための小テストを行うことがある。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
2. 矯正装置の種類と用途を説明できる。
3. 矯正用ワイヤーの特性と鑲着方法を説明できる。
4. 舌側弧線装置の作製手順を説明でき、その装置による歯の移動様式を説明できる。
5. マルチブラケット治療の手順を説明でき、ワイヤーの特性と歯の移動様式を説明できる。
6. 矯正治療に必要な力学を説明できる。
7. 機能的矯正装置を説明でき、咬合採得から装置作製までを説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	到達目標	担当
1. ガイダンス 実習器具配付 線屈曲	0.9 mm 線の屈曲	1, 2	全員
2. 自在鑲着	自在鑲着	2	〃
3. 機能的矯正装置 (FKO)	模型調節, 構成咬合採得 構成咬合器への模型の取り付け	6, 7	〃
4. 〃	外形線の記入, 誘導線の屈曲	〃	〃

5.	〃	ワックス仮床圧接, ワックス仮床接合	〃	〃
6.	〃	ワックス仮床の形成	〃	〃
7.	タイポドント実習(舌側弧線装置)	タイポドント貸与, 帯環調整, STロック維持管鑲着, バッカルチューブの鑲着	4, 6	〃
8.	〃	印象採得, 作業用模型, 主線設計, STロック脚部屈曲	〃	全員
9.	〃	主線屈曲, 主線と脚部の鑲着, バンドのセメント合着	〃	〃
10.	〃	補助弾線鑲着・調整, タイポドント実習	〃	〃
11.	タイポドント実習(マルチブラケット装置)	ブラケットのボンディング, ワイヤーベンディング(チャート)	5, 6	〃
12.	〃	0.014 インチワイヤー屈曲, タイポドント実習	〃	〃
13.	〃	0.016 インチワイヤー屈曲, タイポドント実習	〃	〃
14.	〃	タイポドント実習	〃	〃
15.	実習器具の返却 実習試験	実習器具の返却 実習試験	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	〃

【成績評価】 実習作品と実習内容に対する理解度および実習態度を総合評価する。

【再試験】 適宜行う

【教科書】

- ◇ 参考書: 歯科矯正学実習書, 医歯薬出版, 1983
- ◇ 参考書: 可搬式矯正装置入門, クインテッセンス出版, 1990
- ◇ 参考書: The Clinical Management of Basic Maxillofacial Orthopedic Appliance, PSD, 1997

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217312>

【連絡先】

- ⇒ 田中 (088-633-7356, etanaka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~18:00/3F 矯正・教授室)
- ⇒ 黒田 (kuroda@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~18:00/3F 矯正・第5研究室)

- ⇒ 堀内 (088-633-7357, horiu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F 矯正・第1研究室)
- ⇒ 泰江 (088-633-7357, yasuea@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F 矯正・第1研究室)
- ⇒ 藤原 (shinji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F 矯正・第5研究室)
- ⇒ 川合 (088-633-7357, kamo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F 矯正・第1研究室)
- ⇒ 木内 (naok@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00/3F 矯正・第1研究室)

小児歯科学 A 講義
Pediatric Dentistry

1 単位 4 年 (前期)

三留 雅人・教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 有田 憲司・准教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

原田 桂子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 郡由 紀子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 小口 春久・非常勤講師 / 日本歯科大学東京短期大学

高木 裕三・非常勤講師 / 東京医科歯科大学

【授業目的】 胎児から 20 歳前後までの健康児, 障害児, 有病児の身体的成長, 精神的・心理的発達について理解し, 健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法とを理解する。

【授業概要】 成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘る QOL を支えることを認識し, 顎口腔領域の疾患や異常の予防, 診察・検査, 診断, 治療の方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 ビデオ, スライド, プリントを適宜用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 人間としての小児 (小児の人権等), 小児のこころとからだの発育及び小児の顎口腔領域の疾患や異常の予防ならびに治療と口腔健康の増進

【履修上の注意】 小児歯科学 A の授業では各授業毎にキーワードを提示する。① 受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。② 受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③ 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④ 予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 小児・障害者患者の権利を説明できる。 <A-1-1>
2. 患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。 <A-1-3>
3. 小児歯科・障害者歯科における医療面接の役割を説明できる。 <B-2-(2)-1>
4. 人体諸器官の形態と機能の成長・発達変化を説明できる。 <D-2-(4)-1>
5. 歯の発育障害の病因と病態を説明できる。 <F-2-(4)-2-2>
6. 小児期の歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。 <F-2-(4)-2-③-2>
7. 小児の身体発育・精神発達の特徴と評価法を説明できる。 <F-2-(6)-1-②-1>
8. 歯科診療時の小児の心理および行動の特徴を説明できる。 <B-2-(2)-4>

9. 乳歯と幼若永久歯の齲蝕予防法を説明できる。 <C-3-(2)-1,2,4>
10. 小児の長期口腔保健管理を説明できる。 <C-3-(2)-3>
11. 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明できる。 <F-2-(6)-1-②-2>
12. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類, 適応症, 手順と留意事項を説明できる。 <F-2-(6)-1-②-3>
13. フッ化物の歯面塗布を実施できる。 <F-1-6-(1)>
14. 予防填塞を実施できる。 <F-1-6-(1)>
15. 歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。 <F-3-2>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	小児とは	小児歯科学とは	小児と人権, 小児歯科学・小児歯科医療の特性・目的	1,2	三留
2.	心身の発育	発育概論	発育期の分類, 発育の評価法, 精神運動発達	4,7	〃
3.	〃	〃	思春期の身体的・心理的特徴	〃	〃
4.	口腔の発育	歯の発育とその異常	歯の形成と萌出	5	〃
5.	〃	〃	歯の形成障害, 歯の萌出異常	2,3,8	高木
6.	〃	歯列および咬合の発育とその異常	歯列の発育, 発育段階の分類の特徴	4,5,7	三留
7.	乳歯および幼若永久歯	乳歯の特徴・幼若永久歯の特徴	形態的・組織学的・物理化学的特徴と臨床との関係	9,11	〃
8.	小児期の齲蝕	乳歯および幼若永久歯の齲蝕	特徴, 罹患率, 局所的・全身的有害作用, 齲蝕のリスクファクターと予防法	〃	〃
9.	小児の軟組織	口腔の軟組織疾患	小児の軟組織の特徴と疾患	4,11	小口
10.	〃	歯周疾患	小児の歯周疾患の種類と特徴, 予防法	6	三留
11.	小児の歯科治療	治療の前処置	局所麻酔, ラバーダム防湿法	9	〃
12.	〃	乳歯の歯冠修復	歯髄保護, 歯冠修復, 修復処置後の管理	〃	〃
13.	〃	幼若永久歯の歯冠修復	〃	12	〃

14.	〃	小児への歯科的対応法	診療時に必要な心理, 不協力児への対応, 鎮静下での対応	2,3,8	〃
15.	〃	口腔健康管理	診療方針の立て方と実際	10,12	〃

【成績評価】筆記試験を 100 点満点で行い 60 点以上を合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇ 参考書:小児歯科学 第3版, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 参考書:小児歯科患者の臨床的対応 初版, クインテッセンス出版, 2001

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217287>

【連絡先】

- ⇒ 三留 (mitome@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・教授室/633-7358))
- ⇒ 有田 (088-633-7359, kenji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・助講室))
- ⇒ 原田 (088-633-7359, keiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・助講室))
- ⇒ 郡 (088-633-7359, yukiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・第1研究室))

小児歯科学 B 講義

1 単位 4 年 (後期)

Pediatric Dentistry

三留 雅人・教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 有田 憲司・准教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

原田 桂子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 郡 由紀子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 白川 哲夫・非常勤講師 / 日本大学

【授業目的】 胎児から 20 歳前後までの健康児, 障害児, 有病児の健全な顎口腔の育成について, その臨床的意義と方法を理解する。あわせて, 障害者の身体的, 精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。さらに, 小児歯科医療, 障害者歯科医療における医療事故防止について理解する。

【授業概要】 成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘る QOL を支えることを認識し, 顎口腔領域の疾患や異常の予防, 診察・検査, 診断, 治療の方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する。あわせて, 障害者歯科医療における問題を理解する。さらに, 歯科医療中のリスク管理について理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 ビデオ, スライド, プリントを適宜用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 小児の顎口腔領域の疾患や異常の予防ならびに治療と口腔健康の増進, 障害者歯科医療及び医療事故防止

【履修上の注意】 小児歯科学 B の授業では各授業毎にキーワードを提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 小児・障害者患者の権利を説明できる。 <A-1-1>
2. 患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。 <A-1-3>
3. 小児歯科医療・障害者歯科医療における事故の特異性を説明できる。 <A-5-(1)-1>
4. 医療事故を防止するためには, 個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が必要であることを説明できる。 <A-5-(1)-3>
5. 小児歯科・障害者歯科における医療面接の役割を説明できる。 <B-2-(2)-1>
6. 必要に応じて, 他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。 <B-2-(2)-6>

7. 障害者のおかれた社会環境を説明できる。 <C-2-(2)-6>
8. ノーマライゼーションの考え方を説明できる。 <C-2-(2)-7>
9. 小児の長期口腔保健管理を説明できる。 <C-3-(2)-3>
10. 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎の診察・検査と診断を説明できる。 <F-2-(6)-1)-②-4>
11. 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎の処置法の種類と適応症, 予後及び手順と留意点を説明できる。 <F-2-(6)-1)-②-5>
12. 小児の歯の外傷の診察・検査と診断及び処置法と予後を説明できる。 <F-2-(6)-1)-②-6>
13. 咬合誘導の概念を説明できる。 <F-2-(6)-1)-②-7>
14. 保険装置の目的と種類, 適応症及び留意点を説明できる。 <F-2-(6)-1)-②-8>
15. 障害者の身体的, 精神的及び心理的特徴を説明できる。 <F-2-(6)-3)-1>
16. 障害者の行動調整 (行動管理) と歯科治療を説明できる。 <F-2-(6)-3)-2>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯内療法	乳歯の歯髄疾患	診査・検査と診断, 歯髄処置	10,11	郡
2.	〃	乳歯の根尖性歯周炎	感染根管治療, 根管充填	〃	〃
3.	〃	幼若永久歯の歯内療法	歯内療法上の留意点, 治療法	〃	〃
4.	歯・口の外傷		歯の外傷の状況と影響	12	有田
5.	〃		処置, 経過	〃	〃
6.	外科的処置		乳歯の抜去, 過剰歯の摘出, 軟組織の処置	〃	〃
7.	咬合誘導法	咬合誘導の考え方	意義, 目的, 歯列・咬合の分析, X線写真分析	13 14	〃
8.	〃	診査・検査と診断	保険とその方法	13,14	原田
9.	〃	〃	動的咬合誘導とその方法	13	有田
10.	〃	〃	口腔習癖, 軟組織の異常	〃	〃
11.	歯科治療上注意すべき小児疾患		遺伝, 染色体異常, 感染症, 循環器疾患他	5,6,9	原田

12.	障害者歯科	障害者とは	ノーマライゼーション, ユニバーサルデザイン	1,7,8,15,16	〃
13.	〃	歯科的問題 口腔保健	口腔の問題, 心身の問題 治療方針と処置, 定期健診の重要性	2,5,9,15,16	〃
14.	〃	摂食・嚥下障害	摂食嚥下機能の発達と摂食機能障害およびその治療	1,2,5,7,8,15,16	有田
15.	医療事故防止	リスク管理	小児・障害者歯科における事故の特異性	3,4	白川

【成績評価】小児歯科学と障害者歯科学について筆記試験を行い、100点満点60点以上を合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇参考書:小児歯科学 第3版, 医歯薬出版, 2007
- ◇参考書:障害者歯科ガイドブック, 医歯薬出版, 2004

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217288>

【連絡先】

- ⇒ 三留 (mitome@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・教授室/633-7358))
- ⇒ 有田 (088-633-7359, kenji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・助講室))
- ⇒ 原田 (088-633-7359, keiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・助講室))
- ⇒ 郡 (088-633-7359, yukiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00~ 18:00/3F小児・第1研究室))

小児歯科学 実習

1 単位 4 年 (後期)

Pediatric Dentistry

三留 雅人・教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 有田 憲司・准教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

原田 桂子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 郡由 紀子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 尼寺 理恵・助教 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

阿部 洋子・助教 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 上田 (山口) 公子・助教 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

【授業目的】単に技工物の作製方法を修得するのではなく、実習を通して、講義で得た基礎的な知識と臨床の場での実際の診断法や治療法とを関連づけて理解する。

【授業概要】乳歯の歯冠修復、生活歯髄切断法、混合歯列模型の計測と分析、クラウンループ保険装置および可撤保険装置作製の実習を行う。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】第5実習室

【授業テーマ】広く小児歯科医療の基本的知識と技術とを修得する。

【履修上の注意】8日間(24回)の実習項目が全て異なるため全回出席することが必要である。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 乳歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。
2. 乳歯のアマルガム窩洞が形成できる。
3. 既製乳歯冠の支台歯形成と乳歯冠の作製ができる。
4. 乳歯歯髄炎の処置法の種類と適応症、予後及び手順と留意点を説明できる。
5. ラバーダム装着および生活歯髄切断法ができる。
6. 咬合誘導の概念を説明できる。
7. 保険処置の目的と種類、適応症及び留意点を説明できる。
8. 混合歯列模型の計測と分析ができる。
9. クラウンループ保険装置を作成することができる。
10. 可撤保険装置を作製することができる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1~3.	乳歯の歯冠修復	アマルガム窩洞の形成	マネキン上で乳歯のアマルガム2級窩洞の形成	1,2	全員
4~6.	〃	既製乳歯冠の作製	乳歯冠の支台歯形成、既製乳歯冠の適合と研磨	1,3	〃
7~9.	乳歯の歯髄処置	生活歯髄切断法	ラバーダム装着、歯髄切断、水酸化カルシウム製剤貼付、セメント仮封	4,5	〃
10~12.	咬合誘導	混合歯列模型の計測と分析	ノギスによる計測、Moyers法による分析と評価・診断	6,7,8	〃

13~18.	保険装置	クラウンループの作製	支台歯形成、既製乳歯冠の適合と研磨、アルジネート印象、作業模型の作製、ループの屈曲・ろう着	6,7,9	〃
19~24.	〃	可撤保険装置の作製	外形線の記入、補強線の屈曲、ワックスアップと人工歯の排列、歯肉形成	6,7,10	〃

【成績評価】理解度、実習態度および実習作品で総合的に評価する。

100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ 実習書:実習帳を配付する。
- ◇ 参考書:小児歯科実習-基礎と臨床- 第1版, 2001年(学建書院)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217286>

【連絡先】

- ⇒ 三留 (mitome@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00-18:00/3F小児・教授室/633-7358))
- ⇒ 有田 (088-633-7359, kenji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く) 17:00-18:00/3F 小児・助講室))
- ⇒ 原田 (088-633-7359, keiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く) 17:00-18:00/3F 小児・助講室))
- ⇒ 郡 (088-633-7359, yukiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く) 17:00-18:00/3F 小児・第1研究室))
- ⇒ 尼寺 (0886337359, rie@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00-18:00/3F 小児・第1研究室))
- ⇒ 阿部 (088-633-7359, abe@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00-18:00/3F 小児・第3研究室))
- ⇒ 木村 (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00-18:00/3F 小児・第3研究室))
- ⇒ 上田 (山口) (088-633-7359, guchi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金(出向日を除く)17:00-18:00/3F 小児・第1研究室))

歯科放射線学 A 講義

1 単位 4 年 (前期)

Oral and Maxillofacial Radiology

菅田 栄一・教授 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 前澤 博・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用について知識, 技能および態度を修得する。

【授業概要】 (1) 放射線とその防護

放射線を歯科医療で有効に利用し, それに伴う障害を防止するために, 放射線の性質, 影響および防護を理解する。

(2) 歯・口腔顎顔面領域の画像検査

歯・口腔顎顔面領域の画像検査を適切に選択し実施するために, 特徴, 種類, 技術および適応を理解する。

(3) 放射線腫瘍学

口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理の重要性を認識するために, 放射線治療の基礎と実際を理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 プリント, スライドを用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 歯科における電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 放射線の種類と性質を説明できる。 <F-1-2)-①>
2. 放射線の人体への影響を説明できる。 <F-1-2)-②>
3. 放射線防護の基準と方法を説明できる。 <F-1-2)-③>
4. エックス線画像の形成原理を説明できる。(画像不良の原因を含む。) <F-1-2)-④>
5. エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 <F-1-2)-⑤>
6. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2)-⑥>
7. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い, 読影できる。 <F-1-2)-⑦>
8. 頭部エックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2)-⑧>
9. 超音波装置, エックス線 CT および磁気共鳴撮像装置を用いた検査法の原理と基本的特徴を説明できる。 <F-1-2)-⑨>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	診断基礎・物理	原子	原子の構造, 素粒子.	1	菅田
2.	”	放射線	放射線の分類, エックス線の性質, 放射性同位元素	”	”
3.	”	エックス線の発生・装置	エックス線の種類, 管球, 整流, 発生効率, 装置の構成, 相互作用, 透過, 吸収, 散乱, 濾過, 半価層, 線質, 単位	”	”
4.	”	フィルム・増感紙	特性曲線, コントラスト, ラチチュード, 解像度, 増感紙	4	”
5.	”	写真処理	感光理論, 現像処理	”	”
6.	”	エックス線画像の特徴	フーリエ変換, レスポンス関数	”	”
7.	”	デジタル画像・画像処理	医用画像工学からのアプローチ, デジタル画像の基礎	”	”
8.	”	”	医用画像工学からのアプローチ, デジタル画像の実際	”	”
9.	”	”	”	”	”
10.	検査法	パノラマエックス線撮影法	装置発達の歴史, 装置, 原理, 撮影法 (デジタルを含む), 解剖学的指標, スクリーニング	6	”
11.	”	特殊画像検査法	エックス線 CT, MRI の画像形成原理と正常解剖像	7,8	”
12.	放射線管理	放射線の人体に対する影響 放射線防護の考え方	自然放射線 目的, 体系, 現状, 妊娠中の女性, 小児	2,3	”
13.	”	放射線管理, 品質保証計画	放射線機器の保守管理, 撮影の最適化	3,6	”
14.	放射線生物学	放射線生物学概論	放射線作生物用の特徴と放射線作用の発現 細胞・組織の放射線感受性を修飾する因子	2	前澤
15.	”	”	放射線感受性と遺伝子, 細胞の線量・生存率曲線	”	”

【成績評価】 筆記試験を行い 60 点以上を合格とする。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 1) 標準歯科放射線学:西連寺永康監修, 第2版, 医学書院, 2000
- ◇ 2) 歯科放射線学:古本啓一, 岡野友宏, 小林馨編, 第4版, 医歯薬出版, 2006
- ◇ 3) 口腔画像診断アトラス:日本歯科放射線学会編, 医歯薬出版, 1998
- ◇ 4) 口腔画像診断の臨床:東与光, 生田裕之著, 第2版, 医歯薬出版, 1992
- ◇ 5) 歯科診療における放射線の管理と防護:日本歯科放射線学会・放射線防護委員会編, 第2版, 医歯薬出版, 2002
- ◇ 6) 放射線基礎医学:菅原努監修, 改訂第8版, 金芳堂, 1996
- ◇ 7) 放射線科医のための放射線生物学:E.J.Hall 著 浦野宗保訳, 第4版, 篠原出版, 1995
- ◇ 8) Panoramic Radiography :O.E.Langland et al, 2nd ed. LEA & FEBIGFR, 1989
- ◇ 9) 人は放射線になぜ弱いのか:近藤宗平, 第3版, 講談社, 2000
- ◇ 10) 歯科診療における X 線診断の品質保証プログラム:佐々木武仁編, 医歯薬出版, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217306>

【連絡先】

⇒ 誉田 (honda@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・教授室/633-7360))

歯科放射線学 B 講義

1 単位 4 年 (後期)

Oral and Maxillofacial Radiology

細木 秀彦・講師 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 高橋 章・講師 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学)

森田 康彦・助教 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 古川 惣平・非常勤講師 / 大阪大学

【授業目的】 歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用について知識, 技能および態度を修得する。

【授業概要】 (1) 歯・口腔顎顔面領域の画像検査

歯・口腔顎顔面領域の画像検査を適切に選択し実施するために, 特徴, 種類, 技術および適応を理解する。

(2) 歯・口腔顎顔面領域疾患の画像診断

適切な画像診断を行うために, 歯・口腔顎顔面領域疾患の画像所見の特徴を理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義型式 プリント, スライドを用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 歯科における電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用

【履修上の注意】 歯科放射線学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義のキーワードを呈示している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また, 予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 放射線の種類と性質を説明できる。 <F-1-2)-①>
2. 放射線の人体への影響を説明できる。 <F-1-2)-②>
3. 放射線防護の基準と方法を説明できる。 <F-1-2)-③>
4. エックス線画像の形成原理を説明できる。(画像不良の原因を含む。) <F-1-2)-④>
5. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2)-⑥>
6. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い, 読影できる。 <F-1-2)-⑦>
7. 歯の硬組織疾患の診査と検査および診断ができる。 <F-3-4)-(1)-⑫>
8. 一般的な骨折の種類と特徴および治療過程を説明できる。 <F-2-4)-(1)-①>

9. 顎関節疾患 (外傷, 脱臼, 顎関節症, 顎関節強直 症) を概説できる。 <F-2-4)-(4)-②>

10. 頭部エックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2)-⑧>

11. 超音波装置, エックス線 CT および磁気共鳴撮像装置を用いた検査法の原理と基本的特徴を説明できる。 <F-1-2)-⑨>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	診断	診断学総論	画像診断学とは, 検査法, 読影の進め方, エックス線写真, 所見と一般的な表現, レントゲンサイン, 鑑別診断	4,5,6	森田
2.	検査法	歯と歯周組織の撮影法	口内法, 正放線, 偏心, 軸方向, 解剖学的指標, 撮影の失敗と原因	6	〃
3.	〃	顎・顔面および頭部の撮影法	口外法, 一般撮影, 特殊撮影, 撮影補助具	5,10	〃
4.	診断	歯の発育異常 系統疾患	歯の数, 大きさ, 形, 萌出位置と時期の異常, 埋伏歯の位置決定法, 系統疾患	6,10	〃
5.	〃	う蝕	疾患分類, エックス線像の特徴と病巣の進展	6,7	〃
6.	〃	根尖性歯周疾患・辺縁性歯周疾患	〃	6	〃
7.	〃	歯冠周囲炎	〃	〃	〃
8.	〃	顎骨疾患の放射線学	検査法, 疾患分類	6,10	〃
9.	〃	〃	読影の実際	〃	〃
10.	検査法	核医学・超音波・造影法	画像形成原理と正常解剖像, 読影の実際	11	〃
11.	診断	上顎洞疾患の放射線学	検査法, 疾患分類, 読影の実際,	6,10	細木
12.	〃	外傷・顎関節疾患の放射線学	検査法, 疾患分類, 読影の実際	6,8,9,10	〃
13.	〃	唾液腺疾患の放射線学 頭頸部軟部組織疾患の放射線学	検査法, 解剖像, 疾患分類, 読影の実際	6,10,11	高橋

14.	放射線治療	放射線治療学	放射線治療学の基礎, 放射線治療の実際	1,2,3	古川
15.	〃	〃	治療に伴う後障害とその防止	〃	〃

【成績評価】筆記試験を行い 60 点以上を合格とする。

【再試験】行う

【教科書】

- ◇ 1) 標準歯科放射線学:西連寺永康監修, 第 2 版, 医学書院, 2000
- ◇ 2) 歯科放射線学:古本啓一, 岡野友宏, 小林馨編, 第 4 版, 医歯薬出版, 2010
- ◇ 3) 口腔画像診断アトラス:日本歯科放射線学会編, 医歯薬出版, 1998
- ◇ 4) 口腔画像診断の臨床:東与光, 生田裕之著, 第 2 版, 医歯薬出版, 1992
- ◇ 5) 歯科診療における放射線の管理と防護:日本歯科放射線学会・放射線防護委員会編, 新版, 医歯薬出版, 2009
- ◇ 6) 放射線基礎医学:菅原努監修, 改訂第 8 版, 金芳堂, 1996
- ◇ 7) 放射線科医のための放射線生物学:E.J.Hall 著 浦野宗保訳, 第 4 版, 篠原出版, 1995
- ◇ 8) Panoramic Radiography :O.E.Langland et al, 2nd ed. LEA & FEBIGFR, 1989
- ◇ 9) 人は放射線になぜ弱いのか:近藤宗平, 第 3 版, 講談社, 2000
- ◇ 10) 歯科診療における X 線診断の品質保証プログラム:佐々木武仁編, 医歯薬出版, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217307>

【連絡先】

- ⇒ 細木 (088-633-7362, hidehiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 高橋 (088-633-7362, takahasi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 森田 (morita-ys@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))

歯科放射線学 実習

1 単位 4 年 (後期)

Oral and Maxillofacial Radiology

菅田 栄一・教授 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 細木 秀彦・講師 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学)

高橋 章・講師 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 前田 直樹・助教 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 菅原 千恵子・助教 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学)

工藤 隆治・助教 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 森田 康彦・助教 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学)

【授業目的】 歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用について基礎的知識, 技能および態度を修得する。

- 【授業概要】 (1) エックス線の性質を理解する。
 (2) 歯科用エックス線フィルムの特徴を理解する。
 (3) 等長法による口内法エックス線撮影および正常解剖像を理解する。
 (4) パノラマおよび口外法エックス線撮影および正常解剖像を理解する。
 (5) 特殊検査の正常解剖像を理解する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習型式 実習書を配布する。

【授業場所】 第2 実習室, 診療室, 研究室

【授業テーマ】 歯科における電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用の基礎

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 放射線の種類と性質を説明できる。 <F-1-2>-①<
2. エックス線画像の形成原理を説明できる。(画像不良の原因を含む。) <F-1-2>-④<
3. エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 <F-1-2>-⑤<
4. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2>-⑥<
5. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い, 読影できる。 <F-1-2>-⑦<
6. 頭部エックス線撮影の種類及び適応を説明できる。 <F-1-2>-⑧<
7. 超音波装置, エックス線 CT および磁気共鳴撮像装置を用いた検査法の原理と基本的特徴を説明できる。 <F-1-2>-⑨<

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	エックス線撮影装置の発生するエックス線線量 散乱エックス線の線量分布	測定実習 測定実習	照射線量と管電圧・管電流・撮影時間・距離の関連 被写体周囲の散乱エックス線量の分布	1,3	全員
2.	エックス線透過量の物質による減弱 エックス線フィルムの特性曲線	”	エックス線透過量の物質による減弱感度, コントラスト, ラチチュード, ガンマ, 平均階調	2,3	”
3.	等長法による口内法エックス線撮影法	撮影実習	エックス線撮影(ファントム実習), デジタルデンタル実習	4,5	”
4.	顎顔面領域の画像診断 I 口内法およびパノラマエックス線撮影法	読影実習	撮影原理, 撮影法, 正常解剖像, スクリーニング法	”	”
5.	顎顔面領域の画像診断 II 単純エックス線写真(P-A 法, Waters 法) および特殊検査(頭部規格撮影法, 断層撮影法, 透視, CT, 超音波)	”	撮影原理, 撮影法, 正常解剖像	6,7	”

【成績評価】 レポートによる実習の理解, 実習態度, 出席状況を総合的に評価し, 60 点以上を合格とする。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 1) 標準歯科放射線学:西連寺永康監修, 第2 版, 医学書院, 2000
- ◇ 2) 歯科放射線学:古本啓一, 岡野友宏, 小林馨編, 第4 版, 医歯薬出版, 2010
- ◇ 3) 口腔画像診断アトラス:日本歯科放射線学会編, 医歯薬出版, 1998
- ◇ 4) 口腔画像診断の臨床:東与光, 生田裕之著, 第2 版, 医歯薬出版, 1992
- ◇ 5) 歯科診療における放射線の管理と防護:日本歯科放射線学会・放射線防護委員会編, 新版, 医歯薬出版, 2009
- ◇ 6) 放射線基礎医学:菅原努監修, 改訂第8 版, 金芳堂, 1996

- ◇ 7) 放射線科医のための放射線生物学:E.J.Hall 著 浦野宗保訳, 第4版, 篠原出版, 1995
- ◇ 8) Panoramic Radiography :O.E.Langland et al, 2nd ed. LEA & FEBIGER, 1989
- ◇ 9) 人は放射線になぜ弱いのか:近藤宗平, 第3版, 講談社, 2000
- ◇ 10) 歯科診療における X線診断の品質保証プログラム:佐々木武仁編, 医歯薬出版, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217305>

【連絡先】

- ⇒ 菅田 (honda@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・教授室/633-7360))
- ⇒ 細木 (088-633-7362, hidehiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 高橋 (088-633-7362, takahasi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 前田 (3020, 088-633-7361, maeda@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 菅原 (歯科放射線学講座第2研究室, 088-633-7362, sugawara@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 工藤 (3018, 088-633-7362, kudoh@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))
- ⇒ 森田 (morita-ys@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金の16:30~ 17:30/臨床B棟2F放射線・第2研究室))

歯科麻酔科学 A 講義

Dental Anesthesiology

1 単位 4 年 (前期)

北畑 洋・教授 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学), 富岡 重正・准教授 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学)

江口 寛・助教 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学), 高石 和美・助教 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学)

【授業目的】 侵襲に対する生体防御反応の病態生理を理解し, 肉体的苦痛を除去する方法を説明できる。また歯科治療中の安全管理と危機管理を理解し, 局所麻酔法を説明できる。

【授業概要】 治療行為は口腔領域への侵襲にとどまらず生体全体に影響を与える。この生体侵襲を制御して生体を防御する必要がある。防御反応や生体制御を理解するために病態生理と基礎医学的知識を修得する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 ビデオ, スライドを適宜用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 麻酔に必要な解剖学・生理学, 局所麻酔, 精神鎮静法

【履修上の注意】 1. 受講者は各回の内容項目と到達目標を参考にして事前に予習を行い, 学習した内容をノートにまとめる。 2. 受講者は毎回講義後に復習し, 学習成果をノートにまとめる。 3. 予習および復習内容の提出を求めることがある。 4. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。 5. 予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 歯科麻酔とは何か, その役割について理解する。 <F-1-3>
2. 歯科医療における安全性への配慮と危機管理を理解する。 <A-5-1>
3. 医療事故 (死亡事故を含む), 医療過誤などの可能性と対応を説明できる。 <A-5-2>
4. 医療事故に関連した法律 (行政処分, 民事責任, 刑事責任, 司法解剖) の基本的事項を説明できる。 <A-5-2>
5. 麻酔に関連した解剖について説明できる。 <D-2-3>
6. 呼吸機能について説明できる。 <D-2-3-(7)>
7. 循環器系の構造と機能について説明できる。 <D-2-3-(3)>
8. 脳神経系や末梢神経系の機能を説明できる。 <D-2-3-(5)>
9. 体液組成と酸-塩基平衡における緩衝系を説明できる。 <D-2-3-(9)>
10. バイタルサイン (血圧, 脈拍, 呼吸など) を列挙し, 説明できる。 <F-1-3-(1)>
11. 局所麻酔の目的, 種類と特徴, 合併症, 影響する因子を説明できる。 <F-1-3-(3)>

12. 血管収縮薬の種類と特徴を説明できる。 <F-1-3-(3)>

13. 局所麻酔の合併症を説明できる。 <F-1-3-(3)>

14. 精神鎮静法の目的と種類を説明でき, その適応と禁忌を説明できる。 <F-1-3-(2)>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	麻酔学総論	麻酔概論	麻酔の概念と役割, 歴史	1, 2	北畑
2.	〃	法と倫理	医事紛争と法律	3, 4	〃
3.	全身管理の基礎	麻酔に必要な解剖学	麻酔と解剖	5	富岡
4.	〃	麻酔に必要な生理学	麻酔と呼吸生理 (1)	6	北畑
5.	〃	〃	麻酔と呼吸生理 (2)	〃	〃
6.	〃	〃	麻酔と循環生理 (1)	7	〃
7.	〃	〃	麻酔と循環生理 (2)	〃	高石
8.	〃	〃	麻酔と神経生理	8	富岡
9.	〃	〃	水と電解質, 酸・塩基平衡	9	江口
10.	全身管理の臨床	バイタルサイン	血圧, 脈拍, 呼吸ほか	10	高石
11.	局所麻酔	局所麻酔薬	分類と薬理作用	11, 12	富岡
12.	〃	局所麻酔法	局所麻酔の種類	〃	〃
13.	〃	局所麻酔の合併症	原因, 診断, 処置	13	高石
14.	精神鎮静法	吸入鎮静法	亜酸化窒素 (笑気) 吸入鎮静法	14	江口
15.	〃	静脈内鎮静法	静脈内鎮静法の薬剤と臨床	〃	〃

【成績評価】 講義内容を中心に筆記試験 (マークシート方式) を行う。テスト (100 点満点) で 60 点以上を合格とする。出欠席状況も考慮する。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ 参考書: 歯科麻酔学 第 6 版, 医歯薬出版, 2003
- ◇ 参考書: 臨床歯科麻酔学 第 3 版, 永末書店, 2005
- ◇ 参考書: ミラー麻酔科学 第 6 版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007
- ◇ 参考書: Local Anesthesia of the Oral Cavity W.B.Saunders Co.1995

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217326>

【連絡先】

- ⇒ 北畑 (088-633-7366, hiroshi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月,水,木,金17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学教授室))
- ⇒ 富岡 (088-633-7367, tomioka@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月-金17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学准教授室))
- ⇒ 江口 (088-633-7367, seguchi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月,火,水,木17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学医局))
- ⇒ 高石 (088-633-7367, takaisi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月,火,木,金17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学医局))

歯科麻酔科学 B 講義
Dental Anesthesiology

1 単位 4 年 (後期)

北畑 洋・教授 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学), 富岡 重正・准教授 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学)
江口 寛・助教 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学), 高石 和美・助教 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学)

【授業目的】 侵襲に対する生体防御反応の病態生理を理解し, 肉体的苦痛を除去する方法を説明できる。また術前の患者の全身状態を適切に評価し説明できる。さらに, 精神鎮静法と全身麻酔法を理解し, 説明できる。

【授業概要】 臨床麻酔として精神鎮静法と全身麻酔を学ぶ。また歯科治療中の危機管理の知識を修得する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 ビデオ, スライドを適宜用いる。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 術前の患者評価, 全身麻酔, 麻酔中の全身管理法, 危機管理

【履修上の注意】 . 受講者は各回の内容項目と到達目標を参考にして事前に予習を行い, 学習した内容をノートにまとめる。 2. 受講者は毎回講義後に復習し, 学習成果をノートにまとめる。 3. 予習および復習内容の提出を求めることがある。 4. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。 5. 予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 麻酔前の患者の全身状態を把握できる。 <F-1-3>-(1)><F-1-3>-(4)>
2. 全身麻酔の目的や種類と特徴を説明できる。 <F-1-3>-(4)>
3. 吸入麻酔薬の薬理作用や特徴を理解する。 <F-1-3>-(1)>
4. 全身麻酔に用いる鎮静薬と鎮痛薬について理解する。 <F-1-3>-(1)>
5. 筋弛緩薬の作用機序と分類を述べることができる。 <F-1-3>-(1)>
6. 悪性高熱症の病態を説明できる。 <F-1-3>-(1)>
7. 全身麻酔の導入方法を理解する。 <F-1-3>-(1)>
8. 気道確保の概略とその方法について説明できる。 <F-1-3>-(1)>
9. 麻酔中に行われるモニタリングの目的や内容を理解する。 <F-1-3>-(1)>
10. 体液バランスと輸液療法について説明できる。 <D-2-3>-(9)>
11. 小児の全身管理の概略を理解し, その特殊性を述べることができる。 <F-4--3><F-1-3>-(1)>
12. 高齢者の身体的, 精神的及び心理的特徴を理解する。 <F-4--3><F-1-3>-(1)>

13. 歯科手術・治療中の全身状態に影響を及ぼす疾患を説明できる。 <F-1-3>-(1)>
14. 全身疾患を有する患者の麻酔管理上の注意を説明できる。 <F-1-3>-(1)>
15. 救急処置の基本を身につける。 <F-1-5>
16. 疼痛の種類, 発生機序及び制御機構・方法を理解する。 <D-4-6><F-2-4>-(6)>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	全身麻酔	術前管理	患者評価と術前検査	1	高石
2.	〃	吸入麻酔	吸入麻酔薬の薬理と代謝	2, 3	富岡
3.	〃	静脈麻酔	静脈麻酔薬の分類と薬理	2, 4	〃
4.	〃	筋弛緩薬	作用機序と分類	2, 5	江口
5.	〃	全身麻酔の合併症	循環系, 呼吸系, 神経系, 代謝系合併症	2, 6	〃
6.	〃	麻酔と機器	気道確保, 器具	7, 8	高石
7.	〃	〃	麻酔器, モニター	9	北畑
8.	〃	輸液	体液と輸液	10	江口
9.	〃	小児の麻酔	小児麻酔の特徴と問題点	11	北畑
10.	〃	高齢者の麻酔	高齢者麻酔の特徴と問題点	12	〃
11.	〃	有病者の管理	循環系疾患ほか	13, 14	〃
12.	〃	〃	呼吸系疾患ほか	〃	〃
13.	〃	〃	障害者, 精神疾患ほか	〃	高石
14.	危機管理	救急蘇生	一次救急処置と二次救急処置	15	〃
15.	ペインクリニック	神経性疾患	神経痛, 神経麻痺, 味覚障害	16	富岡

【成績評価】 講義内容を中心に筆記試験 (マークシート方式) を行う。テスト (100 点満点) で 60 点以上を合格とする。出欠席状況も考慮する。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ 参考書:歯科麻酔学 第6版, 医歯薬出版, 2003
- ◇ 参考書:臨床歯科麻酔学 第3版, 永末書店, 2005
- ◇ 参考書:ミラー麻酔科学 第6版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007
- ◇ 参考書:Local Anesthesia of the Oral Cavity W.B.Saunders Co.1995

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217327>

【連絡先】

- ⇒ 北畑 (088-633-7366, hiroshi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月,水,木,金17:00-18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学教授室))
- ⇒ 富岡 (088-633-7367, tomioka@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月-金17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学准教授室))
- ⇒ 江口 (088-633-7367, seguchi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月,火,水,木17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F 歯科麻酔科学医局))
- ⇒ 高石 (088-633-7367, takaisi@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (月,火,木,金17:00~ 18:00/生命科学研究棟3F歯科麻酔科学医局))

内科学(1)

1 単位 4 年 (前期)

Internal Medicine1

藤中雄一・講師/病院, 粟飯原賢一・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 遠藤逸朗・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 竹内恭子・助教/病院, 梶龍兒・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 佐藤健太・助教/病院, 松井尚子・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 和泉唯信・診療支援医師

【授業目的】血液学, 神経学, 内分泌代謝学を総論と各論にわけて教授する。目標はそれぞれの分野の基本的知識の修得である。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】月曜 4・5 時限 大講義室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

◇ 参考書: 「標準血液病学」池田康夫/押味和夫編 医学書院
 ◇ 参考書: 「臨床神経内科学」平山恵造編 南山堂
 ◇ 参考書: NIM 「内分泌・代謝病学」第 4 版 井村裕夫編 医学書院
 ◇ 参考書: 「歯科のための内科学」第 2 版 井田和徳/堂前尚規編 南江堂
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217263>

	大項目	担当
1.	血液学総論	竹内
2.	赤血球の異常	”
3.	白血球の異常	”
4.	血小板の異常	”
5.	血液凝固の異常	”
6.	神経学総論	梶
7.	神経症候学	”
8.	末梢神経疾患	佐藤
9.	中枢神経疾患	和泉
10.	筋疾患	松井
11.	糖尿病	粟飯原
12.	脂質, 尿酸代謝異常	”
13.	視床下部下垂体	”
14.	甲状腺, 副甲状腺疾患	遠藤
15.	副腎疾患	”

【成績評価】評価は筆記試験により行う。100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

内科学(2)

1 単位 4 年 (前期)

Internal Medicine2

岩瀬 俊・助教/病院, 添木 武・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 山田 博胤・講師/病院, 若槻 哲三・講師/病院

岡村 誠介・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 岡本 耕一・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 木村 哲夫・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

六車 直樹・講師/病院, 山口 浩司・助教/病院, 楠瀬 賢也・助教/病院, 竹中 英喬・特任助教/病院, 北村 晋志・医員/病院

【授業目的】 消化器および循環器疾患は内科学のなかでも特に頻度の高い領域である。本講義においてはそれらの基礎・臨床的な考え方と知識について教育する。また、消化器・循環器疾患のなかで歯科領域と強く関連した臨床的知識についても理解を深める。

◇ 教科書: 「コメディカルのための内科学」第3版 伊東進/森博愛 編著 医学出版社

◇ 「歯科のための内科学」第2版 井田和徳・堂前尚規編 南江堂

◇ プリント: 適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217264>

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 木曜3時限 大講義室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	担当
1.	消化器病学	食道疾患	食道炎, 食道癌, 食道静脈瘤	岡村
2.	〃	胃・十二指腸疾患	胃炎, 胃・十二指腸潰瘍, 胃癌	〃
3.	〃	肝疾患	ウイルス性肝炎, 肝硬変, 肝癌	竹中
4.	〃	胆道疾患		六車
5.	〃	消化管ホルモン		北村
6.	〃	膵疾患		岡本
7.	〃	小腸・大腸疾患		木村
8.	〃	歯科領域と消化器疾患		岡本
9~15.	循環器病学	総論	心臓・大血管の解剖と循環動態 心電図学	上記担当教員により適宜担当する。
	〃	各論	虚血性心疾患, 不整脈, 先天性心疾患 心臓弁膜症, 高血圧, 大動脈・末梢血管疾患	〃
	〃	歯科領域と循環器疾患		〃

【成績評価】 筆記試験及び講義時の評価点 100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

内科学(3)

1 単位 4 年 (前期)

Internal Medicine3

吾妻 雅彦・講師/病院, 岸 潤・助教/病院, 後東 久嗣・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

柿内 聡司・特任准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 東 桃代・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 豊田 優子・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

青野 純典・助教/病院, 埴淵 昌毅・講師/病院

【授業目的】呼吸器病学, 感染症学, 膠原病学, アレルギー学について総論と各論を教授する。目標はこれら疾患の基礎的知識の習得と理解を図ることである。

◇ 教科書: 内科学書 (中山書店)

◇ 教科書: 「歯科のための内科学」第 2 版 井田和徳/堂前尚規編 南江堂

【授業形式】講義

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217265>

【授業方法】講義

【授業場所】水曜 3 時限 大講義室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	感染症 1	上記担当教員により適宜担当する
2.	感染症 2	”
3.	禁 煙	”
4.	腫瘍性呼吸器疾患 1	”
5.	腫瘍性呼吸器疾患 2	”
6.	腫瘍性呼吸器疾患 3	”
7.	膠原病 1	”
8.	膠原病 2	”
9.	膠原病 3	”
10.	膠原病 4	”
11.	良性呼吸器疾患 1	”
12.	良性呼吸器疾患 2	”
13.	良性呼吸器疾患 3	”
14.	アレルギー 1	”
15.	アレルギー 2	”

【成績評価】評価は筆記試験により行う。100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

外科学 (1)

1 単位 4 年 (後期)

Surgery 1

兼松 康久・助教/病院, 溝淵 佳史・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 神原 保・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 田代 征記・, 寺嶋 吉保・
三好 康敬・非常勤講師, 佐々木 克哉・非常勤講師, 他

【授業目的】この授業では、外科学の基本的な疾患、特に消化器外科・小児外科領域の疾患についての理解を図り、歯科医師としての基礎的素養をする。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】月曜 3 時限 第 4 講義室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	担当
1. 総論	外科総論	炎症・代謝・栄養	上記担当教員が 適宜担当
2. 各論 (上部消化管)	胃十二指腸疾患の外科治療	胃癌・胃十二指腸潰瘍など	〃
3. 各論 (下部消化管)	小腸・大腸・肛門疾患の外科的治療	虫垂炎・腸重積・小腸腫瘍炎症性腸疾患	〃
4. 〃	〃	大腸癌・痔核・肛門周囲膿瘍など	〃
5. 各論 (肝・脾)	肝臓・脾疾患の外科的治療	肝硬変・肝癌 (1)	〃
6. 〃	〃	肝硬変・肝癌 (2)	〃
7. 各論 (胆道・膵)	胆道・膵疾患の外科的治療	胆石・胆道癌など	〃
8. 〃	〃	慢性膵炎・膵癌など	〃
9. 小児外科総論	小児外科総論	総論	〃
10. 小児外科各論	小児外科疾患の診断と治療	そけいヘルニア, 食道閉鎖, 胆道閉鎖症など	〃
11. 〃	〃	先天性胆管拡張症・鎖肛など	〃
12. 脳外科	脳神経外科総論	脳神経外科総論	〃
13. 〃	脳卒中と脳腫瘍	脳卒中と脳腫瘍各論	〃
14. 心臓血管外科	心臓血管外科総論	冠動脈疾患, 弁膜症	〃
15. 〃	心臓血管外科と歯科治療	感染症心内膜炎, 抗凝固療法	〃

【成績評価】1. 全講義終了後、筆記試験を行い、必要最低限の知識が備わっているかチェックし評価する。

2. 学力不十分と判断された学生に対しては、さらに学習を求め、不十分な領

域のレポート提出などを課し、最終的に評価する。
100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇ 教科書, 参考書: 「歯科医のための外科学」(野口政宏・亀井秀雄編集, 医歯薬出版)
- ◇ 「新標準外科学」(中村紀夫・阿部令彦・堀原一・森岡恭彦編集, 医学書院)
- ◇ 「標準外科学」(11 版 医学書院)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217283>

外科学(2)

1 単位 4 年 (後期)

Surgery2

先山正二・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 監崎孝一郎・講師/病院, 滝沢宏光・講師/病院, 山本洋太・助教/病院
鳥羽博明・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 中川靖士・助教/病院, 中川美砂子・医員/病院

【授業目的】胸部・内分泌・腫瘍外科学(旧第2外科学)は専門分野として胸部外科, 内分泌外科, 消化器外科(食道)を受け持っている。よって, 胸部, 内分泌, 消化器などの各臓器の解剖, 生理機能, 組織病理を講義するとともに臨床における診断治療(主に手術について)も講義し, できるだけ歯学部の学生に興味のある内容を講義するよう努めている。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】金曜3時限 第4講義室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	外科総論	消毒方法, 外科的処置	先山
2.	”	腫瘍学	監崎
3.	”	Surgical Stress	先山
4.	”	創傷治癒	中川靖士
5.	”	救急治療	”
6.	呼吸器	肺の発生, 解剖	監崎
7.	”	呼吸生理	先山
8.	”	肺の炎症性疾患	鳥羽
9.	”	肺癌の病理, 診断, 治療	監崎
10.	乳腺	乳癌の病理, 診断, 治療	中川美砂子
11.	甲状腺	甲状腺結節の病理, 診断, 治療	滝沢
12.	”	甲状腺機能亢進症の診断, 治療	”
13.	食道, 横隔膜	解剖, 生理	山本
14.	食道疾患	非腫瘍性疾患の診断, 治療	”
15.	”	食道癌の診断, 治療	”

【成績評価】主に, 筆記試験を評価の対象としているが, 出席点も加味している。評価は筆記試験により行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】教科書: 「標準外科学」(医学書院 11 版)とするが, 基本的には各担当講師に任せている。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217284>

小児科学 (隣接医学 C)

5年 (前期)

森 健治・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 近藤 秀治・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 小谷 裕美子・助教 / 病院

【授業目的】小児科学の全般を総論と各論に分けて小児の成長・発達及び小児疾患について教授する。

目標は小児の保健学と治療小児科学の知識を修得させる。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】火曜 1 時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	小児科学序説 小児の特質	小児の正常発達, 成長とその障害	小谷
2.	発達障害	自閉症, 学習障害, 精神遅滞など	森
3.	感染と腎疾患その他	小児の感染症, ゆ液, 腎疾患, 心疾患	近藤
4.	神経・筋疾患	てんかん, 運動障害など	森

【成績評価】評価は筆記試験により行う。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】教科書: 小児科学 標準小児科学 ネルソン小児科学 最新育児小児病学

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217289>

【備考】授業内容は出席の状況に応じて変更します。

神経精神医学 (隣接医学 B)

5 年 (前期)

大森 哲郎・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】精神疾患を持つ患者の診察に際して必要となる面接方法，精神症状の捉え方，各疾患の臨床像，治療，予後についての知識を習得することを目的とする。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】火曜 2 時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	総論『症状，面接法，診断』	大森以下医学部精神医学教員が担当する。
2.	気分障害	”
3.	統合失調症	”
4.	神経症性障害，器質性障害	”

【成績評価】試験又はレポートによる。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇教科書: 精神医学ハンドブック 山下 格 日本評論社 2,300 円
- ◇教科書: 標準精神医学 野村総一郎・樋口輝彦 医学書院 6,500 円
- ◇教科書: 現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版 7,500 円

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217351>

臨床検査医学 (隣接医学 C)

5年 (前期)

土井 俊夫・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 安部 秀斉・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 長井 幸二郎・講師/病院

松浦 元一・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 野間 喜彦・非常勤講師, 水野 昭・非常勤講師

【授業目的】 歯学部の4年生を対象として, 検体検査 (一般検査, 血液形態検査, 止血凝固検査, 生化学検査, 免疫血清検査) の意義と実践, また, その測定値の読み方を教育する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 月曜3時限 大講義室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	臨床検査医学総論 1	土井
2.	臨床検査医学総論 2	野間
3.	血液検査	水野
4.	細菌検査	”
5.	遺伝子検査	長井
6.	生化学検査	松浦
7.	免疫血清検査	安部
8.	腎臓内科学	土井

【成績評価】 評価は筆記試験もしくは授業内容からの課題に対するレポート提出により行い, その認識度を判定する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

◇教科書: 臨床検査ガイド 2009-2010

◇教科書: 最新内科学大系 (第4巻): 臨床検査

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217364>

皮膚科学 (隣接医学 A)

5年 (前期)

石上剛史・助教/病院, 村尾和俊・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 宮島修・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 古北一泰・助教/病院

【授業目的】皮膚科学の総論と口腔粘膜病変を伴う皮膚疾患と皮膚感染症とを教育し、認識させる。講義形態で行う。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】火曜2時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	内容	担当
1.	皮膚の構造と機能 (口腔粘膜と比較して), 口腔粘膜病変を伴う皮膚疾患 (1. 主要症状と診断学 2. ウイルス性疾患 3. 水疱症 4. その他)	石上
2.	湿疹, 皮膚炎群	村尾
3.	発疹学, 梅毒とその血清学的検査法	宮島
4.	薬疹	古北

【成績評価】評価は筆記試験またはレポートにより,その認識度を判定する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇教科書: MINOR TEXTBOOK シリーズの「皮膚科学」
- ◇教科書:標準皮膚科学

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217345>

整形外科学 (隣接医学 B)

5年 (前期)

加藤 真介・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 高田 信二郎・准教授 / 病院, 江川 洋史・講師 / 病院, 松浦 哲也・講師 / 病院

【授業目的】 整形外科は、運動器を担当しており、分担範囲は、脊椎、脊髄、末梢神経、骨・関節、筋と多岐にわたっている。治療も保存的治療、外科的治療と広範囲に及ぶ、高いQOLが求められる現代生活において移動の自由を保障する運動器の健康は必須のものといえる。主として臓器別に、自らが経験するであろう身近な疾患を中心に講義を進める。講義内容についてはプリントを用意する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 火曜 1 時限 示説室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	整形外科総論 診断学・治療学, 脊椎疾患	加藤
2.	骨代謝, 義肢装具・リハビリ	高田
3.	関節疾患, 感染	江川
4.	関節疾患, スポーツ障害	松浦

【成績評価】 評価は筆記試験またはレポートにより行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】 参考書: 標準整形外科学 寺山和雄 編集 第8判 医学書院

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217291>

耳鼻咽喉科学 (隣接医学 A)

5年 (前期)

田村 公一・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 阿部 晃治・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 関根 和教・講師 / 病院, 北村 嘉章・講師 / 病院

【授業目的】耳鼻咽喉科・頭頸部外科対象領域の諸器官は、聴覚をはじめ多種類の感覚を成立させるとともに、言葉によるコミュニケーションを実現させるための場にもなっており、ヒトの生物学的および社会的存在のために大きな役割を演じている。こうした特性をふまえて、この領域における諸疾患の診断、治療ならびに予防についての知識を修得させることを目標とする。講義形式で行う。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】木曜 1 時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	音声言語障害	田村
2.	耳疾患	北村
3.	めまい疾患	関根
4.	鼻副鼻腔疾患	北村
5.	咽喉頭疾患	阿部

【成績評価】評価は筆記試験より、認識度を判定する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。再試験後のレポート、再々試験は行わない。

【教科書】教科書: 切替一郎他編「新耳鼻咽喉科学」第10版, 南山堂

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217361>

【備考】授業内容ならびに回数は、予告なく変更されることがある。

産科婦人科学 (隣接医学 B)

5年 (前期)

山本 哲史・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 加地 剛・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 田中 優・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

吉田 加奈子・助教/病院

【授業目的】産科婦人科学は、妊娠、出産を学ぶ産科学と、女性の内分泌動態や生殖器の腫瘍性疾患等を学ぶ婦人科学に分かれる。すなわち、出生、成熟、妊娠、出産、老化という女性の一生を対象とする学問である。産科婦人科学の基本的知識の習得を目指す。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】水曜1時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	産婦人科概論	女性性器の構造, 産婦人科診察法	山本
2.	性功能と内分泌疾患	視床下部-下垂体-卵巣系, 月経異常, 婦人科内分泌疾患	田中
3.	妊娠の生理	妊娠の成立, 妊娠の診断	吉田
4.	分娩・産褥の生理	分娩・産褥の生理, 妊娠・授乳中の薬物投与について	加地

【成績評価】評価は筆記試験ないしはレポート提出により行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】プリント等を使用

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217339>

眼科学 (隣接医学 A)

5年 (前期)

四宮 加容・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 江川 麻理子・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 長澤 利彦・助教 / 病院, 井上 昌幸・助教 / 病院

【授業目的】眼科学の全般を、総論1回と各論3回に分け教授する。総論は、眼球および視覚路の解剖、生理機能および検査法について述べる。各論は、眼球を主体とした各組織の疾患について解説する。これらを通し眼科学の知識、視覚の大切さを修得させる。また、医療従事者として、知っておく必要がある伝染性眼疾患、視覚障害者の誘導法について学ぶ。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】火曜2時限・示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	内容	担当
1~4.	眼球および視覚路の解剖、生理 検査法、診断学 眼瞼、涙器、結膜、強膜疾患 角膜、虹彩毛様体疾患および緑内障 ぶどう膜、硝子体、網膜疾患 視神経、眼窩、眼筋、全身病と眼 歯科医の必須眼科学	上記担当教員により適宜 分担する。

【成績評価】評価は筆記試験により行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇・エッセンシャル眼科学
- ◇・イラスト眼科
- ◇・現代の眼科学

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217346>

泌尿器科学 (隣接医学 B)

5年 (前期)

福森 知治・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 高橋 正幸・講師 / 病院, 井崎 博文・講師 / 病院, 中達 弘能・助教 / 病院

【授業目的】泌尿器科学を総論と各論に分ける。総論においては、解剖・生理、症状・症候、泌尿器科的検査について概説する。各論においては、代表的疾患として、腫瘍、結石、感染、排尿障害をきたす疾患について講義する。泌尿器科に特異的な、尿路および男性生殖器の生理機能、疾患、検査法、治療法についての理解を深めることを目標とする。

歯学部の学生にとって泌尿器科には今後接する機会が少ないと考えられるが、患者を治療する上では、腎機能障害等知っておかなければならないことも多く、基本的な知識については特に習熟して欲しい。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】火曜、水曜、木曜の1時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	担当
1.	総論	・手術	尿路性器の解剖・手術	井崎
2.	尿路結石症, 尿路性器感染症		疫学, 基礎, 症候, 診断, 治療, 症状, 検査, 治療, 抗生物質	中達
3.	小児泌尿器科		包茎, 停留精巣, 逆流性腎症	高橋
4.	尿路性器腫瘍		腎腫瘍, 尿路上皮腫瘍, 前立腺腫瘍, 精巣腫瘍	福森

【成績評価】評価は筆記試験ないしはレポート提出により行う。

100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】教科書: 標準泌尿器科学 (小磯謙吉監修, 医学書院)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217329>

栄養学(隣接医学 C)

5年(前期)

二川 健・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 竹谷 豊・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 奥村 裕司・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】栄養学は、食物とヒトの相互作用を研究する学問であり、大きく基礎栄養学、臨床栄養学及び公衆栄養学に分けることが出来る。講義時間が限られているので、栄養学のトピックスについて取り上げることをとする。

【授業形式】講義

【授業方法】講義(スライド、プリント)

【授業場所】水曜2時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	骨・筋肉の老化と栄養学	老化の学説、骨と筋肉の萎縮、栄養による老化の修飾	二川
2.	癌と栄養	癌の病態と栄養管理について	奥村
3.	肥満・糖尿病	肥満・糖尿病の病態と栄養管理について	竹谷
4.	機能性食品とその活用	生活習慣病を標的として機能性食品の現状と活用法について	〃

【成績評価】評価は筆記試験により行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇ 「最新栄養学」第8版 木村修一・小林修平翻訳監修, 建帛社
- ◇ 「臨床病態栄養学」武田英二著, 文光堂
- ◇ 「健康・栄養食品アドバイザースタッフ, テキストブック」国立健康・栄養研究所監修, 第一出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217294>

医事法制/法医学 (隣接医学 C)

5年 (前期)

西村 明儒・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 医事法制は医事に関する法規や制度などを研究することによって、医療の完全実施を図ろうとするもので、医療関係者が法規や制度に対する認識を深めることにより、医療や看護の万全を期し、不慮の事故を未然に防止しようとするものである。歯学・医学本来の目的は、人類の健康を保持し、疾病の災厄を除去または軽減し、人類共存共栄の実をあげようとするにある。社会制度としていかにこれを取扱うかによって大きな影響を受ける。歯学・医学と法律制度との密接な関係をみることができる。

法医学とは、医学的解明、助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学であると定義されている。歯学・医学における法医学の意義を考える。歯科医師国家試験に必ず出題されるので、取りのがしのないように取り組んでください。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 水曜 1 時限・2 時限 示説室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	医事法制総論	法とは、診療行為と法	西村
2.	歯科医師の職務規範	歯科医師・患者間の人間関係を支える 2 大義務 診療 (技術) 遂行上の 2 大義務	”
3.	法と医の接点	安楽死、尊厳死、先端医療	”
4.	法医学概論	法医学とは、法医解剖、法医診断学	”

【成績評価】 1) 筆記試験 (2/3 以上の出席がなければ本再試ともに受験できない)。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

2) 学力不十分と判断された学生に対しては、再筆記試験、口頭試問等によって最終的に評価する。

3) 試験日程は、後日相談する。

【再試験】 行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217268>

【備考】 担当者及び授業日程については、別途通知する。

臨床心理学

Clinical Psychology

1 単位 3 年 (後期)

佐藤 健二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 原 幸一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
 境 泉洋・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 内海 千種・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
 福森 崇貴・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】臨床心理学の理論と実際の基礎を学習することを目標とする。

【授業概要】他者の気持ちを理解し、共感し、自分の気持ち、考えを伝える能力は、患者、他職種とのコミュニケーションの上で、非常に重要である。また、心と身体は密接につながっており、身体的問題の理解に際して、その心理的側面の理解は不可欠である。したがって「心の問題」の理解と制御を扱う臨床心理学の基礎の習得は、ヘルスバイオサイエンスを基盤とする医学、歯学、薬学、栄養学、保健学領域において重要と言える。そこで、本講義では、臨床心理学の定義、対象、方法(代表的な心理検査、心理療法)について、初学者を考慮して、その基礎を概説する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式。映像教材などを用いて、臨床心理学の理論と実際の基礎を学ぶ。

【授業場所】常三島キャンパス総合科学部 1 号館または共通教育 5 号館 (未定)

【履修上の注意】本講義は、歯学科、口腔保健学科、保健学科、栄養学科、薬学科との合同の集中講義である。私語厳禁(他の受講生に迷惑)。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応) 臨床心理学の理論と実際の基礎を理解する

【授業計画】

	大項目	中項目	担当
1.	臨床心理学とその対象	不安障害など	佐藤
2.	臨床心理学における測定方法	質問紙法、投映法など	福森
3.	無意識を重視する心理療法	催眠療法、精神分析、分析心理学	原
4.	すべての心理療法の基礎	クライアント中心療法	〃
5.	発達障害とその支援		〃
6.	臨床心理学的コミュニケーション総説	非言語的コミュニケーション	福森
7.	〃	言語的コミュニケーション	〃
8.	行動療法	系統的脱感作法、オペラント技法	境
9.	不登校・ひきこもりへの支援		〃
10.	非行への支援		〃

11.	うつ病に対する認知療法, 認知行動療法		佐藤
12.	心身症に対する認知行動療法	摂食障害, 歯科心身症等	〃
13.	外傷経験時の心理的問題とその支援	概説	内海
14.	外傷後ストレス障害への心理療法	持続エクスポージャー法を中心に	〃
15.	遊戯療法	虐待, 外傷後ストレス障害との関連において	〃
16.	試験		佐藤・内海

【成績評価】筆記試験。100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇教科書:使用しない。
- ◇参考書:適宜, 紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217363>

【連絡先】

⇒ satoken@ias.tokushima-u.ac.jp

医学細胞生物学・人類遺伝学

1 単位 (必修) 3 年 (後期)

Human Genetics

片桐 豊雅・教授/疾患ゲノム研究センター, 親泊 政一・教授/疾患ゲノム研究センター, 小迫 英尊・准教授/疾患酵素学研究センター

坂井 隆志・准教授/疾患酵素学研究センター, 真板 宣夫・准教授/疾患酵素学研究センター, 高橋 永一・非常勤講師/医科学教育部, 谷上 信・非常勤講師/医科学教育部

【授業目的】 1. 医学における遺伝学及び細胞生物学の基本的概念を習得する。
 2. 遺伝子発現調節機構がどのように個体発生や疾患に関与するかを解説する。
 3. 細胞内シグナル伝達ネットワークにおける蛋白質の翻訳後修飾 (リン酸化・ユビキチン化・SUMO 化など) の役割について解説する。 4. 静的なゲノム一次配列情報を基にどのような動的な蛋白質や機能的 RNA (小分子 RNA やノンコーディング RNA など) の多様性が生み出されるかを解説する。 5. 疾患感受性や薬剤感受性などのヒトゲノムの多様性から個別化医療についても解説する。

【授業概要】 1953 年にワトソン・クリックにより DNA の二重らせん構造が解明され, そのわずか 50 年後の 2003 年, ヒトゲノム全塩基配列が決定された。その結果, ヒトの蛋白質をコードする遺伝子の数は従来の予測を大きく下回り 22000-23000 個程度であり, 線虫 (約 19000 個), ショウジョウバエ (約 20000 個) と比較してもほとんど変わらないことがわかった。これは, 遺伝子以外のゲノム領域が重要な役割を有することを意味するものである。近年, ヒトゲノムの大部分が転写されていることがわかり, その 98% 以上がノンコーディング RNA という蛋白質へ翻訳されずに機能する RNA であることが発見され, これまでの「DNA→RNA→蛋白質」という古典的なセントラルドグマでは説明のつかない複雑な分子機構が存在することもわかってきている。また, 蛋白質の翻訳後修飾の変化が, 細胞内シグナル伝達および細胞機能制御に極めて重要であることも明らかとなっている。さらに, 塩基配列決定に関するテクノロジーの発展により, 膨大なヒトゲノムの多様性のデータベース化が進み, 遺伝学的多様性が疾患の罹患性や治療効果にどのように影響しているかも明らかになり, 個別化医療が着目されてきている。このように, ヒトゲノム情報科学は将来の生命科学の基盤となり, 細胞生物学や情報科学などの周辺科学や産業などの社会へ大きく影響するものである。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義, スライド

【授業場所】 月曜 2 時限 第 3 講義室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

大項目	内容	担当
1. 疾患の遺伝学	ヒトの遺伝性疾患 (特に腫瘍の遺伝学)	片桐

2.	〃	分子病理学 (遺伝子的変化と臨床表現型の関連)	〃
3.	〃	分子レベルからみるがん診断研究	〃
4.	医学細胞生物学 1	タンパク質のリン酸化を介した細胞内での情報伝達機構	小迫
5.	医学細胞生物学 2	肝がん発症の分子機構 (主に NF-κB 経路を中心として)	坂井
6.	医学細胞生物学 3	ユビキチン及び SUMO によるタンパク質の翻訳後修飾	真板
7.	遺伝子発現	転写調節	親泊
8.	〃	転写後調節	〃
9.	〃	翻訳後修飾	〃
10.	細胞遺伝学	遺伝的多様性と染色体 I	高橋
11.	細胞遺伝学	遺伝的多様性と染色体 II	〃
12.	ゲノム解析学	ゲノム解析学の基礎	谷上
13.	〃	ヒトのゲノム解析 (先天性疾患の解析)	〃
14.	〃	モデル動物のゲノム解析 (QTL 解析)	〃
15.	〃	ゲノム薬理学, 遺伝病の治療	〃

【成績評価】 毎回レポートにより判定, 100 点満点で 60 点以上を合格とする。出席率が 2/3 以上を満たさない者は原則としてレポート提出を認めない。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ Genes Benjamin Lewin Oxford University Press
- ◇ Developmental Biology Scott F.Gilbert Sinauer
- ◇ Molecular Cell Biology Lodish et al. Scientific American BookS
- ◇ Molecular Biology of the Cell Alberts et al Garland
- ◇ Genetics in Medicine Robert L Nussbaum et al. Thompsons and Thompsons
- ◇ (それぞれ日本語訳もできています。図書館にもあります。)
- ◇ ヒトの分子遺伝学第 3 版 メディカルサイエンスインターナショナル

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217261>

【連絡先】

⇒ 片桐 (tkatagi@genome.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#)

⇒ 親泊 (4 階 408 室, 088-633-9450, oyadomar@genome.tokushima-u.ac.jp)

[MAIL](#)

⇒ 高橋 .

⇒ 谷上 .

⇒ 小迫 (088-633-9414, kosako@ier.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#)

【備考】 日程等の詳細については別途通知する.

口腔と健康

1 単位 1 年 (前期)

Oral function for health

徳島大学病院副院長 / 病院, 徳島大学病院 (歯科部門) 教授, 他

【授業目的】 1) 歯科医学・歯科医療とは何か, 2) 診療各科の現状と将来展望等について臨床各研究室 (部) 教授等により教授する。歯科医学・歯科医療を, 「人間学」として広い視野で, 疾病医療と保健医療の両面からとらえることができるようになることを目標とする。

【授業概要】 「健康」とは何か? 世界保健機構 (WHO) の定義の問題点を検討し健康について考えてみる。
 また, 現在の歯科医療を紹介しながら健康における口腔機能の役割を検討する。「食えること」「会話を通して人とコミュニケーションをとること」などが人間の尊厳を保つ上で大きな役割を担っていることから生活の質 (QOL) を豊かにする上での口腔機能の重要性を理解する。さらに先端的歯科医療の現状と将来の歯科医療についても紹介する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 金曜 2 時限 第 1 講義室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	口の働きと健康	徳島大学病院副院長
2.	口腔疾患の予防と全身の健康の保持・増進	予防歯科学担当教授
3.	内因性感染症としての齲蝕-そのとらえ方と治療法-	歯科保存学第一担当教授
4.	歯周病のはなし	歯科保存学第二担当教授
5.	義歯からインプラントへ, 噛むことからしゃべることへ	歯科補綴学第一担当教授
6.	歯科補綴の概説, CrBr に関する歯学史	歯科補綴学第二担当教授
7.	口腔内科疾患について	口腔外科学第一(口腔内科) 担当教授
8.	口腔外科疾患について	口腔外科学第二(口腔外科) 担当教授
9.	不正咬合と矯正治療	歯科矯正学担当教授
10.	健康児, 障害児および有病児の歯科医学, 歯科医療	小児歯科学担当教授
11.	歯科における画像診断	歯科放射線学担当教授
12~13.	歯科治療における麻酔の役割	歯科麻酔学担当教授
14~15.	顎顔面領域の補綴治療	総合診療歯科学担当教授

【成績評価】 評価は出席状況と筆記試験の結果によって評価する。試験は, 100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】 教科書は使用しない。随時プリントを配布する。随時スライドを使用する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217271>

歯科臨床示説

Dentistry Clinical Seminar

2単位 6年(通年)

臨床系研究室・診療科等教員

【授業目的】 歯科臨床示説は、臨床研究室・診療科等の教員がそれぞれの専門分野の臨床症例を主にスライドなどで提示しながら、病態、診断、治療、経過等について実践的な面からの講義を行う。この講義を通じて、学生諸君が日々行っている臨床実習内容を实际的に把握するとともに、関連臨床知識の理解を深めることを目的とする。

方法としては、各担当科が2～3回ずつ担当し、計30回の示説を行う。

【授業概要】 講義日程表は、別途に配布する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 前期・金曜4時限 示説室、後期・月及び金曜4時限 示説室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【成績評価】 評価は筆記試験により行う。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217315>

歯学概論

1 単位 1 年 (後期)

Outline of Dental Science

学部長 / 歯学部, 8 基礎系研究室教授

【授業目的】この歯学概論では、歯科医療を支える基礎医学・歯学に焦点をしばって講義を行い、これから歯科医学、歯科医療を学ぶ歯学部学生としての自覚と意識を高めることを目的とする。歯科医学では、口腔顎顔面の構造と機能、ならびにこれらの領域に発生する疾患の病因、病態、治療、予防、さらには、他領域の疾患に随伴する障害、リハビリテーションとケアに関連する研究が行われている。口腔顎顔面領域は、全身各部位と緊密に関連していると同時に、その独自性も有する。この歯学概論では医学・生物学の基本的な知見に基づいて構築されている部分と固有の部分について講義をおこなう。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】後期 木曜 1 時限 共通講義室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	歯科医学の概要	歯学部長
2.	口腔とその周辺の構造	口腔解剖学第一 (担当研究室)
3.	歯の種類とその組織学的構造についての概説	口腔解剖学第二 (担当研究室)
4~5.	唾液腺の構造と機能並びに分泌調節	口腔生理学 (担当研究室)
6~7.	顎顔面領域の形態形成における遺伝子の働き	口腔生化学 (担当研究室)
8~9.	ヒトの死に至る病気、口腔の難病、老化と性差について概説	口腔病理学 (担当研究室)
10~11.	感染症をひきおこす病原微生物およびヒトの防御機構について	口腔細菌学 (担当研究室)
12~13.	全身疾患と口腔内疾患の関連	歯科薬理学 (担当研究室)
14~15.	バイオマテリアル概説、その成形法と生体内での挙動	歯科理工学 (担当研究室)

【成績評価】評価は筆記試験により行う。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】使用しない。随時プリントを配布する。授業に参考となる著書、論文は、授業中に随時知らせる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217297>

早期体験実習

Early Exposure

2単位 2年(前期)

河野 文昭・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 他

【授業目的】 早期体験実習は、歯学部に入學して間もない学生を対象に、早期に歯科医師としての自覚や倫理感をもたせるとともに、実際の歯科医療の現場を見学することによって、これから学ぶ歯科基礎および臨床科目に対する学習意欲の向上をめざすことを目的として、平成6年度から導入された科目である。
方法としては、1グループ4人の班に分かれて、毎週金曜日の午前、徳島大学病院(歯科部門)の13診療科(部)等を1診療科ずつ13週かけて廻り、歯科臨床の概要を把握する。更に、実習日の1日は高齢者福祉施設において口腔保健学科教員が行う「お口の健康長寿教室」に同行し、教員の補助を行う。
一般目標
 歯科医療全般を理解し、医療人としての目的意識を持つために、歯科臨床外来を見学・体験する。
 行動目標(到達目標)
 1) 各診療室外来における歯科治療の概要を説明する。
 2) 診療室での院内感染対策の概要を説明する。
 3) 診療室での医療安全対策の概要を説明する。
 4) 歯科診療におけるチーム医療を説明する。
 5) 歯科学の基礎的知識と歯科臨床との結びつきを概説する。
 6) 歯科医師、歯科衛生士になるために必要な事項の要点を概説する。
 7) 医療人としての目標を概ね設定する。
 8) 基本的マナーを守る。
 9) コミュニケーション力を養う。
 10) ホスピタリティー・マインドをもって対応する。

【授業概要】 各診療科(部)で、下表の実習カリキュラムを用意している。班分け表ならびに日程表は別途に配布する。4月上旬に説明会を行う。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習

【授業場所】 徳島大学病院歯科診療棟, 学外高齢者福祉施設

【授業計画】

	大項目	担当
1.	病院での実習の心がまえ	副病院長
2.	歯科医師となる自覚を促すため、保存診療の見学および補助を行う	歯科保存学第一
3.	保存診療の概略説明およびブランクコントロール相互実習	歯科保存学第二
4.	総義歯治療の流れ(スライド), 臨床見学	歯科補綴学第一
5.	補綴科の診療見学, 簡単な印象採得および模型製作	歯科補綴学第二
6.	外来および病棟での診療の見学, 口腔内科疾患について概説	口腔外科学第一(口腔内科)
7.	口腔外科的疾患の概要をスライドで説明し, 外来・病棟を見学する	口腔外科学第二(口腔外科)

8.	矯正科外来見学と矯正治療の概説	歯科矯正学
9.	小児歯科学概論説明, 小児歯科診療室見学・体験, 心理テストの実施	小児歯科学
10.	歯科における画像診断, 外来見学	歯科放射線学
11.	全身疾患を有する患者の歯科治療を見学	歯科麻酔学
12.	総合歯科診療部での歯科治療の見学	総合診療歯科学
13.	高次歯科診療部における治療の見学	高次歯科診療部
14.	歯科衛生室における口腔疾患予防と口腔健康管理の見学	歯科衛生室
15.	地域福祉体験学習(「お口の健康長寿教室」における補助)	口腔保健学科

【成績評価】 体験内容についての日誌およびレポートを提出し、それを評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217292>

【備考】 1~15回:班分け表, 日程表並びに地域福祉体験学習に関する詳細は別途配布する。4月上旬に説明会を行う。

研究基礎ゼミ

Practice in Basic Sciences

4単位 3年(後期)

基礎系研究室教員, 臨床系研究室・診療科(部)教員

【授業目的】研究基礎ゼミは、歯学科の研究室(診療室を含む)に学生が実際に入りしながらか研究生活の一端を体験し、人的交流をはかることによって全人教育をめざすことを目的とする科目である(平成7年度より実施)。このゼミを通じて、専門英語論文の読解力の向上、研究や臨床における問題点の提起あるいは問題解決能力の育成など、自ら考えることのできる機会を学生に与えるとともに、この科目が基礎科目や臨床科目を学ぶにあたっての勉学意欲の向上や将来研究者を目指す学生への動機付けの場となることを期待する。方法として、学生を20研究室に固定配属する(各研究室2~3人)。学生の配属先は学生の希望を考慮して教務委員会で決定する。

【授業概要】学生の希望調査に先立ち、研究基礎ゼミで具体的にどのようなことを行うのかを綴った「研究基礎ゼミの実施概要」(教室紹介)を学生に配付し、説明会を行う。

【授業場所】各配属研究室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【成績評価】試験を行う。試験方法については、各研究室に一任する。

【再試験】行う。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217347>

歯科英語

1 単位 3 年 (後期)

Dental English

羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学), 野間 隆文・教授 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学)
吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 永田 俊彦・教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)

【授業目的】 全学共通教育で修得した英語を更に進めて、英語で書かれた歯学に関する研究発表を学習し、自ら進んでこれらの論文を読む姿勢を養うことを目的とする。また、国際化に対応すべく、外国人その他に英語で自らの意見を説明するのに慣れることを目的とする。

【授業概要】 15 回の授業を、講義形式の授業と個別授業のふたつに分ける。講義形式の授業は簡単なテキストを用いてより基礎的な歯学英語全般について学習する。また、実際の歯科臨床に即した英語の聞き取りの基礎を修得する。個別授業は 2~3 名を各研究室に配属し、各研究室の専門領域の英語原著論文を精読し、セミナー形式で発表する。この際、専門用語について学習するとともに、その用語を利用出来るよう指導する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 第 1 回から第 11 回までは講義形式、第 12 回から第 15 回までは研究基礎ゼミの担当研究室で各研究室の判断で行う。

【授業場所】 第 1 講義室

【授業テーマ】 リサーチマインドを備えた歯科医師および国際化に対応できる歯科医師を養成するために必要な専門英語の基礎知識を養う。

【履修上の注意】

1. 受講者は、次回の講義内容についての予習が必要である。また、復習のための課題を課すことがある。
2. 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 歯科専門用語を英語で述べることができる。
2. 英語の原著論文や総説等を読み、理解することができる。
3. 英語を通して、歯科医学および生物学的事象を説明することができる。
4. 英語版科学映画を観て、その内容を理解することができる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 歯科英語概説	歯学英語学習の目的	なぜ歯学英語を学習するか、どのように学習するかを概説する。	1,2	吉本
2. 歯科英語の基礎	歯学英語の特徴	一般英語と歯学英語の相違の概説歯学英語で用いられる用語の解説	”	羽地
3. ”	”	(1) 接頭語, 接尾語	”	”

4.	”	”	(2) 特に特徴的な用語	”	”
5.	英語教科書の精読	歯学英語の実践	英語の教科書の精読 (1)	1,2,3	野間
6.	”	”	英語の教科書の精読 (2)	”	”
7.	”	”	英語の教科書の精読 (3)	”	”
8.	”	”	英語の教科書の精読 (4)	”	吉本
9.	”	”	英語の教科書の精読 (5)	”	”
10.	”	”	英語の教科書の精読 (6)	”	”
11.	科学英語	科学英語の実践	科学映画の英語版の聞き取り	4	永田
12.	歯科論文精読	論文精読の実践	歯学論文の精読 (1)	1,2,3	各研究室
13.	”	”	歯学論文の精読 (2)	”	”
14.	”	”	歯学論文の精読 (3)	”	”
15.	”	”	歯学論文の精読 (4)	”	”

【成績評価】 定期試験 (70 点), レポート等 (30 点) により総合的に判断する。

【再試験】 行う。

【教科書】 プリント等を用いる

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217316>

【連絡先】

- ⇒ 羽地 (088-633-7321, tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/4F 口腔解剖学第二・教授室))
- ⇒ 野間 (088-633-7325, ntaka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/5F 口腔生化学・第一研究室))
- ⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/5F 歯科薬理学・教授室))
- ⇒ 永田 (088-633-7343, nagata@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 17:00-18:00/3F 2保存・教授室))

医の原則と態度

1 単位 4 年 (後期)

Principle of medicine and medical communication

河野 文昭・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 大石 美佳・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

篠原 千尋・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 吉田 登志子・非常勤講師 / 岡山大学, 村澤 普恵・非常勤講師 / オフィス U.I.

【授業目的】 歯科医療及び歯科医学の研究における倫理の重要性を理解し、患者本位の医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につける。

【授業概要】 患者の権利を理解し、歯科医療や歯科医学の研究における倫理の重要性を理解する。また、患者本位の医療を実践するために、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力を身につける。

【授業形式】 講義

【授業方法】 1~4 回 講義式, スモールグループディスカッション, 5~15 回 講義式, スモールグループディスカッション, シミュレーション, ビデオを利用する。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 歯科医療における医の倫理とコミュニケーション

【キーワード】 国際規範, 医療倫理, 医療面接

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 患者の権利が説明できる。 <A-1-1>
2. 患者の自己決定権を説明できる。 <A-1-2,3>
3. 医の倫理に関する規範を概説できる。 <A-2-1,2,>
4. 生と死に関する倫理問題を説明できる。 <A-2-3>
5. 歯科医師の法的義務を列挙できる。 <A-3-5>
6. 患者との信頼関係を築くことができる。 <A-3-1,2,3,4>
7. インフォームドコンセントの重要性を説明できる。 <A-4-1,2,3,4,5>
8. コミュニケーションの目的と技法を説明できる。 <B-(1)-1,2>
9. 医療面接の重要性を説明できる。 <B-(2)-1>
10. 医療面接が実践できる。 <B-(2)-2,3,4,5,6>
11. 地域社会における歯科医師の役割を説明できる。 <B-(3)-1,2>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	医の倫理	患者の尊厳	患者の権利	1,2	河野
2.	〃	生命倫理の歴史	国際規範	3,4	〃
3.	〃	歯科医師の責務	法的義務と責任	5	〃
4.	〃	インフォームド・コンセント	定義と重要性	6,7	〃

5~6.	医療コミュニケーション	コミュニケーションとは	一般コミュニケーション	8	大石
7.	〃	〃	接遇	1,2,7,8,	〃
8~10.	〃	医療面接	医療面接総論	9,10	吉田
11~15.	〃	〃	医療面接各論・相互実習	1,2,6,10,11	村澤,大石,篠原

【成績評価】 シミュレーション試験を行う。

100 点満点で、60 点以上を合格とする。

【再試験】 1 回のみ行う。

【教科書】

- ◇ 参考書: 「医療倫理」 勁草書房, 2000
- ◇ 参考書: 「歯科臨床研修マニュアル できる研修医の条件 臨床研修をはじめの前に」, 永末書店, 2003
- ◇ 参考書: 「はじめての医療面接—コミュニケーション技法とその学び方」, 医学書院, 2000

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217267>

【連絡先】

- ⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/6F 総合歯科教授室))
- ⇒ 大石 (088-633-9181, mi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/6F 総合歯科医局))
- ⇒ 篠原 (総合歯科診療部, 088-633-9181, chihiro@dent.dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金18:00~ 19:00/6F 総合歯科医局))

社会と歯科医療

1 単位 5 年 (後期)

Socail Dentistry

伊藤 博夫・教授/歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 東雅之・教授/歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 白山 靖彦・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座
 寺岡 和彦・/病院, 久米 博子・/病院, 早雲 講二・非常勤講師/早雲歯科, 吉田 秀夫・非常勤講師, 薦田 淳司・非常勤講師/こもだ歯科医院
 森 秀司・非常勤講師/モリ歯科診療所, 佐藤 修斎・非常勤講師/佐藤歯科医院, 山上 久・非常勤講師/山上病院, 秋田 豊仁・非常勤講師/秋田歯科医院
 川井 睦子・非常勤講師/徳島県歯科医師会

【授業目的】国民の健康確保のための歯科医学・歯科医療の仕組みについて、関連する保健・福祉・介護サービスの仕組みとともに、歯科医師としての関わり方の立場から学習する。あわせて、地域医療・地域貢献などの現状を理解し、今後のあり方について考える。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】金曜 6 時限 第 2 講義室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 保健・医療制度を説明できる。(産業保健及び医療供給体制を含む。) <C-2-2)-①>
2. 医療保険制度を説明できる。(医療経済(国民医療費)をふくむ。) <C-2-2)-②>
3. 介護保険制度を説明できる。 <C-2-2)-③>
4. 社会福祉制度を説明できる。 <C-2-2)-④>
5. 地域医療における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。 <C-2-2)-⑨>
6. 保健・医療・福祉の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。 <B-2-3)-②>
7. 医療過誤に関連して歯科医師に科せられた社会的責任と罰則規定(行政処分, 民事責任, 刑事責任, 司法解剖)の基本的事項を説明できる。 <A-5-2)-④>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	担当
1.	オリエンテーション	歯科医療と社会貢献	総論	伊藤
2.	医療の仕組み(1)	国民皆保険制度	国民健康保険の仕組み	吉田
3.	医療の仕組み(2)	医療保障と保健診療	保険制度, 混合診療, 先進医療	森
4.	医療の仕組み(3)	患者動向と医療施設	徳島県の動向	薦田

5.	医療の仕組み(4)	僻地医療	僻地医療の現状	川井
6.	地域保健	歯科保健と地域活動	歯科医師の関わり	秋田
7.	健康支援の仕組み(1)	保健サービスの組織と機能	介護保健制度と介護支援専門員の役割	白山
8.	健康支援の仕組み(2)	口腔ケアと疾病予防	病院における専門的口腔ケア	東
9.	健康支援の仕組み(3)	社会保障と介護保険	介護保険の課題	山上
10.	チーム医療	医療従事者との連携	NST, 看護師, 薬剤師, 社会福祉士との連携	久米
11.	高齢者介護の社会支援	訪問歯科診療	在宅歯科診療の現状と課題	佐藤
12.	法歯学(1)	法歯学の意義	歯科医と法律との関係, 社会的背景, 鑑定人としての責務, 操作への協力	早雲
13.	法歯学(2)	法歯学的鑑定法	年齢, 性別, 血液型, カルテ・レントゲンフィルムとの照合, DNA 型の判	〃
14.	法歯学(3)	医事紛争	判例からみる歯科医事紛争	〃
15.	薬害	薬害	現状と課題	寺岡

【成績評価】筆記試験を実施して、その得点に、講義の出欠の状況や提出物の内容等を加味して総合的な評価を行い、60 点以上の者を合格とする。

【再試験】原則として実施しない。

【教科書】

- ◇ 参考書:スタンダード社会歯科学 石井拓男ほか編, 学建書院 2005 年
- ◇ 参考書:新社会歯科学 可児徳子・末高武彦編, 医歯薬出版 2005 年 など

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217348>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・水・金)16:00~17:00/5F 予防歯学・教授室))

加齢歯科学

1 単位 5 年 (前期, 後期)

Aging and Geriatric Dentistry

市川 哲雄・教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 北村 清一郎・教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学)

吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 伊藤 博夫・教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学), 松尾 敬志・教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学)

永田 俊彦・教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学), 北畑 洋・教授 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学), 羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

日野出 大輔・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 永尾 寛・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 久保 吉廣・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

東 雅之・教授 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 本釜 聖子・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 横山 正明・助教 / 病院, 森戸 光彦・非常勤講師 / 鶴見大学

佐藤 修斎・非常勤講師 / 佐藤歯科医院, 七條 文雄・非常勤講師, 宇高 二良・非常勤講師 / 宇高耳鼻咽喉科医院

【授業目的】高齢者の口腔管理, 歯科治療, 歯科関連リハビリテーションに必要な基礎的知識を学習する。

【授業概要】ヒトの加齢変化を生物学的な見地, 心理・行動学の見地, 一般医学, および口腔医学の見地から理解するとともに, 高齢者の口腔管理, 歯科治療, 歯科関連リハビリテーションの概要と重要性を認識する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義型式 ビデオ, スライドを適宜用いる。

【授業場所】(前期) 第 1 講義室 (後期) 第 2 講義室

【授業テーマ】加齢学と高齢者歯科医療

【履修上の注意】加齢歯科学の授業では第 1 回目の授業で全講義の内容, キーワードを提示する。①受講者は毎回受講前に, 講義内容, キーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に, 学習成果を基に講義内容, キーワードについて再度内容を簡潔にまとめ, 予習時の内容と比較して学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 高齢者のおかれた社会環境を説明できる。 <C-2-(2)-5>
2. ライフステージにおける予防を説明できる。 <C-3-(2)-3>
3. 集団レベルの予防と健康管理 (地域歯科保健, 学校歯科保健, 産業歯科保健) を説明できる。 <C-3-(2)-4>
4. 主な保健医療統計 (人口動態・静態統計, 患者調査, 医療施設調査, 医師・歯科医師・薬剤師調査, 歯科疾患実態調査, 学校保健統計調査) を説明できる。 <C-4-(2)-1>
5. 口腔組織の加齢変化を説明できる。 <D-2-(4)-1>
6. 適切な食事指導 (栄養指導) を実施できる。 <F-1-(6)-2)-4>

7. 嚥下障害を概説できる。 <F-2-(5)-8)-2>
8. 言語障害を概説できる。 <F-2-(5)-8)-3>
9. 味覚障害を概説できる。 <F-2-(5)-8)-4>
10. 老化の身体的, 精神的及び心理的特徴を説明できる。 <F-2-(6)-2)-1>
11. 高齢者における薬物動態の特長を説明できる。 <F-2-(6)-2)-1>
12. 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 <F-2-(6)-2)-2>
13. 高齢者の歯科治療の概要を説明できる。 <F-2-(6)-2)-2>
14. 高齢者に多く見られる疾患を説明できる。 <F-2-(6)-2)-3>

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当	
1.	高齢者と加齢歯科学	加齢歯科学概論 (その1)	加齢歯科学の目的, 死の概念・定義, 口腔と全身, 高齢者の身体的特徴	1,5,10,12,13,14	森戸
2.	〃	加齢歯科学概論 (その2)	〃	1,5,10,12,13,14	〃
3.	〃	加齢歯科学概論 (その3)	〃	1,5,10,12,13,14	〃
4.	高齢者と社会	高齢者の社会学的特徴と疫学	高齢者社会の現状, 高齢者の全身と口腔の健康, 社会保障	1,2,3,4	伊藤
5.	〃	高齢者の精神医学, 心理学, 行動学	高齢者の心理・社会的背景, 加齢変化と心身相関, 高齢者との接し方, 精神疾患	1,10,14	羽田
6.	〃	高齢者の栄養学と口腔保健	高齢者の食生活と栄養, 高齢者歯科保健, 口腔保健管理, 要介護高齢者の歯科保健・医療	1,2,3,4,6	日野出
7.	〃	訪問歯科診療と福祉との連携, 介護保険	訪問歯科診療の現状, 連携医療, 高齢者医療に関する法律と仕組み, 介護予防	1,2,3,4,6,13,14	佐藤
8.	全身と口腔の加齢変化	加齢の生物学的基礎	加齢と老化, 老化遺伝子, テロメア	5,10,12	
9.	〃	加齢の生理学	加齢による生理学的変化	〃	久保

10.	”	加齢と免疫学	胸腺と老化, 免疫不全, 自己免疫	5,10,12,14	
11.	”	加齢と薬物	薬物動態・感受性・薬物相互作用, 高齢者の輸液・栄養管理, 服用薬剤の副作用	5,10,11,12,14	吉本
12.	”	諸器官の加齢変化	諸器官の形態的变化, 機能的变化	5,10,12	北村
13.	”	身体機能の加齢変化	日常生活動作 (ADL) の低下, 運動機能の低下, 感覚機能の低下	9,10	久保
14.	”	口腔領域の加齢変化	口腔領域の形態的变化, 機能的变化, 歯の喪失に伴う口腔, 顎, 顔面の変化	5,7,8,9,12	本釜
15.	高齢者と基礎疾患	高齢者に多い疾患とその対応(その1)	危機管理, バイタルサイン, 全身疾患を有する高齢者への対応, 歯科診療時の全身管理, 偶発症, 感染予防	7,8,9,10,11,14	北畑
16.	”	高齢者に多い疾患とその対応(その2)	高齢者に多い基礎疾患(高血圧, 糖尿病, 高脂血症, がん, 心疾患, 脳血管障害, 呼吸器疾患, 骨粗鬆症, 認知症, リウマチなど)	”	吉本
17.	”	高齢者の口腔に影響を及ぼす疾患	口唇・口腔粘膜に影響を及ぼす疾患, 口腔乾燥症	5,12,14	東
18.	高齢者の歯科診療	高齢者の診断と治療計画, 治療の基礎・基本手技	機能評価と治療方針, 治療環境, 患者の体位, コミュニケーション, チーム医療	1,5,7,8,9,12,13,14	市川
19.	”	高齢者の検体検査とその特徴	高齢者の検体検査値の特徴と治療時の注意	”	東
20.	”	保存修復治療	高齢者の齲蝕の特徴と治療, 非齲蝕性硬組織疾患の特徴, 高齢者の歯の変色・着色	5,12,13	松尾
21.	”	歯内・歯周治療	高齢者の歯髄・根尖性歯周組織疾患, 歯周疾患の特徴とその治療	”	永田
22.	”	有床義歯補綴治療	高齢者の補綴治療	”	永尾
23.	”	固定性補綴治療, 顎関節症	高齢者の補綴治療, 口腔機能障害の補綴的対応	”	”
24.	”	口腔内科, 外科的治療	口腔内科治療(口腔粘膜, 唾液腺の治療, 舌痛症), 口腔外科治療	”	東
25.	”	高齢者・有病者の口腔ケア	高齢者の口腔の状態, 口腔ケアの意義と実際	”	横山
26.	摂食・嚥下リハビリテーション	摂食・嚥下障害の基礎と検査法	リハビリテーションの概念	1,7,8,12,14	本釜
27.	”	中途障害の病態とリハビリテーションの現状(その1)	脳神経外科から見た脳卒中の現状, 中途障害者の現状, リハビリテーションの現状	”	七條
28.	”	中途障害の病態とリハビリテーションの現状(その2)	”	”	”

29.	”	摂食, 嚥下, 言語リハビリテーション(その1)	耳鼻咽喉科から見た摂食・嚥下障害, 言語障害とリハビリテーション	”	宇高
30.	”	摂食, 嚥下, 言語リハビリテーション(その2)	”	”	”

【成績評価】加齢歯科学について筆記試験を行い, 評価する。

テスト(100点満点)で60点以上を合格とする。出欠席状況も考慮する。

【再試験】行う

【教科書】参考書:渡邊 誠監訳:高齢者歯科学(永末書店)2000

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217266>

【連絡先】

⇒ 市川 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復医歯学部門・顎口腔再建医学講座・口腔顎顔面補綴学分野教授室, 088-633-7346, ichi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 林 (088-633-7327, hayashi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 北村 (口腔顎顔面形態学分野教授室, 088-633-7319, kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 前後期:金曜日 12時~13時)

⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp)/月・水・金 16:00~17:00/5F 予防歯学・教授室/633-7336))

⇒ 松尾 (0886337339, matsuo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 永田 (088-633-7343, nagata@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 北畑 (088-633-7366, hiroshi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 永尾 (口腔顎顔面補綴学, 088-633-9129, kan@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 久保 (088-633-9171, kubo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 東 (088-633-7351, azumasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 本釜 (hongama@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 横山 (徳島大学病院 口腔管理センター, 088-633-7970, yokomasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

バイオマテリアル・バイオエンジニアリング

1 単位 5 年 (後期)

Biomaterials and Bioengineering

浅岡 憲三・教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学), 市川 哲雄・教授 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

重本 修伺・助教 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 菅田 栄一・教授 / 歯学科 歯科放射線学講座 (歯科放射線学), 浜田 賢一・准教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

内藤 禎人・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 渡邊 恵・助教 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 久保 吉廣・准教授 / 歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

広田 一男・非常勤講師 / (株)ジーシー, 菅原 明喜・非常勤講師 / 菅原歯科, 里村 一人・非常勤講師

【授業目的】 材料と生体, あるいは生体を構成する器官や組織, 細胞や細胞外基質の相互作用を巧みに生かした, 新しい診断や治療の方法が医療の中で極めて重要になってきている。こうした治療に利用される材料 (バイオマテリアル) の材料科学, 生体の応答, 生体計測法とその臨床応用技術についての, 基礎と臨床を融合した, 口述を通して, 先端歯科治療を考える。

【授業概要】 ①人工材料の生体適合性とその評価法, ②顎顔面領域の生体情報の計測方法, ③顎顔面修復材料の材料科学と臨床応用, ④再生医療の現状と可能性, ⑤材料の規格・標準化について学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (プリント, スライド等を適宜用いる。)

【授業場所】 第2講義室

【授業テーマ】 バイオマテリアルの材料科学, 工学診断技術の臨床応用について理解する。

【履修上の注意】 学生便覧の歯学部規則を満たしていることが必要である。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 高分子材料, セラミック材料, 金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。 <E-1-1>
2. 生体材料の力学的, 物理的, 化学的および生物学的性質を説明できる。 <E-1-2>
3. 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 <E-1-3>
4. デンタルインプラントの種類と特性を説明できる。 <F-3-4>-(4)>
5. 下顎運動の記録法を説明できる。 <F-3-4>-(3)-⑨>
6. 頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 <F-1-2>-(8)>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	総論	バイオマテリアル	複合材料・ナノ材料と生体材料	1,2,3	浅岡
2.	〃	バイオメカニクス	生体力学, フィジオーム	2,4	市川

3.	生体計測	運動計測	顎運動計測, 筋電図など	5	重本
4.	〃	画像計測	fMRI, MRI movie, PET など	6	菅田
5.	バイオマテリアル	骨修復・再生材料	インプラント材料	1,2,3,4	浜田
6.	〃	金属材料	インプラントの構造設計	〃	広田
7.	〃	〃	インプラントの構造と手技	〃	〃
8.	〃	〃	材料と生体との界面反応	〃	内藤
9.	〃	〃	金属の免疫反応・病理反応	2,3	渡邊
10.	〃	セラミックス	リン酸カルシウムの化学	1,2,3	菅原
11.	〃	〃	セメントによる骨修復	〃	〃
12.	〃	細胞	再生医療の科学	〃	里村
13.	〃	〃	再生医療の臨床	〃	〃
14.	〃	顎顔面補綴	材料による修復と生理機能	〃	久保
15.	総括	医療機器のリスク評価	診療材料と規格・標準化	〃	浅岡

【成績評価】 試験またはレポートにより理解度を判定する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】 行わない

【教科書】 プリント:必要に応じてプリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217257>

【連絡先】

⇒ 浅岡 (088-633-7333, asaoka@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月・火)17:00-18:00/2F生体材料工学・第1研究室))

⇒ 市川 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復医歯学部門・顎口腔再建医学講座・口腔顎顔面補綴学分野教授室, 088-633-7346, ichi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金)17:00-18:00/2F口腔顎顔面補綴学・教授室))

統合臨床講義

Interdisciplinary Clinical Dentistry

2単位 5年(前期)

臨床系研究室・診療科(部)教員, 基礎系研究室教員

【授業目的】 基礎歯科医学, 隣接医学および臨床歯科医学の概要を学習した学生に対して, 臨床実習を受ける前に, 各科目の知識を統合させ, 実際の臨床の諸問題を解決できる能力を養わせることを目的とする。さらに基礎医学の必要性を自覚させ, 臨床歯科医学と隣接医学との関わりを説明し, 歯科医学における基礎医学と隣接医学の重要性を認識させることを目的とする。

方法として, 12の診療科あるいは分野が2~3回の授業を担当する。各診療科あるいは分野の教員はそれぞれの特色を生かしながら, 歯科臨床科目を修得した学生に対して, もう一度基本に帰って基礎的なことを中心に理解しやすいように工夫した講義を行う。日程表は教務委員会で決定する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (なお, この講義は, 教員も相互に授業を聴講することができるものとする。)

【授業場所】 前期 月曜 1・2時限 示説室

【履修上の注意】 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【成績評価】 筆記試験を行い, 学生の理解度を評価する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217355>

総合歯科学 1

1 単位 6 年 (前期)

Overview in Dentistry 1

基礎系教員

【授業目的】基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、理解する力を育成する。

【授業概要】生体、とくに顎顔面領域の構造とその機能の知識を統合する。また、生体材料の特徴を理解し、疾患に応じた組織再建の方法について整理する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】金曜 5 時限 示説室

【履修上の注意】試験を受けるためには授業時間の 3 分の 2 以上出席していなければならない。その他の要件としては、学生便覧の歯学部規則に従う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	イントロダクション・生理学	イントロダクション, 細胞の機能, 神経, 筋, 体液と循環, 呼吸, 排泄, 感覚機能, 自律機能, 脳機能, 脳神経, 顔面の体性感覚	上記担当教員
2.	口腔生理学	〃	〃
3~4.	解剖学	頭頸部の骨・筋・脈管・神経, 腺組織 口腔領域の発生, 加齢変化	〃
5~6.	口腔解剖学 口腔組織学	軟骨と骨, 歯, 歯周組織, 唾液腺, 頭頸部, 顎と顎関節, 発生, 加齢	〃
7~8.	生化学 口腔生化学	L 歯と歯周組織 (核酸, タンパク質), 石灰化機構, 骨・軟骨, カルシウム代謝, 唾液・唾液腺, 歯面への付着物, 代謝とその相関	〃
9~10.	細菌学 口腔細菌学	微生物, 免疫, 口腔微生物	〃
11~12.	薬理学 歯科薬理学	薬物療法の目的と分類, 薬物の管理, 用量, 薬理作用の機序, 薬物動態, 投与方法, 併用と相互作用, 副作用, 処方と処方箋, 薬物適用上の注意	〃
13~14.	病理学 口腔病理学	歯・口腔・顎・顔面疾患の病因・病態	〃
15~16.	歯科理工学	材料の組成・物性, 材料の用途別種類と性質, 材料の取扱い技術, 歯科用機械・器具	〃

【成績評価】試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217356>

総合歯科学 2

1 単位 6 年 (前期)

Overview in Dentistry2

臨床系教員, 他

【授業目的】これまで授業等で学んできた知識をもう一度復習・整理して再確認するとともに、さらに、これらを統合して深め、実際の臨床実習に役立てることを目的とする。

【授業概要】予防歯学, 歯科保存学, 歯科補綴学, 口腔外科学, 歯科矯正学, 小児歯科学, 歯科放射線学, および歯科麻酔学について, オムニバス形式で概略や要点を説明するとともに, Q&A 方式で演習も行う。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (プリント, スライド)

【授業場所】金曜 6 時限 示説室

【履修上の注意】履修には 3 分の 2 以上の出席が必要である。

試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	中項目	担当
1.	衛生学・予防歯科学	衛生学, 予防歯科学	上記担当教員
2.	歯科保存学	保存修復学	〃
3.	〃	歯内療法学	〃
4.	〃	歯周病学	〃
5.	歯科補綴学	有床義歯学	〃
6.	〃	インプラント治療学	〃
7.	〃	歯冠補綴学, 橋義歯補綴学	〃
8.	口腔外科学	口腔外科学 I	〃
9.	〃	口腔外科学 II	〃
10.	歯科矯正学	歯科矯正学	〃
11.	小児歯科学	小児歯科学	〃
12.	歯科放射線学	診断基礎・物理	〃
13.	〃	歯科放射線学	〃
14.	歯科麻酔学	局所麻酔学	〃
15.	〃	全身麻酔学	〃

【成績評価】試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217357>

【備考】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

総合歯科学3

1 単位 6 年 (後期)

Overview in Dentistry3

北村 清一郎・教授 / 歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 永田 俊彦・教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)

三宅 洋一郎・教授 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 松尾 敬志・教授 / 歯学科 歯科保存学第一講座 (歯科保存学), 伊藤 博夫・教授 / 歯学科 予防歯科学講座 (予防歯学)

木戸 淳一・准教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学), 二宮 雅美・助教 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)

大石 慶二・講師 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)

【授業目的】 テーマ1・人体解剖学は、体を骨格系や内臓系などの系統別に分けて論ずる系統解剖学と、体の各領域について、異なる系統のものも一括して、そこの構造全体を対象として論ずる局所解剖学に分けられる。2・3年次で修得した解剖学はこの系統解剖学と頭頸部の局所解剖学である。ここでは、‘臨床にさらに踏み込んだ形の頭頸部の局所解剖学’として、臨床のテーマ毎に、その理解に必要な局所解剖学的事項について学習し、種々解剖構造のもつ臨床的意義を理解する。さらに、関連する歯科・口腔外科疾患の診断・治療について学習し、‘エビデンスに基づく歯科・口腔外科診療’の考え方を修得する。テーマ2・基礎系科目および臨床系科目において習得した「歯周病」について、知識の整理を行うとともに、総合的な観点から「歯周病」を理解することが大きな目的である。歯周病の病態を細菌学的、免疫学的、生化学的側面から理解し、また全身との関わりを学ぶことに加え、臨床面での新しい診断法や治療法の実際を修得する。

【授業概要】 テーマ1・顎口腔領域の解剖と臨床 (8 回分)

歯科医師として必要な頭頸部 (顎顔面口腔領域を中心とする) の局所解剖学的知識を、臨床のテーマ毎にまとめ、解剖学的事項のもつ臨床的意義を解説する。

テーマ2・歯周病と組織再生 (7 回) ライフサイエンスの基礎的知識を通じて歯周病の病態を理解するとともに、先端的な歯周治療の診断と治療および将来展望についての知識を深める。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (プリント, スライド)

【授業場所】 月曜 5 時限, 金曜 5 時限, 示説室

【履修上の注意】 試験を受けるためには授業時間の3分の2以上出席していなければならない。

その他の要件としては、学生便覧の歯学部規則に従う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	上顎骨の臨床解剖学	無歯上顎骨の形態, 上顎骨にあく孔・管, 上顎洞	北村
2.	下顎骨の臨床解剖学	無歯下顎骨の形態, 下顎骨にあく孔・管, 下顎管, 顎舌骨筋線	〃

3.	歯科局所麻酔時に必要な局所解剖学の知識	顎骨内の神経分布, 上顎骨・下顎骨と浸潤麻酔, 下顎孔伝達麻酔に関連する解剖構造, 三叉神経の解剖学	〃
4.	総義歯の形態と解剖構造	唇・頬側の研磨面形態と解剖構造, 上顎義歯の形態と解剖構造, 下顎義歯の形態と解剖構造	〃
5.	顎骨およびその周辺の局所解剖学 — 上顎インプラントの植立を例に	どの部位が植立に適しているか, 粘膜・骨膜の剥離, 前歯部への植立, 上顎洞底への植立, 上顎結節への植立	〃
6.	顎骨およびその周辺の局所解剖学 — 下顎インプラントの植立を例に	下顎骨へのインプラントの植立, 口腔底への外科的処置, 臼後三角への外科的処置	〃
7.	口腔周辺の筋膜隙と歯性感染	口腔周辺の筋膜隙, 上・下顎の歯の根尖からの化膿性炎症の波及経路	〃
8.	摂食嚥下と義歯	喉頭蓋谷と梨状陥凹, 舌・舌骨・喉頭・咽頭複合体と嚥下, 舌骨のはたらき, 義歯は嚥下とどうかかわるのか	〃
9.	歯周治療の現状と課題	現在の歯周治療法, 先端的な治療法, 課題と展望	永田
10.	歯周病細菌の局所病原性	複数の病原菌が関与する歯周病の細菌学的病因論を宿主-寄生体関係を軸に考える。	三宅
11.	歯周病と免疫応答	歯周組織における免疫応答を説明し, 歯周病の病態を解説する。	松尾
12.	口腔内細菌の全身伝播	感染性心内膜炎など口腔細菌による病巣感染性疾患を再考する。	伊藤
13.	歯肉溝滲出液の生化学診断	歯肉溝滲出液中に含まれる種々の物質とその臨床的意義を考察する。	木戸
14.	歯周組織再生療法の実際	歯周組織再生療法の種類, 適応症および術式	二宮
15.	歯肉溝槽粘膜手術の実際	歯周組織をより正常な形態に近づける外科術式について解説する。	大石

【成績評価】 試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 1 回のみ行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217358>

【連絡先】

- ⇒ 北村 (口腔顎顔面形態学分野教授室, 088-633-7319, kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (火~ 金 16:15-17:45/4F 口腔解剖学1・教授室))
 - ⇒ 永田 (088-633-7343, nagata@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00/3F 第2保存・教授室)
 - ⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00/4F 口腔微生物学・教授室)
 - ⇒ 松尾 (0886337339, matsuo@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00/2F 第1保存・教授室)
 - ⇒ 伊藤 (088-633-7336, itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: (itohiro@dent.tokushima-u.ac.jp/月・水・金 16:00~ 17:00/5F 予防歯学・教授室/633-7336))
 - ⇒ 木戸 (kido@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 木 17:00~ 18:00/3F 第2保存・第1研究室)
 - ⇒ 二宮 (088-633-7344, ninomiya@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00/3F 第2保存・第1研究室)
 - ⇒ 大石 (088-633-7344, ohishik@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00/3F 第2保存・第1研究室)
- 【備考】**履修には3分の2以上の出席が必要である。試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

総合歯科学 4

1 単位 6 年 (後期)

Overview in Dentistry4

基礎系教員

【授業目的】基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、臨床現場の諸問題を解決する応用力を育成する。

【授業概要】生体、とくに顎顔面領域の構造とその機能の知識を統合し、各種病態における対処法を整理する。また、生体材料の特徴を理解し、疾患に応じた組織再建の方法について考察できる能力を育成する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】月曜 6 時限、水曜 6 時限、金曜 6 時限 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1~2.	歯科理工学	材料の組成・物性、材料の用途別種類と性質、材料の取扱い技術、歯科用機械・器具	上記担当教員
3~4.	解剖学	頭頸部の骨・筋・脈管・神経、腺組織 口腔領域の発生、加齢	”
5~6.	口腔解剖学 口腔組織学	軟骨と骨、歯、歯周組織、唾液腺、頭頸部、顎と顎関節、発生、加齢	”
7~8.	生理学 口腔生理学	顔面の体性感覚、味覚、顎運動、咀嚼、嚥下、嘔吐、唾液、発生、加齢変化、ストレス	”
9~10.	生化学・口腔生化学	歯と歯周組織(核酸、タンパク質)、石灰化機構、骨・軟骨、カルシウム代謝、唾液・唾液腺、歯面への付着物、代謝とその相関	”
11~12.	病理学 口腔病理学	歯・口腔・顎・顔面疾患の病因・病態	”
13~14.	細菌学 口腔細菌学	微生物、免疫、口腔微生物	”
15~16.	薬理学 歯科薬理学	薬物療法の目的と分類、薬物の管理、用量、薬理作用の機序、薬物動態、投与方法、併用と相互作用、副作用、処方と処方箋、薬物適用上の注意	”

【成績評価】試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217359>

【備考】試験を受けるためには授業時間の 3 分の 2 以上出席していなければならない。その他の要件としては、学生便覧の歯学部規則に従う。

総合歯科学5

Overview in Dentistry5

1単位 6年(後期)

臨床系教員, 他

【授業目的】総合歯科学2に続き、臨床実習をする傍ら、これまで授業等で学んできた知識をもう一度復習・整理して再確認するとともに、さらに、これらを統合して深め、実際の臨床実習に役立てることを目的とする。

【授業概要】予防歯学、歯科保存学、歯科補綴学、口腔外科学、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学、および歯科麻酔学について、オムニバス形式で概略や要点を説明するとともに、Q&A方式で演習も行う。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】水曜, 4.5時限, 示説室

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【授業計画】

	大項目	中項目	担当
1.	衛生学・予防歯科学	衛生学・予防歯科学	上記担当教員
2.	歯科保存学	保存修復学	〃
3.	〃	歯内療法学	〃
4.	〃	歯周病学	〃
5.	歯科補綴学	全部床義歯学	〃
6.	〃	部分床義歯学	〃
7.	〃	歯冠補綴学, 橋義歯補綴学	〃
8.	口腔外科学	口腔外科学 I	〃
9.	〃	口腔外科学 II	〃
10.	歯科矯正学	歯科矯正学	〃
11.	小児歯科学	小児歯科学	〃
12.	歯科放射線学	診断基礎・物理	〃
13.	〃	歯科放射線学	〃
14.	歯科麻酔学	局所麻酔学	〃
15.	〃	全身麻酔学	〃

【成績評価】試験を行う。試験方法については、担当教員を交えて教務委員会で協議決定する。

100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217360>

【備考】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

バイオマテリアル(口腔インプラント治療学講義)

5年(後期)

Oral Implantology

市川 哲雄・教授/歯学科 歯科補綴学第一講座(口腔顎顔面補綴学), 友竹 偉則・講師/歯学科 歯科補綴学第一講座(口腔顎顔面補綴学)

藤澤 健司・講師/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学), 郡 元治・助教/歯学科 歯科補綴学第二講座(咬合管理学), 大江 剛・助教/歯学科 口腔外科学第二講座(口腔外科学)

【授業目的】 歯列欠損の補綴治療として確立したインプラント治療を行ううえで、必要な知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 インプラント治療における診察, 歯列欠損に対する検査, 診断, 治療, メンテナンスについて理解する。また, 全身的な診察やインプラント治療の外科手術や手術管理に関して理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義(プリント, スライド等を適宜用いる)

【授業場所】 第1講義室(前期授業)

【授業テーマ】 口腔インプラント治療

【キーワード】 口腔インプラント, 歯列欠損

【履修上の注意】 バイオマテリアル(口腔インプラント治療学)の授業では第1回目の授業で全講義の内容, キーワードを提示する。①受講者は毎回受講前に, 講義内容, キーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に, 学習成果を基に講義内容, キーワードについて再度内容を簡潔にまとめ, 予習時の内容と比較して学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】 (<>内はコアカリ対応)

1. デンタルインプラントの種類と特徴を説明できる。
2. インプラントの材料と他の修復方法との違い, インプラント治療の適応を説明できる。
3. インプラント治療に必要な診察と検査を説明できる。
4. インプラント治療のリスクファクター, 禁忌症について説明できる。
5. インプラント治療に必要な上顎骨, 下顎骨の構造について説明できる。
6. インプラント治療に必要なエックス線診断について説明できる。
7. インプラント外科手術について説明できる。
8. インプラント補綴の種類について説明できる。
9. インプラント支台の単独修復法, ブリッジ修復法, オーバーデンチャー修復法について説明できる。
10. インプラント治療の術中・術後管理について説明できる。
11. 局所継発症の予防と対策について説明できる。
12. インプラント治療の偶発症と合併症について説明できる。

【授業計画】

大項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔インプラント総論	意義と目的 / 歴史と変遷	1,2 市川
2.	診察と検査1	医療面接 / 全身的な診査・検査	3 大江
3.	診察と検査2	局所的な検査 / リスクファクター	3,4 友竹
4.	診察と検査3	画像検査・シミュレーション / インプラント治療の解剖(硬組織)	5,6 藤澤
5.	治療計画1	生体力学と補綴デザイン / インプラント補綴の生理	2,8 友竹
6.	治療計画2	治療計画の立案とインフォームドコンセント	2,9 〃
7.	治療法1	麻酔法 / 術中管理 / 滅菌・消毒	7,10 大江
8.	治療法2	外科手術 / インプラント治療の解剖(軟組織)	5,7 藤澤
9.	治療法3	骨造成法 / 軟組織増大法	7,10 〃
10.	治療法4	補綴術式と暫間上部構造	8,9 郡
11.	治療法5	技工操作と最終上部構造 / オーバーデンチャー	〃 友竹
12.	治療法6	即時埋入法 / 即時荷重法	〃 〃
13.	治療法7	顎顔面の再建とインプラント	7,10 藤澤
14.	メンテナンス	術後管理 / 上部構造・残存歯の管理	10 郡
15.	偶発症と合併症	偶発症 / 合併症 / 局所継発症の予防と対策	11,12 藤澤

【成績評価】 筆記試験またはレポートにより理解度を判定する。100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 参考書「よくわかる口腔インプラント学」医歯薬出版, 2005

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217251>

【連絡先】

⇒ 市川 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復歯学部門・顎口腔再建医学講座・口腔顎顔面補綴学分野教授室, 088-633-7346, ichi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金/17:00-18:00/2F口腔顎顔面補綴学・教授室)

- ⇒ 友竹 (tomotake@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金/17:00-18:00/2F口腔顎顔面補綴学・資料室)
- ⇒ 藤澤 (088-633-7352, fujisawa@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金/17:00-18:00/2F咬合管理学・第4研究室)
- ⇒ 郡 (088-633-7350, koori@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金/17:00-18:00/5F口腔疾患制御外科学・第1研究室)
- ⇒ 大江 (go.ohe@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金/17:00-18:00/5F口腔疾患制御外科学・第1研究室)

歯学部 — 口腔保健学科 授業概要

● 口腔保健基礎学

解剖学・生理学・生化学 ... 伊賀・羽地・細井・野間・羽田・吉岡・吉田/1年(前期, 後期), 2年(前期)	154
口腔解剖学・口腔生理学 ... 松山・羽地・羽田・日野出・伊賀・尾崎・吉田/1年(後期), 2年(前期)	158
病理学・口腔病理学 ... 伊賀・石丸・尾崎/2年(前期)	162
薬理学・歯科薬理学 ... 伊賀・吉本・石川・水澤・岩田・日野出・尾崎・吉岡/2年(前期)	164
微生物学・免疫学 ... 日野出・三宅・弘田・根本・村上/2年(前期)	166
口腔保健衛生学概論 ... 伊賀・羽田・日野出・尾崎・白山・松山・竹内・星野・中道・藤原/1年(前期)	168
歯科衛生士概論 ... 日野出・伊賀・尾崎・松山・吉岡・中道・星野・大石・藤原/1年(後期), 2年(前期)	170
歯科衛生統計 ... 日野出・吉岡/2年(後期)	172
衛生行政 ... 日野出・吉岡/1年(後期)	174
衛生学・公衆衛生学 ... 日野出・吉岡・佐藤/2年(後期), 3年(前期)	175
口腔衛生学 ... 日野出・吉岡/2年(前期)	177
医療情報処理学 ... 河野/1年(前期)	179
医療安全管理学 ... 伊賀・河野・尾崎・松山/2年(後期)	180
早期臨床実習 ... 伊賀・日野出・白山/1年(後期), 2年(前期)	182
口腔衛生学基礎実習 ... 日野出・吉田・北村・山下・角田・羽地・樋浦・吉本・石川・水澤・岩田・細井・赤松・長谷川・石丸・新垣・山田・口腔保健学科全教員/2年(前期, 後期)	184

● 口腔保健支援学

発達系歯科学 ... 尾崎・田中・三留・堀内・藤原/2年(後期), 3年(前期)	189
保存修復系歯科学 ... 尾崎・永田・大石/2年(後期), 3年(前期)	192
補綴系歯科学 ... 松山・河野・羽田・西川・友竹・細木・星野・藤原/2年(後期), 3年(前期)	194
外科系歯科学 ... 伊賀/2年(後期), 3年(前期)	197
歯科放射線学 ... 伊賀・誉田・尾崎・細木/2年(後期)	199
歯科麻酔学・救急蘇生 ... 伊賀・富岡/2年(後期)	201
歯科材料学 ... 羽田・浜田・尾崎・友竹/2年(前期)	202
歯科診療補助論 ... 尾崎・中道・藤原・竹内/2年(後期), 3年(前期)	204
チー△歯科医療学 ... 尾崎・羽田・中道・星野・藤原・谷・河野/2年(後期), 3年(前期)	206
高齢者口腔保健衛生学 ... 松山・羽田・中道/3年(前期)	208
障害者口腔保健衛生学 ... 羽田・三留・有田・吉岡・郡・中川・尼寺・上田(山口)/3年(前期)	210
嚥下・摂食障害学 ... 松山・羽田・有田・星野・藤原/3年(前期)	212

栄養学・栄養食品学 ... 日野出・中屋・堤・山本・奥村/2年(後期)	214
口腔疾患予防学 ... 日野出・吉岡・星野・中道/2年(前期, 後期)	215
口腔疾患予防学実習 ... 日野出・三宅・弘田・吉岡・中道・星野・根本・村上・藤原/2年(前期, 後期), 3年(前期)	217
チーム歯科医療学基礎実習 ... 尾崎・伊賀・松山・中道・星野・竹内・高石・藤原・近藤/2年(後期), 3年(前期)	219
● 口腔保健福祉学	
歯科口腔介護学 ... 松山・羽田・中道・竹内/3年(前期)	221
現代社会と福祉 ... 白山・下泉/1年(後期), 2年(前期)	223
社会調査の基礎 ... 白山/1年(後期)	225
相談援助の基盤と専門職 ... 白山・和泉/1年(後期), 2年(前期)	226
相談援助の理論と方法 ... 羽田・竹内・山下・藤河/2年(前期, 後期)	228
地域福祉の理論と方法 ... 羽田・竹内・上地・下泉/2年(後期), 3年(前期)	233
福祉行財政と福祉計画 ... 白山/2年(後期)	236
社会福祉援助技術演習 ... 羽田・竹内・大下・山下/3年(前期, 集中), 4年(前期)	237
社会福祉援助技術現場実習指導 ... 羽田・竹内/3年(集中, 集中, 後期), 4年(前期)	239
福祉サービスの組織と経営 ... 羽田・竹内・藤河/3年(前期)	241
社会保障 ... 白山・羽田/3年(前期)	243
高齢者福祉 ... 羽田・竹内・大下/3年(前期)	245
障害者福祉 ... 羽田・竹内・和泉/3年(前期)	247
児童・家庭福祉 ... 羽田・竹内・上野/3年(前期)	249
公的扶助 ... 羽田・竹内・赤池/3年(前期)	251
保健医療サービス ... 白山/3年(前期)	253
就労支援サービス ... 白山/3年(前期)	254
相談援助演習 ... 白山・羽田・竹内/3年(後期), 4年(前期)	255
相談援助実習指導 ... 白山・羽田・竹内/3年(後期), 4年(前期)	257
● 隣接医科学	
総合医科学 ... 伊賀・竹内/3年(後期)	258
総合医科学B ... 伊賀・白山・竹内/4年(前期)	260
医療倫理学 ... 伊賀・大石/3年(後期)	261
臨床心理学 ... 伊賀・佐藤・原・境・内海・福森/2年(後期)	262
基礎看護学 ... 伊賀・多田・關戸・谷岡/3年(後期), 4年(前期)	263

● 卒業研究

卒業研究 ... 伊賀・口腔保健学科全教員/4年(前期, 後期) 264

解剖学・生理学・生化学

Anatomy・Physiology・Biochemistry

4 単位 (必修) 1 年 (前期, 後期), 2 年 (前期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

細井 和雄・教授 / 歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学), 野間 隆文・教授 / 歯学科 口腔生化学講座 (分子医化学), 羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 吉田 賀弥・講師 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

【包含科目】

- ◇ 『解剖学・生理学』
- ◇ 『生化学 (栄養代謝学)』

【授業形式】講義

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217230>

【連絡先】

- ⇒ 羽地 達次 (tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔解剖学第二・教授室/633-7321) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 細井 和雄 (hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔生理学・教授室/633-7323) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 野間 隆文 (ntaka@dent.tokushima-u.ac.jp/5F分子医科学・第1研究室/633-7326) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 羽田 勝 (hada@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 伊賀 弘起 (iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉岡 昌美 (masami@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉田 賀弥 (kaya@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

解剖学・生理学

3 単位 (必修) 1 年 (前期, 後期)

Anatomy・Physiology

【授業目的】 個体発生の仕組みや, 人体の構造を理解する。

【授業概要】 精子・卵子から胎児の成長に至るまでの個体発生の仕組みを解説する。全身を系統別に分けて人体の概要を示す。それぞれの系統について, 肉眼解剖的構造及び組織学的構造を解説し, 歯科衛生士として必要な解剖学の知識を教授する。

【授業形式】 講義

【授業場所】 講義形式 (パワーポイント, プリントなどを適宜用いる)

【履修上の注意】 解剖学・生理学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習の内容と復習の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 細胞の基本構造, 構成要素とその働きを説明できる。
2. 生体を構成する分子を列挙できる。
3. 細胞膜の構造と機能を説明できる。
4. 細胞分裂の機序を説明できる。
5. 遺伝情報発現の機序を説明できる。
6. 個体の発生を概説できる。
7. 骨の基本構造と結合様式を説明できる。
8. 骨の代謝について説明できる。
9. 筋の一般構造を説明できる。
10. 筋収縮の機序を説明できる。
11. 心臓や動脈, 静脈の構造を説明できる。
12. 肺循環, 体循環, リンパ循環を説明できる。

13. リンパ性組織とリンパ性器官を説明できる.
14. 血液の機能, 止血と凝固系を説明できる.
15. 消化管の基本構造と機能を説明できる.
16. 肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる.
17. 膵臓の構造および外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる.
18. 消化管ホルモンの機能や, 消化管運動の制御機序を説明できる.
19. 喉頭, 気管, 気管支, 肺の構造と機能を説明できる.
20. 呼吸の調節機序を説明できる.
21. 腎臓と尿路の構造と機能を説明できる.
22. 尿生成の機序を説明できる.
23. 生殖器の構造と機能を説明できる.
24. 各内分泌器官の構造と機能および分泌されるホルモンを説明できる.
25. ニューロンの構造と興奮伝達を説明できる.
26. 中枢神経系, 末梢神経系の構造と機能を説明できる.
27. 自律神経系の構造と機能を説明できる.
28. 感覚器と感覚受容体を説明できる.

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	人体の構成	細胞の構造	解剖学の意義と重要性	1-5	伊賀
2.	〃	細胞の構造	細胞の基本構造, 細胞の死, 組織と器官	〃	吉田
3.	人体の構成	細胞膜	細胞膜の透過性, 分泌	〃	細井
4.	〃	〃	静止電位, 活動電位, 情報伝達	〃	〃
5.	人体の構成	遺伝情報の発現	核と染色体, 細胞分裂	〃	吉田
6.	〃	〃	遺伝子	〃	〃
7.	〃	〃	転写と翻訳	〃	〃
8.	ヒトの発生	受精・着床	減数分裂, 卵割, 胚葉形成	6	〃
9.	〃	胎児の成長	胚子期, 胎児期	〃	〃
10.	〃	〃	顔面・口腔の発生	〃	〃
11.	骨格系	全身の骨格, 骨の結合	体を構成する骨, 関節	7 8	〃
12.	〃	骨の構造	骨の形態, 骨組織, 骨代謝	〃	〃
13.	筋系	筋の一般構造	起始・停止, 筋の分類, 補助装置, 体を構成する筋	9 10	〃
14.	〃	筋の組織構造	横紋筋, 平滑筋	〃	〃
15.	〃	筋収縮	筋収縮のメカニズム	〃	〃

16.	脈管系	血管	循環, 血管の構造, 毛細血管	11-14	〃
17.	〃	心臓	心臓の構造	〃	〃
18.	〃	〃	刺激伝導系, 心電図	〃	〃
19.	〃	リンパ系	リンパ管, リンパ節, 胸腺, 脾臓	〃	〃
20.	〃	血液	血液の成分, 止血・凝固, 血液型	〃	〃
21.	消化器系	消化管	消化管の組織構造	15-18	〃
22.	〃	〃	食道, 胃, 小腸, 大腸	〃	〃
23.	〃	消化腺	肝臓の構造と機能	〃	〃
24.	〃	〃	膵臓の構造と機能	〃	〃
25.	〃	消化と吸収	消化管運動の神経支配	〃	〃
26.	〃	〃	消化酵素, 消化管ホルモン	〃	〃
27.	呼吸器系	喉頭・気管の構造	喉頭, 声帯・声門, 気管・気管支	19 20	〃
28.	〃	肺の構造	肺の区分, 肺胞, 胸郭	〃	〃
29.	〃	呼吸	呼吸運動, 肺気量, ガス交換, 呼吸中枢	〃	〃
30.	泌尿器系	腎臓, 尿管, 膀胱の構造	ネフロン(腎小体・尿管), 腎臓の血管系	21 22	〃
31.	〃	尿の生成, 排尿	濾過, 再吸収と分泌, クリアランス, 蓄尿・排尿反射	〃	〃
32.	生殖器系	男性生殖器の形態と機能	精巣, 精子形成	23	〃
33.	〃	女性生殖器の形態と機能	卵巣, 性周期と排卵	〃	〃
34.	〃	性ホルモン	性ホルモンの種類・調節	〃	〃
35.	内分泌系	ホルモン	ホルモンの分類・作用機序, ホルモンの分泌調節機構	24	〃
36.	〃	内分泌器官	視床下部, 下垂体	〃	〃
37.	〃	〃	甲状腺, 副甲状腺, 副腎	〃	〃
38.	神経系	神経系の一般特性	分類, ニューロン	25-27	〃
39.	〃	興奮の伝達 神経系:中枢神経系	静止電位と活動電位, シナプス, 反射	〃	〃
40.	〃	中枢神経系	脳・脊髄の構造と機能	〃	〃
41.	〃	末梢神経系	脊髄神経	〃	〃
42.	〃	体性神経系	運動神経と感覚神経	〃	〃
43.	〃	自律神経系	交感神経と副交感神経, 自律神経系の神経伝達物質と受容体	〃	〃

44.	感覚器系	感覚	感覚の種類と特徴	28	〃
45.	〃	体性感覚と内臓感覚	皮膚感覚, 臓器感覚, 内臓感覚	〃	〃

【成績評価】筆記試験を行い、成績が100点満点で60点以上の者を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】人体の構造と機能, 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版株式会社, 2010

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221562>

生化学(栄養代謝学)

1単位(必修)2年(前期)

Biochemistry

【授業目的】生体構成成分について理解し、疾病治療や口腔ケアにおける栄養代謝の意義をつかむ。

【授業概要】私たちの体を構成する分子は食物を摂食、嚥下、吸収という過程を経て、栄養素として摂取される。その栄養素がどのように代謝され、どのように体に影響を与えているかを理解するとともに、適切な栄養摂取の方法について理解することで、疾病や口腔ケアにおいて実践する基礎力をつける。

【授業形式】講義

【授業方法】教科書と参考資料を使用して講義を行う。

【授業場所】2年(前期)月曜3時限目 第6講義室

【履修上の注意】生化学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習の内容と復習の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

1. 人体の構成成分と栄養素について説明できる。
2. 栄養素の消化・吸収について説明できる。
3. エネルギー代謝について説明できる。
4. 栄養素の代謝との関わりを説明できる。
5. 疾病と栄養との関わりを説明できる。
6. 遺伝子の構造・機能と病気との関わりについて説明できる。
7. 口腔ケアとはなにか説明できる。

【授業計画】

	大項目	担当
1.	代謝総論	野間
2.	栄養素の構造と機能(1)	〃
3.	栄養素の構造と機能(2)	〃
4.	酵素	〃
5.	物質代謝(1)	〃
6.	物質代謝(2)	〃

7.	物質代謝 (3)	”
8.	物質代謝 (4)	”
9.	物質代謝 (5)	”
10.	物質代謝 (6)	”
11.	代謝の結合	”
12.	遺伝情報 (1)	”
13.	遺伝情報 (2)	”
14.	代謝疾患	”
15.	口腔ケアとは何か	”
16.	試験	吉岡

【成績評価】 筆記試験で 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】 臨床生化学 (2,600 円+税)MC メディカ出版

【参考書】 病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック 3,675 円 メジカルビュー社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217330>

口腔解剖学・口腔生理学

Oral & Maxillofacial Anatomy · Oral Physiology

5 単位 (必修) 1 年 (後期), 2 年 (前期)

松山 美和(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 羽地 達次・教授 / 歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 日野出 大輔・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 伊賀 弘起・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

尾崎 和美・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 吉田 賀弥・講師 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

【包含科目】

- ◇ 『口腔解剖学』
- ◇ 『口腔生理学』

【授業形式】 講義

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217234>

【連絡先】

- ⇒ 羽地 達次 (tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔解剖学第二・教授室/633-7321) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 羽田 勝 (hada@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 日野出 大輔 (hinode@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・教授室/633-7543) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉田 賀弥 (kaya@dent.tokushima-u.ac.jp/ 5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

口腔解剖学

(必修) 1 年 (後期), 2 年 (前期)

Oral & Maxillofacial Anatomy

【授業目的】 個々の歯の形態と機能を理解し、鑑別する能力を養う。

顎顔面口腔領域の正常な構造と機能、その発生過程と相互関係を理解する。

【授業概要】 ヒトの歯の一般的な形態を理解し、切歯、犬歯、小白歯、大白歯へと移行するとき、それぞれの歯の形がどのように変化していくかを教授する。また歯と口腔およびその周辺の解剖学的構造を示し、それらの組織がどのような細胞と組織から成り立ち、お互いにどのように関連して機能しているかを教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】 (1 年次後期) 木曜 3 時限目 第 2 講義室, 金曜 1 時限目 第 7 講義室, (2 年次) 木曜 3 時限目 第 2 講義室

【到達目標】

1. 歯の構造と機能を説明できる。
2. 歯種を鑑別できる。
3. 咬合の定義を説明できる。
4. 口唇と頬, 口腔前庭, 口蓋, 口腔底の構造を説明できる。
5. 舌の構造と機能を説明できる。
6. 咽頭・喉頭の構造を説明できる。
7. 嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明できる。
8. 頭頸部の主な骨の形態を説明できる。
9. 鼻腔・副鼻腔の形態とそれぞれの交通を説明できる。
10. 顎関節の構造と機能を説明できる。
11. 頭頸部の主な筋の形態とその機能を説明できる。
12. 頭頸部の脈管系の走行・分布を説明できる。
13. 頭頸部の神経系の走行・分布を説明できる。
14. 個体発生と器官発生を概説できる。
15. 味覚器の構造と機能を説明できる。

16. 歯の発生・発育と歯の交換の過程を説明できる。
17. 歯の硬組織の構造と機能を説明できる。
18. 歯髄の構造と機能を説明できる。
19. 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
20. 皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。
21. 口腔粘膜の特徴を説明できる。
22. 舌の構造と機能を説明できる。
23. 唾液腺の構造と機能を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯牙解剖学総論 (1)	歯の進化と比較解剖学	角質歯, 皮歯, 真歯	1	羽地
2.	歯牙解剖学総論 (2)	歯の解剖学概論	歯の外形, 内景, 歯の固定, 歯牙記号, 歯式, 方向用語	2	〃
3.	永久歯 (1)	切歯 (1)	上顎中切歯, 上顎側切歯	1, 2	〃
4.	永久歯 (2)	切歯 (2)	下顎中切歯, 下顎側切歯	〃	〃
5.	永久歯 (3)	犬歯	上顎犬歯, 下顎犬歯, 上・下顎犬歯の比較	〃	〃
6.	永久歯 (4)	小白歯 (1)	上顎第1小白歯, 上顎第2小白歯, 上顎小白歯の比較	〃	〃
7.	永久歯 (5)	小白歯 (2)	下顎第1小白歯, 下顎第2小白歯, 下顎小白歯の比較	〃	〃
8.	永久歯 (6)	大白歯 (1)	上顎大白歯, 大白歯の形態の推移	〃	〃
9.	永久歯 (7)	大白歯 (2)	下顎大白歯, 大白歯の形態の推移	〃	〃
10.	歯の鑑別	歯の鑑別法	歯種の鑑別, 上下の鑑別, 同一歯群内の順位の鑑別, 左右の鑑別	2	〃
11.	乳歯総論	乳歯の特性	永久歯との相違, 乳歯の原始性	1, 2	吉田賀
12.	乳歯各論	乳白歯	上顎乳白歯, 下顎乳白歯	〃	〃
13.	歯群	歯群の位置関係	上顎・下顎歯の位置関係, 隣接歯間の位置関係, 植立方向	〃	〃
14.	歯の異常	成因, 形態, 位置及び萌出時期の異常	復古形と未来形, 歯数及び大きさの異常, 異常結節	1, 3	羽地
15.	咬合	正常咬合, 異常咬合	咬合の定義, 異常咬合の種類, 早期・晚期萌出	〃	松山
16.	口腔の構造	口腔の表面構造	口腔とは, 口腔前庭, 固有口腔	4	吉田賀
17.	舌	舌の構造	舌筋, 舌の動脈・静脈, 舌の支配神経	5	〃
18.	咽頭・喉頭 (1)	咽頭・喉頭の区分・構造	咽頭・喉頭の区分・構造	6	〃

19.	咽頭・喉頭 (2)	咽頭・喉頭の機能	嚥下のしくみ	7	〃
20.	頭頸部の骨	脳頭蓋	脳頭蓋を構成する骨	8	〃
21.	〃	顔面頭蓋	上顎骨, 口蓋骨	〃	〃
22.	〃	〃	下顎骨, 舌骨	〃	〃
23.	鼻腔と副鼻腔	鼻腔・副鼻腔の構造と交通	鼻腔・蝶形骨洞・前頭洞・篩骨蜂巣・上顎洞	9	〃
24.	顎関節	顎関節の特徴・構造	骨部, 軟骨部, 関節円板, 関節包, 顎関節の靭帯	10	松山
25.	頭頸部の筋	表情筋, 咀嚼筋	表情筋, 咀嚼筋, 咀嚼機能, 咀嚼効率	11	吉田賀
26.	〃	前頸筋, 舌骨上筋, 舌骨下筋	前頸筋, 舌骨上筋, 舌骨下筋	〃	〃
27.	頭頸部の脈管	外頸動脈	外頸動脈の枝, 分布	12	〃
28.	〃	内頸静脈, 頭頸部のリンパ系	内頸静脈の枝, 分布, 頭頸部にあるリンパ節	〃	〃
29.	頭頸部の神経	三叉神経, 顔面神経	三叉神経・顔面神経の枝, 分布	13	〃
30.	〃	舌咽神経, 迷走神経, 舌下神経	舌咽神経・迷走神経・舌下神経の枝, 分布	〃	〃
31~32.	総論, エナメル質	エナメル質の特性, 組織学的構造	エナメル小柱, レッチウス条, ハンター・シュレーゲル条, エナメル叢, エナメル葉, エナメル紡錘	17	羽地
33.	象牙質	象牙質の特性, 組織学的構造, 象牙質の成長線	象牙細管, 原生象牙質, 第二象牙質, 修復象牙質, 象牙質の石灰化, エプネル線	〃	〃
34.	セメント質	セメント質の特性, 組織学的構造	無細胞セメント質, 有細胞セメント質	〃	〃
35.	歯髄	歯髄の特性, 組織学的構造	象牙芽細胞, 歯髄細胞, 歯冠歯髄表層の構造, 血管と神経, 象牙粒	18	〃
36.	顔面と口腔の発生	顔面組織の起源	一次口蓋, 二次口蓋, 顔面裂	14	〃
37~38.	歯の発生と成長	発生の諸段階	歯堤, 蕾状期歯胚, 帽状期歯胚, 鐘状期歯胚	16	〃
39.	歯周組織 (1)	歯根膜の特性, 組織学的構造	シャーピー線維, 歯根膜細胞, 脈管神経隙	19	〃
40.	歯周組織 (2)	歯槽骨の特性	骨芽細胞, 破骨細胞, 束状骨, 層板骨, 支持歯槽骨, 歯の生理的移動	〃	〃
41.	口腔粘膜 (1)	被覆粘膜	口唇, 軟口蓋	20, 21	〃
42.	口腔粘膜 (2)	咀嚼粘膜	硬口蓋, 歯肉	〃	〃
43.	口腔粘膜 (3)	特殊粘膜	舌乳頭, 味蕾, エプネル腺	15, 21, 22	吉田賀
44.	口腔粘膜 (4)	扁桃	舌扁桃, 口蓋扁桃	21	〃
45.	唾液腺	大唾液腺, 小唾液腺	耳下腺, 顎下腺, 舌下腺	23	〃

【成績評価】2年次前期の講義終了後に口腔解剖学と口腔生理学の筆記試験を行い、それぞれを合計して100点満点で60点以上の者を合格とする。

【再試験】行う

【教科書】

- ◇ 歯の解剖学 第22版, 藤田恒太郎原著, 桐野忠大, 山下靖雄改訂, 金原出版, 2002
- ◇ カラーアトラス口腔組織発生学 第2版 川崎堅三他編, わかば出版, 2004
- ◇ 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2011

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217282>

【備考】

- ◇ 1~15回: 1年次後期木曜3時限目(歯学科と共通授業)
- ◇ 16~30回: 1年次後期金曜1時限目
- ◇ 31~45回: 2年次前期木曜3時限目(歯学科と共通授業)

口腔生理学

(必修)2年(前期)

Oral Physiology

【授業目的】顎、顔面、口腔領域の諸器官の機能とそれらの調節機構について学習し、口腔の健康と全身についての関連について理解を深める。

【授業概要】歯と周組織、咀嚼と咬合、嚥下、唾液と唾液腺、味覚、口腔感覚、発声等についてそのメカニズムを学習する。またそれぞれの機能障害によって生じる疾患とその予防について習得する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式(視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】2年次 月曜1時限目 第6講義室, 火曜1時限目 第6講義室

【履修上の注意】口腔生理学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 口腔の諸器官の機能と全身の正常機能とを関連づけられる
2. 歯と歯周組織の構成成分と機能について説明できる。
3. 歯の化学的性質について説明できる。
4. 歯髄, 歯周組織の機能を説明できる。
5. 歯の感覚の種類とその神経機構を説明できる。
6. 口腔粘膜の構造と感覚について説明できる。
7. 味覚の神経機構について説明できる。
8. 唾液腺の構造と分泌機構について説明できる。
9. 唾液の成分とその作用について説明できる。
10. 唾液腺疾患および唾液と全身疾患とを関連づけられる。
11. 咬合と下顎運動および顎反射について説明できる。
12. 顎関節の構造と機能について説明できる。
13. 咀嚼運動の神経機構について説明できる。
14. 嚥下, 吸引, 嘔吐反射のしくみを説明できる
15. 口臭の定義, その原因と対策を説明できる
16. 発声, 構音のしくみについて説明できる
17. 口腔と発音の関係を説明できる。

18. 体温の調節について説明できる。

19. 記憶, 学習, 情動行動のしくみについて説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	総論	口腔生理学とは	口腔生理学とその意義, 口腔の器官, 全身の正常機能との関連	1	吉田
2.	歯と歯周組織の生理	歯式, 歯の機能	歯牙記号, 歯式	2	尾崎
3.	〃	歯の化学的性質	歯の硬さ, 歯の無機質, 有機質	3	〃
4.	〃	歯髄, 歯周組織	歯髄の機能, 血流, 歯肉	4,5	〃
5.	〃	〃	歯槽骨, 歯根膜, セメント質	4	〃
6.	歯と口腔の感覚	歯の感覚	触覚, 咬合感覚, 位置感覚, 歯髄感覚	5	〃
7.	〃	〃	関連痛, 有効刺激, 歯髄と疼痛, 象牙質知覚過敏症, 歯髄炎の鎮痛	〃	〃
8.	〃	口腔粘膜, 舌の感覚	口腔粘膜, 舌, 口唇の構造, 感覚受容器	6	伊賀
9.	〃	味覚, 嗅覚	味蕾, 味覚, 嗅覚の神経機構	7	〃
10.	唾液	唾液の分泌機構	唾液腺の構造と唾液の分泌機構	8	吉田
11.	〃	唾液の性状と成分	唾液の性状, 成分	〃	〃
12.	〃	唾液のはたらき	消化作用, 潤滑作用等	9	〃
13.	〃	唾液と疾患	唾液とう蝕, 歯周疾患との関連	10	〃
14.	〃	〃	唾液腺疾患, 唾液と全身疾患	〃	伊賀
15.	総括		1~14 までのまとめ		吉田
16.	咬合と咀嚼	咬合, 下顎位, 下顎の運動, 限界運動	咬合とは, 下顎安静位, 中心位, 咀嚼筋, 顎運動の神経系	11	松山
17.	〃	顎関節と顎運動	顎関節の構造と下顎運動	12	〃
18.	〃	顎反射	開口反射, 閉口反射, 下顎張反射, 歯根膜咀嚼筋反射	13	〃
19.	〃	咀嚼,	咀嚼の役割, 咀嚼と中枢神経, 咀嚼における舌, 口唇, 頬, 口蓋の役割	〃	〃
20.	〃	咬合力と咀嚼力	咬合力と咀嚼力の意味, 咀嚼力の評価法	〃	〃
21.	嚥下, 吸引, 口臭, 嘔吐, 口呼吸	嚥下, 吸引	嚥下運動, 吸引反射	14	〃
22.	〃	口臭	定義, 原因と対策	〃	日野出
23.	〃	嘔吐, 口呼吸	嘔吐中枢, 口呼吸の特徴と障害	15	羽田

24.	発声	発声の機構	喉頭の機構, 喉頭軟骨, 声帯, 喉頭筋の種類と働き	16	吉田
25.	〃	発音と構音	音声の生成, 言語音の形成	〃	〃
26.	〃	歯, 口腔と発音	口蓋裂と発音, 不正咬合と発音	17	伊賀
27.	〃	〃	歯の欠損と発音, 義歯と発音	〃	羽田
28.	体温	体温	体熱の生産, 放散, 体温の調節と変動	18	吉田
29.	記憶と学習	記憶と学習	記憶, 学習, 情動行動のしくみ	19	〃
30.	総括		16~29 までのまとめ		〃

【成績評価】2年次前期の講義終了後に口腔解剖学と口腔生理学の筆記試験を行い, それぞれを合計して100点満点で60点以上の者を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う

【教科書】参考書:最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2011

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217277>

病理学・口腔病理学

Pathology・Oral Pathology

2 単位 (必修) 2 年 (前期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 石丸 直澄・准教授 / 歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学)

尾崎 和美・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】疾患の原因と病態に関する基本的知識を習得し、さらに顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解する。

【授業概要】疾患の成立を正常からの逸脱として臓器、組織、細胞レベルでとらえ、病変を構造と機能の両面から学習する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 (視聴覚教材、プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】(前期)月曜 2 時限目, 木曜 4 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】病理学・口腔病理学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 病理学を学ぶことの意義について理解する。
2. 遺伝の概念について理解し、遺伝性疾患と先天異常について概説できる。
3. 細胞障害と組織障害の原因を列挙し、説明できる。
4. ネクロシスとアポトーシスとの違いを説明できる。
5. 増殖と修復、再生の異同を説明できる。
6. 循環障害の種類、原因およびそれぞれの転帰を説明できる。
7. 免疫・アレルギー疾患の種類と発生機序を説明できる。
8. 炎症の定義、分類、病理組織学的変化を説明できる。
9. 特異性炎の種類を列挙できる。
10. 腫瘍の定義、組織発生を説明できる。
11. 細胞の異形成、退形成、分化について説明できる。
12. 腫瘍の増殖、浸潤、転移について説明できる。
13. 老化について概説できる。
14. 歯の発育異常の分類を列挙できる。
15. 歯の損傷、沈着物について説明できる。
16. う蝕の概念を説明し、その分類を列挙できる。
17. 歯髄炎、根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎の病態と特徴を説明できる。

18. 抜歯創の治癒過程とドライソケットの誘因を説明できる。

19. 口腔粘膜病変の種類と特徴を説明できる。

20. 口内炎の病因と特徴を説明できる。

21. 口腔領域の先天異常の種類と病態について説明できる。

22. 顎骨疾患の病因、病態を説明できる。

23. 顎関節疾患の種類と病態を説明できる。

24. 顎口腔領域の嚢胞性疾患を説明できる。

25. 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍の種類と特徴を説明できる。

26. エナメル上皮腫の特徴を説明できる。

27. 口腔癌の特徴を説明できる。

28. 唾液腺疾患の種類およびその加齢変化について説明できる。

29. 口腔組織の加齢変化について概説できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	病理学総論	病理学概念, 病因論	病理学の概念, 細胞と組織, 内因, 外因	1	伊賀
2.	”	遺伝性疾患と先天異常	遺伝性疾患, 染色体異常, 先天異常の種類と要因	2	石丸
3.	”	細胞障害	糖, 蛋白, 脂質, 核酸代謝異常	3	”
4.	”	”	変性萎縮, 壊死, アポトーシス	4	”
5.	”	増殖と修復	肥大, 増生, 再生, 化生, 創傷治癒	5	”
6.	”	循環障害	循環系の概要, 虚血, 充血, うっ血, 出血, ショック	6	”
7.	”	”	血栓, 塞栓, 梗塞, 浮腫, 傍側循環	”	”
8.	”	免疫異常	免疫応答, アレルギー, 自己免疫, 移植免疫	7	”
9.	”	炎症・感染症	炎症の概念, 分類, 炎症細胞, 生体防御機構	8	”
10.	”	”	特異性炎 (真菌, 結核, 梅毒, ハンセン病等)	9	”
11.	”	腫瘍	腫瘍の概説, 発生, 遺伝子変異, 分類	10	伊賀
12.	”	”	細胞の異形成, 退形成, 分化, 癌の進展様式 (浸潤, 転移)	11,12	”

13.	〃	老化	細胞老化, 老化と寿命	13	石丸
14.	口腔病理学	唾液腺の病変	加齢変化, 化生, 腫瘍, シェーグレン症候群	28	〃
15.	〃	口腔組織の加齢変化	歯牙硬組織の変化, 歯髄・歯周組織の変化, 口腔粘膜の変化, 舌・味覚の変化	29	〃
16.	〃	歯の発育異常	口腔病理学の概説, 歯の大きさの異常, 形の異常, 数の異常, 構造の異常, 萌出の異常, 位置の異常, 咬合の異常	14	尾崎
17.	〃	歯の損傷, 沈着物	機械的損傷, 化学的損傷, プラーク, 歯石, 象牙質・セメント質の増生	15	〃
18.	〃	う蝕	病因, 誘因, 分類	16	〃
19.	〃	歯髄の病変	歯髄炎, 歯髄の石灰化	17	〃
20.	〃	歯周組織の病変	歯周組織の種類, 根尖性歯周炎, 歯周疾患	〃	〃
21.	〃	抜歯創の治癒・	抜歯創の治癒, ドライソケット	18	伊賀
22.	〃	口腔粘膜病変	口腔粘膜病変の分類, 口内炎, ベーチェット病, 前癌病変	19,20	〃
23.	〃	先天異常	唇裂, 口蓋裂, 唇顎口蓋裂	21	〃
24.	〃	顎骨の病変	顎骨骨髓炎, 上顎洞炎(歯性, 鼻性), 外傷	22	〃
25.	〃	〃	線維性骨異形成症, ページェット病, その他の顎骨疾患	〃	〃
26.	〃	顎関節病変	顎関節症, 顎関節炎, 関節リウマチ	23	〃
27.	〃	顎口腔領域の嚢胞	歯原性嚢胞	24	〃
28.	〃	〃	非歯原性嚢胞, 軟組織の嚢胞	25	〃
29.	〃	顎口腔領域の腫瘍	エナメル上皮腫, 歯原性腫瘍, 非歯原性腫瘍, エプーリス	26	〃
30.	〃	〃	口腔癌の種類, 分化度	27	〃

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217343>

【連絡先】

⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963)
(オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

⇒ 石丸 (ishimaru@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)

⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

【備考】 1~ 15回:2年次前期 月曜2時限目 16回~ 30回:2年次前期 木曜4時限目

【成績評価】 筆記試験により行う。100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

【参考書】

- ◇ 標準病理学 医学書院
- ◇ 口腔病理学 I, II 永末書店

薬理学・歯科薬理学

2 単位 (必修) 2 年 (前期)

Pharmacology・Dental Pharmacology

伊賀 弘起(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉本 勝彦・教授/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)

石川 康子・准教授/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤 典子・助教/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 岩田 武男・助教/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)

日野出 大輔・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 尾崎 和美・教授/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 吉岡 昌美・准教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し, 薬物を安全かつ効果的に利用する能力を身につける。

【授業概要】 薬物と生体の相互作用によって起こる現象や作用機序を個体レベルや細胞レベルで学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (パワーポイント, プリントなどを適宜用いる)

【授業場所】 火曜 2, 3 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 薬理学・歯科薬理学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 薬物作用の基本的形式と分類を説明できる。
2. 受容体と情報伝達のメカニズムを説明できる。
3. 薬理作用を規定する要因を説明できる。
4. 薬物の連用による影響および併用を説明できる。
5. 薬物動態を説明できる。
6. 医薬品の定義, 剤形, 処方箋について説明できる。
7. 毒薬, 劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる。
8. 薬事法と関連法規を概説できる。
9. 中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
10. 末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
11. 生体活性物質の生理・病理について知り, 受容体拮抗薬, 合成阻害薬の作用メカニズムを理解する。
12. 循環のメカニズムについて知り, 心臓, 動脈, 静脈ごとの特徴を理解し, それぞれの興奮・抑制をきたす薬物を説明できる。
13. 呼吸器系, 消化器系, 平滑筋系作用薬について説明できる。
14. 血液疾患治療について説明できる。

15. 内分泌系作用薬および代謝系作用薬について説明できる。

16. 利尿薬, 輸液について説明できる。

17. ビタミンの作用, 静脈栄養・経腸栄養について説明できる。

18. 局所麻酔薬の種類と作用メカニズムを説明できる。

19. 鎮痛剤の種類と作用メカニズムを説明できる。

20. 止血のメカニズムおよび止血薬と抗凝固薬の作用機序を説明できる。

21. 抗炎症薬について説明できる。

22. 抗感染症薬について説明できる。

23. 消毒薬の種類と作用機序および滅菌と消毒のちがいを説明できる。

24. 抗悪性腫瘍薬について説明できる。

25. 免疫系作用薬について概説できる。

26. 歯内療法薬の種類と作用について説明できる。

27. 腐蝕, 収斂薬の種類と使用法を説明できる。

28. 歯周疾患に使用する薬の種類と作用について説明できる。

29. その他の口腔疾患に使用する薬の種類と作用を説明できる。

30. う蝕予防に用いる薬の種類と作用を説明できる。

31. 服薬指導を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	薬理学総論	薬理学総論, 作用機序	薬理学とは, 薬物作用の種類, 作用と副作用	1	吉本
2.	〃	受容体と情報伝達系	受容体の構造と種類, 細胞内情報伝達系	2	岩田
3.	〃	薬理作用を規定する要因	用量と反応, 連用に伴う蓄積・耐性・依存, 薬物の併用と相互作用,	3,4	石川
4~5.	〃	薬物動態	投与経路と血中濃度, 吸収, 分布, 代謝, 排泄	5	〃
6.	〃	医薬品, 薬事関連法規	医薬品の定義, 開発, 薬剤の剤形, 処方箋, 調剤と製剤, 保存方法, 配合変化, 薬事法, 日本薬局方, 関連法規, 覚醒剤取締法	6,7,8	吉本
7.	薬理学各論	中枢神経系作用薬	脳血液関門, 全身麻酔薬, 催眠薬, 鎮静薬, 向精神薬, 抗痙攣薬, 中枢神経興奮薬	9	〃

8~9.	”	末梢神経系作用薬	コリン作動性薬物, コリン作動性効果遮断薬, アドレナリン作動性薬物, アドレナリン作動性効果遮断薬, アドレナリン作動性ニューロン遮断薬, 神経筋接合部に作用する薬物	10	石川
10.	”	生体内活性物質	ヒスタミン, セロトニン, アンギオテンシン, キニン, エイコサノイド	11	吉本
11.	”	循環器系作用薬	強心薬, 抗不整脈薬, 抗狭心症薬, 抗高血圧薬, 末梢血管拡張薬, ショック	12	”
12.	”	呼吸器系, 消化器系, 平滑筋系作用薬	鎮咳薬, 去痰薬, 抗喘息薬, 消化作用薬, 潰瘍治療薬, 平滑筋収縮薬, 弛緩薬	13	石川
13.	”	血液系作用薬	貧血治療薬, 止血薬, 抗凝血薬, 抗血小板薬, 血液製剤	14	吉本
14.	”	内分泌系, 代謝系作用薬, 体液平衡作用薬	ホルモンおよび拮抗薬, 糖尿病・高脂血症治療薬, 腎臓の機能, 利尿薬, 輸液	15,16	”
15.	”	ビタミン, 栄養	ビタミン薬, 静脈栄養, 経腸栄養	17	水澤
16.	歯科薬理学	局所麻酔薬	コカイン, 合成局所麻酔薬	18	伊賀
17.	”	解熱鎮痛薬・麻薬性鎮痛薬	非ピリン系・ピリン系, モルヒネ関連の鎮痛薬, 拮抗薬	19	”
18.	”	血液と薬	血液凝固, 止血薬, 抗血栓薬, 抗貧血薬	20	”
19.	”	抗炎症薬	ステロイド性抗炎症薬, 非ステロイド性抗炎症薬, 消炎酵素薬	21	”
20.	”	抗感染症薬	抗生物質, 抗ウイルス薬, 抗真菌薬, 抗結核薬	22	”
21.	”		消毒薬の種類, 作用機序, 滅菌と消毒	23	”
22.	”	抗悪性腫瘍薬	抗腫瘍薬, 分子標的治療薬	24	”
23.	”	免疫系作用薬	免疫抑制薬, 抗アレルギー薬, 抗ヒスタミン薬,	25	”
24.	”	顎・口腔粘膜疾患と薬	口腔粘膜疾患治療薬, 顎関節症に用いる薬物, 神経疾患に用いる薬物	”	”
25.	”	歯内療法薬, 腐蝕, 収斂薬	歯髄鎮静剤, 覆髄剤, 裏層剤, 歯髄失活剤	26	尾崎
26.	”	歯内療法薬, 腐蝕, 収斂薬	根管拡大補助剤, 根管清掃剤, 根管充填剤, 腐蝕, 収斂	27	”
27.	”	歯周疾患治療薬, 硬組織に作用する薬物	歯周疾患治療薬, 骨代謝調節ホルモン, 骨粗鬆症治療薬	28	”
28.	”	唾液腺・味覚に作用する薬物	唾液分泌を促進する薬物, 口腔乾燥症の原因と治療薬	29	吉岡
29.	”	う蝕予防に用いる薬品等	フッ化物, 歯磨剤, プラーク 染め出し剤,	30	日野出
30.	”	服薬指導	一般的な服薬指導, 対象別服薬指導	31	”

【成績評価】筆記試験により行う。100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】最新歯科衛生士教本「疾患の回復の促進 薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

【参考書】

- ◇ 歯科薬理学 第5版 医歯薬出版
- ◇ 臨床薬理学 第2版 医学書院

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217368>

【連絡先】

- ⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉本 勝彦(yoshimoto@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・教授室/633-9123) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 石川 康子(isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・準教授室/633-7332) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 水澤 典子(mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・第研究室/633-9137) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 岩田 武男(iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・第4研究室/633-9137) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 日野出 大輔(hinode@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・教授室/633-7543) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 尾崎 和美(ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉岡 昌美(masami@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

微生物学・免疫学

2 単位 (必修) 2 年 (前期)

Microbiology・Immunology

日野出大輔(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 三宅洋一郎・教授/歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

弘田克彦・講師/歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 根本謙・助教/歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 村上圭史・助教/歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

【授業目的】 微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し, 感染症の基礎的な知識, 理論を身につける. また口腔細菌の特徴と病原性を理解する.

【授業概要】 口腔領域および全身の感染症の原因となる微生物の構造, 増殖, 病原性, 感染症に対する人の免疫系について学習する. またう蝕, 歯周病などの口腔感染症の基礎的な知識, 理論も学習する.

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる.)

【授業場所】 木曜 1, 2 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している. ①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること. ②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること. また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること. ③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う. ④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる.

【到達目標】

1. 微生物学の概要とヒトに対する感染成立機序を理解する.
2. 微生物の種類を列挙できる.
3. 微生物の性状とその観察方法を説明できる.
4. 細菌, ウイルス, 真菌および寄生虫の性状と病原性を説明できる.
5. 自然免疫と獲得免疫の異同を説明できる.
6. 抗原抗体反応を説明できる.
7. 細胞性免疫と体液性免疫の異同を説明できる.
8. アレルギーの分類と発生機序を説明できる.
9. 免疫疾患について説明できる.
10. 化学療法目的と作用機序を説明できる.
11. 化学療法剤の薬剤耐性, 選択, 副作用について説明できる.
12. 清潔と不潔の区分, 滅菌と消毒の意義とその代表的な方法を説明できる.
13. 口腔内常在微生物の種類と分布を説明できる.
14. う蝕の病因と病態を説明できる.
15. 主な口腔感染症の病原菌を列挙し, それぞれの病態を説明できる.
16. 歯周疾患の病因と病態を説明できる.

17. 口腔細菌の全身への影響を説明できる.

18. 院内感染と標準予防策を説明できる.

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	微生物学総論	微生物学概論	微生物とは? 感染症とは?	1	三宅
2.	〃	微生物の性状	微生物の種類, 特徴, 観察方法	2	〃
3.	〃	細菌の構造, 代謝	細菌の構造, 代謝, 増殖	3	〃
4.	〃	感染	感染と発症, 病原性, 毒素, 宿主寄生体関係	〃	根本
5.	〃	〃	感染の種類, 経路, 予防法	〃	〃
6.	微生物学各論	グラム陽性菌	ブドウ球菌, レンサ球菌, 棒菌, その他	4	〃
7.	〃	グラム陰性菌	グラム陰性球菌, グラム陰性棒菌, 嫌気性棒菌, 腸内細菌	〃	〃
8.	〃	その他の細菌	スピロヘータ, マイコプラズム, リケッチア, クラミジア	〃	〃
9.	〃	ウイルス学	構造, 種類, 感染, 増殖, 化学療法	〃	〃
10.	〃	〃	各論	〃	〃
11.	〃	真菌学・原虫学	構造, 種類, 増殖, 病原性, 化学療法	〃	〃
12.	免疫学	免疫学概論, 種類	免疫と生体防御, 自然免疫, 獲得免疫	5	弘田
13.	〃	免疫の機構	免疫担当細胞, 抗原, 抗体, 補体, 抗原抗体反応	6	〃
14.	〃	〃	細胞性免疫と体液性免疫	7	〃
15.	〃	アレルギー, 免疫疾患	アレルギーの種類, 発生機序, 自己免疫疾患	8 9	〃
16.	微生物学総論	化学療法	化学療法とは? 選択毒性, 作用機序	10	村上
17.	〃	〃	化学療法剤, 薬剤耐性, 選択, 副作用	11	〃
18.	〃	滅菌と消毒	滅菌の定義, 原理と方法	12	〃
19.	〃	〃	消毒の定義, 原理と方法	〃	〃
20.	口腔細菌学	口腔内常在微生物	口腔常在細菌叢, 口腔環境, 分布	13	弘田

21.	”	”	唾液, 歯肉溝液, 歯垢	”	”
22.	”	う蝕	う蝕と微生物, 発症	14	”
23.	”	”	う蝕と免疫	”	”
24.	”	”	歯髄炎と微生物, 根尖病変と微生物	”	”
25.	”	その他の口腔感染症	口腔領域の細菌感染症	15	”
26.	”	”	口腔領域の真菌, ウイルス感染症	”	”
27.	”	歯周病	歯周病と微生物, 歯垢の病原性	16	日野出
28.	”	”	各型の病原菌, 歯周病と免疫応答	”	”
29.	”	口腔外感染症	口腔細菌と全身	17	三宅
30.	”	院内感染	院内感染, 日和見感染, 標準予防策, CDC ガイドライン	18	”

【成績評価】筆記試験により行う。100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】新歯科衛生士教本「微生物学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

【参考書】口腔微生物・免疫学 第2版 浜田茂幸編集 医歯薬出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217290>

【連絡先】

⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・教授室)

⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00~ 18:00 / 4F 口腔細菌学・教授室)

⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00~ 18:00 / 4F 口腔細菌学・セミナー室)

⇒ 根本 (088-633-7330, nemoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 村上 (088-633-7330, mkeiji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

口腔保健衛生学概論

1 単位 (必修) 1 年 (前期)

Introduction of Oral Health and Welfare

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

日野出 大輔・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 尾崎 和美・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 白山 靖彦・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

松山 美和・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 竹内 祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 星野 由美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

中道 敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 藤原 奈津美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】 人々の健康・福祉を支援し、国民の QOL 向上に貢献する歯科保健医療・福祉の在り方について理解する。

【授業概要】 歯学における口腔保健衛生学の概要を説明し、国民の QOL(生活・人生の質) 向上のために、口腔の健康を保持増進することの重要性について教授する。また、口腔保健が人々の健康および福祉に果たす役割について PBL(Problem Based Learning) 形式の小グループディスカッションを行うことにより、将来目指す歯科衛生士および社会福祉士としての自覚と責任を涵養する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる)

小グループディスカッション (シナリオを準備, パソコンとプロジェクターを用いて発表する。なお PBL の授業の進め方, グループ分け等については授業開始までに配布するマニュアルにて周知する。)

【授業場所】 金曜 3 時限目 第 7 講義室, チュートリアル室 4,5,6

【履修上の注意】 口腔保健衛生学概論の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 歯学および口腔保健衛生学の概要を説明できる。
2. 健康および保健医療・福祉の概念を説明できる。
3. 口腔保健が人々の健康および福祉に果たす役割について説明できる。
4. 歯科衛生士の役割について概説できる。
5. 社会福祉士の役割について概説できる。
6. 口腔保健に関するグループ討議において、同級生や教員と意見交換し、問題点を論理的に整理できる。
7. 口腔保健に関するテーマについてグループ討議で整理した問題点に対して、解決方法を自ら見出すことができる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔の健康と QOL	序論	口腔保健衛生学の概要, 健康および保健医療・福祉の概念	1,2	羽田
2.	〃	口腔保健医療の歴史	医療, 歯科医療の略史	3	日野出
3.	〃	口腔の健康保持・増進	口腔保健衛生と公衆衛生	〃	〃
4.	〃	歯科診療体系	歯科診療における各診療科の種類, 対象疾患と治療法の概要	〃	伊賀
5.	〃	口腔保健衛生と歯周疾患	口腔保健衛生における歯周疾患対策の意味	〃	尾崎
6.	〃	社会福祉と歯科医療	社会福祉制度の概要, 社会福祉のなかの歯科医療	〃	羽田
7.	〃	咬合 (噛み合わせ) と QOL	咬合の概要, 咬合と人の健康および病気との関連	〃	松山
8.	口腔保健の役割	PBL 課題 I (歯科衛生士関連)	シナリオ提示	3,4,6,7	中道, 星野, 藤原
9.	〃	〃	小グループディスカッション	〃	〃
10.	〃	〃	発表	〃	〃
11.	〃	〃	フィードバック	〃	〃
12.	〃	PBL 課題 II (社会福祉士関連)	シナリオ提示	3,5,6,7	白山, 羽田, 竹内
13.	〃	〃	小グループディスカッション	〃	〃
14.	〃	〃	発表	〃	〃
15.	〃	〃	フィードバック	〃	〃

【成績評価】 筆記試験および小グループディスカッションの評価点により総合的に判定する。

評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】教科書は使用しないが、下記に示す参考書など、できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【参考書】

- ◇ 口腔保健学 第2版, 医歯薬出版, 2002
- ◇ 国民衛生の動向, 厚生統計協会, 2007
- ◇ 歯科衛生の動向, 2007年版(日本口腔衛生学会), 医歯薬出版, 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217272>

【連絡先】

- ⇒ 羽田 勝 (hada@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 日野出 大輔 (hinode@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・教授室/633-7543) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 中道 (088-633-7898, dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 藤原 .

歯科衛生士概論

Outline of Dental Hygienist

2 単位 (必修) 1 年 (後期), 2 年 (前期)

日野出大輔(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 伊賀弘起・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

尾崎和美・教授/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 松山美和・教授/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 吉岡昌美・准教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

中道敦子・講師/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 星野由美・助教/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 大石美佳・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

藤原奈津美・助教/口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】 歯科衛生士の業務と役割についての知識を習得する。

【授業概要】 歯科衛生士の歴史, 法的性格と業務内容の要点, さらに歯科保健医療に携わる様々な職種や歯科医療経済について理解させる。また, 歯科衛生士としての心構えやその業務の展開, 英語によるコミュニケーション能力を養成する。さらに口腔保健・医療を実践する上で不可欠な歯科医療倫理について, 実例を挙げながら教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド, プリントなどを適宜用いる。

小グループディスカッション, ロールプレイなど(パソコンとプロジェクターを用いて発表)

【授業場所】 (1 年次後期) 金曜 7 時限目 第 7 講義室

(2 年次前期) 金曜 7 時限目 第 6 講義室

【関連科目】 『衛生行政』(0.5)

【履修上の注意】 本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 歯科医療の概要を説明できる。
2. 歯科衛生士の活動内容の歴史と将来像を述べることができる。
3. 歯科衛生士法を説明できる。
4. 歯科診療所, 病院に勤務する歯科衛生士の業務および責務について説明できる。
5. 地域歯科保健活動での歯科衛生士の業務および責務について説明できる。
6. 歯科関連職種の役割と協力関係を説明できる。
7. 一般歯科臨床における業務内容と診療所の構成を説明できる。

8. 患者の権利を説明できる。

9. 患者と医療従事者との望ましい関係, 信頼関係の重要性を説明できる。

10. 医療面接, 患者接遇の基本を説明できる。

11. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。

12. セカンドオピニオンの定義と重要性を説明できる。

13. リスクマネジメントについて説明できる。

14. 歯科医療経済を述べるができる。

15. 英語によるコミュニケーションを図る

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	序論		歯と口の健康づくりと歯科衛生士	1,2	日野出
2.	歯科医学史	歯科衛生士の歴史	歯科医療の歴史	〃	〃
3.	〃	〃	歯科衛生士の活動内容の歴史	〃	〃
4.	歯科衛生士関連法規と関連職種	歯科衛生士法	歯科衛生士法と法的責任 1	3	〃
5.	〃	〃	歯科衛生士法と法的責任 2	〃	〃
6.	〃	〃	歯科衛生士教育と養成機関	〃	〃
7.	〃	歯科関連職種	歯科関連職種の役割と協力関係	6	〃
8.	歯科衛生士の役割	歯科診療	歯科診療所の構成, 設備	4,7	尾崎
9.	〃	〃	歯科診療所, 病院における業務	4	星野
10.	〃	地域保健活動	地域歯科保健活動 保健所, 市町村保健センターでの業務	5	吉岡
11.	〃	海外の歯科医療, 歯科衛生士	海外の歯科医療の現状 アメリカ合衆国, その他の国の歯科衛生士	3	〃
12.	歯科衛生士業務の展開	PBL 課題	シナリオ提示	2-6	中道, 星野, 藤原
13.	〃	〃	小グループディスカッション	〃	〃

14.	〃	〃	発表	〃	〃
15.	〃	〃	フィードバック	〃	〃
16.	歯科衛生士として必要な心構えと知識・技能	患者の権利	インフォームドコンセント セカンドオピニオン	8,11,12	伊賀
17.	〃	〃	個人情報保護	8,9	〃
18.	〃	患者接遇	医療面接の基本	9,10	〃
19.	〃	〃	医療面接の実際	〃	伊賀, 大石
20.	〃	リスクマネージメント	歯科医療におけるリスクマネージメント 1	13	尾崎
21.	〃	〃	歯科医療におけるリスクマネージメント 2	〃	〃
22.	〃	英語コミュニケーション	自己紹介, 挨拶, 電話の対応など	15	松山
23.	〃	〃	歯科医院にて (1)	〃	〃
24.	〃	〃	歯科医院にて (2)	〃	〃
25.	〃	〃	英会話の実際	〃	〃
26.	歯科医療経済	日本の医療・歯科医療と医療経済	日本の医療経済政策 先進諸国の中の日本の歯科医療費 口腔の健康と医療費削減	14	日野出
27.	歯科衛生士としての業務	主要な歯科衛生士業務の概要	歯科予防処置, 歯科保健指導, 歯科診療補助	7	星野
28.	〃	業務の実際	歯科診療所業務の実際	4	藤原
29.	〃	〃	病院歯科業務の実際	〃	中道
30.	〃	〃	地域歯科保健活動における業務の実際	5	〃

【成績評価】1年次の講義終了時点で中間試験を行い、さらに全講義終了後、筆記試験を行って合否判定を行う。

評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】教科書は使用しないが、下記に示す参考書など、できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【参考書】

- ◇ 歯科衛生士概論 新歯科衛生士教本第2版, 医歯薬出版, 2001
- ◇ 国民衛生の動向, 厚生統計協会, 2005
- ◇ 歯科医療白書, 日本歯科医師会, 2003
- ◇ 最新歯科衛生士教本 歯科英語 医歯薬出版, 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217317>

【連絡先】

- ⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00 / 6F口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 伊賀 (口腔保健学科・教授室, 088-633-7963, iga@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00 / 6F口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 尾崎 (088-633-9309, ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00 / 6F口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00 / 6F口腔保健学科・第1研究室室)
- ⇒ 大石 (088-633-9181, mi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金18:00~ 19:00 / 6F総合歯科・医局)
- ⇒ 中道 (088-633-7898, dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00 / 5F口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 星野 (088-633-7898, star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00 / 5F口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 藤原 .

【備考】

- ◇ 1~ 15 回: 1年次後期 木曜 2時限目
- ◇ 16~ 30 回: 2年次前期 金曜 7時限目

歯科衛生統計

Statistics for Oral Health

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

日野出 大輔 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 疫学と EBM の概念を理解し、臨床や地域保健の場で得られた情報を客観的に分析して評価する能力を修得する。

【授業概要】 歯科衛生統計を日常臨床や公衆衛生の場で役立てられるよう、その基本的解説から手順、情報の収集、結果の分析法の実際、歯科疾患の疫学的特徴や評価法について講義を行う。また疫学データにおいて利用頻度の高いノンパラメトリック検定法に関する解説を加え、さらに歯科に関連のある国家統計調査についても教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。) 統計解析演習では、各自 PC を持参すること。

【授業場所】 月曜 7 時限目 第 6 講義室

【関連科目】 『口腔衛生学』 (0.5)

【履修上の注意】 本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 疫学と EBM の概念を説明できる。
2. 疫学研究を分類できる。
3. スクリーニング検査を説明できる。
4. 適切な検定法を用いて統計学的分析ができる。
5. 主な健康指標を説明できる。
6. 主な保健医療統計を説明できる。
7. 歯科の疫学的指標を説明できる。
8. 優れた研究デザインを用いた論文を理解できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序論		疫学と EBM の概念 母集団と標本, 代表値	1	日野出
2. 疫学	疫学研究	疫学で用いられる指標 (率と比, 相対危険度と寄与危険度, オッズ比)	1,2,3,4	〃

3.	〃	〃	記述疫学, 分析疫学, 介入疫学	〃	〃
4.	〃	〃	スクリーニング検査, パラメトリック検定とノンパラメトリック検定	〃	〃
5.	〃	〃	症例対照研究, コホート研究, 無作為化比較試験 (RCT)	〃	〃
6.	〃	〃	統計解析演習	〃	〃
7.	〃	健康指標と保健医療統計	罹患率, 有病率, 年齢調整死亡率, 死因別死亡率, 平均寿命と平均余命, 人口動態・静態統計, 粗出生率と合計特殊出生率,	5,6	〃
8.	〃	〃	患者調査, 国民健康栄養調査, 歯科疾患実態調査, 保健福祉動向調査	〃	〃
9.	歯科衛生統計	歯科の疫学的指標	う蝕の指標	7	吉岡
10.	〃	〃	歯周疾患の指標	〃	〃
11.	〃	〃	口腔清掃状態を表す指標	〃	〃
12.	〃	〃	歯のフッ素症, 歯の酸蝕症などの指標	〃	〃
13.	〃	資料読解演習	優れた研究デザインを用いた論文の読解	8	日野出
14.	〃	〃	優れた研究デザインを用いた歯科関連論文の読解	〃	〃
15.	まとめ		疫学研究と倫理	1-8	〃

【成績評価】 筆記試験の評価点により総合的に判定する。

評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】

- ◇ 口腔衛生学 -口腔保健統計を含む-, 歯科衛生士テキスト 学建書院 第 1 版, 2008
- ◇ 医療職のための公衆衛生・社会医学 第 2 版, 長谷川友紀他編集, 医学評論社, 2009

【参考書】

- ◇ 初めて学ぶやさしい疫学 第 3 版, 南江堂, 2005
- ◇ 保健生態学, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 歯科衛生の動向 2010/2011, 医歯薬出版, 2010

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217318>

【連絡先】

- ⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 5F 口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・第1研究室)

衛生行政

Public Health Administration

1 単位 (必修) 1 年 (後期)

日野出 大輔 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】わが国における衛生行政の目的, 組織とその意義について理解する。また, 関連する法規の内容を修得する。

【授業概要】衛生行政では地域保健の考え方, 国および地方公共団体の責任におけるサービスの意義とその具体的な内容について教授する。また, 医療の動向, 社会保障や社会福祉行政についても概説する。一方, 衛生法規, 歯科保健医療および社会福祉に関連する法規について解説し, 法律に定義された専門職としての役割について教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】金曜 6 時限目 第 7 講義室

【関連科目】『**歯科衛生士概論**』(0.5)

【履修上の注意】本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 衛生行政の概要を説明できる。
2. 衛生法規を説明できる。
3. 医療の動向を説明できる。
4. 歯科関係三法を説明できる。
5. その他の保健医療関係法規を列挙できる。
6. 社会保障を説明できる。
7. 社会福祉行政の概要を述べることができる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序論		社会生活のなかでの法律, 政治, 行政の役割と機能	1	日野出
2. 衛生行政と衛生法規	衛生行政	わが国の行政の仕組み, 国の行政と地方行政との関係	”	”
3. ”	”	衛生行政の目的, 組織 衛生行政の意義	”	”

4.	”	衛生法規	衛生法規とは, 衛生法規の分類	2,4,5	”
5.	”	”	医事衛生法規, 保健衛生法規	2,4,5	”
6.	”	”	予防衛生法規, 業事衛生法規, その他の法規	”	”
7.	”	医療の動向	疾病状況, 医療施設, 医療関係者の現状	3	吉岡
8.	”	歯科関係三法とその他の関係法規	日本の歯科医療制度, 歯科医師法	4,5	日野出
9.	”	”	歯科衛生士法と歯科技工士法	”	”
10.	”	”	その他の保健医療関係法規	”	”
11.	社会保障と社会福祉行政	社会保障	社会保障とは	6	吉岡
12.	”	”	社会保障行政機構と社会保険	”	”
13.	”	社会福祉行政	社会福祉行政の目的と行政組織	7	日野出
14.	”	福祉と人権	福祉と人権, 障害者自立支援法	”	”
15.	まとめ			1-7	”

【成績評価】筆記試験の評価点により総合的に判定する

評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】教科書は使用しないが, 下記に示す参考書など, できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【参考書】

- ◇ 衛生行政・社会福祉 新歯科衛生士教本第 2 版, 医歯薬出版, 2001
- ◇ 国民衛生の動向 2010/2011, 厚生統計協会, 2010
- ◇ 基本医療六法, 基本医療六法編集委員会, 中央法規, 2009

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217370>

【連絡先】

⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 5F 口腔保健学科・教授室)

⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・第1研究室)

衛生学・公衆衛生学

Hygiene and Public Health

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

日野出 大輔 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

佐藤 純子・非常勤講師 / 医学部

【授業目的】 人々の健康を保持増進するための社会医学を理解し, 包括的な問題解決方法の考え方を習得する。

【授業概要】 「社会医学の基礎」として, その概念と公衆衛生, 健康サービスの現状と課題, 医倫理学や医療の質と安全について講義を行い, 食習慣, 運動と休養, メンタルヘルス, その他の健康関連行動などの「ライフスタイルと健康サービス」や, 環境衛生, 感染症予防, 食品保健などの「生活環境と疾病コントロール」についても教授する。また, 「ライフサイクルと健康サービス (母子保健・学校保健・産業保健・成人保健・高齢者保健)」については, 講義と PBL (Problem Based Learning) 形式の小グループディスカッションを行うことにより, 地域保健の中で展開される公衆衛生活動に理解を深める。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (教科書に加えて, 視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる), 小グループディスカッション (シナリオを準備, パワーポイント等を用いて発表する。なお PBL の授業の進め方, グループ分け等については授業開始までに配布するマニュアルにて周知する)

【授業場所】 2 年後期 月曜日 5・6 時限目, 第 6 講義室

【先行科目】 『口腔衛生学』 (1.0)

【関連科目】 『衛生行政』 (0.5)

【履修上の注意】 本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 健康と疾病の概念を説明できる。
2. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
3. ノーマライゼーションを説明できる。
4. 健康サービスの現状と課題について説明できる。
5. 医倫理の基本的考え方とインフォームドコンセントについて説明できる。
6. 医療の質と安全に関する基本的事項について説明できる。

7. 食習慣, 運動と休養, メンタルヘルスについて説明できる。
8. 喫煙の健康被害について説明できる。
9. 環境による健康への影響を説明できる。
10. 感染症予防について説明できる。
11. 食品と健康について説明できる。
12. 循環器疾患・がん・糖尿病の予防について説明できる。
13. 母子保健を説明できる。
14. 学校保健を説明できる。
15. 産業保健を説明できる。
16. 成人保健を説明できる。
17. 高齢者保健を説明できる。
18. 精神保健を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	序論		社会医学の概念と公衆衛生, 健康の定義, 障害の定義, QOL, プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	1,2,3	日野出
2.	社会医学の基礎	健康サービス	健康サービスとは, 健康サービスの現状と課題	4	〃
3.	〃	〃	地域医療サービス, 医療の再編成, 社会資源	〃	〃
4.	〃	〃	国際保健	〃	〃
5.	〃	医倫理学	基本的考え方, 患者・治療者関係, 倫理規定トピックス	5	〃
6.	〃	医療の質と安全	医療の安全, 医療の質の確保	〃	〃
7.	ライフスタイルと健康サービス	食習慣	食事摂取基準, 食生活指針, 国民健康栄養調査, 栄養状態の評価, 食品の機能と成分表示	7	〃
8.	〃	運動と休養	運動習慣と健康, 休養と健康	〃	〃
9.	〃	メンタルヘルス	メンタルヘルスとは, 心の健康, 精神保健とその実際	7,18	〃
10.	〃	その他の健康関連行動	喫煙の健康被害, スモーカーライザーによる CO 測定と禁煙支援	8	佐藤

11.	”	”	飲酒, 薬物乱用, 不慮の事故, 自殺, バイオレンス, 性感染症	7	日野出
12.	生活環境と疾病コントロール	環境衛生	環境衛生とは, 環境の把握と評価, 環境と健康	9	”
13.	”	環境測定演習	気温, 気湿, カタ冷却力, 気道, 輻射熱, 感覚温度, 不快指数, 騒音, 空気中のCO ₂ , CO濃度測定	”	日野出, 吉岡
14.	”	”	飲料水の理化学試験 (PH, フッ素イオン, 硬度, 残留塩素)	”	”
15.	”	感染症予防	新興, 再興感染症, 感染症予防の基礎, 感染症法, 国内発症状況, 予防接種, 検疫	10	日野出
16.	”	食品保健	食品保健とは, 食中毒の現状, 食品の安全	11	”
17.	ライフサイクルと健康サービス	地域保健と衛生行政	地域保健と保健所の役割, 健康日本21と健康増進法	1,2,4	佐藤
18.	”	対人保健	母子保健	13	吉岡
19.	”	”	学校保健	14	”
20.	”	”	産業保健 1	15	”
21.	”	”	産業保健 2	”	”
22.	”	”	成人保健	12,16	”
23.	”	”	高齢者保健	17	”
24.	”	PBL 課題 I	シナリオ揭示	8 13-17	日野出, 吉岡
25.	”	”	小グループディスカッション	”	”
26.	”	”	発表とフィードバック	”	”
27.	”	PBL 課題 II	シナリオ揭示 (保健指導媒体作成)	13-17	”
28.	”	”	小グループディスカッション	”	”
29.	”	”	発表とフィードバック	”	”
30.	まとめ	”	公衆衛生活動の総括	1-18	日野出

- ◇ 保健生態学, 最新歯科衛生士教本, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 国民衛生の動向 2010/2011, 厚生統計協会, 2010
- ◇ 歯科衛生の動向, 医歯薬出版, 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217227>

【連絡先】

- ⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・第1研究室)

【成績評価】 全講義終了後, 筆記試験を行う。筆記試験および環境測定演習レポート, 小グループディスカッションの評価点により総合的に判定する。評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 医療職のための公衆衛生・社会医学 第2版, 長谷川友紀他編集, 医学評論社, 2009

【参考書】

口腔衛生学

Oral Health

2 単位 (必修) 2 年 (前期)

日野出 大輔 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。これらの知識と技術を生かして、個人から集団を対象としたレベルでの口腔保健管理を実践できるよう理解を深める。

【授業概要】 口腔衛生学の基礎、口腔の健康を保持増進することの重要性が認識できるよう教授する。また、う蝕および歯周疾患を主とした口腔疾患の病因、病態を理解し、これらをふまえた上で予防法について説明する。歯科保健活動の制度や法規について学習し、各ライフステージに応じた口腔保健管理を実践する上での歯科医療従事者の役割について理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド、プリントなどを適宜用いる

【授業場所】 月曜 5,6 時限目 第6 講義室

【関連科目】 『口腔疾患予防学』(0.5), 『歯科衛生統計』(0.5), 『衛生学・公衆衛生学』(0.5)

【履修上の注意】 本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 健康と疾病の概念を説明できる。
2. 予防法適応の段階について説明できる。
3. プロフェッショナルケア、セルフケアおよびコミュニティケアを説明できる。
4. 歯・口腔の形成・発育と機能を説明できる。
5. 唾液の性状と役割を説明できる。
6. 歯垢及びその他歯面への沈着物について説明できる。
7. 口腔清掃について説明できる。
8. う蝕の病因と病態を説明できる。
9. う蝕の診断とその予防法について説明できる。
10. う蝕活動性試験について説明できる。
11. う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。
12. 歯周組織の免疫応答について説明できる。

13. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
14. 歯周疾患の診断とその予防法について説明できる。
15. 歯周疾患のリスクファクターについて説明できる。
16. 歯周疾患と全身疾患との関連性について説明できる。
17. 口臭の原因と診断及びその予防について説明できる。
18. 顎関節症の予防を説明できる。
19. 不正咬合の予防を説明できる。
20. 口腔領域の悪性腫瘍の予防を説明できる。
21. ライフステージに応じた口腔疾患の予防と口腔保健管理を説明できる。
22. 母子歯科保健を説明できる。
23. 学校歯科保健を説明できる。
24. 産業歯科保健を説明できる。
25. 成人歯科保健を説明できる。
26. 高齢者歯科保健を説明できる。
27. 保健・医療における国際協力について説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序論		口腔衛生学とは、予防法適応の段階、プロフェッショナルケア、セルフケアおよびコミュニティケア	1, 2, 3,	日野出
2. 口腔衛生学の基礎	歯・口腔の形成・発育と機能	歯と口腔の発達 (発生, 形成, 萌出, 発育など), 関係の深い栄養, 食品, ホルモン, 悪影響因子	4	”
3. ”	健康と口腔環境	口腔の機能 (消化, 味覚, 発音, 発語, 常在菌)	”	”
4. ”	”	唾液とその作用 (唾液成分, 唾液の緩衝作用, 抗菌作用)	5	”
5. ”	”	歯面への沈着物 (歯垢, 歯石, 着色性沈着物, その他の沈着物)	6	”
6. 口腔清掃	口腔清掃法	口腔清掃法 (自然的清掃, 人工的清掃, 手術的清掃, 化学的清掃) と人工的清掃法の分類	7	吉岡
7. ”	”	口腔清掃用具	”	”
8. ”	”	歯磨剤と洗口剤	”	”

9.	口腔疾患の予防	う蝕予防	う蝕成因説, う蝕の発生機序, う蝕と微生物	8,9	〃
10.	〃	〃	う蝕活動性試験, う蝕予防法	8,9,10	〃
11.	〃	〃	う蝕予防と代用甘味料	9	〃
12.	〃	フッ素とう蝕予防	フッ素 (自然界, 代謝, 測定法),	11	日野出
13.	〃	〃	う蝕予防のメカニズム	9,11	〃
14.	〃	〃	フッ化物によるう蝕予防法	〃	〃
15.	〃	〃	フッ素の毒性, 歯のフッ素症, CFI	11	〃
16.	〃	歯周疾患とその予防	歯周疾患の分類	12,13	〃
17.	〃	〃	発生のメカニズム, 歯周病と微生物, 病原性細菌と病原因子, 歯周組織の免疫応答	12, 13	〃
18.	〃	〃	歯周病の予防法	14	〃
19.	〃	〃	歯周病のリスクファクター 喫煙との関連性	15	〃
20.	〃	〃	全身疾患との関連性	16	〃
21.	〃	口臭の予防	口臭の分類, 原因物質, 診断 口臭治療の実際と予防法	17	〃
22.	〃	不正咬合, その他の口腔疾患の予防	不正咬合・その他の感染症と予防法	18,19, 20	〃
23.	口腔保健に関わる地域の役割	地域歯科保健	地域保健の概念	21	〃
24.	〃	〃	健康日本 21	〃	〃
25.	〃	〃	母子歯科保健	22	吉岡
26.	〃	〃	学校歯科保健	23	〃
27.	〃	〃	産業歯科保健	24	〃
28.	〃	〃	成人・高齢者歯科保健	25,26	〃
29.	〃	〃	要介護高齢者歯科保健	26	〃
30.	〃	国際保健	口腔保健・歯科医療分野における国際協力	27	日野出

【成績評価】15回の講義終了後、中間の筆記試験を行う。全講義終了後の期末試験結果とあわせて、総合的に合否判定を行う。
評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】口腔衛生学 -口腔保健統計を含む-, 歯科衛生士テキスト 学建書院 第1版, 2010

【参考書】

- ◇ 保健生態学, 最新歯科衛生士教本, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 口腔保健学 第2版, 医歯薬出版, 2002
- ◇ 歯科衛生の動向 2010/2011, 医歯薬出版, 2010
- ◇ 予防歯科実践ハンドブック, 医歯薬出版, 2004
- ◇ 実践予防歯科 医歯薬出版, 1999
- ◇ 新予防歯科学 第3版 (上・下), 医歯薬出版, 2003

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217280>

【連絡先】

- ⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・第1研究室)

医療情報処理学

1 単位 (必修) 1 年 (前期)

河野 文昭(授業責任者)・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることが目的である。

【授業概要】下記に示す授業内容を講義し、実習では各学生にコンピュータ実習(インターネット活用、ワープロ、表計算、統、計処理)を行う。また、歯科臨床の場で活用しているコンピュータの事例について紹介する。

【授業場所】金曜日 12:50~14:20 歯学部第2講義室

【キーワード】医療情報

【履修上の注意】コンピュータをツールとして活用できるように講義します。実習は特にインターネット活用および医療統計の方法、に重点をおきます。毎回出席をとるので必ず講義に出席すること。PCは各自持参すること

【到達目標】

1. 情報処理・医療情報の基礎が理解できる
2. コンピュータネットワークの基礎が理解できる
3. コンピュータを活用できる技能を身につけられる

【授業計画】

大項目

1.	情報処理総論
2.	医療情報処理総論
3.	情報通信の仕組み(インターネット)
4.	歯科領域におけるコンピュータの役割
5.	ワープロの実習
6.	〃
7.	表計算の実習
8.	〃
9.	プレゼンソフトの実習
10.	〃
11.	ホームページ作成ソフトの実習
12.	〃
13.	医療統計ソフトの実習
14.	〃

【成績評価】筆記試験(論述式)

【再試験】有(一度だけ行う)

【教科書】

- ◇教科書:私版のテキストを配布。インターネットにて閲覧。
- ◇参考書:各講義中に紹介

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221982>

【連絡先】

⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

医療安全管理学

Safety Management in Dentistry

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 河野 文昭・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

尾崎 和美・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 松山 美和・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】 歯科医療の質と安全を確保する為に、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する。

【授業概要】 医療の安全を確保する為に医療法で義務付けられている内容を基に、医療管理に必要な項目を述べると共に、医療事故の事例を挙げ、事故発生の背景、事故の予防法、事故への対処法等を検討する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (視聴覚教材, プリントを適宜使用する。)

【授業場所】 月曜 4 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 医療安全管理学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 医療法で安全を確保する為に義務付けられている内容を説明できる。
2. 医療安全管理体制に必要な責任者、スタッフの構成と業務を説明できる。
3. 医療の安全を確保する為の各種文書、マニュアル、掲示について説明できる。
4. 医療の安全を確保する為に、医療スタッフが習得すべき知識、技術について説明できる。
5. 歯科医療で起こりやすい院内感染とその予防法を説明できる。
6. 医療事故の概念について、原因や予防法を説明できる。
7. 歯科医療で起こりやすい医療事故について、原因や予防法を説明できる。
8. 保存修復系で起こりやすい医療事故について、原因や予防法を説明できる。
9. 小児歯科や矯正歯科で起こりやすい医療事故について、原因や予防法を説明できる。
10. 口腔外科系で起こりやすい医療事故について、原因や予防法を説明できる。
11. 高齢者で起こりやすい医療事故について、原因や予防法を説明できる。
12. 医薬品投与に際して起こりやすい医療事故について、原因や予防法を説明できる。
13. 医療機器の不具合や誤操作で起こりやすい医療事故について、原因や予防

法を説明できる。

14. 患者側からの苦情や訴訟について適切な対応法を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	医療法	安全管理	改正医療法第 6 条の内容	1	河野
2.	〃		安全管理責任者, リスクマネジメント	2	〃
3.	〃		各種文書, マニュアル, 掲示	3	〃
4.	〃		安全管理の為の講習会	4	〃
5.	〃	院内感染防止	B 型・C 型肝炎, AIDS, MRSA	5	伊賀
6.	医療事故	概念,	インシデント, ヒヤリハット	6	尾崎
7.	〃	保存修復系の事故	誤飲, 誤嚥, 残存, 迷乳, 破折	7,8	〃
8.	〃	小児・矯正歯科系の事故	咬傷, 窒息, 潰瘍	9	〃
9.	〃	口腔外科系の事故	神経損傷, 誤抜, 内出血	10	伊賀
10.	〃	高齢者の事故	誤嚥性肺炎, 転倒	11	松山
11.	〃	医薬品の事故	誤薬, 過剰, 蓄積	12	〃
12.	〃	医療機器の事故	爆発, 巻き込み	13	〃
13.	接遇, 患者とのトラブル	インフォームドコンセント	問診, 説明義務, セカンドオピニオン	14	伊賀
14.	〃	苦情	投書, 自費診療, 第三者, 損害保険	〃	〃
15.	〃	訴訟	民事, 刑事, 弁護士	〃	〃

【成績評価】 評価は筆記試験により行い、100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 行う。

【教科書】

- ◇ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」医歯薬出版 2007 年
- ◇ 必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 「一から学ぶ歯科医療安全管理」海野, 小谷, 渋井, 森崎編集 2005 年 (医歯薬出版)
- ◇ 「歯科衛生士のヒヤリ・ハットの事例と対策」松田, 鈴木監修 2006 年 (口腔保健協会)
- ◇ 「医療安全学」熊谷編集 2005 年 (医療科学社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217270>

【連絡先】

- ⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963)
(オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00)
- ⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00)
- ⇒ 松山 .

早期臨床実習

Early Clinical Training

2単位 (必修) 1年 (後期), 2年 (前期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 日野出 大輔・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

白山 靖彦・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 歯科医療系学生における人間力を高めるため、早期から学生自らのコミュニケーション能力を向上させ、ホスピタリティ・マインドを体得し、また、口腔保健従事者としての自覚や倫理観を習得するために学外の社会福祉施設等において体験実習を行う。またこれから学ぶ口腔保健学に対する学習意欲を向上させることを目的として、実際の歯科医療現場を見学し、歯科医療従事者の業務内容を実体験する。

【授業概要】 1年次後期は、学外の養護老人ホームにおいて施設利用高齢者と交流する。また少人数グループ(5人~6人単位, 3グループ)に分かれて徳島大学病院の各外来診療科を見学し、各診療の流れ、歯科医師、歯科衛生士をはじめとする医療従事者の役割や臨床の概要を理解する。また受付業務や保険業務をおこなっている事務部門(医事課)も見学し、歯科診療体系を把握する。

2年次前期の毎金曜日の午前中(1, 2, 3時限目)には、グループに分かれて徳島大学歯科診療部門の13診療科(部)を1診療科ずつ廻り、歯科臨床の概要を把握する。さらに実習日のうち1回は、学外高齢者施設において本学科教員が行う「お口の健康長寿教室」に同行し、口腔の健康に関する講和と専門的口腔ケアに関する指導の補助を行う。

【授業形式】 実習

【授業方法】 見学及び体験実習

【授業場所】 (1年)木曜4, 5, 6時限目, (2年)金曜1, 2, 3時限目

【到達目標】

1. 基本的マナーを守る。
2. コミュニケーション力を養う。
3. ホスピタリティ・マインドをもって対応する。
4. 相手を受容して適切に行動する。
5. 各診療室外来における歯科治療の概要を説明する。
6. 診療室での院内感染対策の概要を説明する。
7. 診療室での医療安全対策の概要を説明する。
8. 歯科診療におけるチーム医療を説明する。
9. 口腔保健学の基礎的知識と歯科臨床との結びつきを概説する。
10. 歯科衛生士・社会福祉士になるために必要な事項の要点を概説する。
11. 医療人としての目標を概ね設定する。
12. 口腔保健・福祉を原点とした地域貢献のあり方を述べる。

13. QOL 向上における歯科専門職としての役割を説明する。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	高齢者交流学習	説明会 (学内)	施設職員による講和および説明会	1-4	施設職員
2~5.	〃	養護老人ホーム (バスにて移動)	施設利用高齢者との交流	〃	口腔保健学科教員
6.	〃	中間ふり返り授業 (学内演習)		〃	〃
7~10.	〃	養護老人ホーム (バスにて移動)	施設利用高齢者との交流	〃	〃
11.	〃	最終ふり返り授業 (学内演習)	反省会	〃	口腔保健学科教員, 施設職員
12~14.	徳島大学病院見学実習	各歯科診療科	初診時の医療面接, 診断, 治療計画立案等の見学 / 歯科3階: 歯科診療および歯科診療補助の見学 / 顎関節外来, 口臭外来: 顎関節外来, 口臭外来診療の見学 / 歯科口腔外科: 口腔外科診療および歯科小手術の見学 / 歯科放射線科: レントゲン撮影および読影等の見学 / 矯正歯科: 矯正歯科診療の見学 / 小児歯科, 障害者歯科: 小児歯科, 障害者歯科診療の見学 / 歯科衛生室, 歯科技工室: 歯科予防処置, 歯科保健指導の見学, 歯科技工室の見学 / 受付業務や保険業務をおこなっている事務部門 (医事課) の見学	5-10	口腔保健学科教員
15.	徳島大学病院医科診療部門見学実習		栄養管理室 (NST): NST の取り組み, 栄養指導の見学等 / 食と健康増進センター: 両親学級の見学, 集団保健指導等 / 医療連携センター: まちの保健室, 医療連携	8-11	〃
16.	副病院長		病院での実習の心構え	5-10	副病院長
17.	歯科衛生室		口腔疾患予防と口腔健康管理の見学	5-11	徳島大学病院及びHBS部教員
18.	歯科保存学第一		保存診療の見学	5-9	〃
19.	歯科保存学第二		歯周病のはなし	〃	〃

20.	歯科補綴学第一		義歯治療の流れ(スライド), 外来見学	〃	〃
21.	歯科補綴学第二		補綴科の診療見学, 簡単な印象採得と模型製作	〃	〃
22.	口腔外科学第一		外来及び病棟での診療の見学, 口腔外科疾患について概説	〃	〃
23.	口腔外科学第二		口腔外科的疾患の概要をスライドで説明し, 外来, 病棟を見学する	〃	〃
24.	歯科矯正学		矯正科外来見学と矯正治療の概説	〃	〃
25.	小児歯科学		小児歯科診療室での歯科治療の見学	〃	〃
26.	歯科放射線学		歯科における画像診断, 外来見学	〃	〃
27.	歯科麻酔学		全身疾患を有する患者の歯科治療を見学	〃	〃
28.	総合歯科診療部		臨床見学, 歯型彫刻, 歯科用ユニットの使い方	〃	〃
29.	高次歯科診療部		高次歯科診療部での治療見学	〃	〃
30.	地域福祉体験学習	高齢者福祉施設等	「お口の健康長寿教室」における補助	9-13	口腔保健学科教員

【成績評価】各グループで出席をとり, 実習態度を含めて総合的に評価する。
 高齢者交流学习; 参与観察, 学習レポートを評価する。
 お口の健康長寿教室; 参与観察, 学習レポートの評価に施設担当者評価を加味する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217293>

【連絡先】

- ⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・教授室/633-7963)
(オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 日野出 大輔 (hinode@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・教授室/633-7543) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 白山.

【備考】

- ◇ 1~ 15 回: 1 年次後期 木曜 4, 5, 6 時限目, 班分け表と詳細な日程表は別途配布し, 9 月下旬に説明会を実施する。
- ◇ 16~ 30 回: 2 年次前期 金曜 1, 2, 3 時限目, 班分け表, 日程表ならびに地域福祉体験学習に関する詳細は別途配付する。 4 月上旬に説明会を行う。

口腔衛生学基礎実習

2単位 (必修) 2年 (前期, 後期)

Practice of Fundamental Oral Health Science

日野出大輔(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉田賀弥・講師/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

北村清一郎・教授/歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 山下菊治・准教授/歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学)

角田佳折・助教/歯学科 口腔解剖学第一講座 (口腔顎顔面形態学), 羽地達次・教授/歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学), 樋浦明夫・准教授/歯学科 口腔解剖学第二講座 (口腔組織学)

吉本勝彦・教授/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 石川康子・准教授/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤典子・助教/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)

岩田武男・助教/歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 細井和雄・教授/歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学), 赤松徹也・准教授/歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学)

長谷川敬展・助教/歯学科 口腔生理学講座 (口腔分子生理学), 石丸直澄・准教授/歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学), 新垣理恵子・助教/歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学)

山田安希子・助教/歯学科 口腔病理学講座 (口腔分子病態学), 口腔保健学科全教員

【包含科目】

- ◇ 『骨学・系統解剖見学』
- ◇ 『歯型彫刻』
- ◇ 『生理学・生化学・病理学・薬理学』
- ◇ 『口腔衛生学』

【授業形式】実習

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217233>

【連絡先】

- ⇒ 日野出 大輔 (hinode@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・教授室/633-7543) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉田 賀弥(kaya@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 口腔保健学科・第3研究室/633-9171 (オフィスアワー: 月~ 金17:00~18:00)
- ⇒ 北村 清一郎 (kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・教授室/633-7319) (オフィスアワー: 火~ 金16:15~ 17:45)
- ⇒ 山下 菊治 (kikuji@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・准教授室/633-9120) (オフィスアワー: 月~ 金16:15~ 17:45)
- ⇒ 角田 佳折(sumida@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔顎顔面形態学・第2研究室/633-7320) (オフィスアワー: 月~ 金16:15~ 17:45)
- ⇒ 羽地 達次 (tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔解剖学第二・教授室/633-7321) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 樋浦 明夫 (hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp/4F口腔解剖第二・准教授室/633-9121) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 吉本 勝彦 (yoshimoto@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・教授室/633-9123) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 石川 康子 (isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・准教授室/633-7332) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)

- ⇒ 水澤 典子 (mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・第4研究室/633-9137) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 岩田 武男 (iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 分子薬理学・第4研究室/633-9137) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 細井 和雄 (hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔生理学・教授室/633-7323) (オフィスアワー: 木16:40~ 17:40)
- ⇒ 赤松 徹也 (akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔生理学・第2研究室/633-7324) (オフィスアワー: 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 長谷川 敬展 (thase@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔生理学・第2研究室/633-7324) (オフィスアワー: 木16:40~ 17:40)
- ⇒ 石丸 直澄 (ishimaru@dent.tokushima-u.ac.jp/4F 口腔病理学・第2研究室/633-7328) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 新垣 理恵子 (arakaki@dent.tokushima-u.ac.jp/4F 口腔病理学・第2研究室/633-7328) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)
- ⇒ 山田 安希子 (aki.yamada@dent.tokushima-u.ac.jp/4F 口腔病理学・第2研究室/633-7328) (オフィスアワー: 月~ 金16:00~ 18:00)

骨学・系統解剖見学

(必修) 2年(前期)

【授業目的】講義で習得した知識を基にして、実際に人体乾燥骨標本や系統解剖を観察・見学することにより、人体の構造を深く理解する。

【授業概要】骨学実習:人体乾燥骨格・骨標本を観察し、人体を構成する骨の名称と位置、連結関係、左右の鑑別及び各骨の主要部位の名称を学習する。

組織学実習:組織標本を顕微鏡下で観察、スケッチすることにより器官の組織学的構造を把握する。

系統解剖実習:人体の解剖を見学し、その主要構造や位置的关系を学習する。特に頭頸部については詳細にその構造、形を学習する。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】金曜 4, 5, 6時限目 第3実習室 3回, 解剖実習室 4回

【履修上の注意】実習の全回出席をもって履修を認定する。

発表内容が到達目標に達していない場合は、追加レポート等を課す。

【到達目標】

1. 顕微鏡の使用方法を修得する。
2. 歯の組織構造を説明できる。
3. 歯周組織の構成要素とその組織構造を説明できる。
4. 口腔粘膜を分類し、その組織学的特徴を説明できる。
5. 扁桃の構造と機能を説明できる。
6. 唾液腺の構造と機能を説明できる。
7. 人の骨格の概要を説明できる。
8. 骨の基本構造と結合様式を説明できる。
9. 人の骨格を構成する各骨の名称と位置、左右の鑑別、主要構造の名称と役割を説明できる。
10. 頭頸部の主な骨の形態を説明できる。
11. 鼻腔・副鼻腔の形態と、それぞれの交通を説明できる。
12. 顎関節の構造と機能を説明できる。
13. 頭頸部の主な筋の形態とその機能を説明できる。
14. 頭頸部の神経系、脈管系の走行・分布を説明できる。
15. 胸部、腹部の主要構造を説明できる。
16. 人の心臓の形と内腔での血液の流れを説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	組織学	顕微鏡観察(第3実習室)	エナメル質, 象牙質, セメント質, 歯周組織	4-6	吉田賀
2.	〃	顕微鏡観察(第3実習室)	口腔粘膜, 扁桃	7,8	〃
3.	〃	〃	唾液腺	9	〃
4.	骨学・系統解剖	体幹・四肢(1), 頭蓋骨, 人体解剖見学	体幹:脊椎, 胸郭 上肢:上肢帯, 上腕, 前腕, 手の骨 下肢:下肢帯, 大腿, 下腿, 足の骨 頭頸部の骨, 鼻腔, 副鼻腔 頭頸部の筋(表情筋・舌骨上筋・咀嚼筋) 頭頸部の脈管, 神経, 顎関節 腹部の解剖(心臓, 食堂, 肝臓, 腎臓)	7-9	吉田賀, 北村, 山下, 角田
5.	〃	〃	〃	〃	〃
6.	〃	〃	〃	10 11	〃
7.	〃	〃	〃	12-16	〃

【成績評価】骨学実習, 組織学実習:グループ発表内容と組織標本スケッチおよび系統解剖実習のレポートを合わせて総合的に評価する。

【教科書】

- ◇ 実習プリント:到達目標に沿った課題を提示する実習プリントを配布する。
- ◇ 解剖実習の手引き(改訂11版), 寺田春水・藤田恒夫 著, 1994年, 南山堂
- ◇ 人体解剖学(改訂第41版), 藤田恒太郎 著, 1993年, 南江堂
- ◇ その他, 図書館などの書籍を広く利用するのが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217380>

歯型彫刻

(必修) 2年(後期)

【授業目的】 歯牙解剖学で学んだ歯の特徴を基にして、彫刻刀を用い、石膏棒から歯の形を仕上げるにより各歯牙の形態を理解する。

【授業概要】 教科書、参考書、又は模型を参考にして石膏棒を彫刻し、典型的な解剖学的特徴を有する各々の歯を仕上げる。模型を見ないで各歯牙を彫刻できることを最終目標とする。

【授業形式】 実習

【授業方法】 石膏棒を作成し、各歯牙の形態を2倍大に彫刻し歯の形態を理解する。

【授業場所】 木曜 4, 5, 6時限目 9回 解剖実習室(歯学科と合同授業)

【履修上の注意】 各歯牙の特徴を正確に捉えていない場合は、再度または再再度彫刻させ提出させる。

【到達目標】

1. 上顎中切歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
2. 上顎側切歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
3. 下顎中切歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
4. 上顎犬歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
5. 上顎第一小白歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
6. 下顎第一小白歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
7. 上顎第一大白歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
8. 下顎第一大白歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。
9. 上顎第一乳白歯を計測、スケッチし、石膏棒上でその形態を彫刻できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯型彫刻	切歯	上顎中切歯	1	羽地, 樋浦, 岡村, 中島, 吉田
2.	”	”	上顎側切歯	2	”
3.	”	”	下顎中切歯	3	”
4.	”	犬歯	上顎犬歯	4	”
5.	”	小白歯	上顎第一小白歯	5	”
6.	”	”	下顎第一小白歯	6	”
7.	”	大白歯	上顎第一大白歯	7	”
8.	”	”	下顎第一大白歯	8	”

9.	”	乳歯	上顎第一乳白歯	9	”
----	---	----	---------	---	---

【成績評価】 実習試験と各実習終了後の彫刻を客観的に評価し、総合的に判定する。

【教科書】 実習書:プリントを配布する。

【参考書】

◇ 歯の解剖学 第22版 藤田恒太郎原著 桐野忠大, 山下靖雄改訂, 金原出版 2004

◇ 最新歯型彫刻 第2版 尾花甚一編著 医歯薬出版 2004

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217296>

生理学・生化学・病理学・薬理学

(必修) 2年(後期)

【授業目的】人体が示す生命現象や生理現象と種々の疾病における人体の構造と機能を理解するために、生体構成成分の構造と機能を調べる方法、人体の生理機能の測定原理とその方法、および病態における生体の変化を観察する方法などを実習を通して学習する。

【授業概要】生体の示す生命現象を生体成分の試料や自分の体を用いた学習を通して理解できるように、各実習の前に講義を行い、生命現象や実習方法の意義について理解した上で、実習を行う。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】生化学:2年前期 金曜 4,5,6時限目(2回), 生理学, 薬理学:2年後期水曜 4,5,6時限目(4回) 第1実習室, 病理学:2年後期水曜 4,5,6時限目(2回) 第3実習室

【到達目標】

1. 生体構成成分の構造と機能を理解する。
2. 遺伝子の変化により疾患が発症することを理解する。
3. 人体の生理機能の評価法を理解する。
4. 人体の病的変化を臓器・組織・細胞レベルで形態学的に理解する。
5. 生体試料の分離方法について説明できる。
6. 蛋白質の解析方法について説明できる。
7. 遺伝子の解析方法について説明できる。
8. 遺伝子異常と病気の関連性について説明できる。
9. 人体の生理機能の測定原理と方法について説明できる。
10. 人体における病理変化の種類とその内容を説明できる。
11. 代表的な組織の病理学的変化を説明できる。
12. 病理組織診断に用いる生検材料, 手術材料, 細胞診材料の取扱い方, 迅速組織標本作製法を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1~2.	生化学	電気泳動法	生体構成成分の構造と機能についての講義を行った後、電気泳動法によって実際にタンパク質を調べる方法を実習する。	1,5,6	尾崎, 吉田

3~4.	薬理学	遺伝子変化	遺伝子の異常により遺伝子疾患やがんが発症する機構, またその遺伝子の変化を検出する方法について講義を行った後、PCR法を用いて、遺伝子の変化を検出する。	2,7,8	吉本, 日野出, 石川, 水澤, 岩田
5~6.	生理学	心電図, 血圧	心電図計や血圧計を用いて、実際に人体の生理機能を測定し、その原理と方法を理解する。	3,9	細井, 赤松, 長谷川, 尾崎
7~8.	病理学	人体の病的変化	人体の病的変化を肉眼的観察と顕微鏡観察を通して臓器・組織・細胞レベルで理解する。	4,10,11,12	林, 石丸, 伊賀

【成績評価】全授業への出席と実習の内容理解を評価する。評価の方法としては、実習終了後、レポートを提出することで合格とする。

【再試験】行わない。

【教科書】適宜プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ エッセンシャル細胞生物学 中村桂子・藤山秋左夫・松原謙一監訳 南山堂,
- ◇ ヒトの分子遺伝学 第2版 村松正美・小南凌監修 MEDSI

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217338>

口腔衛生学

(必修) 2年 (後期)

Practice of Oral Health

【授業目的】口腔衛生学で習得した知識について十分理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。

【授業概要】下記に示す基礎実習、演習、見学などを行い、口腔衛生学、栄養学の基本的な知識・技術を習得するとともに、歯科衛生統計の指標についても理解を深める。

【授業形式】実習

【授業方法】基礎実習、演習、歯ブラシ工場見学

【授業場所】金曜 4, 5, 6 時限目 5 回 第 4 実習室, 1 回 学外実習

【先行科目】『口腔衛生学』(1.0), 『歯科衛生統計』(1.0)

【到達目標】

1. 口腔観察法について説明できる。
2. 口腔清掃法について説明できる。
3. 口腔清掃用具について説明できる。
4. 唾液の性状と役割を説明できる。
5. 歯垢及びその他歯面への沈着物について説明できる。
6. う蝕のリスク要因について説明できる。
7. 歯周疾患のリスク要因について説明できる。
8. 食生活調査について説明できる。
9. 歯科の疫学的指標を説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 口腔保健管理	歯・口腔の健康状態の把握 口腔清掃法	口腔アセスメント 口腔清掃用具 (歯ブラシ, 歯間ブラシ, フロス, その他の清掃用具), ブラッシング法 (歯ブラシ, 電動ブラシ)	1,2,3	日野出, 吉岡, 星野
2. ”	歯ブラシ工場見学	歯ブラシの製造工程を見学	3	”
3. ”	う蝕・歯周疾患のリスク診断	唾液の緩衝能測定, RD テスト, その他市販のう蝕活動性試験, 唾液潜血試験, BMI, 口臭測定, 呼気中一酸化炭素測定などの歯周病スクリーニングテスト	4,5,6,7	”
4. ”	食事指導法	食生活調査 (食習慣の把握, う蝕誘発性の高い食品), 食事指導 (甘味嗜好の改善, 栄養と口腔保健), 食事バランスガイド	8	”
5. 疫学と衛生統計	歯科疾患に関する指標の測定	集団検診の準備, DMF, PMA index, CPITN OHI, O'Leary の Plaque Control Record	1,9	日野出, 吉岡

6.	”	衛生統計演習	上記実習で得られたデータの集計及び統計処理	”	”
----	---	--------	-----------------------	---	---

【成績評価】全回出席を原則とする。実習態度、実習の技術的評価と到達度、レポートによる実習の理解度などから、総合的に評定する。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ 口腔衛生学-口腔保健統計を含む-, 歯科衛生士テキスト学建書院第 1 版, 2008
- ◇ 実習帳を配付する。

【参考書】できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217281>

発達系歯科学

Pediatric Dentistry & Orthodontics

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

尾崎 和美 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 田中 栄二・教授 / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学)

三留 雅人・教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 堀内 信也・助教 / 歯学科 歯科矯正学講座 (口腔顎顔面矯正学), 藤原 奈津美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】 小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防ならびに治療法を理解する。

また、顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。

【授業概要】 胎児期から成人前までの全身および口腔の正常像、疾病とその予防、治療法ならびに口腔の健康管理、顎骨、歯列及び咬合の成長発育、不正咬合の診断と治療法に関する講義を行う。発達期における歯科的な知識を全身との関連の基に理解することで、口腔保健教育を行う上での基礎的知識を習得することも目標の一つとする。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド、プリントを適宜用いる。

【授業場所】 (2 年次後期) 木曜 2 時限目 第 6 講義室, (3 年次前期) 火曜 4 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】 当該科目の授業においては 15 回の講義の予習あるいは復習に努めること。具体的には、①次回の講義内容のレジュメを配布した場合は、その中の空白部分に適する語句を、教科書・参考書等を調べて予め埋めておくこと。②予めレジュメを配布しない場合は、「授業計画」中の「内容」に記している語句について、教科書・参考書等を用いて調べた上、1 枚程度の予習レポートを作成しておくこと。③講義中に小テストを行った場合は、教員による解説の内容をまとめるなどしつつ復習し、1 枚程度の復習レポートを作成しておくこと。④上記の②および③については、その提出を求めることがある。また、提出されたレポートの内容が成績評価に反映される場合がある。⑤試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

1. 矯正治療および小児歯科治療の目的・意義を説明できる。
2. 人体諸器官の形態と機能の成長・発達変化を説明できる。
3. 顎・顔面頭蓋・歯列咬合の成長・発育過程を説明できる。
4. 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。
5. 出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
6. 正常な歯列咬合の状態を説明できる。
7. 不正咬合の種類とその影響を説明できる。

8. 不正咬合の診断に必要な資料・情報について説明できる。

9. 不正咬合の診断・治療法を概説できる。

10. 矯正治療に必要な力学および矯正治療によって起こる生体の反応を列挙できる。

11. 咬合誘導の概念、保険装置の目的と種類、適応症を説明できる。

12. 歯科矯正器材と装置の種類・取り扱い方を概説できる。

13. 歯科診療時の小児の心理や行動の特徴ならびに歯科的対応法について説明できる。

14. 小児期の口腔疾患とその診査、診断および治療法を説明できる。

15. 小児歯科診療および矯正治療における偶発症について説明できる。

16. 矯正治療および小児歯科診療における歯科衛生士の役割を説明できる。

17. 小児の長期口腔保健管理を説明できる。

18. 小児期および青少年期に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 総論	総説	矯正歯科治療および小児歯科医療の目的・意義	1	尾崎
2. "	発育概論	頭蓋の構成要素、発育期の分類、発育の評価法、精神運動発達	2	三留
3. "	"	成長発育曲線、顎・顔面・頭蓋の成長発育、歯・歯列の成長発育	3,4	"
4. "	"	摂食嚥下機能の発達、情動発達、社会性の発達	5	尾崎
5. "	咬合	正常咬合、不正咬合の種類・原因、不正咬合の予防	6,7	"
6. 各論	口腔習癖および軟組織の異常	口腔習癖の種類と頻度、口腔習癖の不正咬合・咀嚼・発音・嚥下への影響、筋機能療法	7,8	堀内
7. "	矯正診断	診断のための診査と情報の収集、症例分析法、治療方針の立て方	8	田中
8. "	診療計画	診査・検査、診断、患者・保護者への教育	9	"
9. "	矯正治療における生体反応と生力学	矯正力、歯の移動・組織反応、歯の移動様式、固定	10	尾崎

10.	”	咬合誘導	咬合誘導の考え方(意義, 目的, 歯列および咬合の診査と診断)	11	三留
11.	”	”	保険装置, 動的咬合誘導法(装置の種類と適応症)	”	”
12.	”	歯科矯正治療の使用器材と矯正装置	矯正用器材・材料の種類とその取り扱い	12	尾崎
13.	”	”	矯正装置の種類, 保定	”	”
14.	”	歯科矯正治療の実際 1	乳歯列期および混合歯列期の歯科矯正治療, 矯正治療における抜歯	7-9,12	堀内
15.	”	歯科矯正治療の実際 2	永久歯列期および成人の歯科矯正治療(外科矯正, 補綴前矯正, 矯正治療の展望)	”	田中
16.	”	歯科矯正治療の実際 3	歯科矯正治療(歯周病患者, MTM)	”	尾崎
17.	”	小児患者の歯科診療	小児への歯科的対応法(一般的対応法, 行動変容法, 抑制法, 鎮静・減痛法など)	13	”
18.	”	”	小児の口腔管理計画(診察と診断, 診療計画, 患者教育)	14	”
19.	”	小児の口腔疾患	乳歯う蝕の特徴・罹患率, 幼若永久歯う蝕の特徴	4,14	”
20.	”	”	歯周疾患, 外傷, 軟組織疾患	14	”
21.	”	小児の歯冠修復・歯内治療	ラバーダム防湿法, シーラント, 成形充填, 鑄造修復, 全部歯冠修復	”	”
22.	”	”	局所麻酔, 覆髄法, 生活歯髄切断法, 抜髄法, 感染根管治療	”	”
23.	”	乳歯・幼若永久歯への外傷	外傷歯の診査, 硬組織・歯髄・歯周組織の損傷への対応, 固定法, 乳歯外傷の後継永久歯への影響	”	”
24.	”	小児歯科での外科的処置	抜歯, 小手術, 薬物療法	”	”
25.	”	歯科治療上注意すべき小児疾患	遺伝, 染色体異常, 感染症, 循環器疾患他	2-5,14	”
26.	”	小児歯科治療, 歯科矯正治療における偶発症	矯正治療, 小児歯科診療における偶発症の種類, 処置および予防	15	”
27.	”	歯科衛生士の役割	矯正治療および小児歯科診療における歯科衛生士の役割	16	藤原
28.	”	口腔健康管理	定期健康診断, 乳幼児口腔保健, 学校歯科保健	17	尾崎
29.	”	青少年期の問題点と解決策	青少年を取り巻く環境と抱える問題, 解決策, 社会における青少年の問題, 小児の虐待	18	三留
30.	まとめ		総括	1,7-9,14,16	尾崎

【成績評価】筆記試験を2年次後期終了後と3年次前期終了後の2回行い, 両者を総合して評価する。評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】

- ◇新歯科衛生士教本 歯科矯正学 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1993
- ◇最新歯科衛生士教本 小児歯科 第1版, 医歯薬出版, 2009

【参考書】

- ◇歯科矯正学 第4版, 医歯薬出版, 2001
- ◇歯科矯正マニュアル, 第4版, 南山堂, 2006
- ◇歯科臨床と診療補助シリーズ7 歯科矯正学と診療補助, 第1版, クインテッセンス出版, 2001
- ◇歯科衛生士教育マニュアル 歯科矯正学, 第1版, クインテッセンス出版, 1985
- ◇小児歯科学 第1版, 医歯薬出版, 2007
- ◇小児歯科患者の臨床的対応 初版, クインテッセンス社, 2001
- ◇歯科臨床と診療補助シリーズ6 小児歯科学と診療補助, 初版, クインテッセンス出版, 2001
- ◇歯科衛生士教育マニュアル 新編 小児歯科学, 第1版, クインテッセンス出版, 1997
- ◇器材準備マニュアル, 第3版, 全国歯科衛生士教育協議会編, (財)口腔保健協会, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217344>

【連絡先】

- ⇒ 尾崎和美(ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-9309) (オフィスアワー: 月水金18:00~ 19:00)
- ⇒ 田中 栄二(etanaka@dent.tokushima-u.ac.jp/3F 矯正・教授室/633-7356) (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00)
- ⇒ 三留 雅人(mitome@dent.tokushima-u.ac.jp/3F小児・教授室/633-7358) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 堀内 信也(horiu@dent.tokushima-u.ac.jp/3F矯正・第5研究室/633-7357)(オフィスアワー:月火木金17:00~ 18:00) (オフィスアワー: 月火木金17:00~ 18:00)
- ⇒ 藤原奈津美(nfujiwara@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月水金17:00~ 18:00)

【備考】

- ◇1~ 15回:2年次後期:木曜2時限目

◇ 16~ 30 回:3 年次前期:火曜 4 時限目

保存修復系歯科学
Conservative Dentistry

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

尾崎 和美 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 永田 俊彦・教授 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)
大石 慶二・講師 / 歯学科 歯科保存学第二講座 (歯周歯内治療学)

【授業目的】保存治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。

【授業概要】歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その診査ならびに治療・予防法について、その方法の意義、術式あるいは使用器材・材料についての知識を修得する。また、歯内治療および歯周治療の対象となる疾患について、その原因、病態、診査法ならびに治療・予防法をはじめ、使用器材や薬物に関する基礎的・臨床的知識を修得する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 スライド、プリントを適宜用いる。

【授業場所】(2 年次後期) 第 6 講義室, (3 年次前期) 第 5 講義室

【履修上の注意】当該科目の授業においては 15 回の講義の予習あるいは復習に努めること。具体的には、①次回の講義内容のレジュメを配布した場合は、その中の空白部分に適する語句を、教科書・参考書等を調べて予め埋めておくこと。②予めレジュメを配布しない場合は、「授業計画」中の「内容」に記している語句について、教科書・参考書等を用いて調べた上、1 枚程度の予習レポートを作成しておくこと。③講義中に小テストを行った場合は、教員による解説の内容をまとめるなどしつつ復習し、1 枚程度の復習レポートを作成しておくこと。④上記の②および③については、その提出を求めることがある。また、提出されたレポートの内容が成績評価に反映される場合がある。⑤試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

1. 歯に生じる各種疾患 (う蝕, 外傷, 変色等) の特徴と病態ならびに術前診査について説明できる。
2. 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因, 病態ならびに術前診査について説明できる。
3. 歯周病の病因, 病態ならびに術前診査について説明できる。
4. 歯周基本治療の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
5. 象牙質知覚過敏症の病因, 病態ならびに知覚過敏処置の目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
6. 保存修復治療の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 前処置ならびに術後管理を説明できる。
7. 歯髄保存療法の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
8. 歯髄除去療法の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。

9. 感染根管治療の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
10. 根管充填法の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
11. 歯周外科治療の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備を説明できる。
12. 歯周治療におけるメンテナンスの内容, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
13. 歯内外科治療の種類, 目的, 器具, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
14. 乳歯と根未完成歯の歯髄炎の処置法の種類, 目的, 器材, 前準備, 術後管理を説明できる。
15. 保存治療における偶発症について, 種類, 処置および予防を説明できる。
16. 歯痛の機序を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯科保存学	総論	オリエンテーション, 硬組織疾患・歯内疾患の特徴	1,2	尾崎
2.	”	”	症例提示, グループ討議	1-3	”
3.	歯周治療	”	歯周病の臨床像, 疫学	3	”
4.	”	各論	歯周病の分類と病型, 歯周歯内病変	”	”
5.	”	”	歯周組織診査の目的, 器具, 器材および評価法	”	”
6.	”	”	歯周病の病因, 歯周病と全身疾患との相互関係	”	大石
7.	”	”	歯周基本治療の目的, 内容, 器具, 器材, 準備	4	尾崎
8.	保存修復治療	総論	う蝕, 知覚過敏症, 硬組織疾患の診査	1,5	”
9.	歯内治療	”	歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態, 歯内疾患の診査	2	”
10.	保存修復治療	各論	診査と診断の基本的概念, 窩洞の分類, 保存修復治療に必要な器具	1,2,5	”
11.	”	”	修復前処置 (防湿法, 歯間分離法, 隔壁法, 除痛法)	6	”
12.	保存修復治療および歯内治療	”	保存修復治療および歯内治療の概要	6-10	”

13.	歯周治療	〃	再評価, 歯周外科治療 (再生療法を含む) の目的, 器具, 器材, 準備, 術後管理	11	〃
14.	〃	〃	歯周治療におけるメンテナンスの意義, 内容, 器具, 器材, 準備, 術後管理	11,12	〃
15.	〃	〃	歯周治療後の治癒像および合併症	〃	永田
16.	保存修復治療	〃	修復前処置 (防湿法, 歯間分離法, 隔壁法, 除痛法)	6	尾崎
17.	〃	〃	診査と診断の基本的概念, 窩洞の分類, 保存修復治療に必要な器具	〃	〃
18.	〃	〃	グラスアイオノマーセメント修復の概要と必要な材料あるいは器具の取り扱い・準備, 術後管理	6,15	〃
19.	〃	〃	コンポジットレジン修復の概要と必要な材料あるいは器具の取り扱い・準備, 術後管理	〃	〃
20.	〃	〃	鋳造修復の流れ, 材料・器具の取り扱い, 準備, 術後管理	〃	〃
21.	歯内治療	〃	歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態	2	〃
22.	〃	〃	歯髄除去療法の目的, 器具, 器材, 準備, 術後管理	8,15	〃
23.	〃	〃	根管充填の目的, 器具, 器材, 準備, 術後管理, 偶発症	10,15	〃
24.	〃	〃	感染根管治療の目的, 器具, 器材, 準備, 術後管理, 歯周歯内病変	9,15	〃
25.	〃	〃	歯内外科治療, 移植, (意図的) 再植の目的, 器具, 器材, 準備, 術後管理	13	大石
26.	保存修復治療	〃	外傷の種類および処置	1,2	尾崎
27.	歯内治療	〃	歯髄鎮静消炎療法, 覆罩法の目的, 器具, 器材, 準備, 術後管理, 前処置	7,14-16	〃
28.	〃	〃	アペキシフィケーションとアペキソゲネシス	14	〃
29.	保存修復治療	〃	アマルガム修復他の保存修復治療の種類, 内容, 器具, 器材, 準備, 術後管理	6,15	〃
30.	歯周治療	〃	糖尿病と歯周病	11,12	永田

【成績評価】全講義終了後, 筆記試験を行い総合的な理解度を評価する。評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2010

【参考書】

- ◇ 保存修復学 21, 第3版, 永末書店, 2007
- ◇ 新・う蝕の科学, 初版, 医歯薬出版, 2006
- ◇ エンドドンティクス 21, 初版, 永末書店, 2000
- ◇ ワイン・エンドドンティックセラピー, 初版, 医歯薬出版, 1980
- ◇ 臨床歯周病学, 初版, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 新歯科衛生士教本 保存修復学・歯内療法学 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1995
- ◇ 最新歯科衛生士教本 歯周疾患 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2006
- ◇ 歯科臨床と診療補助シリーズ 2 歯科保存学と診療補助, 初版, クインテッセンス出版, 2001
- ◇ 器材準備マニュアル, 第3版, 全国歯科衛生士教育協議会編, (財)口腔保健協会, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217262>

【連絡先】

- ⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-9309) (オフィスアワー: 月水金18:00~ 19:00)
- ⇒ 永田 俊彦 (nagata@dent.tokushima-u.ac.jp/3F 2保存・教授室/633-7343) (オフィスアワー: 月~ 金18:00~ 19:00)
- ⇒ 大石 慶二 (ohishik@dent.tokushima-u.ac.jp/3F 2保存・第2研究室/633-7344) (オフィスアワー: 月~ 金18:00~ 19:00)

【備考】

- ◇ 1~ 15 回:2 年次後期:月曜 1 時限目
- ◇ 16~ 30 回:3 年次前期:水曜 1 時限目

補綴系歯科学

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

Prosthodontics

松山 美和・教授/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 河野 文昭・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 羽田 勝・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

西川 啓介・講師/歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学), 友竹 偉則・講師/歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学), 細木 眞紀・助教/歯学科 歯科補綴学第二講座 (咬合管理学)

星野 由美・助教/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 藤原 奈津美・助教/口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】顎口腔機能について理解するとともに、障害がある場合に補綴装置によって機能、形態、審美を回復し維持するための診断、治療、術後管理法について学習する。

【授業概要】顎口腔機能の健全な状態と歯の欠損等によって生ずる障害のある状態について学習し、これらの障害を回復維持するための、各種補綴装置について、診断、治療、術後管理に関する基本的事項を修得する。また、補綴治療を必要とする患者に対する歯科衛生士としての対応の仕方について修得する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる)

【授業場所】(2 年次後期) 木曜日 1 時限目 第 6 講義室, (3 年次前期) 水曜日 2 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】補綴系歯科学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 歯科補綴治療の概要を説明できる。
2. 歯科補綴治療の意義および目的について説明できる。
3. 基本的な顎口腔系の形態の概要を説明できる。
4. 基本的な顎口腔機能の概要を説明できる。
5. 咬合、顎運動に関する基本的事項について説明できる。
6. 歯の欠損に伴う形態的、機能的、心理的、社会的影響について説明できる。
7. 固定性補綴装置の種類、特徴、構造について説明できる。
8. 可撤性補綴装置 (有床義歯) の種類、構成要素について説明できる。
9. 補綴歯科治療における検査、診断に関する基本的事項について説明できる。
10. クラウン・ブリッジ治療の流れとその概要について説明できる。
11. クラウン・ブリッジ治療に用いる器材について説明できる。
12. クラウン・ブリッジ治療における歯科衛生士業務について説明できる。

13. クラウン・ブリッジ治療における患者指導について説明できる。
14. クラウン・ブリッジ治療のメンテナンスについて説明できる。
15. テンポラリークラウンの目的、種類、製作法、調整法、仮着法などについて説明できる。
16. 全部床義歯の治療の流れとその概要について説明できる。
17. 部分床義歯の治療の流れとその概要について説明できる。
18. 有床義歯治療に用いる器材について説明できる。
19. 有床義歯治療における歯科衛生士業務について説明できる。
20. 有床義歯治療における患者指導について説明できる。
21. 有床義歯治療のメンテナンスについて説明できる。
22. インプラント補綴治療の概要を説明できる。
23. インプラント補綴治療における歯科衛生士業務について説明できる。
24. インプラント補綴治療における患者指導について説明できる。
25. インプラント補綴治療のメンテナンスについて説明できる。
26. 補綴歯科治療における歯科技工について概要を説明できる。
27. 補綴歯科治療に関する器材の管理について説明できる。
28. 顎関節症の概要を説明できる。
29. 補綴歯科治療を成功させるための歯科衛生士の役割について説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当	
1.	補綴歯科治療に関する基礎知識	歯科補綴の概要	この教科で何を学ぶか、歯科補綴学とは、意義 (健康, QOL), 目的, 補綴治療の適応症, 歯科衛生士の役割	1,2	松山
2.	”	顎口腔系の形態	歯列弓, 咬合湾曲, 咬合平面, 対合関係, 基準平面	3	”
3.	”	顎口腔系の機能	咀嚼, 嚥下, 発音, 口腔感覚, 唾液分泌	4	”
4.	”	咬合様式と顎運動	咬合と顎運動, 咬合様式, アンテリアガイダンス, ポステリアガイダンス	5	西川
5.	総論 1	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	歯の欠損に伴う口腔顔面の変化, 身体的障害, 機能障害, 心理的問題, 社会的影響	6	羽田
6.	”	固定性補綴装置の種類とその構造	クラウンの分類と特徴, ブリッジの分類と特徴, 構造	7	細木

7.	”	可撤性補綴装置の種類とその構造	全部床義歯の用途別分類, 全部床義歯の構成要素, 部分床義歯の分類と構成要素	8	松山
8.	”	補綴歯科治療における検査・診断 1	医療面接, 口腔内検査, スタディモデルによる検査, 咬合, 顎運動, 顎関節の検査	9	”
9.	”	補綴歯科治療における検査・診断 2	相互実習	”	松山, 星野, 藤原
10.	クラウン・ブリッジ	クラウン・ブリッジ治療の流れ	検査, 診断, 治療計画の決定, 前処置, 支台歯形成, 支台築造, テンポラリークラウン, 印象採得, 咬合採得, 口腔内試適, 調整, 研磨, 合着, メンテナンス	10	細木
11.	”	クラウン・ブリッジ治療に用いる器材	切削, 研磨用器材, 印象採得用器材, 咬合採得用器材	11	”
12.	”	クラウン・ブリッジ治療における診療解除	クラウン・ブリッジ(生活歯および失活歯)治療において準備するもの, 治療の流れの中での役割	12	星野
13.	”	クラウン・ブリッジ治療における患者指導とメンテナンス	治療前, テンポラリー仮着時, 装着後, メンテナンス時の患者指導とプロフェッショナルケア	13,14	”
14.	”	テンポラリークラウン(実習)	テンポラリークラウンの目的, 種類, 製作法, 調整法, 仮着法	15	松山, 星野, 藤原
15.	全部床義歯	全部床義歯治療の流れ	印象採得, 顎間関係の記録(咬合採得), ろう義歯試適, 義歯装着, メンテナンス	16	松山
16.	”	全部床義歯治療に用いる器材	印象採得用器材, 咬合採得用器材, 人工歯	18	”
17.	”	全部床義歯治療における診療介助	全部床義歯治療において準備するもの, 治療の流れの中での役割	19	藤原
18.	”	全部床義歯治療における患者指導とメンテナンス	治療前, 義歯装着後, メンテナンス時の観察, 指導, 義歯装着者への配慮	20,21	”
19.	部分床義歯	部分床義歯治療の流れ	印象採得, 咬合採得, ろう義歯試適, 義歯装着, メンテナンス時	17	松山
20.	”	部分床義歯治療に用いる器材	印象採得用器材, 咬合採得用器材, 人工歯	18	”
21.	”	部分床義歯治療における診療介助	部分床義歯治療において準備するもの, 治療の流れの中での役割	19	藤原
22.	”	部分床義歯治療における患者指導とメンテナンス	治療前, 義歯装着後, メンテナンス時の観察, 指導, 義歯装着者への配慮	20,21	”
23.	インプラント	インプラント治療の流れ	インプラントとは, インプラントの構造, インプラント治療の流れ, メンテナンス	22	友竹
24.	”	インプラント治療における診療介助	インプラント治療において準備するもの, 治療の流れの中での役割	23	”

25.	”	インプラント治療における患者指導とメンテナンス	インプラント治療における特別な患者指導	24,25	星野
26.	総論 2	補綴歯科治療における歯科技工	クラウン・ブリッジの制作, 有床義歯の制作, 補綴装置の補修	26	松山
27.	”	器材の管理	診療室の管理, 器具, 器材別滅菌, 消毒, 洗浄, 保管, 技工物の保管	27	星野
28.	補綴歯科の関連疾患	顎関節症	顎関節症概説, 顎関節症の診断と治療, 顎関節症治療における歯科衛生士の関わり	28	西川
29.	総括	補綴歯科治療を成功させるための歯科衛生士の役割	治療の動機付け, リコールへの動機付け, 術後経過に影響を及ぼす要因と防止法(歯周炎, 顎関節症, 歯齦症状, 審美)	29	松山, 星野, 藤原
30.	”	”	”	”	”

【成績評価】筆記試験を行い, 成績が 100 点満点で 60 点以上の者を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版株式会社

【参考書】

- ◇ 第 2 版 歯科補綴学 専門用語集 日本補綴歯科学会編 医歯薬出版
- ◇ 全部床義歯学 林 都志夫編 医歯薬出版
- ◇ 小部分床義歯学 藍 稔著 学建書院
- ◇ クラウンブリッジ補綴学 石橋寛二ほか編 医歯薬出版
- ◇ よくわかる口腔インプラント学 赤川安正ほか編 医歯薬出版
- ◇ 顎関節症入門 森本俊文ほか編 医歯薬出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217371>

【連絡先】

- ⇒ 松山 (オフィスアワー: 火~ 木17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・第2研究室)
- ⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 19:00/6F総合歯科教授室)
- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・第1研究室)
- ⇒ 西川 (088-633-7350, keisuke@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月水金17:00~ 18:00/2F 2補綴・第3研究室)
- ⇒ 友竹 (tomotake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/2F 1補綴・資料室)
- ⇒ 細木 (0886-633-7350, hosoki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月水金17:00~ 18:00/2F 2補綴・資料室)

- ⇒ 星野 (088-633-7898, star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/5F口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 藤原 . (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/5F口腔保健学科・第3研究室)

外科系歯科学

Oral & Maxillofacial Surgery

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

【授業目的】顎・口腔領域に発現する様々な病変や疾患に関する知識を身につけ、それらの疾患を対象とした診療の中における歯科衛生士の役割と患者とのかわりを理解することを目的とする。

【授業概要】口腔領域に見られる多様な口腔外科疾患の診断と治療の概要について学ぶ。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (視聴覚教材, プリントを適宜使用する。)

【授業場所】(2 年次後期) 月曜日 3 時限目 第 6 講義室, (3 年次前期) 月曜日 1 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】外科系歯科学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 歯科医療における口腔外科の位置づけ, 扱う疾患, 並びに歯科衛生士の役割を説明できる。
2. 口腔領域に見られる先天的・後天的異常の病態, 治療法を説明できる。
3. 口腔領域に生じる外傷や創傷の病態と治療法の概要を説明できる。
4. 口腔粘膜に見られる水疱, びらん, 潰瘍, 白板等の病態と治療法の概要を説明できる。
5. 歯周病に続発する膿瘍や顎骨骨髓炎の病態と治療法の概要を説明できる。
6. 顎関節脱臼や関節骨折, 顎強直症の病態と治療法の概要を説明できる。
7. 口腔領域に生じる嚢胞の分類, 病態と治療法の概要を説明できる。
8. 口腔領域に生じる良性, 悪性の腫瘍の病態と治療法の概要を説明できる。
9. 唾液腺に生じる炎症, 腫瘍, 自己免疫疾患, 機能障害の病態と治療法の概要を説明できる。
10. 口腔・顎・顔面領域に生じる神経疾患の病態と治療法の概要を説明できる。
11. 貧血, 白血病, 血友病等の病態としか治療上での問題点, 対処法を説明できる。
12. 高血圧症, 糖尿病, 心疾患等の内科系疾患を有する患者に対する歯科治療

上の問題点の概要を説明できる。

13. 滅菌法, 消毒法, 標準予防策等の概要を説明できる。

14. 消炎手術および抜歯の適応と禁忌, 器材の準備等の概要を説明できる。

15. 口腔外科小手術の適応と禁忌, 器材の準備, その介助の概要を説明できる

16. 口腔インプラントの適応と禁忌, 器材の準備, その介助の概要を説明できる

17. 止血法の種類, 縫合の目的と種類を説明できる

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔外科の概要	口腔外科とは	口腔外科領域の主な疾患	1	伊賀
2.	口腔外科領域の疾患	先天・後天性異常, 変形	歯の異常, 小帯野異常, 舌の異常等	2	〃
3.	〃	〃	唇・顎・口蓋裂, 変形症	〃	〃
4.	〃	損傷および機能障害	軟組織の損傷, 歯の打撲・脱臼・破折	3	〃
5.	〃	外傷	顎骨骨折	〃	〃
6.	〃	口腔粘膜疾患	水疱形成・紅斑・びらん・潰瘍・色素沈着を主徴とする疾患	4	〃
7.	〃	〃	白斑・萎縮・乾燥を主徴とする疾患, 前癌病変等	〃	〃
8.	口腔外科領域	化膿性炎症疾患	智歯周囲炎, 歯周膿瘍, 歯槽膿瘍	5	〃
9.	口腔外科領域の疾患	〃	顎骨骨髓炎, 蜂窩織炎等, 内歯瘻, 外歯瘻, ビスフォスホネート関連顎骨壊死 (BRONJ)	〃	〃
10.	〃	顎関節疾患	顎関節の外傷, 脱臼, 腫瘍等	6	〃
11.	〃	〃	顎関節症	〃	〃
12.	〃	口腔領域の嚢胞	骨内の嚢胞, 軟組織の嚢胞	7	〃
13.	〃	口腔領域の腫瘍	歯源性腫瘍, 非歯源性良性腫瘍等	8	〃
14.	〃	〃	癌, 肉腫等の悪性腫瘍	〃	〃
15.	〃	〃	TNM 分類, 病期分類	〃	〃
16.	〃	唾液腺疾患	唾液腺の炎症, 唾石症	9	〃
17.	〃	〃	口腔乾燥症, 唾液腺腫瘍	〃	〃
18.	〃	口腔領域の神経疾患	知覚神経と運動神経, 神経痛	10	〃

19.	”	”	神経麻痺, 神経痙攣等	”	”
20.	”	血液疾患	貧血, 白血病等	11	”
21.	”	”	血友病等の出血性素因, 止血法	”	”
22.	口腔外科診療	口腔外科診療の実際	口腔外科治療の流れ, 診察と診断	12	”
23.	”	”	臨床検査, 内科系疾患への対応等	”	”
24.	”	滅菌・消毒の意義	滅菌法, 消毒法, 無菌的取り扱い	13	”
25.	”	院内感染防止	標準予防策等	”	”
26.	”	口腔外科小手術の実際	消炎手術, 抜歯術等	14	”
27.	”	”	嚢胞摘出術, 歯根端切除術	15	”
28.	”	”	良性腫瘍摘出術, 歯槽骨整形術, 小帯切除術	”	”
29.	”	”	口腔インプラント手術	16	”
30.	口腔外科小手術の実際	止血と縫合	止血法と止血薬, 縫合の目的と種類, 縫合の準備	17	”

【成績評価】筆記試験を2年次後期終了後と3年次前期終了後の2回行い、両者を総合して評価する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇最新歯科衛生士教本 「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科学・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版
- ◇プリント:必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】「宮崎正 口腔外科学・第3版」白砂・古郷編集 2008年(医歯薬出版)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217285>

【連絡先】

⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963)
(オフィスアワー: 月~ 金 16:00-18:00)

【備考】1~15回: 2年次後期 月曜日 3時限目 16~30回: 3年次前期 月曜 1時限目

歯科放射線学

Oral & Maxillofacial Radiology

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 誉田 栄一・教授 / 歯学部 歯科放射線学講座 (歯科放射線学)

尾崎 和美・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 細木 秀彦・講師 / 歯学部 歯科放射線学講座 (歯科放射線学)

【授業目的】 歯科診療の診断に必要な放射線を有効かつ安全に利用するための知識と技能, さらにはチーム医療に必要な基本的手技を習得する。

【授業概要】 放射線の性質, 影響, 防護を理解したうえで, 歯, 口腔顎顔面領域の画像検査の種類, 特徴, 適応を学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】 木曜 2 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 歯科放射線学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 放射線の基礎的知識を理解する。
2. 歯科用エックス線装置の種類を列挙できる。
3. エックス線撮影時に必要な器材を列挙できる。
4. 口内法エックス線撮影について説明できる。
5. パノラマエックス線撮影について説明できる。
6. エックス線フィルムの写真処理と管理を説明できる。
7. CT, MRI, デジタルエックス線撮影について説明できる。
8. 放射線治療とその実際について説明できる。
9. 放射線治療患者の口腔管理について説明できる。
10. 放射線防護について説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当	
1.	放射線の基礎	歯科放射線学概論	歯科放射線学の意義, 電気の知識, 物質の構造, 放射線と放射能	1	誉田
2.	”	放射線と X 線	エックス線の性質, 物質の透過性, エックス線の利用	”	”
3.	検査法	歯科用 X 線装置	エックス線装置の基本構造	2	”

4.	”	”	各種エックス線装置, 撮影用器材	3	”
5.	”	口内撮影法の補助	歯のエックス線写真, 各種撮影法	4	尾崎
6.	”	”	頭部の固定, フィルムの位置づけ	”	”
7.	”	口外撮影法の補助	パノラマエックス線撮影法, 各種の顎, 顔面および頭部の撮影法	5	細木
8.	”	フィルムの現像と管理	フィルムの現像処理, 自動現像, インスタント現像	6	尾崎
9.	”	”	フィルムの管理と保管	”	”
10.	”	特殊画像検査法	核医学的検査法	7	細木
11.	”	”	CT, MRI, 超音波診断, デジタルエックス線撮影法	”	”
12.	放射線治療	放射線治療の知識	放射線感受性, 放射線による口腔癌治療の実際	8	伊賀
13.	”	”	副作用, 治療中の口腔管理	9	”
14.	放射線管理	放射線防護と管理	放射線被曝, 防護用具	10	細木
15.	”	”	被曝線量測定器, 職業上の防護と患者防護	”	”

【成績評価】 筆記試験により行う。100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

【参考書】

- ◇ 標準歯科放射線学 第 2 版 西連寺永康監修 医学書院
- ◇ 歯科放射線学 第 4 版 古本啓一ら 医歯薬出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217304>

【連絡先】

- ⇒ 伊賀 弘起 (iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F 口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00)
- ⇒ 誉田 栄一 (honda@dent.tokushima-u.ac.jp/臨床研究B棟2F 歯科放射線学講座・教授室/633-7360) (オフィスアワー: 月~ 金 16:30~ 17:30)

- ⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 細木 秀彦 (hidehiko@dent.tokushima-u.ac.jp/臨床研究B棟2F 歯科放射学講座・第2研究室/633-7362) (オフィスアワー: 月~ 金16:30~ 17:30)

歯科麻酔学・救急蘇生

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

Dental Anesthesiology-Emergency medicine

伊賀 弘起(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 富岡 重正・准教授 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学)

【授業目的】 歯科診療において痛みのない安全で有効な処置を行うために必要な歯科麻酔学の知識を理解し, チーム医療に必要な基本的手技を修得する. また歯科治療中の安全管理と危機管理を修得する.

【授業概要】 歯科診療において行われる局所麻酔と全身麻酔, 精神鎮静法を学ぶ. さらに歯科治療中の偶発症とその対策, 救急蘇生法について学習する.

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式(視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる.)

【授業場所】 月曜 2 時限 第 6 講義室

【履修上の注意】 歯科麻酔学・救急蘇生の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している. ①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること. ②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること. また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること. ③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う. ④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる.

【到達目標】

1. 術者あるいは介助者としての歯科衛生士の役割を理解する.
2. 歯科治療前の全身的な評価を列挙できる.
3. バイタルサインを列挙し, 説明できる.
4. 局所麻酔の種類と作用機序, 偶発症を説明できる.
5. 精神鎮静法の目的と種類を説明できる.
6. 全身麻酔の種類や適応, 実際に用いる器材と流れを説明できる.
7. 患者監視に用いるモニターの種類を説明できる.
8. 高齢者, 小児, 障害者に対する歯科治療上の留意点を説明できる.
9. 救急処置の基本を身につけ, AED を適切に使用できる.
10. 歯科治療中の全身的偶発症を列挙し, その対応を説明できる.
11. 酸素療法, 血管確保の適応と手技を説明できる.
12. 麻酔とアレルギーについて発生機序とその制御方法を説明できる.
13. 神経性疾患についてその種類と対策を説明できる.
14. 終末医療の概念と対応, 癌性疼痛の対策について理解する.

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯科麻酔と歯科衛生士	歯科衛生士の役割	術者として, 介助者として	1	伊賀

2.	〃	全身評価	医療面接, 臨床検査	2	〃
3.	〃	バイタルサイン	歯科治療におけるストレス, バイタルサインの意味と見方	3	〃
4.	麻酔法	局所麻酔	種類と作用機序, 偶発症	4	〃
5.	〃	精神鎮静法	吸入麻酔法, 静脈鎮静法	5	富岡
6.	〃	全身麻酔	術前の患者管理, 種類, 使用器材	6	〃
7.	〃	〃	患者監視, モニター, 輸液	7	〃
8.	〃	高齢者, 小児, 障害者	高齢者, 障害者, 小児に対する歯科治療上の留意点	8	〃
9.	救急蘇生	救急蘇生法	一次救命処置 (BLS)	9	〃
10.	〃	〃	二次救命処置 (ALS), AED	〃	〃
11.	〃	全身的偶発症	疼痛性ショック, 歯科恐怖症, 過換気症候群	10	〃
12.	〃	酸素療法, 血管確保	酸素療法と血管確保の実際	11	伊賀
13.	その他	麻酔とアレルギー	原因, 機序, 治療法	12	〃
14.	〃	神経性疾患	神経痛, 神経麻痺, 味覚障害	13	〃
15.	〃	終末医療	ホスピス, 癌性疼痛の対策, 死の臨床	14	〃

【成績評価】 筆記試験により行う. 100 点満点で 60 点以上を合格とする.

【再試験】 必要に応じて行う.

【教科書】 最新歯科衛生士教本 「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科学・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版

【参考書】 歯科麻酔学 第 6 版 医歯薬出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217328>

【連絡先】

⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963)
(オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

⇒ 富岡 重正 (tomioka@dent.tokushima-u.ac.jp/医学臨床B棟 3F 歯科麻酔学講座/633-7395) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

歯科材料学

Dental materials

1 単位 (必修) 2 年 (前期)

羽田勝(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 浜田賢一・准教授 / 歯学科 歯科理工学講座 (生体材料工学)

尾崎和美・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 友竹偉則・講師 / 歯学科 歯科補綴学第一講座 (口腔顎顔面補綴学)

【授業目的】 歯科領域で使用する歯科生体材料の種類と使用方法について説明できる。

【授業概要】 歯科領域で使用する歯科生体材料を扱う上で必要な物理化学的性質を理解させ、各種生体材料について具備すべき要件、性質、扱い方についての知識を教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】 2 年次前期 月曜 4 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 歯科材料学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 歯科生体材料の一般的性質が説明できる。
2. 成形充填用材料の種類, 性質, 使用方法を説明できる。
3. セメント種類, 性質, 使用方法を説明できる。
4. 各種歯科用レジンの種類, 性質, 使用方法を説明できる。
5. 石膏の種類, 性質, 使用方法を説明できる。
6. 保存系の治療に用いる歯科材料について説明できる。
7. 印象材および咬合採得材の種類, 性質, 使用方法を説明できる。
8. 義歯用材料について説明できる。
9. 歯科用金属について説明できる。
10. 鋳造, ろう付け, 溶接の概要を説明できる。
11. 歯冠修復用の陶材, 硬質レジンについて説明できる。
12. 新しい歯科材料について説明できる。
13. 歯科生体材料の安全性について説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	総論	歯科材料学概説 1 歯科生体材料の特徴 歯科生体材料に必要な化学的および物理的, 生物学的要件	1	浜田

2.	〃	歯科材料学概説 2	歯科生体材料の成形法	〃	〃
3.	各論	成形充填材料 1	金箔とアマルガム充填 (過去の充填材として), グラスアイオノマーセメント	1,2,3	尾崎
4.	〃	成形充填材料 2	コンポジットレジン 接着材	1,2,4	〃
5.	〃	歯型材	歯科用石膏, 所要性質	1,5	〃
6.	〃	他の保存系材料	歯内治療用材料, 仮封材, 研磨材	1,6	〃
7.	〃	印象材 1	印象材の種類, 要件, アルジネート印象材および寒天印象材の理工学的性質と取り扱い	1,7	羽田
8.	〃	印象材 2, 咬合採得材, ワックス	弾性印象材, その他の印象材, 各種咬合採得材の要件, ワックスの種類と用途	〃	〃
9.	〃	義歯用材料	床用材料, 人工歯, リバース材, 義歯安定剤	1,4,8	〃
10.	〃	鋳造用合金と用途, ろう付けと溶接	歯科鋳造法の概要, 鋳造用合金, ろう付けと溶接の違い	1,9,10	浜田
11.	〃	合着材 1	合着材の種類と要件, リン酸亜鉛セメント	1, 3	尾崎
12.	〃	合着材 2	グラスアイオノマーセメント, 接着性セメント	1,3,4,12	〃
13.	〃	陶材, 硬質レジン	陶材を用いた歯冠修復物, 陶材の組成と性質, 陶材の焼成, 硬質レジンを用いた歯冠修復物, 硬質レジンの組成と性質	1,11	羽田
14.	〃	新しい歯科材料	ジルコニア, ファイバーコア, 新規開発材料に関する情報	1,12	〃
15.	〃	生体材料	インプラント, 再生医療用材料	1,12,13	友竹

【成績評価】 筆記試験を行い, 成績が 100 点満点で 60 点以上の者を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版

【参考書】 臨床歯科理工学 宮崎隆ほか編 医歯薬出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217308>

【連絡先】

- ⇒ 羽田 勝 (hada@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 浜田 (生体材料工学分野 第2研究室, 088-633-7334, hamada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月・火17:00~ 18:00)
- ⇒ 尾崎 和美 (ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第2研究室/633-9309) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 友竹 (tomotake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歯科診療補助論

Dental assisting program

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

尾崎 和美 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 中道 敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

藤原 奈津美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 竹内 祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 歯科診療補助を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 歯科医師が診療を行なう際、正確で迅速な作業ができる補助者として、また患者に対しての直接対面行為を行う術者として歯科衛生士は、多岐にわたる歯科診療の内容に精通しておく必要がある。歯科診療補助論では、診療機器や歯科材料の取扱方法および共同動作等の背景・理論を理解した上で、これらの知識を駆使して診療補助あるいは診療を行うための技法を学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 スライド, プリントを適宜用いる。

【授業場所】 (2 年次後期) 第 6 講義室, (3 年次前期) 第 5 講義室

【履修上の注意】 当該科目の授業においては 15 回の講義の予習あるいは復習に努めること。具体的には、① 次回の講義内容のレジュメを配布した場合は、その中の空白部分に適する語句を、教科書・参考書等を調べて予め埋めておくこと。② 予めレジュメを配布しない場合は、「授業計画」中の「内容」に記している語句について、教科書・参考書等を用いて調べた上、1 枚程度の予習レポートを作成しておくこと。③ 講義中に小テストを行った場合は、教員による解説の内容をまとめるなどしつつ復習し、1 枚程度の復習レポートを作成しておくこと。④ 上記の②および③については、その提出を求めることがある。また、提出されたレポートの内容が成績評価に反映される場合がある。⑤ 試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

1. 歯科診療補助の業務について概説できる。
2. 消毒・滅菌法を理解し、各種診療用器材の処理方法について説明できる。
3. 使用目的に応じた衛生材料について説明できる。
4. 診療設備の構造および機能について説明できる。
5. 共同動作の意義を理解し、各種動作について説明できる。
6. 一般診療用器材、材料の種類、用途について説明できる。
7. 患者および医療スタッフとの円滑なコミュニケーションを理解できる。
8. 患者指導に必要な情報の収集ならびに結果の意味について理解できる。
9. 治療別の処置内容を理解し、必要に応じた診療用器材の準備と適切な取り扱い方、管理および補助について説明できる。
10. 歯科診療補助において想定される事故への対応を説明できる。
11. エックス線撮影にあたり、撮影の意味とその危険性、適切な防護を説明で

きる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	総論	歯科診療補助の概要, 医療安全と感染予防	オリエンテーション, 手指衛生	1-4	尾崎
2.	〃	診療設備, 環境整備	診療設備, 環境整備, 院内感染対策, 衛生材料	〃	藤原
3.	各論	共同動作	共同動作, 口腔内防湿	5-7,9,10	〃
4.	〃	基本的な器械, 材料の取り扱い	印象材 他	5-10	〃
5.	〃	資料収集	印象採得, 咬合採得	〃	〃
6.	〃	基本的な器械, 材料の取り扱い	石膏, 回転切削器具	6,8,9	尾崎
7.	〃	資料収集	X 線写真撮影補助	5-11	〃
8.	〃	〃	口腔内写真撮影	5-10	〃
9.	〃	患者との対応	保健指導の目的・意義, 説明資料の作成	7,8	藤原
10.	〃	〃	〃	〃	〃
11.	〃	〃	保健指導の実際	〃	〃
12.	〃	前処置	前処置, ラバーダム防湿	3,5-7,9,10	尾崎
13.	〃	患者との対応	変色・着色およびその対処法	5-10	〃
14.	〃	〃	審美歯科治療, ホワイトニングにおける診療補助	5-7,9,10	藤原
15.	〃	歯科矯正治療	歯科矯正治療時の診療補助	〃	尾崎
16.	〃	歯科予防処置	前処置, ラバーダム防湿	3,5-7,9,10	〃
17.	〃	〃	予防填塞処置	5-7,9,10	〃
18.	〃	成形修復	成形修復時の診療補助 1	〃	〃
19.	〃	〃	成形修復時の診療補助 2	〃	〃
20.	〃	鑄造修復	鑄造修復時の診療補助 1	〃	〃
21.	〃	〃	鑄造修復時の診療補助 2	〃	〃

22.	〃	歯内治療	歯内治療時の診療補助	〃	〃
23.	〃	補綴治療	補綴治療時の診療補助 1	〃	藤原
24.	〃	〃	補綴治療時の診療補助 2	〃	〃
25.	〃	口腔外科治療	口腔外科治療時の診療補助 1	〃	〃
26.	〃	〃	口腔外科治療時の診療補助 2	〃	〃
27.	〃	看護技術	採血	3,7-10	竹内
28.	〃	〃	気管内吸引	3,7,9,10	〃
29.	〃	口腔外科治療	病棟口腔ケア, 口腔内吸引	3,5-7,9,10	中道
30.	〃	訪問歯科診療	訪問歯科診療の流れ, 歯科診療補助の概要	5-7,9,10	〃

【備考】

- ◇ 1~ 15 回:2 年次後期:水曜 1 時限目
- ◇ 16~ 30 回:3 年次前期:金曜 1 時限目

【成績評価】 筆記試験を 2 年次後期終了後と 3 年次前期終了後の 2 回行い、両者を総合して評価する。評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第 1 版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2007

【参考書】

- ◇ 下記に示す参考書など, できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科臨床概論 第 2 版, 医歯薬出版, 2002
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科器械の知識と取扱い, 第 1 版, 医歯薬出版, 1996
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料の知識と取扱い 第 1 版, 医歯薬出版, 1999
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 受付対応・事務 第 1 版, 医歯薬出版, 1994
- ◇ 器材準備マニュアル, 第 3 版, 全国歯科衛生士教育協議会編, (財) 口腔保健協会, 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217325>

【連絡先】

- ⇒ 尾崎和美(ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-9309) (オフィスアワー: 月水金18:00~ 19:00)
- ⇒ 中道敦子(dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 藤原奈津美(nfujiwara@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月水金17:00~ 18:00)
- ⇒ 竹内祐子(yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第5研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

チーム歯科医療学

Team Approach for Dental Treatment in health and welfare

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

尾崎 和美 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 中道 敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 星野 由美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

藤原 奈津美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 谷 憲治・特任教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 河野 光宏・特任講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】医療・介護制度やチーム (歯科) 医療がどのように実践されているかを把握し, その中での歯科衛生士の役割を理解することを目的とする。

【授業概要】医療チームを形成して多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし, 互いに意見を交換するためには, まずそれぞれの専門職種を理解することが必要である。口腔保健医療者として必要なチーム (歯科) 医療の概念と理論ならびにチーム (歯科) 医療に関係する各職種の業務内容を理解し, 同時に様々な職場における (歯科) 医療の流れと各職種の役割, 相互の連携およびチーム (歯科) 医療の効果を理解する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 スライド, プリントを適宜用いる。

【授業場所】(2 年次後期) 第 6 講義室, (3 年次前期) 第 5 講義室

【履修上の注意】当該科目の授業においては 15 回の講義の予習あるいは復習に努めること。具体的には, ①次回の講義内容のレジュメを配布した場合は, その中の空白部分に適する語句を, 教科書・参考書等を調べて予め埋めておくこと。②予めレジュメを配布しない場合は, 「授業計画」中の「内容」に記している語句について, 教科書・参考書等を用いて調べた上, 1 枚程度の予習レポートを作成しておくこと。③講義中に小テストを行った場合は, 教員による解説の内容をまとめるなどしつつ復習し, 1 枚程度の復習レポートを作成しておくこと。④上記の②および③については, その提出を求めることがある。また, 提出されたレポートの内容が成績評価に反映される場合がある。⑤試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

1. 保健・医療・福祉各分野における専門職種の業務内容について説明できる。
2. 他の医療従事者と連携するための必要な概念およびコミュニケーションエラーについて説明できる。
3. 歯科診療の流れとチーム歯科医療としての連携について説明できる。
4. 有病者を対象とした口腔保健活動における留意点を説明できる。
5. 摂食・嚥下障害あるいは言語障害を有する患者を対象とした口腔保健活動における留意点を説明できる。
6. 高齢者・要介護者を対象とした口腔保健活動における留意点を説明できる。
7. 障害に応じた歯科診療時の留意点を説明できる。

8. 歯科診療施設における受付の機能を説明できる。
9. 対象者からの質問に適切に答え, その様々な反応に柔軟に対応できる。
10. 適切な患者対応 (接遇) について説明できる。
11. 歯科診療の流れと診療録の記載方法, 個人情報保護の重要性について説明できる。
12. 歯科診療の流れに沿った診療報酬の請求方法について説明できる。
13. 歯科診療補助において想定される事故への対応を説明できる。
14. 歯科衛生ケアプロセスを概説できる。
15. 面接および検査の結果を業務記録に記載できる。
16. 必要な情報を整理し, わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
17. 安全な動作介助について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	チーム医療	チーム医療の概要	チーム医療とは, システムの連携, 構成員の連携	1	尾崎
2.	〃	〃	コミュニケーションエラー (討論および解説)	2	〃
3.	〃	チーム医療の実際	事例検討 (シナリオの検討)	1,2	〃
4.	〃	〃	事例検討 (発表)	〃	〃
5.	〃	〃	事例検討 (解説)	〃	〃
6.	〃	〃	チーム医療を支える職種	〃	〃
7.	〃	〃	チーム医療とクリティカルパス	〃	〃
8.	チーム歯科医療	チーム歯科医療の概要	システムの連携, 構成員の連携	3	〃
9.	〃	チーム歯科医療の実際	総合的な事例検討 1	〃	〃
10.	〃	〃	総合的な事例検討 2	〃	〃
11.	〃	〃	総合的な事例検討 3	〃	〃
12.	〃	〃	総合的な事例検討 4 (有病者歯科)	4-7	羽田
13.	〃	〃	総合的な事例検討 5 (障害者歯科)	〃	〃

14.	”	”	総合的な事例検討 6(要介護高齢者, ケアマネージメント)	”	”
15.	”	”	総合的な事例検討 7(終末期医療と歯科医療)	”	”
16.	医療事務	受付対応の実際	歯科診療所における受付業務	8	藤原
17.	”	”	一般的な作法, 日常用語, 接遇の基本, 様々な場面での対応, 予診準備, 時間約束制とリコール制	9,10	”
18.	”	診療録, 個人情報	診療録, POS, 個人情報管理について, 医療情報の電子化	11	尾崎
19.	”	医療保険と診療報酬	医療保険・保険診療・自費診療の概要	12	”
20.	”	”	予防処置・保存・補綴関連	”	”
21.	”	”	口腔外科・小児歯科・矯正歯科関連	”	”
22.	医療事故	歯科衛生士業務と医療事故防止	歯科衛生士業務において想定される医療事故, 防止のための事前策, 対応等1	13	中道
23.	”	”	歯科衛生士業務において想定される医療事故, 防止のための事前策, 対応等2	”	”
24.	歯科衛生士ケアプロセス	歯科衛生士ケアプロセスの各ステージと相互関連	歯科衛生士ケアプロセスの構成要素, 歯科衛生士ケアプロセス, 歯科衛生士診断とは	14	”
25.	”	”	アセスメント, 問題の明確化, 計画立案, 実施, 評価	”	”
26.	歯科衛生士実地指導	各種指導書, 説明書	各種指導書, 説明書等の発行	15,16	星野
27.	”	歯科衛生士業務記録	歯科衛生士業務記録の記載	”	”
28.	介護技術	各論	車椅子の基本操作, 移乗, 体位変換	17	竹内
29.	総括	”	地域医療の現状	1,2	谷
30.	”	”	チーム医療の実際	”	河野

【成績評価】全講義終了後, 筆記試験を行い総合的な理解度を評価する。評価は100点満点で60点以上を合格とする

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】教科書は使用しないが, 下記に示す参考書, あるいは文献, インターネットなどあらゆる教育的資源を使うことを勧める。

【参考書】

- ◇ 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2003
- ◇ 高齢者歯科ガイドブック 第1版, 医歯薬出版, 2003

- ◇ 歯科衛生士のための高齢者歯科学 第1版, 永末書店, 2005
- ◇ 最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2003
- ◇ 障害者歯科ガイドブック 第1版, 医歯薬出版, 1999
- ◇ 歯科衛生士のための障害者歯科 第3版, 医歯薬出版, 2006
- ◇ 疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 第1版, 医歯薬出版, 2003
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 臨床検査法 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1995
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 受付対応・事務 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1994
- ◇ 歯科衛生士ケアプロセス 第1版, 医歯薬出版, 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217255>

【連絡先】

- ⇒ 尾崎和美(ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-9309) (オフィスアワー: 月水金18:00~19:00)
- ⇒ 羽田勝(hada@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~18:00)
- ⇒ 中道敦子(dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~18:00)
- ⇒ 竹内祐子(yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第5研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~18:00)
- ⇒ 星野由美(star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~18:00)
- ⇒ 藤原奈津美(nfujiwara@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月水金17:00~18:00)
- ⇒ 谷 (088-633-7127, kenjikt@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 9am-5:30pm)
- ⇒ 河野。

【備考】

- ◇ 1~15回: 2年次後期:火曜1時限目
- ◇ 16~30回:3年次前期:火曜1時限目

高齢者口腔保健衛生学

Oral Health and Welfare for the Elderly

1 単位 (必修) 3 年 (前期)

松山 美和(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 羽田 勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

中道 敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】 老化に伴って現れる高齢者の身体的, 精神的特徴, 口腔領域の諸変化および老人性疾患などについて理解し, 介護予防に繋がる高齢者に対する口腔ケアや生活支援を実践するために必要な知識と技術を習得する。

【授業概要】 老化のメカニズム, 高齢者の身体的, 精神的特徴, 歯科領域に関する特性と問題点, 老人性疾患や服用薬剤に関する知識を教授する。また, 高齢者に対する歯科診療の特徴, 注意点について学び, 歯科診療補助および口腔保健管理, 指導における歯科衛生士の役割とその内容について教授する。さらに摂食・嚥下障害学や歯科口腔介護学など関連する教科と有機的関連を持たせ, 相互補完的な講義内容とする。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる)

【授業場所】 (3 年次前期) 水曜日 4 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】 高齢者口腔保健衛生学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 高齢社会の現状について説明できる。
2. 老化メカニズム, 高齢者の身体的, 精神的, 社会的特性について説明できる。
3. 高齢者特有の疾患, 口腔内の病的な状態について説明できる。
4. 高齢者と薬について説明できる。
5. 高齢者の歯科治療における感染予防について説明できる。
6. 高齢者に対する歯科保健指導と管理について説明できる。
7. 訪問歯科診療における歯科衛生士の役割について具体的に説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 総論	高齢者歯科の現状	高齢者の特性, 高齢者を取り巻く社会的問題と環境	1	松山

2.	”	高齢者の健康と疾病	高齢者の健康, 高齢者に多く見られる疾患, 高齢者に多く見られる疾患および口腔との関係	2	”
3.	”	高齢者の口腔	高齢者の口腔領域の疾患	2,3	”
4.	”	”	高齢者に多い口腔領域の疾患	3	”
5.	”	高齢者と薬剤	高齢者が多く使用している薬剤, 副作用情報, 相互作用, 服薬に関する指導 (ビスフォスフォネートなど)	4	”
6.	高齢者に対する歯科診療, 診療補助, 歯科保健指導	高齢者の歯科診療の実際と歯科診療補助	全身状態の把握, 全身疾患に配慮した診療補助	2,3,4,5	羽田
7.	”	”	口腔の主な疾患への対応, 治療前, 治療中, 治療後の注意点, 感染予防, スタンダードプリコーション	3,5,6	松山
8.	”	高齢者歯科診療における歯科衛生士の役割	高齢者の歯科診療の特徴, 患者への接し方, 患者の状態に応じた補助	2,3,5	中道
9.	”	高齢者の口腔保健管理	hygienic な口腔ケアを行う上で配慮しなければならない高齢者に特有な問題	2,3,4,5	松山
10.	”	”	機能的口腔ケアを行う上で配慮しなければならない高齢者に特有な問題	”	”
11.	”	高齢者の歯科保健指導の実際と留意点	情報の収集と全身状態および口腔状態の把握	”	羽田
12.	”	”	患者の状態に応じた歯科保健指導法, リコール	”	”
13.	”	要介護高齢者の現状	要介護高齢者の現状と特性, 要介護高齢者の QOL, 要介護高齢者を取り巻く社会環境, チーム医療	”	松山
14.	”	要介護高齢者と歯科衛生士	口腔ケア, 訪問活動, 介護保険制度	”	中道
15.	”	訪問歯科保健指導の実際	訪問歯科保健指導の基本知識, 歯科衛生士が行う訪問歯科保管指導	3,6,7	”

【成績評価】 筆記し試験により行う。100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

【参考書】

- ◇ はじめて学ぶ歯科口腔介護 第2版 新井俊二, 小椋秀亨 監修 医歯薬出版
- ◇ 高齢者歯科ガイドブック 植松宏, 稲葉繁, 渡辺誠 編 医歯薬出版
- ◇ 歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡辺誠, 岩久正明 監修 永末書店
- ◇ 疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 大渡凡人 著 医歯薬出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217235>

【連絡先】

- ⇒ 松山 (オフィスアワー: 火~木 17:00~18:00/6F口腔保健学科・第2研究室/633-7963)
- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00/6F 口腔保健学科・第1研究室)
- ⇒ 中道 (088-633-7898, dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00/5F 口腔保健学科・第3研究室)

障害者口腔保健衛生学

1 単位 (必修) 3 年 (前期)

Special care dentistry

羽田 勝 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 三留 雅人・教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

有田 憲司・准教授 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 郡 由紀子・講師 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

中川 弘・助教 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 尼寺 理恵・助教 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 上田 (山口) 公子・助教 / 歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学)

【授業目的】 障害の種類や特性を理解し、障害者の口腔健康管理を支援するための基本的知識を身につける。

【授業概要】 障害者口腔保健衛生学では、障害の種類やノーマライゼーションの考え方を理解し、様々な障害を持つ障害児・障害者に対してきめ細かな配慮ができるように基本的知識・技術を教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (一部 PBL を実施)

【授業場所】 3 年次前期 水曜 3 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】 障害者口腔保健衛生学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 障害の種類と障害者・児を取り巻く社会的環境について説明する。
2. 小児, 成人, 高齢者に見られる障害の特性と歯科的特徴を説明できる。
3. 障害者・児の口腔健康管理の意義について説明できる。
4. 障害者・児の生活の場における口腔保健支援に必要な知識・技術を修得する。
5. 障害に配慮した診療補助や接遇ができる。
6. 障害者・児の歯科保健ニーズを抽出することができる。
7. 障害者・児のニーズに対応した歯科予防処置の選択や歯科保健指導計画の立案ができる。
8. 障害者・児に対し口腔保健の分野で歯科衛生士が果たすべき役割を説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 障害とは	障害の定義, 障害の分類, 社会環境と制度	障害とは / 障害の分類 / 障害者・児を取り巻く社会の変遷 / 障害者・児に関連する法律・制度	1	三留

2~3.	患者対応の基本	障害者・児に対する基本姿勢, 診察室でのマネジメント, 生活の場での歯科的支援	障害者・児の理解 / 診療を円滑に進めるための技法 (行動変容法, 体動のコントロール, 精神鎮静法, 全身麻酔法) / 生活の場での歯科的問題 / 口腔保健支援のシステム	2,3,4	郡
4~5.	障害の特性と歯科的特徴	障害の原因疾患, 障害の種類と歯科的特徴	精神遅滞 / ダウン症候群 / 自閉性障害 / 脳性麻痺 / 筋ジストロフィー / てんかん / 重症心身障害	2	中川
6.	障害者と薬剤	障害者に多い服用薬	薬剤の影響	3	郡
7~8.	障害者歯科における歯科衛生士の役割	歯科衛生士の業務, 業務記録	歯科衛生士職場と役割 / 業務記録の記載要領 / 診療の基本的な流れと対応 / 診療前後のマネジメント / 診療補助の際に注意すべき事項	5,8	”
9~10.	障害者・児の口腔健康管理	歯科予防処置, 歯科保健指導	障害者・児の口腔衛生状態 / 歯科衛生士の行う口腔保健管理 / 歯科保健指導の留意点	6,7	尼寺
11~12.	障害者・児の口腔保健管理	”	身体障害者・児に対する歯科保健指導 / 口腔ケアの実際 / 身体障害者・児に対する食事指導 / 摂食嚥下障害への対応	”	有田
13.	歯科保健・歯科医療システム	障害者歯科に関する保健・医療システム	地域における医療受給 / 施設・在宅での支援体制	1	上田
14~15.	障害者福祉と口腔保健	福祉分野との連携	障害者福祉施設における口腔保健教育活動 / 障害者福祉施設における口腔健康管理 - 歯科衛生士の役割について考える - (グループ討論・レポート作成)	1,3,8	羽田, 吉岡

【成績評価】 試験の評価点により総合的に判定する。レポートも評点に加味する。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 障害者歯科 最新歯科衛生士教本 医歯薬出版 2009

【参考書】 歯科衛生士のための障害者歯科 第 3 版 医歯薬出版 2006

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217242>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

- ⇒ 三留 (mitome@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 3F 歯学科
小児 教授室 月~金 17:00~18:00)
- ⇒ 有田 (088-633-7359, kenji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー:
3F 歯学科 小児 助講室 月~金 17:00~18:00)
- ⇒ 吉岡 昌美(masami@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/6
33-9171) (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00)
- ⇒ 郡 (088-633-7359, yukiko@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー:
3F 歯学科 小児 第1研究室 月~金 17:00~18:00)
- ⇒ 尾寺 (0886337359, rie@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 3F
歯学科 小児 第1研究室 月~金 17:00~18:00)
- ⇒ 上田(山口) (088-633-7359, guchi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィス
アワー: 3F 歯学科 小児 第3研究室月~金 17:00~18:00)

嚥下・摂食障害学

2 単位 (必修) 3 年 (前期)

Eating and Swallowing Disorders

松山美和(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 羽田勝・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

有田憲司・准教授/歯学科 小児歯科学講座 (小児歯科学), 星野由美・助教/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 藤原奈津美・助教/口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】近年, 脳血管障害者や高齢者の嚥下障害に対するリハビリテーションが注目され, 多職種の医療スタッフによるチームアプローチが行われている。現在, 摂食・嚥下リハビリテーションに携わる歯科衛生士はまだ少数であるが, 口腔ケアの専門職という立場からチームに必須と考えられる。本授業では, 将来的に摂食・嚥下リハビリテーションに携わることができるように, 摂食嚥下機能法の基礎知識を習得した歯科衛生士を育成する。

【授業概要】摂食・嚥下機能に関連する解剖やメカニズムなどの基礎的理論を正しく理解する。また, 摂食・嚥下リハビリテーションに基礎知識を習得し, 実際に機能訓練法を体験し, 習得する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式(視聴覚素材, プリントを適宜用いる)。講義の中で相互実習などの演習を一部行う。

【授業場所】3 年次前期 木曜 2,3 時限目 第 5 講義室

【関連科目】『[歯科口腔介護学](#)』(0.5), 『[高齢者口腔保健衛生学](#)』(0.5)

【履修上の注意】嚥下・摂食障害学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 摂食・嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。
2. 摂食・嚥下機能に関係する解剖的知識を理解し, 説明できる。
3. 摂食・嚥下機能のメカニズムを理解し, 説明できる。
4. 摂食・嚥下障害の病態と原因を理解し, 説明できる。
5. 摂食・嚥下障害と栄養について説明できる。
6. 摂食・嚥下障害と誤嚥性肺炎の関係について説明できる。
7. 摂食・嚥下機能評価の各種検査法を理解し, 説明できる。
8. 摂食・嚥下機能の診断・評価を学習し, 説明できる。
9. 障害のとらえ方とアプローチの仕方を理解し, 説明できる。
10. チームアプローチの重要性を理解し, 説明できる。

11. 摂食・嚥下リハビリテーションとそのマネージメントを理解し, 説明できる。
12. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける口腔ケアの重要性を理解し, 説明できる。
13. 間接訓練法を理解し, 間接訓練法を体験, 習得し, 基本的手技を行うことができる。
14. 直接訓練法を理解し, 直接訓練法を体験, 習得し, 基本的手技を行うことができる。
15. 摂食嚥下機能療法について復習し, 理解を確実にする。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	導入	摂食・嚥下の観察	「食べる」機能の相互観察	1	松山
2.	摂食・嚥下機能の基礎知識	摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識	解剖学的構造	2	〃
3.	〃	摂食・嚥下機能のメカニズム	摂食・嚥下のステージ, 呼吸・喉頭の機能との関連	3	〃
4.	〃	摂食・嚥下にかかわる機能	咬合と下顎運動, 咀嚼運動	〃	〃
5.	〃	摂食・嚥下障害	器質的障害, 機能的障害	4	〃
6.	〃	摂食・嚥下機能の発達及び発達障害	吸綴から咀嚼へ, 乳幼児期における摂食・嚥下機能の発達障害の原因	3,4	有田
7.	〃	摂食・嚥下障害と栄養摂取方法	栄養アセスメント, 誤嚥と嚥下食, 栄養実態, 経管栄養	5	星野
8.	〃	摂食・嚥下障害と誤嚥性肺炎	誤嚥性肺炎とは, 実態, 誤嚥性肺炎の予防, 口腔ケア	6	〃
9.	摂食・嚥下機能の検査と診断・評価	嚥下機能の検査と診断・評価	観察, 問診, 触診, 神経学的検査	7,8	松山
10.	〃	〃	スクリーニング検査(実習を含む)	〃	〃
11.	〃	〃	VF 検査	〃	戸原
12.	〃	〃	VE 検査	〃	〃
13.	〃	〃	機能評価実習	8	松山
14.	摂食・嚥下リハビリテーションの基礎知識	リハビリテーションにおける障害のとらえ方	リハビリテーションの概念	9	羽田

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217228>

【連絡先】

- ⇒ 松山 . (オフィスアワー: 火~ 木17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・第2研究室)
- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 有田 (088-633-7359, kenji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/3F 小児歯科 助講室)
- ⇒ 星野 (088-633-7898, star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/5F口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 藤原 . (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/5F口腔保健学科・第3研究室)

15.	リハビリテーションのチームアプローチ	チームアプローチ, 関連する職種	10	松山
16.	摂食・嚥下リハビリテーションの実践	摂食・嚥下訓練法におけるリスクマネジメント (ハイリスク患者), 誤嚥窒息への対応, 吸引	”	”
17.	口腔ケア	摂食・嚥下リハビリテーション訓練開始前の準備, 摂食・嚥下評価開始前に必要な歯科治療, 口腔ケア	12	星野
18.	間接訓練	各種間接訓練法	13	松山
19.	”	間接訓練の相互実習	”	”
20.	直接訓練	嚥下の直接訓練法, 嚥下食, 安全姿勢, 食器器具, 嚥下法の選択, 呼吸嚥下訓練	14	”
21.	”	直接訓練の相互実習	”	”
22.	摂食・嚥下機能の発達障害への対応	診断と機能訓練法 (授乳・離乳支援)	9	有田
23.	各種医療職による摂食・嚥下リハビリテーション	脳神経外科によるアプローチ	9,10	七条
24.	耳鼻科によるアプローチ	耳鼻科による対応	”	宇高
25.	言語聴覚士によるアプローチ	言語聴覚士による対応	”	”
26.	歯科衛生士によるアプローチ	歯科衛生士による対応	”	星野
27.	歯科医師によるアプローチ	補綴的対応, PAP, PLP など	”	”
28~29.	総括	リハビリテーションプラン (演習)	15	松山, 星野, 藤原
30.	総合討議	摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の展望	”	松山

【成績評価】 筆記試験を行い, 成績が 100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 摂食・嚥下障害ベストナッシング, 向井美穂 編, 学研

【参考書】

- ◇ 摂食・嚥下リハビリテーション, 第 2 版, 才藤栄一, 向井美恵 監修, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 訪問歯科診療で始める摂食, 嚥下障害へのアプローチ, 植松宏 監修/戸原玄他編著, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 摂食・嚥下障害の評価法と食事指導, 金子芳洋, 向井美恵, 医歯薬出版, 2001

栄養学・栄養食品学

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

Nutrition and Food Science

日野出大輔(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 中屋豊・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

堤理恵・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 山本浩範・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 奥村仙示・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】生活習慣病患者や入院患者の栄養管理について理解を深める。

【授業概要】栄養サポートチーム (NST) 活動を主体としたチーム医療の中での栄養管理について教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 (教科書を中心に, 視聴覚教材, プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】火曜 3 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 保健機能食品を説明できる。
2. 栄養不良を説明できる。
3. 栄養調査評価を説明できる。
4. 栄養投与法の選択を説明できる。
5. 経腸栄養, 静脈栄養を説明できる。
6. NST 活動における入院患者の栄養管理について説明できる。
7. 生活習慣病に対する適切な栄養管理について説明できる。

【授業計画】

	大項目	内容	到達目標	担当
1.	イントロダクション	栄養管理と歯科, 保健機能食品	1	日野出
2.	栄養管理の基礎	栄養不良とは, 栄養評価	2,3	堤
3.	”	投与エネルギー, 栄養素, 水, 電解質の決定	4	”
4.	”	栄養投与法の選択	”	山本
5.	”	経腸栄養	5	”
6.	”	静脈栄養	”	”

7.	栄養管理の実践	重症患者, 術前術後における栄養管理	6	堤
8.	”	褥瘡, 外傷, 熱傷に対する栄養管理	”	”
9.	”	糖尿病を有する患者の栄養管理	6,7	奥村
10.	”	心疾患・呼吸器疾患・腎疾患を有する患者の栄養管理	”	山本
11.	”	消化器疾患の栄養管理 1	6	奥村
12.	”	消化器疾患の栄養管理 2	”	”
13.	”	脳卒中患者, 摂食嚥下	”	”
14.	”	悪性疾患に対する栄養管理	”	中屋
15.	”	症例検討	2-6	”

【成績評価】筆記試験の評価点により総合的に判定する。

評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】認定 NST ガイドブック 2011, 日本病態栄養学会 編集, メディカルレビュー社, 2011

【参考書】

- ◇ 基礎栄養学, 坂井堅太郎編集, 化学同人, 2006
- ◇ 基礎栄養学, 中屋 豊他監修, 医歯薬出版, 2005
- ◇ コンパクト栄養学 改訂第 2 版, 脊山洋右, 廣野治子編集, 南江堂, 2008.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217295>

【連絡先】

⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・教授室)

⇒ 中屋 (栄養学科棟 302, 088-633-7090, yutaka-nakaya@nutr.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火 16:00~ 18:00)

⇒ 堤 (088-633-7450, rtsutsumi@nutr.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 山本 (088-633-7235, yamamoto@nutr.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 奥村 (088-633-9595, yamanaka@nutr.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

口腔疾患予防学

Preventive Oral Health Care Science

2 単位 (必修) 2 年 (前期, 後期)

日野出 大輔 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 吉岡 昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

星野 由美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 中道 敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】口腔疾患予防を実践するための具体的な知識を習得し、個人または集団を対象とした歯科保健指導が実践できるよう理解を深める。

【授業概要】口腔疾患とバイオフィームなどの病原因子との関連性を理解し、予防可能な疾患について、その理論と予防法の実際について理解が深められるよう教授する。具体的には、セルフケアとプロフェッショナルケアの違いや、フッ化物の応用法などを学ぶ。また、歯科衛生ケアプロセスを習得し、ライフステージに応じた個人や小集団に対する適切な歯科保健指導が実践できる能力を養う。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 スライド、プリントなどを適宜用いる。

小グループディスカッション (シナリオを準備、パソコンとプロジェクターを用いて発表する。なお PBL 授業の進め方、グループ分け等については PBL 授業開始までに配布するマニュアルにて周知する。)

【授業場所】(前期):木曜 5 時限目, (後期):金曜 1 時限目 第 6 講義室

【関連科目】『口腔衛生学』(0.5)

【履修上の注意】本授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔にまとめること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔にまとめること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 歯科予防処置を説明できる。
2. バイオフィームについて説明できる。
3. 予防的歯石除去に必要な器具と手順を説明できる。
4. スケーラーについて説明できる。
5. 歯面研磨に必要な器具と手順を説明できる。
6. セルフケアとプロフェッショナルケアについて説明できる。
7. 診療室やフィールドで使用する器具・器材の消毒や準備が説明できる。
8. 小窩裂溝填塞法が説明できる。
9. フッ化物の局所塗布, フッ化ジアンミン銀の塗布が説明できる。

10. 歯科用器具・器材の安全な取り扱いと、想定される事故に対する対応が説明できる。

11. 歯科衛生ケアプロセスを理解する。

12. 個人を対象とした歯科保健指導を計画し、資料を準備できる。

13. 小集団を対象とした歯科保健指導を計画し、資料を準備できる。

14. 業務記録を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	歯科予防処置	予防的歯石除去と歯面研磨	歯科予防処置とは、バイオフィームとは	1,2	星野
2.	”	”	歯石除去の効果, 歯石除去の手順, プロベング	3	”
3.	”	”	手用スケーラーとシャープニング	4	”
4.	”	”	超音波スケーラーとその他のスケーラー	”	”
5.	”	”	歯石除去後の処置	5	”
6.	”	”	歯面清掃・研磨	”	”
7.	”	専門的口腔清掃	プロフェッショナルトウスクリーニング (PTC)	6	”
8.	”	”	歯垢染色液	5,6	”
9.	”	”	専門的口腔清掃の効果	6	”
10.	”	一般臨床におけるう蝕予防処置法	小窩裂溝填塞	8	”
11.	”	”	フッ化ジアンミン銀の塗布, その他の処置法	9, 10	”
12.	”	”	フッ化物の局所塗布	9,10	日野出
13.	”	集団に対するう蝕予防処置法	フッ化物歯面塗布法の応用	7,9	”
14.	”	”	フッ化物洗口法の応用	”	”
15.	”	偶発事故の予防とその対策	スクレーリング時の感染防止, 軟組織の損傷	10	星野
16.	歯科保健指導	歯科衛生ケアプロセス	歯科衛生ケアプロセスの目的と意義	11,12	中道

17.	”	歯科保健行動	保健指導と保健行動	”	”
18.	”	”	妊産婦・乳幼児への歯科保健行動	”	”
19.	”	”	学齢期の歯科保健行動	”	”
20.	”	”	成人・高齢者への歯科保健行動	”	”
21.	”	業務記録	業務記録の目的と意義, 業務記録の種類と形式	14	”
22.	”	歯科保健指導の方法	対象の把握法	12,13	吉岡
23.	”	”	小集団指導法	12	”
24.	”	”	在宅訪問指導	13	”
25.	”	PBL 課題I(個人を対象とした口腔保健管理)	シナリオ提示 (保健指導媒体作成)	11,12	中道
26.	”	”	小グループディスカッション	”	”
27.	”	”	発表とフィードバック	”	”
28.	”	PBL 課題II(小集団を対象とした口腔保健管理)	シナリオ提示	13	日野出, 吉岡, 奥田 (保健学科)
29.	”	”	小グループディスカッション	”	”
30.	”	”	発表とフィードバック	”	”

- ⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・第1研究室)
- ⇒ 中道 (088-633-7898, dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 5F 口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 星野 (088-633-7898, star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 5F 口腔保健学科・第3研究室)

【成績評価】2年次前期の講義終了時点で中間試験を行い, さらに全講義終了後, 筆記試験を行う。

筆記試験および小グループディスカッションの評価点により総合的に判定する。

評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】

- ◇ 歯科予防処置, 新歯科衛生士教本 第2版, 医歯薬出版, 2006
- ◇ 歯科衛生ケアプロセス, 監修 下野正基 編著 佐藤陽子・齋藤 淳, 医歯薬出版, 2007

【参考書】

- ◇ 歯科保健指導, 新歯科衛生士教本 第1版, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 口腔保健管理, 最新歯科衛生士教本 第1版, 医歯薬出版, 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217278>

【連絡先】

口腔疾患予防学実習

Practice of Preventive Oral Health Care Science

2 単位 (必修) 2 年 (前期, 後期), 3 年 (前期)

日野出大輔(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

三宅洋一郎・教授 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 弘田克彦・講師 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 吉岡昌美・准教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

中道敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 星野由美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 根本謙・助教 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学)

村上圭史・助教 / 歯学科 口腔細菌学講座 (口腔微生物学), 藤原奈津美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

【授業目的】口腔疾患予防のための基本的知識, 技術を習得し, 歯科予防処置, 歯科保健指導を個人あるいは小集団を対象として応用できる技能を身につける。

【授業概要】口腔疾患予防学実習では, 口腔疾患の予防法を理解した上で, 実際に診療室や集団応用の場で使用する器具・器材を用いて歯科予防処置が的確に実施できるように教授する。具体的には微生物の基本的な取り扱い方法, 観察方法, 分離培養方法を学び, さらには口腔内のう蝕や歯周病に関連する細菌を実際に分離, 培養, 同定する。またう蝕や歯周病の予防処置のために用いる器具・器材の選択, 使用, 管理ができ, マネキンに取り付けた歯牙模型上で技術を修練する。さらには相互に実習を繰り返して臨床実習あるいは集団検診等のフィールドの場で歯科予防処置, 歯科保健指導が実践できるように準備する。

【授業形式】実習

【授業方法】(2 年次後期) 実習形式 (マネキン・歯牙模型, プリントなどを適宜用いる)

(3 年次前期) 実習形式 (相互実習, プリントなどを適宜用いる)

【授業場所】(2 年次後期) 水曜 4,5,6 時限目 (微生物学実習) 3 回 第 1 実習室

水曜 4,5,6 時限目 (口腔疾患予防学基礎実習) 6 回 第 4 実習室

木曜 4,5,6 時限目 (口腔疾患予防学基礎実習) 6 回 第 4 実習室

(3 年次前期) 水曜 5,6,7 時限目 (口腔疾患予防学基礎実習) 15 回 第 4 実習室

【先行科目】『口腔疾患予防学』(1.0)

【関連科目】『口腔衛生学』(0.5)

【到達目標】

1. 歯科予防処置に必要な基本的歯科用器具の種類とその取り扱いについて説明する。
2. 探針や歯周プローブを用いて歯面や歯周ポケットを触診する。
3. 歯垢除去や歯石除去に必要な器具・材料を選択し的確に操作する。
4. 手用スケーラーのシャープニングができる。
5. 微生物の観察方法を説明できる。
6. 口腔細菌の分離培養, 同定方法を説明できる。

7. 歯面研磨や歯周ポケット洗浄に必要な器具・材料を選択し, 的確に操作する。
8. 診療室やフィールドで使用する器具・器材の消毒や準備ができる。
9. フッ化物の局所塗布, フッ化ジアンミン銀の塗布ができる。
10. 歯科用器具・器材の安全な取り扱いと, 想定される事故に対する対応が説明できる。
11. 個人を対象とした適切な歯科保健指導を実施できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 序論	実習の進め方, 使用する器具・器材の取り扱い	実習の進め方, 室の使い方, 使用する器具・器材の取り扱い, 感染対策概略	1,7	日野出, 星野, 藤原
2. 診査用器具	診査用器具の取り扱い	ミラーの使い方, スリーウェイシリンジの使い方, フィンガーレストの設置, 探針による歯の表面の触診, 歯周ポケット測定, 位置と姿勢	2	〃
3. 歯垢除去・歯石除去	歯垢除去	歯垢付着の判定, スケーラーを用いたマネキン実習	3	〃
4. 〃	歯石除去	歯石の検知, スケーラーの種類と選択, スケーラーの基本操作	〃	〃
5. 〃	〃	手用スケーラーを用いたマネキン実習 I	〃	〃
6. 〃	〃	手用スケーラーを用いたマネキン実習 II	〃	〃
7. 〃	〃	超音波スケーラーを用いたマネキン実習	〃	〃
8. スケーラーの保守管理	シャープニング	手用スケーラーのシャープニング	4	〃
9. 細菌学	細菌の観察	培養, 染色, 顕微鏡観察	5,6	三宅, 弘田, 根本, 村上, 星野
10. 〃	病原体の検出・同定	分離培養, 生化学的試験	〃	〃
11. 口腔細菌学	口腔レンサ球菌, 歯周病関連菌	分離培養, 生化学的試験, 嫌気培養	〃	〃

12~13.	歯面研磨・歯周ポケット洗浄	歯面研磨 歯周ポケット洗浄, 貼薬	歯面研磨器具・材料の選択, 基本的手技, マネキン実習 シリンジを用いた洗浄, 超音波スケーラーを用いた洗浄, 歯周ポケット内貼薬, マネキン実習	7	日野出, 星野, 藤原
14~15.	予防処置 実技試験	歯石除去 シャープニング 歯周ポケット測定	OSCE 形式	1-4	日野出, 吉岡, 中道, 星野, 藤原, 中江
16.	診療準備	感染予防 器材準備 患者誘導	清潔・不潔の取り扱い 消毒滅菌操作 患者誘導 ポジショニング ライティング 電動歯ブラシを用いた実習	8,11	日野出, 星野, 藤原
17.	歯垢除去・歯石除去・ 歯面研磨・歯周ポケット洗浄	保健指導・歯垢除去 (相互実習)	歯垢付着状態の診査 患者説明 術者磨き	2,3,8	〃
18.	〃	〃	歯垢検知 患者説明 歯科用診療器具による歯垢除去	〃	〃
19.	〃	歯石除去・歯面研磨・歯周 ポケット洗浄 (相互実習)	手用スケーラーを用いた歯石除去	2,3,4,7	〃
20.	〃	〃	〃	〃	〃
21.	〃	〃	超音波スケーラー	〃	〃
22.	〃	歯石除去・歯面研磨・歯周 ポケット洗浄 (相互実習)	〃	〃	〃
23.	〃	〃	コントラングルハンドピース ポリッシングブラシ ラバーカップ その他の 歯面研磨用器材	〃	〃
24.	〃	歯石除去・歯面研磨・歯周 ポケット洗浄 (相互実習)	〃	〃	〃
25.	〃	歯面清掃 (相互実習)	歯面清掃器 エアスケーラー	〃	〃
26.	歯周組織検査	歯周組織検査 (相互実習)	歯周組織検査	2	〃
27.	フッ化物の応用	フッ化物歯面塗布 フッ化物洗口 (相互実習)	フッ化物溶液塗布法 (綿球法) フッ化物ゲル塗布法 フッ化物洗口法	9, 10	〃
28.	偶発事故の予防と対策	衣服の薬液汚染事故に対する 対応	衣服の染み抜き実習	10	〃
29~30.	保健指導 実技試験	個人を対象とした歯科保健 指導	OSCE 形式	11	日野出, 吉岡, 中道, 星野, 藤原, 中江

【成績評価】全回出席を原則とする。3年次前期の実習終了時点で、実習態度および実技試験の評価点により総合的に判定する。
評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】

- ◇ 歯科予防処置 新歯科衛生士教本第2版, 医歯薬出版, 2006
- ◇ 実習帳を配付する。

【参考書】歯科保健指導 新歯科衛生士教本第1版, 医歯薬出版, 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217279>

【連絡先】

- ⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・教授室)
- ⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00~ 18:00 / 4F 口腔細菌学・教授室)
- ⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:00~ 18:00 / 4F 口腔細菌学・セミナー室)
- ⇒ 吉岡 (088-633-9171, masami@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 6F 口腔保健学科・第1研究室)
- ⇒ 中道 (088-633-7898, dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 5F 口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 星野 (088-633-7898, star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 17:00~ 18:00 / 5F 口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 根本 (088-633-7330, nemoto@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 村上 (088-633-7330, mkeiji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 藤原 .

【備考】

- ◇ 9-11 回 微生物学実習
- ◇ 1-8 回, 12-30 回 口腔疾患予防学基礎実習

チーム歯科医療学基礎実習

Basic Training for Dental Assisting Techniques

2 単位 (必修) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

尾崎 和美 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 伊賀 弘起・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

松山 美和・教授 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 中道 敦子・講師 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 星野 由美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座

竹内 祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 高石 和美・助教 / 歯学科 歯科麻酔学講座 (歯科麻酔科学), 藤原 奈津美・助教 / 口腔保健学科 口腔保健支援学講座

近藤 慶承・非常勤講師

【授業目的】 歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

【授業概要】 歯科診療における補助および介助の業務内容を理解するために、基本的な診療器材の種類、目的および取り扱い方について解説し、正しくかつ安全に使う、あるいは行えるよう実技指導する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習

【授業場所】 第 4 実習室 (第 1~ 13, 15~ 28, 30 回), 医療教育開発センター (第 14・29 回)

【履修上の注意】 当該科目の授業においては 15 回の実習の予習あるいは復習に努めること。具体的には、①次回の実習内容のレジュメを配布した場合は、その中の空白部分に適する語句を、教科書・参考書等を調べて予め埋めておくこと。②復習用レポートを配布した場合は、適切な内容を記載した上で後日必ず提出すること。③実習中に修得できなかった手技等については、課外に実習室を利用するなどして極力反復練習することに努めること。④実習の欠席は原則として認めない。やむを得ない理由により欠席した場合は補講を行う。⑤15 回の実習後に実技試験を行うことがある。⑥ 上記②ならびに⑤の内容および評価は成績評価に反映される場合がある。⑦実習設備の準備状況あるいは講義日程に応じてカリキュラムが前後する場合がある。

【到達目標】

1. 診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱い (消毒・滅菌も含む) ができる。
2. 患者が安全に受診できるように、診療環境に応じた診療の準備、管理が実践できる。
3. 一般診療用器械、器材を安全に取り扱うことができる。
4. 共同動作の意義を理解し、各種動作を実践できる。
5. 患者と円滑にコミュニケーションがとれる。
6. 直接対面行為の技能を実践できる。
7. 治療別の処置内容を理解し、必要に応じた診療用器材の準備と適切な取り扱いができる。

8. 患者指導に必要な情報の収集方法を説明でき、結果の意味が理解できる。
9. 歯科診療補助において想定される事故への対応法を説明できる。
10. 口内法および口外法エックス線撮影の撮影原理、撮影方法および撮影補助について説明できる。
11. エックス線撮影にあたり、撮影の意味とその危険性、適切な防護を説明できる。
12. バイタルサインおよび救急蘇生について説明できる。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1. 総論	医療安全と感染予防, 歯科診療における材料の取り扱い方	環境整備, 汚染器材の洗浄・消毒・滅菌, 手指衛生	1-3	尾崎, 星野, 藤原
2. 各論	共同動作	共同動作 (器具の受渡しとフォーハンドテクニック)	1-7,9	〃
3.	〃	衛生材料の作成と口腔内防湿法	〃	〃
4.	資料収集	概形印象採得 (全顎/アルジネート)	1-9	〃
5.	〃	〃	〃	〃
6.	〃	概形印象採得 (全顎/アルジネート), 咬合採得, 研究用模型の作製	〃	〃
7.	〃	X 線写真撮影補助 1	1-11	尾崎, 伊賀, 松山, 星野, 藤原
8.	〃	X 線写真撮影補助 2	〃	〃
9.	〃	口腔内写真撮影 (9 枚法)1	1-9	尾崎, 星野, 藤原
10.	〃	口腔内写真撮影 (9 枚法)2	〃	〃
11.	〃	歯科予防処置	1-7,9	〃
12.	〃	予防填塞処置	〃	〃
13.	〃	局所麻酔 (表面麻酔), ラバーダム防湿, 予防填塞処置	〃	〃

14.	〃	救急蘇生	BLS(AED,BVM), 回復体位	6,9,12	高石, 尾崎, 星野, 藤原
15.	〃	歯科矯正治療	矯正治療用器材とその使用法	1-7,9	尾崎, 星野, 藤原
16.	〃	歯科予防処置	ラバーダム防湿	〃	〃
17.	〃	〃	予防填塞処置	〃	〃
18.	〃	〃	局所麻酔 (表面麻酔), ラバーダム防湿, 予防填塞処置	〃	〃
19.	〃	成形修復	局所麻酔 (浸潤麻酔の診療補助), 成形修復処置における診療補助1	〃	〃
20.	〃	〃	成形修復処置における診療補助2	〃	〃
21.	〃	歯冠修復	鋳造修復における診療補助	〃	〃
22.	〃	歯内治療	根管治療における診療補助	〃	尾崎, 松山, 星野, 藤原
23.	〃	歯冠修復	歯肉圧排, 精密印象, 仮封	〃	尾崎, 星野, 藤原
24.	〃	〃	暫間被覆冠の作製, 仮着および撤去1	〃	〃
25.	〃	〃	暫間被覆冠の作製, 仮着および撤去2	〃	〃
26.	〃	口腔外科治療	手術時手洗い, 手術着着用, 手術前準備	〃	尾崎, 中道, 星野, 藤原
27.	〃	〃	口腔外科用器材の取扱い, 術後の患者説明	〃	〃
28.	〃	看護技術	気管内吸引, 採血	1-9	尾崎, 伊賀, 中道, 竹内, 星野, 藤原
29.	〃	介護技術	体位変換, 移乗	1-7,9	近藤, 尾崎, 中道, 竹内, 星野, 藤原
30.	〃	看護技術	ICU および病棟患者の口腔内吸引と口腔ケア	〃	尾崎, 中道, 竹内, 星野, 藤原

【成績評価】 実習内容と実習作品に対する理解度, 実習態度および実技試験の総合判定を行い, 100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1995

【参考書】

- ◇ 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 2007
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1996
- ◇ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い 第1版, 全国歯科衛生士教育協議会編, 医歯薬出版, 1999
- ◇ 器材準備マニュアル, 第3版, 全国歯科衛生士教育協議会編, (財)口腔保健協会, 2006
- ◇ 歯科医療における院内感染対策 -CDC ガイドライン- 最新版, 永末書店, 2005
- ◇ BLS ヘルスケアプロバイダー 第1版, 中山書店, 1994
- ◇ 安全な動作介助のてびき 第2版, 医歯薬出版, 2004

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217256>

【連絡先】

- ⇒ 尾崎和美(ozaki@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-9309) (オフィスアワー: 月水金18:00~ 19:00)
- ⇒ 伊賀弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月水金17:00~ 18:00)
- ⇒ 中道敦子(dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 星野由美(star-dh-hoshino7@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 竹内祐子(yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第5研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 高石 和美(takaisi@dent.tokushima-u.ac.jp/3F 生命科学棟歯科麻酔科学医局/633-7367) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 藤原奈津美(nfujiwara@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・第3研究室/633-7898) (オフィスアワー: 月水金17:00~ 18:00)
- ⇒ 松山 .
- ⇒ 近藤 .

【備考】

- ◇ 1~ 15 回: 2 年次後期 金曜 4,5,6 時限目
- ◇ 16~ 30 回: 3 年次前期 火曜 5,6,7 時限目

歯科口腔介護学

Oral Health Care for the Elderly and Disabled

2 単位 (必修) 3 年 (前期)

松山美和(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 羽田勝・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座
中道敦子・講師/口腔保健学科 口腔保健支援学講座, 竹内祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】介護の概念や範囲を理解し、具体的な介護技術を身につける。身体的・精神的な変化に対応できる観察力や対処方法を身につけ、速やかに多職種に連携及び協力できる。さらに、要介護高齢者や障害者に対して口腔保健の立場から関わるために、療養の管理、機能訓練並びに日常生活の支援を行うための基本的な知識、技術を理解する。

【授業概要】介護ニーズの複雑化、高度化に伴い利用者のニーズに応える質の高い介護を提供するための技術や知識、介護者として必要な配慮等について演習を交えて教授する。医療処置を要する状態にある人や高齢者等に起こりやすい事故についての知識や予防措置を教授する。要介護高齢者や障害者の口腔の現状について知り、高齢社会における歯科口腔介護(口腔ケア、口腔リハビリテーション)の意義や目的について理解し、関連する法制度やサービスに関する知識を習得する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式(視聴覚教材、プリントを適宜用いる)

【授業場所】(3 年前期) 火曜日 2, 3 時限目, 第 5 会議室

【履修上の注意】歯科口腔介護学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 介護の専門性を理解する。
2. 高齢者の生活に必要な介護ニーズについて説明できる。
3. 安全で安楽な介護技術を実践できる。
4. 介護場面における緊急時の対処方法や医療処置について理解する。
5. 高齢者の住環境への配慮ができる。
6. 歯科口腔介護の内容の概要、意義及び目的について説明できる。
7. 歯科口腔介護に関わる法的・制度的背景について説明できる。
8. 歯科口腔介護を必要とする人の実状について説明できる。
9. 高齢者や有病高齢者における身体的、精神的特徴について説明できる。

10. 歯科口腔介護学に必要な歯科の基礎分野に関する知識を説明できる。
11. 摂食・嚥下、構音障害についての概要を説明できる。
12. 歯科口腔介護の具体的な内容及び方法について説明できる。
13. 口腔ケアの具体的な技術を実践できる。
14. 歯科口腔介護で行うリハビリテーションについて説明できる。
15. 歯科口腔介護の手順と方法について説明できる。
16. 要介護者の置かれている環境に対応した歯科口腔介護について説明できる。
17. 歯科口腔介護に必要な器材、薬剤について説明できる。
18. 歯科口腔介護が介護予防に果たす役割について説明できる。
19. 歯科口腔介護における歯科衛生士の役割について具体的に説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	介護概論	介護行為と専門性	介護の概念と範囲、介護の理念、介護の対象	1	竹内
2.	”	”	介護過程の展開	”	”
3.	”	介護技術	高齢者の生活ニーズ、自立生活のための支援	2	”
4.	”	”	高齢者リハビリテーション(3モデル)	”	”
5.	”	”	日常生活に必要な介護技術	3	”
6.	”	”	”	”	”
7.	”	”	感染症	”	”
8.	”	”	心身の状態の観察点	”	”
9.	”	介護現場での医療	介護現場での医療行為について	”	”
10.	”	”	緊急時の対応	4	”
11.	”	認知症ケア	認知症の理解	2,3	”
12.	”	”	ケアの実際	”	”
13.	”	終末期ケア	ターミナル・ホスピス	2,3,4	”
14.	”	”	ケアの実際	”	”
15.	”	住環境	高齢者に適した住まい・福祉用具	5	”

16.	介護と歯科口腔介護	高齢者と介護の必要性, 介護と歯科口腔介護	超高齢者社会の現状, 歯科口腔介護の意義と目的	6	松山
17.	”	歯科口腔介護に係わる法的・制度的背景	国民皆保険, 老人保護法, 介護保険制度	7,8	”
18.	”	歯科口腔介護に必要な基礎知識	老化と高齢者の障害, 歯科領域における形態・機能の老化, 高齢有病者の歯科的特徴と問題点	9,10	”
19.	”	”	歯科口腔介護のための解剖学, 生理学, 摂食・嚥下障害, 構音機能障害	9,10,11	”
20.	歯科口腔介護の内容と方法	歯科口腔介護の内容	口腔介護を必要とする人の口腔環境整備のための口腔ケア	12	中道
21.	”	”	口腔機能維持管理のための機能的口腔ケア	”	”
22.	”	歯科口腔介護で行うリハビリテーション	各種リハビリテーション	14	松山
23.	”	歯科口腔介護の手順と方法	ケアマネジメントの手法	15	中道
24.	”	歯科口腔介護の実践	居宅, 医療・保健・福祉種施設における歯科口腔介護	16	”
25.	”	歯科口腔介護のための器材, 薬剤	歯科口腔介護に必要な器材, 歯科口腔介護に役立つ薬剤	17	”
26.	歯科口腔介護予防	高齢者の気道感染症予防	気道感染予防と歯科の関わり, 気道感染予防の実際	18	松山
27.	歯科口腔介護技術	基礎実習, 相互実習	麻痺体験と口腔ケアの相互実習	13	松山, 中道, 竹内
28.	”	”	口腔環境整備のための口腔ケア	”	中道
29.	”	”	口腔機能維持管理のための機能的口腔ケア	”	”
30.	総括	総合討議	歯科衛生士が担う歯科口腔介護	19	松山, 中道

【成績評価】筆記試験を行い、100点満点で60点以上の者を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】

- ◇ 初めて学ぶ歯科口腔介護 第2版 新井俊二, 小椋秀亮 監修 医歯薬出版
- ◇ 新・社会福祉士養成講座 13 第2版 高齢者に対する支援と介護保険制度 高齢者福祉論 中央法規出版

【参考書】

- ◇ 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ◇ 高齢者歯科ガイドブック 植松宏, 稲葉繁, 渡辺誠 編 医歯薬出版

- ◇ 実践訪問口腔ケア 鷹江津義矩 監修 クインテッセンス出版
- ◇ 歯科衛生士のための高齢者歯科 渡辺誠, 岩久正明 監修 永末書店
- ◇ 脳卒中患者の口腔ケア 植田耕一郎 著 医歯薬出版
- ◇ WHO:ICF (国際生活分類) 中央法規
- ◇ 口腔ケアハンドブック 菅武雄 著 日本医療企画

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217236>

【連絡先】

- ⇒ 松山 (オフィスアワー: 火~ 木17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・第2研究室)
- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/6F口腔保健学科・第1研究室)
- ⇒ 中道 (088-633-7898, dh-nakamichi-0702@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/5F口腔保健学科・第3研究室)
- ⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00/6F口腔保健福祉学講座・第1研究室)

現代社会と福祉

4 単位 (選択) 1 年 (後期), 2 年 (前期)

白山 靖彦 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 下泉 譲・非常勤講師

【授業目的】 現代社会における福祉制度の意義や理念, 福祉政策との関係について理解し, 福祉制度の課題, 発達過程, 構成要素, 関連政策について修得する。

【授業概要】 現代社会における福祉制度の意義や理念, 諸制度を説明し, 福祉制度の課題について認識させる。また, 社会福祉の固有性に着目した論点を教授し, 社会福祉の基礎を説明する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントを適宜用いる)

【授業場所】 1 年後期 木曜 1・2 時限目 第 7 講義室, 2 年前期 火曜 6・7 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 現代社会と福祉の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 現代社会における福祉制度の意義や理念, 福祉政策との関係について説明できる。
2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について説明できる。
3. 福祉政策におけるニーズと資源について説明できる。
4. 福祉政策の課題について説明できる。
5. 福祉政策の構成要素について説明できる。
6. 福祉政策と関連政策の関係について説明できる。
7. 相談援助活動と福祉施策の関連について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	現代社会における福祉制度と福祉政策	福祉制度の概念と理念	導入, 社会福祉定義, 社会保障制度勧告, 社会保障	1	白山
2.	〃	福祉政策の概念と理念	社会政策, 福祉政策, 社会福祉政策	〃	〃
3.	〃	福祉制度と福祉政策の関係	政策効果とその有用性	〃	〃
4.	〃	福祉政策と政治の関係	公的財源	〃	〃

5.	〃	福祉政策の主体と対象	利用者, 住民	〃	〃
6.	〃	〃	支援者	〃	〃
7.	福祉の原理をめぐる理論と哲学	福祉の原理をめぐる理論	社会福祉の拡大と変容	2	〃
8.	〃	〃	社会福祉の固有性	〃	〃
9.	〃	福祉の原理をめぐる哲学と倫理	自立支援, 潜在能力	〃	〃
10.	〃	〃	福祉的自由	〃	〃
11.	福祉制度の発達過程	前近代社会と福祉	旧救貧法	3	〃
12.	〃	〃	新救貧法	〃	〃
13.	〃	〃	慈善事業	〃	〃
14.	〃	〃	博愛事業	〃	〃
15.	〃	〃	相互扶助	〃	〃
16.	〃	〃	ミーンズテスト	〃	〃
17.	〃	産業社会と福祉	福祉三法	〃	〃
18.	〃	〃	福祉六法	〃	〃
19.	〃	〃	ゴールドプラン	〃	〃
20.	〃	〃	エンゼルプラン	〃	〃
21.	〃	〃	障害者プラン	〃	〃
22.	〃	〃	関係八法改正	〃	〃
23.	〃	現代社会と福祉	パラダイム転換	〃	〃
24.	〃	〃	社会福祉基礎構造改革	〃	〃
25.	〃	〃	〃	〃	〃
26.	〃	〃	地域福祉の推進	〃	〃
27.	〃	〃	福祉サービス	〃	〃
28.	〃	〃	社会福祉法	〃	〃
29.	福祉政策におけるニーズと資源	需要とニーズの概念	福祉的需要, ニード	4	〃

30.	”	資源の概念	報酬と用具, 1年後期まとめ	”	”
31.	福祉政策の課題	福祉政策と社会問題	貧困, 孤独	5	下泉 譲
32.	”	”	失業, 要援護	”	”
33.	”	”	偏見と差別	”	”
34.	”	”	社会的排除, リスク	”	”
35.	”	福祉政策の現代的課題	社会的包摂	”	”
36.	”	”	社会連帯	”	”
37.	”	”	セーフティネット	”	”
38.	”	福祉政策の課題と国際比較	北欧, ドイツ	”	”
39.	”	”	アメリカ, イギリス	”	”
40.	”	”	アジア	”	”
41.	福祉政策の構成要素	福祉政策の論点	効率性と公平性	6	”
42.	”	”	必要と資源	”	”
43.	”	”	普遍主義, 選別主義	”	”
44.	”	”	自立と依存	”	”
45.	”	”	自己選択とパターンリズム	”	”
46.	”	”	参加とエンパワーメント	”	”
47.	”	”	ジェンダー	”	”
48.	”	”	福祉政策の視座	”	”
49.	”	福祉政策における政府の役割	福祉国家類型	”	”
50.	”	福祉政策における市場の役割	第三の道	”	”
51.	”	福祉政策における国民の役割	シチズンシップ	”	”
52.	”	福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価	情報公開, NPM	”	”
53.	”	福祉供給部門	ボランティア, インフォーマル, 社会福祉事業	”	”
54.	”	福祉供給過程	再分配, 行財政	”	”
55.	”	福祉利用過程	スティグマ	”	”

56.	福祉政策と関連施策	福祉政策と教育政策	フリースクール	7	”
57.	”	福祉政策と住宅政策	高齢者居住安定法	”	”
58.	”	福祉政策と労働政策	失業対策, 障害者雇用	”	”
59.	相談援助活動と福祉政策の関係	福祉供給の制作過程と実施	サービス供給過程	8	”
60.	”	”	生活支援システム, 2年前期まとめ	”	”

【成績評価】筆記試験(中間, 期末)を実施し, 100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉養成講座 第4巻 現代社会と福祉 中央法規出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217232>

【連絡先】

⇒ 白山 .

⇒ 下泉 .

社会調査の基礎

Basic Aspects of Social Survey

1 単位 (選択) 1 年 (後期)

白山 靖彦(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】社会調査の基本的事項を理解し、社会調査に係る社会福祉士の役割を修得する。

【授業概要】社会調査の意義・目的および方法、統計法および倫理的配慮、量・質的調査の方法に関して教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式(視聴覚教材、プリントなどを適宜用いる)

【授業場所】1 年後期 金曜日 3 時限目, 第 7 講義室

【関連科目】『**歯科衛生統計**』(0.5)

【履修上の注意】社会調査の基礎の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また世習字の内容と副習字の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 社会調査の意義と目的を説明できる。
2. 基本的統計法について説明できる。
3. 社会調査における倫理について説明できる。
4. 社会調査における個人情報保護について説明できる。
5. 量的調査の方法について説明できる。
6. 質的調査の方法について説明できる。
7. 社会調査に関して IT 活用をした方法を説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	社会長の意義と目的	社会調査の意義と目的, 調査の対象	合理性, 非対称性	1	白山
2.	統計法	統計法の概要	統計法, 基幹統計	2	〃
3.	社会調査における倫理	調査情報の倫理的配慮	社会調査倫理綱領	3	〃
4.	社会調査における個人情報保護	調査上の個人情報保護	個人情報保護法	4	〃
5.	量的調査	全数調査・標本調査	母集団, 標本, 標本と抽出	5	〃

6.	〃	横断調査・縦断調査	コーホート	〃	〃
7.	〃	自計式調査・他計式調査	郵送, 電話調査	〃	〃
8.	〃	測定	信頼性と妥当性	〃	〃
9.	〃	質問紙の作成方法	質問紙法	〃	〃
10.	〃	調査票の配付と回収	配票, 集合	〃	〃
11.	〃	量的調査の集計と分析	変数, 統計技法	〃	〃
12.	質的調査	観察法	参与, 非参与	6	〃
13.	〃	面接法	面接法	〃	〃
14.	〃	質的調査のデータ解析	KJ 法, グラウンデッドセオリー法	〃	〃
15.	社会調査の実施に当たっての IT の活用方法	社会調査に実施にあつての IT の活用方法について	統計ソフト, インターネットとの関連	7	〃

【成績評価】筆記試験を実施し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 第 5 巻 社会調査の基礎 中央法規出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217239>

【連絡先】

⇒ 白山。

相談援助の基盤と専門職

4 単位 (選択) 1 年 (後期), 2 年 (前期)

白山 靖彦 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 和泉 芳枝・非常勤講師

【授業目的】 社会福祉士, 介護福祉士および精神保健福祉士の法制度を理解する。相談援助のための理念を理解し, 適切に行動するための知識を身につける。他の福祉専門職の役割や業務の範囲を理解する。

【授業概要】 ソーシャルワーク実践のために必要な専門的知識および方法論, 倫理について教授する。他職種連携の実際とその意義を教授する。専門職倫理を身につけさせる。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式 (視聴覚教材, プリントを適宜用いる), グループワーク

【授業場所】 (1 年次後期) 金曜 6・7 時限目 第 7 講義室, (2 年次前期) 木曜 6・7 時限目 第 6 講義室

【履修上の注意】 相談援助の基盤と専門職の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 社会福祉士をはじめとして他の福祉専門職の法制度や定義・義務等を説明できる。
2. 相談援助の発展の過程を説明できる。
3. 相談援助の理念を説明できる。
4. 相談援助における権利擁護のあり方を説明できる。
5. 相談援助の概念と範囲を理解できる。
6. 専門職倫理を説明できる。
7. 専門援助技術の種類を上げ, それぞれの方法や活動の目的や役割を理解できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	相談援助専門職と社会福祉	相談援助職の種類	職種の紹介	1	白山
2.	〃	社会福祉	定義・意義	〃	〃
3.	社会福祉士の役割と意義	社会福祉士介護福祉士法	定義・義務	〃	〃

4.	〃	〃	法制度成立の背景	〃	〃
5.	〃	〃	法制度見直しの背景	〃	〃
6.	〃	社会福祉士の専門性	社会福祉士の役割と専門性	〃	〃
7.	〃	介護福祉士の専門性	介護福祉士の役割と専門性	〃	〃
8.	精神保健福祉士の役割と意義	精神保健福祉士法	定義・義務	〃	〃
9.	〃	〃	精神障害の理解	〃	〃
10.	〃	精神保健福祉士の専門性	精神保健福祉士の役割と専門性	〃	〃
11.	相談援助の発展過程	ソーシャルワークに係る各種の国際的な定義	国際ソーシャルワーカー連盟の定義	2	〃
12.	〃	ソーシャルワークの形成過程 I	慈善組織協会	〃	〃
13.	〃	〃	セツルメント運動, その他	〃	〃
14.	〃	ソーシャルワークの形成過程 II	ソーシャルワークの源流	〃	〃
15.	〃	〃	ソーシャルワークの基礎期	〃	〃
16.	〃	〃	ソーシャルワークの発展期	〃	〃
17.	〃	〃	ソーシャルワークの展開期	〃	〃
18.	相談援助の理念	人権尊重	定義・意義	3	〃
19.	〃	〃	人権尊重の事例	〃	〃
20.	〃	社会正義	定義・意義	〃	〃
21.	〃	〃	社会正義の事例	〃	〃
22.	〃	利用者本位	定義・意義	〃	〃
23.	〃	〃	利用者本位の事例	〃	〃
24.	〃	尊厳の保持	定義・意義	〃	〃
25.	〃	〃	尊厳の保持の事例	〃	〃
26.	〃	権利擁護	定義・意義	〃	〃
27.	〃	〃	権利擁護の事例	〃	〃

28.	”	自立支援	定義・意義	”	”
29.	”	”	自立支援の事例	”	”
30.	”	社会的包摂	定義・意義	”	”
31.	”	”	社会包摂の事例	”	和泉芳枝
32.	”	ノーマライゼーション	定義・意義	”	”
33.	”	”	ノーマライゼーションの事例	”	”
34.	相談援助における権利擁護の意義	相談援助における権利擁護の概念と範囲	自律との関連	4	”
35.	”	”	ノーマライゼーションの理解	”	”
36.	”	”	権利擁護の概念と範囲	”	”
37.	”	”	権利擁護の事例	”	”
38.	”	”	社会的排除の実態	”	”
39.	”	”	社会的排除に関する事例	”	”
40.	相談援助に係る専門職の概念と範囲	相談援助専門職の概念と範囲	全米ソーシャルワーカー協会	5	”
41.	相談援助にかかる専門職の概念と範囲	福祉行政等における専門職	福祉事務所など	”	”
42.	”	”	児童福祉司など	”	”
43.	”	”	身体障害者福祉司など	”	”
44.	”	民間の施設・組織における専門職	施設職員など	”	”
45.	”	”	地域包括支援センターなど	”	”
46.	”	”	諸外国の動向について	”	”
47.	相談援助における権利擁護	諸外国の動向	”	”	”
48.	専門職倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理の概念	専門職倫理の概念	6	”
49.	”	倫理綱領	日本社会福祉士倫理綱領	”	”
50.	”	”	国際ソーシャルワーカー連盟	”	”
51.	”	”	その他	”	”
52.	”	倫理的ジレンマ	倫理的ジレンマの事例	”	”
53.	”	”	”	”	”

54.	総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容	ジェネラリストの視点	ジェネラルとジェネラリスト	7	”
55.	”	”	ジェネラリストソーシャルワーク	”	”
56.	”	”	エンパワメント	”	”
57.	”	多職種連携	定義・意義	”	”
58.	”	”	チームアプローチの事例	”	”
59.	これからの相談援助専門職と社会福祉	相談援助の役割	相談援助専門職として必要な資質と担うべき役割	”	”
60.	”	将来展望	まとめ	1~7	”

【成績評価】 筆記試験 (中間, 期末) を実施し, 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて実施する。

【教科書】 新・社会福祉士養成講座 第 6 巻 相談援助の基盤と専門職 中央法規出版

【参考書】 福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217246>

【連絡先】

- ⇒ 白山 .
- ⇒ 和泉 .

相談援助の理論と方法

8 単位 (選択) 2 年 (前期, 後期)

羽田勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 山下夏樹・非常勤講師, 藤河一夫・非常勤講師

【授業目的】 社会福祉を推進するために必要な相談援助(ソーシャルワーク)の理論と方法について理解する。さらに, さまざまな事例研究・分析を通してケースマネジメントによる相談援助方法を修得する。

【授業概要】 社会福祉推進のための相談援助(ソーシャルワーク)の意義・形態・方法を明確にし, ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を教授する。また, 相談援助活動における展開過程の事例研究・分析を通してケースマネジメントの手法を学ぶとともに実践に必要な知識や技術を教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式(視聴覚教材, プリントを適宜用いる)

【授業場所】 (2 年次前期) 火曜 4, 5 時限, (2 年次後期) 火曜 4, 5 時限, 水曜 2, 3 時限, 金曜 2, 3 時限 第 6 講義室

【履修上の注意】 相談援助の理論と方法の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 相談援助の基礎的な概念を理解する。
2. 相談援助の構造と機能について理解する。
3. 人と環境の交互作用について理解する。
4. 相談援助における援助関係について理解する。
5. 相談援助の展開過程 I(受理面接から計画実施まで)について説明できる。
6. 相談援助の展開過程 II(モニタリングからサービス開発まで)について説明できる。
7. 相談援助のためのアウトリーチの技術について説明できる。
8. 相談援助のための契約の技術について説明できる。
9. 相談援助のためのアセスメントの技術について説明できる。
10. 相談援助のための介入の技術について説明できる。
11. 相談援助のための経過観察(モニタリング), 再アセスメント, 効果判定, 評価の技術について説明できる。
12. 相談援助のための面接の技術について説明できる。

13. 相談援助のための記録の技術について説明できる。
14. 相談援助のための交渉の技術について説明できる。
15. 相談援助のための対象の理解について説明できる。
16. ケースマネジメント(ケアマネジメント)について理解する。
17. グループを活用した相談援助について理解する。
18. コーディネーションとネットワーキングについて説明できる。
19. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発について説明できる。
20. さまざまな実践モデルとアプローチ I(治療・生活・ストレングスモデル)について説明できる。
21. さまざまな実践モデルとアプローチ II(心理社会的・機能的アプローチ)について説明できる。
22. さまざまな実践モデルとアプローチ III(エンパワメント・ナラティブアプローチ)について説明できる。
23. スーパービジョンとコンサルテーションの技術について説明できる。
24. ケースカンファレンスの技術とその実際について説明できる。
25. 相談援助における個人情報保護について説明できる。
26. 相談援助における情報通信技術(ICT)の活用について説明できる。
27. 事例研究・事例分析の目的と意義について説明できる。
28. 実際の相談援助の事例について理解する。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	相談援助とは	ソーシャルワーカーの具体的な事例	ソーシャルワークとは	1	羽田, 竹内
2.	”	仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み	ソーシャルワークの定義と役割	”	山下
3.	”	ソーシャルワークを構成する要素	ソーシャルワークの構成要素	”	”
4.	”	ソーシャルワークの職場	ソーシャルワークの仕事の分類	”	”
5.	”	ソーシャルワーカーが所属する組織	地域と施設のソーシャルワーカー	”	”
6.	相談援助の構造と機能	ソーシャルワークの構造	人と環境の関係 / 人についての見方 / 社会資源についての見方	2	”
7.	”	ソーシャルワークにおけるニーズ	ソーシャルワークがとらえるニーズとは / 社会生活ニーズ / サービス・ニーズ	”	”

8.	”	ソーシャルワークの機能	ソーシャルワークの課程からとらえた機能 / ソーシャルワークの枠組みからとらえる機能 / ソーシャルワーク機能から導き出されるソーシャルワーカーの役割	”	”
9.	人と環境の交互作用	実践における人と環境、人にとつての環境の意味、人と環境の全体性	人と環境の交互作用からの視点	3	”
10.	”	システムの作動とサイバネティックス、システム理論による一つのソーシャルワーク論	システム理論からの視点	”	”
11.	相談援助における援助関係	援助関係の意義	ソーシャルワークと社会福祉の3次元 / 援助関係の期間と質との交互作用	4	”
12.	”	援助関係の形成プロセスに影響する要因	ソーシャルワーカーが準ずる原則 / ソーシャルワーカーの技法	”	”
13.	”	援助構造と援助関係	援助構造	”	”
14.	”	援助関係の質と自己覚知	関係とは / 権威的ソーシャルワーカー	”	”
15.	”	”	均等性と公平性 / 信頼関係 (ラポール) / ソーシャルワーカーに求められる自己覚知	”	”
16.	”	援助関係とミクロからマクロ実践領域	援助関係を形成することの効用と限界 / 生活保護での援助関係 / 家庭療法での援助関係 / グループや地域での援助関係	”	”
17.	相談援助の展開過程I	相談援助の展開過程の流れ	相談援助の展開過程 / 相談援助の展開過程の目的と対象 / 相談援助のプロセス / 相談援助の構造	5	”
18.	”	ケース発見	ケース発見 / 相談の動機付けによる分類 / 電話での相談	”	”
19.	”	”	ソーシャルワーカーが発見する場合 / 一般的な留意点	”	”
20.	”	受理面接 (インテーク)	インテーク段階の内容 / 二つの不安 / ラポールの形成、傾聴、個別化	”	”
21.	”	”	かかわり技法 / スクリーニング / 緊急度の検討	”	”
22.	”	問題把握からニーズ確定まで	相談援助のプロセスについて / 主訴とニーズ / 問題把握 / ニーズ確定	”	”
23.	”	ニーズ確定から事前評価 (アセスメント) まで	アセスメントのための情報収集	”	”

24.	”	事前評価 (アセスメント) から支援標的・目標設定まで	アセスメント結果 / 支援標的・目標設定の設定	”	”
25.	”	支援標的・目標設定の設定から支援の計画 (プランニング) まで	援助計画 / 介護プラン (ケアプラン)	”	”
26.	”	支援の計画 (プランニング) から支援の実施まで	ソーシャルワーカーの援助計画 / ソーシャルワーカーが所属している機関の援助計画 / 介護保険法によるケアプランとソーシャルワーク援助計画	”	”
27.	相談援助の展開過程II	経過観察 (モニタリング)	モニタリングの目的 / モニタリングの対象	6	”
28.	”	”	モニタリングの方法 / モニタリングの内容	”	”
29.	”	再アセスメントと支援の強化	再アセスメントの考え方 / 再アセスメントの方法 / 支援目標の再設定 / 支援内容の見直しと強化	”	”
30.	”	支援の終結と効果測定、評価、アフターケア	支援の終結 / 効果測定と評価 / アフターケア	”	”
31.	”	予防的対応とサービス開発	個別援助から地域支援へ / 予防的対応とサービス開発の意義 / 地域におけるニーズ / ニーズの集約	”	”
32.	”	”	サービス開発・事業企画 / 予防的対応 / ネットワークと連携 / ソーシャルアクション	”	”
33.	相談援助のためのアウトリーチの技術	アウトリーチの意義と目的	アウトリーチの必然性 / アウトリーチとは / アウトリーチを必要とする対象 / アウトリーチの担う機能	7	”
34.	”	アウトリーチの方法と留意点	援助課程とアウトリーチの具体的方法 / アウトリーチを行うための留意点	”	”
35.	相談援助のための契約の技術	契約の意義と目的	社会福祉援助課程における契約 / ソーシャルワーク援助課程における契約の意義	8	”
36.	”	契約の方法と留意点	アセスメント段階までの共有 / 目標設定の合意 / 目標設定に達する方法・手段の合意	”	”
37.	”	”	目標設定に関する評価についての留意点 / 文書による契約と口頭での契約 / 契約へのバリア	”	”
38.	相談援助のためのアセスメント技術	ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接	アセスメントの特性 / アセスメント面接を支える援助的關係 / 専門職として面接で用いる言語反応	9	”

39.	”	アセスメントで得べき情報 16 項目と視覚化できるアセスメントツール	アセスメントの際の留意点と 16 項目の情報	”	”
40.	”	アセスメント面接で得た情報の使い方	情報の組織化とは / アセスメント力を高めるために必要なこと	”	”
41.	相談援助のための介入の技術	介入の意義と目的	介入の意義 / 介入のターゲット	10	”
42.	”	介入の方法と留意点	介入の方法 / 直接的介入と間接的介入	”	”
43.	”	”	介入の戦略 / 介入の技術 / 介入の方法 / 介入の留意点 / 計画されたソーシャルアクションとしての実践介入	”	”
44.	相談援助のための経過観察 (モニタリング), 再アセスメント, 効果測定, 評価の技術	経過観察 (モニタリング)	相談援助のプロセスとモニタリング・再アセスメント・効果測定・評価 / ソーシャルワークの重要な特性としての「マネジメント」 / モニタリングの手続き / モニタリングの手続きの詳細	11	”
45.	”	再アセスメント	再アセスメントの手順と援助の方向 / 具体的な再アセスメントの手続きの例	”	”
46.	”	効果測定	有効性の検証としての効果測定	”	”
47.	”	評価とサービス開発	プロセス評価とアウトカム評価 / 開発の必要性	”	”
48.	相談援助のための面接の技術	相談援助における面接の目的	面接の目的 / 面接の特性	12	”
49.	”	相談援助における面接の展開	相談援助における面接の基本姿勢 / 面接においてワーカーが行うこと / 面接の展開	”	”
50.	”	面接において用いる技術コミュニケーション	面接において用いる技術 / 面接におけるコミュニケーション	”	”
51.	”	相談援助における面接の形態	面接の構造 / 生活場面面接	”	”
52.	相談援助のための記録の技術	記録の意義とその活用目的	記録の意義 / 記録の活用目的	13	”
53.	”	記録の種類と活用	記録の種類 / 記録の活用目的と種類との関係	”	”
54.	”	記録の方法と IT 化	記録の方法 / ソーシャルワーク記録の IT 化 / 記録と倫理	”	”
55.	”	記録の技術の実際例と今後の課題	スーパービジョンやコンサルテーションの記録 / ケースカンファレンスに提出する記録 / 今後の課題	”	”

56.	相談援助のための交渉の技術	交渉の意義と目的	交渉の意義とエンパワメントの原則 / 交渉のためのエンパワメントの原則	14	”
57.	”	交渉の方法と留意点	コミュニケーション技術 / チームワーク技術 / エンパワメント技術	”	”
58.	”	プレゼンテーションの技術	プレゼンテーションの内容と方法	”	”
59~60.	まとめ		相談援助理論と方法 I のまとめ		”
61.	相談援助における対象の理解	社会福祉援助活動の概念と定義	制度としての社会福祉と実践としての社会福祉援助活動の相補性 / 国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義 (2000 年)	15	藤河
62.	”	相談援助の対象をどうとらえるか	相談援助の対象理解 / システム理論による全体的, 包括的な対象理解 / 個人をどうとらえるか	”	”
63.	”	”	家族をどうとらえるか / 集団 (グループ) をどうとらえるか / ちいきをどうとらえるか	”	”
64.	ケースマネジメント (ケアマネジメント)	ケースマネジメントの基本	ケースマネジメントの目的 / ケースマネジメントの構成要素	16	”
65.	”	ケースマネジメントの課程	ケースマネジメントの課程	”	”
66.	”	ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴	アセスメントの意味と目的 / アセスメントの方法 / 集めた情報からの生活課題のとらえ方 / アセスメントでの原則	”	”
67.	”	ケアプランの作成・実施の特徴	ケアプランの意義 / ケアプランの作成 / ケアプランの実施	”	”
68.	”	ケースマネジメントの特徴	ケースマネジメントの特徴	”	”
69.	”	ケースマネジメントとソーシャルワークの関係	ケースマネジメントとソーシャルワークの関係	”	”
70.	グループを活用した相談援助	グループを活用した相談援助	人間にとって集団が意味するもの / グループワークの意義 / 地グループワークの展開過程	17	”
71.	”	自助グループを活用した相談援助	自助グループとは / サポートグループ / 自助グループ結成への援助 / 自助グループとの連携	”	”
72.	コーディネーションとネットワーク	コーディネーションの目的と意義	対人援助におけるコーディネーションとは / 社会福祉におけるコーディネーションの背景と意義	18	”
73.	”	コーディネーションの方法・技術・留意点	コーディネーションの方法と技術 / コーディネーションの弊害と留意点 / 専門職と住民との連携の特徴と留意点	”	”

74.	”	ネットワークの目的と意義	ネットワークとは / ネットワークが求められる背景	”	”
75.	”	ネットワークの方法	ソーシャル・サポート・ネットワークの意義と概念 / ソーシャル・サポート・ネットワークの方法 / ソーシャル・サポート・ネットワークの日本的展開	”	”
76.	”	社会福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化	住民と専門職の協働の場づくり / ネットワークと地域福祉のシステム化 / 地域ケアシステムの機能とケース発見機能	”	”
77.	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	社会資源 / 社会資源活用の意義と目的	19	”
78.	”	社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点	ソーシャルワーク実践と社会資源 / 社会資源の開発	”	”
79.	”	ソーシャルアクションによるシステムづくり	ソーシャルアクションとは / ソーシャルアクションとアドボカシー / ソーシャルアクションの発展過程	”	”
80.	さまざまな実践モデルとアプローチI	実践モデルとその意味	ソーシャルワークの実践理論 / モデル, アプローチの文化・多様化 / モデル, アプローチの峻別理論	20	”
81.	”	治療モデル, 生活モデル, ストレングスモデル	三つの実践モデル / 治療モデル / 生活モデル / ストレングスモデル	”	”
82.	”	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	実践モデル相互の関係 / ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程と実践モデル / 事例考察による実践モデル	”	”
83.	さまざまな実践モデルとアプローチII	心理社会的アプローチ	起源と基盤理論 / 心理社会的アプローチを理解するためのキーワード / 適用対象・適用課題	21	”
84.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / 心理社会的アプローチに関する基本文献	”	”
85.	”	機能的アプローチ	起源と基盤理論 / 機能的アプローチを理解するためのキーワード / 適用対象・適用課題	”	”
86.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / 機能的アプローチに関する基本文献	”	”
87.	”	問題解決アプローチ	起源と基盤理論 / 問題解決アプローチを理解するキーワード / 適用対象・適用課題	”	”
88.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / 問題解決アプローチに関する基本文献	”	”

89.	”	課題中心アプローチ	起源と基盤理論 / 課題中心アプローチを理解するキーワード / 適用対象・適用課題	”	”
90-91.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / 課題中心アプローチに関する基本文献	”	”
92.	”	危機介入アプローチ	起源と基盤理論 / 危機介入アプローチを理解するキーワード / 適用対象・適用課題	”	”
93.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / 危機介入アプローチに関する基本文献	”	”
94.	”	行動変容アプローチ	起源と基盤理論 / 行動変容アプローチを理解するキーワード / 適用対象・適用課題	”	”
95.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / 行動変容アプローチに関する基本文献	”	”
96.	さまざまな実践モデルとアプローチIII	エンパワメントアプローチ	起源と基盤理論 / エンパワメントアプローチを理解するためのキーワード / 適用対象・適用課題	22	”
97.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / エンパワメントアプローチに関する基本文献	”	”
98.	”	ナラティブアプローチ	起源と基盤理論 / ナラティブアプローチを理解するためのキーワード / 適用対象・適用課題	”	”
99.	”	”	支援焦点 / 支援展開 / ナラティブアプローチに関する基本文献	”	”
100.	”	その他の実践アプローチ	実存主義アプローチ / フェミニストアプローチ / 解決志向アプローチ	”	”
101.	”	実践アプローチをめぐる課題	実践的側面 / 教育的側面 / 研究的側面	”	”
102.	”	スーパービジョンとコンサルテーションの技術	スーパービジョンとは / スーパービジョンの歴史の変遷 / スーパービジョンの必要性と機能	23	”
103.	”	スーパービジョンの方法と留意点	スーパービジョンと形態 / スーパービジョンの関係形成の重要性	”	”
104.	”	コンサルテーション	コンサルテーションの意義 / コンサルテーションとは / ワーカーとコンサルタントの関係	”	”
105.	”	”	コンサルテーションの形態 / スーパービジョンとコンサルテーション	”	”
106.	”	ケースカンファレンスの技術	ケースカンファレンスの意義 / ケースカンファレンスの目的	24	”

107.	”	ケースカンファレンスの運営と展開過程	ケースカンファレンスの構成員と役割 / 展開過程	”	”
108.	”	ケースカンファレンスの実際	ケースカンファレンスの課程	”	”
109.	”	ケースカンファレンスの評価と普遍化	ケースカンファレンスの評価項目 / ケースカンファレンスの普遍化	”	”
110.	相談援助における個人情報の保護		相談援助と個人情報保護 / 個人情報とは / 個人情報保護の考え方	25	”
111.	”		個人情報保護制度の展開 / 個人情報保護の制度 / 相談援助における個人情報保護の課題	”	”
112.	相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用		情報通信技術 (ICT) と福祉情報 / 相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用 / 相談援助における情報通信技術 (ICT) 活用の留意点	26	”
113.	事例研究・事例分析	事例研究の目的と意義	事例研究 (ケーススタディ) とは / 事例研究の目的 / 事例研究の意義	27	”
114.	”	事例研究の方法と留意点	研究の目的とデザイン / 事例研究の方法 / 事例研究を行う際の留意点	”	”
115.	”	事例分析の目的と意義	事例分析とは / 事例分析の目的 / 事例分析の意義	”	”
116.	”	事例分析の方法と留意点	事例の選定と分析の準備 / 事例分析の着目点 / 発表・報告 / 事例分析を行う際の留意点	”	”
117-119.	相談援助の実際		事例	28	”
120.	まとめ		相談援助理論と方法Ⅱのまとめ		”

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217247>

【連絡先】

- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 山下 .
- ⇒ 藤河 .

【成績評価】 2年次前期の講義終了時点で中間試験を行い、さらに全講義終了後、筆記試験を行って合否判定を行う。評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】

- ◇ 新・社会福祉士養成講座 第7巻 相談援助の理論と方法Ⅰ 中央法規出版
- ◇ 新・社会福祉士養成講座 第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ 中央法規出版

【参考書】

- ◇ MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 第3巻 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ ミネルヴァ書房
- ◇ MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 第4巻 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ミネルヴァ書房
- ◇ 福祉小六法 中央法規出版

地域福祉の理論と方法

4 単位 (選択) 2 年 (後期), 3 年 (前期)

羽田勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 上地幸博・非常勤講師, 下泉譲・非常勤講師

【授業目的】地域福祉(コミュニティソーシャルワーク)の概念を学習するとともに、地域福祉の実践に必要な理論と方法について理解する。

【授業概要】地域福祉の基礎理論を体系的に論ずる。また、地域福祉の実践と運営に必要な知識と方法論を教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式(視聴覚教材, プリントを適宜用いる)

【授業場所】(2 年次後期) 火曜 6・7 時限目 第 6 講義室, (3 年前期) 月曜 4・5 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】地域福祉の理論と方法の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 新しい社会福祉システムとしての地域福祉を概説できる。
2. 地域福祉の基本的な考え方について説明できる。
3. 地域福祉の主体と福祉教育について説明できる。
4. 地域福祉を推進する行政組織と民間組織の役割とその実際について説明できる。
5. コミュニティソーシャルワークにおける専門職の役割とその実際について説明できる。
6. 地域福祉推進における住民参加と参加方法について説明できる。
7. ソーシャルサポートネットワークについて説明できる。
8. 地域における社会資源の活用・調整・開発法について説明できる。
9. 質的・量的な地域における福祉ニーズの把握方法とその実際について説明できる。
10. 地域トータルケアシステムの構築とその実際について説明できる。
11. 地域における福祉サービスの評価方法とその実際について説明できる。
12. 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方を理解する。

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
-----	-----	----	------	----

1.	新しい社会福祉システム	地域福祉の発展過程	欧米における地域福祉の源流 / 日本の戦前における地域福祉の源流 / 戦後復興期における地域福祉 / コミュニティケアの移入と地域福祉の展開	1	羽田, 竹内
2.	”	”	地域福祉の実態化と発展 / 社会福祉基礎構造改革と地域福祉の推進 / 超少子高齢社会の到来と地域福祉のあり方	”	上地
3.	”	行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	地域福祉の新しい役割と位置づけ / 行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	”	”
4.	”	新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉	社会福祉のメインストリームとしての地域福祉 / 地域福祉の構成要素 / 地域福祉展開に必要なシステム	”	”
5.	”	福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成	地域福祉法の施行と福祉コミュニティ / 地域福祉推進の原理	”	”
6.	地域福祉の基本的な考え方	地域福祉理論の発展と広がり	地域福祉概念化のもととなるふたつの準拠概念の登場 / 地域福祉理論の初めての体系化 / 地域福祉論展開	2	”
7.	”	”	地域福祉論の新たな展開・深化 / 地域福祉の理論化への展望と課題	”	”
8.	”	地域自立生活支援と地域福祉の理念	社会福祉の目標と自立生活 / 自立生活支援の視点と枠組み / 地域福祉の考え方	”	”
9.	”	”	重層的な”地域”のとらえ方 / 地域福祉の発展段階	”	”
10.	”	地域のとらえ方と福祉圏域	地域社会とコミュニティ論 / 地域福祉における地域のとらえ方 / 地域を重層的に捉える圏域設定の考え方	”	”
11.	”	地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携	はじめに / 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の相違点 / 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の連携	”	”
12.	”	”	社会福祉協議会と自治体の役割 / おわりに	”	”
13.	地域福祉の主体と福祉教育	地域福祉の推進と福祉教育	住民の福祉意識と福祉教育 / 在宅福祉サービスの構造 / 地域福祉の主体形成	3	”
14.	”	地域福祉の推進と福祉教育の歩み	福祉教育の展開 / 今日的な福祉教育	”	”

15.	”	福祉教育の概念と内容	福祉教育の定義 / 地域の中の生活課題・福祉課題 / 福祉教育の目標	”	”
16.	”	”	福祉教育の形骸化 / 福祉教育と教育福祉 / 福祉教育の推進方法と留意点	”	”
17.	行政組織と住民組織の役割と実際	社会福祉における地方分権化と地域福祉計画	地域福祉計画の提議 / 地方分権化の三つの系譜 / 地域福祉計画の内容	4	”
18.	”	社会福祉協議会の役割と実際	社会福祉協議会の組織構成 / 社協の歴史 / 法規定にみる社協の使命 / 社協をめぐる議論とこれからの社協活動・経営	”	”
19.	”	社会福祉法人の役割と実際	社会福祉法人とは / 地域福祉における社会福祉法人の現状と課題 / 地域福祉における社会福祉法人の役割と実際	”	”
20.	”	特定非営利活動法人の役割と実際のボランティア活動	市民活動の意義と役割 / 地域福祉における市民活動の実際	”	”
21.	”	民生委員・児童委員, 保護司	民生委員・児童委員 / 保護司	”	”
22.	”	福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	はじめに / コミュニティビジネスと社会企業 / 福祉系 NPO 法人とコミュニティビジネス	”	”
23.	”	”	社会福祉法人と福祉系 NPO / フィランソロピーから CSR(企業の社会的責任)へ	”	”
24.	専門職の役割と実際	コミュニティソーシャルワークの考え方	はじめに / コミュニティワークとの相違 / 代表的な考え方と概念	5	”
25.	”	”	考え方の五つの特徴 / コミュニティソーシャルワークの課題	”	”
26.	”	コミュニティソーシャルワークの展開とシステム	連携を可能にするシステム / サービスとニーズの接近生を高めるシステム / ニーズ対応のシステム化	”	”
27.	”	”	システムにおける専門職の配置 / システム構築としての地域福祉計画	”	”
28.	”	コミュニティソーシャルワークの方法	コミュニティソーシャルワークの基本的な展開プロセス / 地域アセスメント	”	”
29.	”	”	ケアマネジメントを基盤とした対個人への支援 / 対個人への支援からサポートネットワークの形成	”	”
30.	”	専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク	同一機関内のチームアプローチ / 多機関間の協働体制 / 機関間の協働体制の構築	”	”

31.	”	専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク, 専門職と住民の関係	住民・利用者とのパートナーシップ / コミュニティソーシャルワーク展開の視点 / 住民組織化の方法による住民へのアプローチ / 当事者組織づくり / 校区福祉委員会の支援 / 住民主体の活動を支える専門職の役割	”	下泉
32.	住民の参加と方法	地域福祉推進における住民参加の意義	地域福祉における住民 / 自発性と開発生を重視する地域福祉 / 地域福祉推進の機能と活動, 事業 / 住民参加の意義と役割	6	”
33.	”	市町村社会福祉行政における住民参加	地方分権改革と住民参加 / 市町村社会福祉行政における住民参加 / 市町村社会福祉計画の策定における住民参加の方法	”	”
34.	”	住民の代表性と参加方法	「制度的保障体系」と「直接的住民参加体系」の協働 / 求められる参加のレベル / 参加の形態	”	”
35.	”	”	地域福祉と参加をめぐる議論 / 新たな課題として	”	”
36.	ソーシャルサポートネットワーク	ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置	「たすけあい」の歴史とソーシャルサポートネットワーク / フォーマルサポートとインフォーマルサポート / ソーシャルサポートとネットワークづくり	7	”
37.	”	ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	エコロジカルアプローチ / ライフモデルにおけるソーシャルネットワーク実践の考え方 / ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	”	”
38.	”	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク	ソーシャルサポートの多面性 / コミュニティソーシャルワーカーの役割	”	”
39.	地域における社会資源の活用・調整・開発	社会資源の概要	フォーマル(制度的)な社会資源とインフォーマル(非制度的)な社会資源 / 社会資源の内容の分類 / 地域福祉に関する社会資源の特徴	8	”
40.	”	社会資源の活用とコーディネート	社会資源の活用とコーディネートの意義 / 社会資源の活用とコーディネートの方法 / 社会資源の活用とコーディネートのあり方	”	”
41.	”	福祉サービスの開発	対人福祉サービスの転換 / 地方自治体と対人福祉サービス / 福祉サービス供給組織の開発 / 福祉サービスの供給セクターの開発	”	”
42.	”	税制優遇と助成金の活用	法人格の必要性 / 税制の優遇措置 / 助成金の活用	”	”

43.	福祉でまちづくりとソーシャルアクション	まちづくりと市民活動 / まちづくりとソーシャルアクション	9	9
44.	地域における福祉ニーズの把握方法と実際	地域福祉におけるアウトリーチ	9	9
45.	質的福祉ニーズの把握方法と実際	質的福祉ニーズ把握の重要性 / 質的福祉ニーズ把握の方法 / 地域における質的福祉ニーズ把握の実際 / 地域における質的福祉ニーズのより効果的な把握に向けて	9	9
46.	量的な福祉ニーズの把握方法と実際	量的な福祉ニーズ把握の重要性と把握方法 / 地域における量的な福祉ニーズ把握の実際と今後の課題	9	9
47.	地域トータルケアシステムの構築と実際	地域トータルケアシステムの必要性と考え方	10	10
48.	地域トータルケアシステムの展開方法	地域トータルケアシステムを展開する理論的背景 / 地域トータルケアシステムの展開方法の特徴 / 地域トータルケアシステム展開の実現に向けて	10	10
49.	地域トータルケアシステムの事例	遠野市トータルケアシステム構築の特徴 / 遠野市トータルケアシステムの継続と発展	10	10
50.	ソーシャルケア従事者の研修と組織化	専門職集団による研修会 / 職場内での研修 / 地域における研修会・連絡会	10	10
51.	地域における福祉サービスの評価方法と実際	福祉サービスの評価を必要とする背景	11	11
52.	評価の考え方	措置から契約へ / 提供者の多元化と適正な競争 / 行政の新たな責任サービス提供者による権利侵害の防止	11	11
53.	評価の考え方	社会福祉法の目的と評価 / 経営責任とサービス評価 / 個別処遇と評価	11	11
54.	評価の考え方	多様な評価の仕組み / 経営の健全化を目指す自己努力 / 評価システムの明確化	11	11
54.	福祉サービスの評価の方法と実際	福祉サービスの評価の概要 / 福祉サービスの評価の方法	11	11
55.	福祉サービスのプログラム評価とその展開	プログラム評価とは / 福祉サービス評価とプログラム評価 / 福祉サービスのアウトカム評価・インパクト評価	11	11
56.	福祉サービスのプログラム評価とその展開	プロセス評価の意義と方法 / 福祉サービスのプログラム評価の課題と展望	11	11

57.	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方	イギリス	シーボーム改革と地域を基盤としたソーシャルワーク体制の確立 / 新保守主義の台頭とコミュニティケア改革 / プレア政権と第三の道 / 日本の地域福祉との関連	12	12
58.	アメリカ	アメリカのソーシャルワークの特徴 / コミュニティにおけるソーシャルワークの展開	12	12	
59.	まとめ	地域福祉の理論と方法のまとめ1	12	12	
60.	まとめ	地域福祉の理論と方法のまとめ2	12	12	

【成績評価】2年次後期の講義終了時点で中間試験を行い、さらに3年前期終了後に筆記試験を行って合否判定を行う。評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 第9巻 地域福祉の理論と方法 中央法規出版

【参考書】

◇ MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 第8巻 地域福祉の理論と方法 ミネルヴァ書房

◇ 福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217249>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00)

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00)

⇒ 上地 .

⇒ 下泉 .

福祉行財政と福祉計画

Social Welfare Administration and Planning

1 単位 (選択) 2 年 (後期)

白山 靖彦(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】福祉行財政と福祉計画の基本的事項を理解し、社会福祉の位置づけ、枠組みを修得する。

【授業概要】福祉の行財政の実施体制、実際の財政状況、福祉計画の意義・目的、種類について教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式(視聴覚教材、プリントなどを適宜用いる。)

【授業場所】2 年後期火曜 2 時限目 第 6 講義室

【先行科目】『衛生行政』(1.0)

【関連科目】『衛生学・公衆衛生学』(0.5)

【履修上の注意】福祉行財政と福祉計画の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 福祉行財政の実施体制について説明できる。
2. 福祉行財政の動向について説明できる。
3. 福祉計画の意義と目的を説明できる。
4. 福祉計画の主体と方法について説明できる。
5. 福祉計画についてその種類、内容について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	福祉行政の実施体制	国の役割	法廷事務, 自治事務	1	白山
2.	〃	都道府県の役割	都道府県事務	〃	〃
3.	〃	市町村の役割	市町村事務	〃	〃
4.	〃	国と地方の関係	地方分権	〃	〃
5.	〃	福祉の財源	国, 地方の財源	〃	〃
6.	〃	福祉行財政の組織及び団体	福祉事務所など	〃	〃
7.	〃	福祉行政における専門職の役割	福祉事務所の現業員など	〃	〃

8.	福祉行財政の動向	福祉財政	一般会計歳入・歳出	2	〃
9.	福祉計画の意義と目的	福祉計画の意義, 目的, 住民参加	根拠法令	3	〃
10.	福祉計画の主体と方法	福祉計画の主体	国, 地方公共団体	4	〃
11.	〃	福祉計画の種類	地域福祉計画など	5	〃
12.	〃	福祉計画の策定過程	ローリング方式など	〃	〃
13.	〃	福祉計画の策定方法	福祉ガバナンス	〃	〃
14.	〃	福祉計画の評価方法	プログラム評価	〃	〃
15.	福祉計画の実際	福祉計画例	まとめ	1-5	〃

【成績評価】筆記試験を実施し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 第 10 巻 福祉行財政と福祉計画 初版 中央法規出版 2009

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217252>

【連絡先】

⇒ 白山 .

社会福祉援助技術演習

4 単位 (選択) 3 年 (前期, 集中), 4 年 (前期)

羽田勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 大下直樹・非常勤講師, 山下夏樹・非常勤講師

【授業目的】 ロールプレイング等を中心とする演習形態により, 専門援助技術を習得することを目的とする。特に学生が自分自身で学習し, 考え主体的に行動する態度を滋養し, この演習を通して, 他の機関や他職種との連携方法や注意点について理解する。

【授業概要】 社会福祉援助技術 (ソーシャルワーク) の基本的な方法について, 事例を通して教授する。また社会福祉の専門的な援助技術について, 演習を実施しながら展開場面ごとに指導する。

【授業形式】 演習

【授業方法】 演習形式 (視聴覚教材, プリントを適宜用いる)

【授業場所】 共通講義室

【履修上の注意】 社会福祉援助技術演習の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. ワークをとおり自己覚知・価値観・他者理解・コミュニケーションなどの人間関係に必要な基盤形成を行う。
2. ソーシャルワーク実践の展開過程を理解する。
3. 社会福祉の援助場面における実践的な方法と技術を身につける。
4. 演習事例を通して, 利用者への倫理的配慮 (守秘義務・人権の尊重・権利擁護) を身につける。
5. ソーシャルワーカーとして, 他の機関や他職種との連携方法について説明できる。
6. 視聴覚教材よりソーシャルワーカーの役割を学ぶ。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1~2.	社会福祉援助技術演習	課題演習	ジェノマグラムの理解と作成	3	大下
3~4.	〃	〃	エコマップの理解と作成	〃	〃
5~6.	〃	〃	面接の位置と距離 (一対一面接, 一対二面接)	〃	〃

7~8.	〃	〃	自己理解 (演習「私は…」, 演習「私の人生曲線」)	1	〃
9~10.	〃	〃	自他の価値観 (演習「2つの物語」, 演習「大切なものの競売」)	〃	〃
11~12.	〃	〃	面接の課程と対応 (演習「面接プログラム学習」)	2,3	〃
13~14.	〃	〃	利用者の立場と理解 (演習「利用者になるってどんなこと?」)	1,3,4	〃
15~16.	〃	〃	ソーシャルワークの理解 (演習「ソーシャルワークってどんな色? どんな物?」)	3	〃
17~30.	〃	〃	事例に基づいたソーシャルワーク演習 (インテーク面接からプランニングまで)	1~5	〃
31~35.	夏期集中講義	個人ワーク, グループワーク, 視聴覚教育等	夏期集中講義, オリエンテーション / (グループワーク) ニーズを理解する / (講義) ニーズ論 / (グループワーク) 「うそ? ほんと?」 / (グループワーク) ビネットを使った事例研究	1,2,3,4,5	竹内
36~40.	〃	〃	(グループワーク) 社会連関図を使った事例研究 / (個人ワーク) 社会連関図のキーワードから統計資料調べ / (グループワーク) テーマ別統計資料全体発表	2,3,4,5	〃
41~45.	〃	〃	(グループワーク) トランスフォーラム / (個人ワーク) ハイブリッドライブイベント作成・社会との関わりを知る・私の対人関係地図作成 / (グループワーク) ジェノグラムを使った事例研究	1,2,3,4,5	〃
46~50.	〃	〃	視聴覚教材から学ぶソーシャルワークの理解 / (グループワーク) 逐語記録を使った事例研究	2,3,4,5,6	〃
51~55.	〃	〃	物語から学ぶソーシャルワーク / 役割を理解する活動 / ラベル討論会	1,6	〃
56~60.	〃	〃	(個人ワーク) 「とらえ方」と「かかわり方」 / (グループワーク) 利用者のニーズに気づく	2,3,4,5	〃
61~65.	〃	〃	(グループワーク) 平和中学校 / (グループワーク) HIV 患者の事例研究とエコマップ・ジェノグラム作成	1,2,3,4,5	〃

66~70.	〃	〃	(グループワーク)「おもしろレジャーランド」/(グループワーク)自立支援・生活保護に関する自立支援	〃	〃
71~75.	〃	〃	視聴覚教材を使ったソーシャルワークの理解/(グループワーク)「あるひのわたし」「おめでとう!」「タイムマシン法」	〃	〃
76~78.	社会福祉技術演習	オリエンテーション	対人福祉援助と対人援助	1	山下
79~81.	〃	自己覚知	援助の視点	〃	〃
82~84.	〃	事例検討	高齢者①	2 3 4 5	〃
85~87.	〃	〃	高齢者②	〃	〃
88~90.	〃	事例研究	高齢者③	〃	〃
91~93.	〃	記録法	インタビュー・アセスメント	2 3 4	〃
94~96.	〃	事例検討	障害者①	2 3 4 5	〃
97~99.	〃	〃	障害者②	〃	〃
100~102.	〃	〃	障害者③	〃	〃
103~105.	〃	記録法	プランニング・モニタリング	1 2 3 4 5	〃
106~108.	〃	事例検討	難病①	2 3 4 5	〃
109~111.	〃	〃	難病②	〃	〃
112~114.	〃	〃	難病③	〃	〃
115~117.	〃	記録法	経過・要約	2 3 4	〃
118~120.	〃	まとめ	ふりかえり	1 2 3 4 5	〃

【成績評価】授業への出席状況、態度およびレポートにより総合的に評価する。
評価は100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】行わない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217240>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

⇒ 大下 .

⇒ 山下 .

社会福祉援助技術現場実習指導

2単位 (選択) 3年 (集中, 集中, 後期), 4年 (前期)

羽田勝(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 社会福祉施設・機関での現場実習の意義を理解し、実習施設に応じた事前の準備や心構えを習得することで現場実習を実効性のあるものとすることを目的とする。

【授業概要】 実習の準備段階から終了まで手順に基づく指導や助言を行い、実習施設及び専門職としての社会的使命や倫理について教授する。さらに「実習をさせていただく学生」としてあるべき態度・心構えを教授し、授業で学んだ知識・技術を実践に生かせるように指導する。実習終了後には振り返り・報告会の授業を実施する。

【授業形式】 実習

【授業方法】 実習形式 (視聴覚教材, プリントを適宜用いる) グループワーク, 社会福祉援助技術現場実習の施設終了ごとに振り返りと報告会を行う。

【授業場所】 共通講義室

【履修上の注意】 社会福祉援助技術現場実習指導の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 社会福祉援助技術現場実習の意義や内容を説明できる。
2. 実習施設にあった、実習目標を立てられる。
3. 実習中の注意点・心構えを説明できる。
4. 実習施設の選定をし、事前学習・事前訪問を行う。
5. 相談援助の専門職として求められる資質、技能、倫理を身につける。
6. 実習記録の記載ができる。
7. 実習内容の発表ができる。
8. 実習終了後の振り返りにより、学生一人一人が課題を見出せる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	社会福祉援助技術現場実習指導 (I)	オリエンテーション	実習指導オリエンテーション / 実習スケジュール説明	1	竹内
2.	〃	〃	〃	〃	〃

3.	〃	〃	社会福祉実習の意義 / 実習に対する心構え	3	〃
4.	〃	〃	〃	〃	〃
5~6.	〃	〃	アルバイト・ボランティア・実習の違いについてグループ討論および全体発表 (KJ法)	1	〃
7.	〃	〃	実習指定施設の現状や課題の把握 / 職員の専門性を理解する	5	〃
8.	〃	〃	〃	〃	〃
9~10.	〃	〃	学生の立場と果たすべき役割・権利の説明	3,5	〃
11~12.	〃	事前準備 (I)	個別面談による実習先希望調査と学生の関心との関係を確認	2	〃
13.	〃	〃	実習先の選定 / 実習の目的及び内容の確認	4	〃
14.	〃	〃	〃	〃	〃
15~16.	〃	〃	実習先への事前訪問オリエンテーション	〃	〃
17.	〃	〃	実習施設概況表作成 / 実習計画書の作成指導	〃	〃
18.	〃	〃	〃	〃	〃
19~20.	〃	〃	実習計画書作成	2,4	〃
21~22.	〃	〃	実習施設事前訪問	4	〃
23.	〃	〃	ハラスメントへの対応 / ハイリスク利用者へのかかわりと感染対策	3	〃
24.	〃	〃	〃	〃	〃
25~26.	〃	〃	実習予備体験報告書作成	4,6	〃
27~28.	〃	〃	実習予備体験に関する個人面談	4,5	〃
29~30.	〃	〃	実習予備体験後分野別グループ討議・全体発表	4	〃
31~32.	〃	〃	実習指導者説明会 (高齢者福祉分野)	〃	〃
33~34.	〃	〃	実習指導者説明会 (障害者福祉分野)	〃	〃

35~36.	”	”	実習指導者説明会 (児童福祉分野)	”	”
37~38.	”	”	実習指導者説明会 (医療機関)	”	”
39~40.	”	実習ふりかえり (I), 事前準備 (II)	実習記録の記載方法演習 / 実習に向けて注意事項再確認・巡回指導説明	5,6	”
41~50.	”	”	実習目標・課題達成度・実習記録内容確認 / 個人面談 / 中間報告会準備 / 中間報告会 / 後半の実習に向けての準備 (必要書類・注意事項・後半の課題等再準備および再確認)	5,6,7,8	”
51~58.	社会福祉援助技術現場実習指導 (II)	帰校日	健康状態・不安等の確認 / プログラム確認	5	”
59~60.	”	実習ふりかえり (II)	日誌等必要書類の提出・日数・時間数・欠勤等確認	8	”
61~62.	”	”	実習のまとめ・報告書・お礼状の記載方法説明	5,6,8	”
63~64.	”	”	実習全体のまとめ作成	”	”
65~66.	”	”	実習報告書作成	”	”
67~68.	”	”	お礼状作成	2	”
69~76.	”	”	(グループ) 実習計画・内容の報告, 実習体験の分かち合い (印象に残ったこと・困難・良かった経験等), 価値観の揺らぎ・自己覚知の話し合い / (個人面談) グループで報告した内容, 疑問・問題意識の確認, 個人評価と教員評価, 今後の学習課題の確認	7,8	”
77~80.	”	”	実習報告会準備	7	”
81~86.	まとめ	ふり返りとプレゼンテーション	実習報告会	”	”
87~90.	”	”	実習報告集作成	1~8	”

【成績評価】 授業への出席状況、態度およびレポートにより総合的に評価する。
評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 行わない

【教科書】 五訂 社会福祉実習 中央法規出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217241>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)

福祉サービスの組織と経営

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

羽田 勝 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内 祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 藤河 一夫・非常勤講師

【授業目的】福祉サービスの中核を担う専門職として、福祉サービスを提供する組織やその経営や管理について基礎的な知識を修得する。

【授業概要】福祉サービスの中核を担う専門職として必要な、福祉サービスを提供する組織やその経営や管理についての基礎的な知識について教授する。

【授業方法】講義

【授業場所】3 年次前期 木曜 6, 7 時限 第 5 講義室

【履修上の注意】福祉サービスの組織と経営の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できる。
2. 福祉サービスの組織と経営に関する基礎的な理論を説明できる。
3. 福祉サービスの管理運営法の基礎を説明できる。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスにおける組織・経営 / 福祉サービスとは	羽田, 竹内
2.	〃	福祉サービスと制度 / 経営	藤河
3.	福祉サービスに関わる組織や団体	法人とは / 法人とは何か	〃
4.	〃	社会福祉法人 / 社会福祉法人とは	〃
5.	〃	社会福祉法人 / 社会福祉法人の現状と課題	〃
6.	〃	特定非営利活動法人 / 特定非営利活動法人の概要	〃
7.	〃	その他の組織や団体 / 医療法人, 営利法人	〃
8.	〃	その他の組織や団体 / 公益法人, 市民団体ほか	〃
9.	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	戦略 / 経営戦略	〃
10.	〃	事業計画 / 策定・実行・評価	〃
11.	〃	組織 / 組織原則	〃

12.	〃	管理運営の基礎理論 / 管理手法	〃
13.	〃	集団の力学に関する基礎理論 / 個人と集団	〃
14.	〃	リーダーシップに関する基礎理論 / リーダーシップ理論	〃
15.	福祉サービスの管理運営の方法① サービス管理	サービスマネジメント / 福祉とサービス	〃
16.	〃	サービスマネジメント / マーケティング	〃
17.	〃	サービスの質の評価 / 福祉サービスにおける質の評価	〃
18.	〃	サービスの質の評価 / 第三者評価	〃
19.	〃	苦情対応とリスクマネジメント / リスクマネジメントの方法	〃
20.	〃	サービス提供のあり方の方向性 / サービス管理	〃
21.	福祉サービスの管理運営の方法② 人事管理と労務管理	人事・労務管理 / 人材確保	〃
22.	〃	人事・労務管理 / 給与	〃
23.	〃	人事・労務管理 / 労務管理	〃
24.	〃	人材育成 / 人材育成の意義	〃
25.	〃	人材育成 / 経営管理と人材育成	〃
26.	福祉サービスの管理運営の方法③ 会計管理と財務管理	会計管理 / 財務管理	〃
27.	〃	会計管理 / 会計制度	〃
28.	〃	会計管理 / 財務諸表の見方	〃
29.	福祉サービスの管理運営の方法④ 情報管理	情報管理 / 情報管理と個人情報保護	〃
30.	〃	情報管理 / 第三者評価制度	〃

【成績評価】筆記試験を実施し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 11 福祉サービスの組織と経営 中央法規出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221549>

【連絡先】

- ⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 藤河 .

社会保障

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

白山靖彦(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 羽田勝・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 社会保障制度に関する基本的事項を理解し、社会保障全般に係る社会福祉士の役割について修得する。

【授業概要】 現代社会における社会保障制度の課題、概念、対象、理念などについて教授する。また、諸外国における社会保障制度について例を用いて紹介する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義

【授業場所】 3 年前期木曜日 1 時限 (6 回), 4 時限目 (15 回), 5 時限目 (9 回) 第 5 講義室

【履修上の注意】 社会保障の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 現代社会における社会保障制度の課題について説明できる。
2. 社会保障の概念や対象、理念について説明できる。
3. 社会保障の財源と費用について説明できる。
4. 社会保険と社会扶助の関係について説明できる。
5. 公的保険制度と民間保険制度の関係について説明できる。
6. 社会保障制度の体系について説明できる。
7. 年金保険制度の具体的内容について説明できる。
8. 医療保険制度の具体的内容について説明できる。
9. 諸外国における社会保障制度の概要について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	社会保障制度	序論	社会保障制度とは	1	白山
2.	社会保障制度の課題	人口動態, 少子高齢化	人口動態推移	”	”
3.	”	労働環境の変化	ワークライフバランスなど	”	”
4.	社会保障の概念や対象, 理念	社会保障制度の概念と範囲	ILO	2	”

5.	”	社会保障の役割と意義	社会保障の機能	”	”
6.	”	社会保障の理念	社会保障制度審議会勧告	”	”
7.	”	社会保障の対象	”	”	”
8.	”	社会保障制度の発達	アメリカ, イギリスの社会保障	”	”
9.	社会保障制度の財源と費用	社会保障の財源	一般会計歳出・歳入	3	”
10.	”	社会保障給付費	社会保障給付費概要	”	”
11.	”	国民負担率	国際比較	”	”
12.	社会保険と社会扶助	社会保険の概念と範囲	社会保険の機能と構造	4	”
13.	”	社会扶助の概念と範囲	社会扶助の機能と構造	”	”
14.	公的保険制度と民間保険制度	現状	民間保険制度など	5	”
15.	社会保障制度の体系	年金保険制度	目的, 意義, 内容など	6	”
16.	”	医療保険制度	”	”	”
17.	”	介護保険制度	”	”	”
18.	”	労災保険制度	”	”	”
19.	”	雇用保険制度	”	”	”
20.	”	社会福祉制度	”	”	”
21.	”	生活保護	”	”	”
22.	”	家族手当制度	”	”	”
23.	年金保険制度の具体的内容	国民年金	”	7	羽田 勝
24.	”	厚生年金	”	”	”
25.	”	共済年金	”	”	”
26.	医療保険制度の具体的内容	国民健康保険	”	8	”
27.	”	健康保険	”	”	”
28.	”	共済保険	”	”	”
29.	諸外国における社会保障制度	先進諸国における社会保険制度の概要	”	9	白山
30.	”	”	まとめ	1~9	”

【成績評価】筆記試験を実施し、100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて行う。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 第12巻 社会保障 中央法規出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221550>

【連絡先】

⇒ 白山 .

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

高齢者福祉

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

羽田 勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内 祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 大下 直樹・非常勤講師

【授業目的】 老人福祉の社会的背景や理念, 目的について理解させる。また, 老人福祉, 老人保健および介護保険制度の概要とサービス体系, 内容および利用手続き等, 具体的な実践活動を理解させる。さらに, 老人福祉サービスと関連行政の一体的運用の必要性や民間シルバーサービスの現状とその社会的意義について理解させる。

【授業概要】 高齢者の身体的・精神的変化を取り上げ, 高齢期に社会とのかかわりがどのように変化するかを教授する。高齢者に関する制度や社会福祉サービスについて整理し, 現在の課題について教授する。我が国の高齢者福祉をより深く理解するために, 欧米の高齢者保険制度を取り上げ比較する。

【授業方法】 講義

【授業場所】 3 年次前期 月曜 2, 3 時限 第 5 講義室

【履修上の注意】 高齢者福祉の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 高齢者の特徴を多角的に捉え, 説明できる。
2. 高齢者を取り巻く問題や生活課題について説明できる。
3. 高齢者に関する保健福祉政策やサービス, 民間から提供されるサービスについて説明できる。
4. 高齢者やその介護者をサポートする体制について説明できる。
5. 高齢者福祉制度について諸外国の制度を学び, 我が国との比較ができる。
6. 高齢者福祉分野における実践事例を通して援助過程の展開の仕方を理解する。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	高齢者の特性	高齢者の社会的理解, 身体的理解	羽田, 竹内
2.	”	高齢者の精神的理解, 総合的理解	大下
3.	少子高齢社会と高齢者	少子高齢社会と社会的問題	”
4.	”	高齢者を取り巻く諸問題	”

5.	高齢者保健福祉の発展と法体系	高齢者保健福祉の起源と生成—古代から近代	”
6.	”	高齢者保健福祉制度の発展	”
7.	”	高齢者保健福祉制度・施策の体系	”
8.	高齢者支援の関係法規	老人福祉法	”
9.	”	高齢者の医療の確保に関する法律	”
10.	”	高齢者虐待防止法, その他の関係法規	”
11.	介護保険制度の基本的枠組み	介護保険制度の全体像, 目的と理念	”
12.	”	保険財政, 保険者と被保険者	”
13.	”	介護保険制度の最近の動向	”
14.	介護保険制度の仕組み	要介護認定の仕組みとプロセス	”
15.	”	保険給付, 介護報酬	”
16.	”	地域支援事業	”
17.	”	介護保険事業計画, サービスの質を確保するための仕組み	”
18.	介護保険とサービスの体系	介護支援専門員	”
19.	”	居宅サービス, 施設サービス	”
20.	”	介護予防サービス, 地域密着型サービス	”
21.	高齢者を支援する組織と役割	行政機関	”
22.	”	指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割	”
23.	”	地域包括支援センターの組織体系と役割	”
24.	”	社会福祉協議会	”
25.	”	ボランティア団体・非営利民間活動	”
26.	高齢者支援の方法と実際	高齢者支援の方法	”
27.	”	介護保険法における連携と実際	”
28.	高齢者を支援する専門職と役割と実際	専門職の役割と実際, 専門職による協働(多職種連携)	”
29.	”	専門職の倫理	”
30.	近未来の高齢者福祉の課題		”

【成績評価】筆記試験を実施し、100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険 中央法規
出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221551>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 大下 .

障害者福祉

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

羽田 勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内 祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 和泉 芳枝・非常勤講師

【授業目的】 障害者福祉の理念や基本的な考え方を理解し、障害者に対する相談援助活動を行うための知識・技術を身につける。

【授業概要】 「障害者福祉」では、今日に至るまでの国内外での障害者福祉の考え方や制度の変遷について理解し、我が国における障害者福祉を取り巻く社会環境、特に法律や応用可能なサービスについて教授し、障害者の持つ多様なニーズに対応できる素地を身につける。

【授業方法】 講義

【授業場所】 3 年次前期 金曜 6, 7 時限 第 5 講義室

【履修上の注意】 障害者福祉の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 障害者福祉の理念についての的確な用語を用いて説明できる。
2. 障害の種類と国際分類について説明できる。
3. 障害者の法的定義について説明できる。
4. 障害者の実態と福祉需要について説明できる。
5. 障害者福祉の国内外での動向について説明できる。
6. 障害者福祉に関する法律の目的、対象およびサービス体系と具体的内容について説明できる。
7. 障害者運動・当事者運動の展開とその意義について説明できる。
8. 障害者福祉に関連する組織や専門職およびその連携について説明できる。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態	障害者を取り巻く社会情勢, 戦後の展開	羽田, 竹内
2.	”	障害者を取り巻く社会情勢, 今後の展開	和泉
3.	”	障害者の生活実態	”
4.	”	障害とは	”
5.	障害者に関わる法体系	障害者基本法	”

6.	”	身体障害者福祉法, 知的障害者福祉法	”
7.	”	精神保健福祉法, 発達障害者支援法	”
8.	”	医療観察法, バリアフリー新法, 障害者雇用促進法	”
9.	”	障害者にかかわるその他の法律の体系	”
10.	”	各省庁の障害者施策等	”
11.	障害者自立支援制度①	障害者自立支援法の理念・考え方	”
12.	”	自立支援給付	”
13.	”	支給決定のプロセス	”
14.	”	自立支援医療費, 補装具費	”
15.	”	地域生活支援事業, 障害福祉計画	”
16.	”	苦情解決, 審査請求	”
17.	”	障害者自立支援法と介護保険の関係	”
18.	障害者自立支援制度②	障害児に対する支援, 障害の定義	”
19.	”	障害児に対する支援, 障害児福祉の現状と課題	”
20.	”	障害児に対する支援の最近の動向	”
21.	組織・機関の役割	行政機関の役割	”
22.	”	指定障害福祉サービス事業者および指定障害者支援施設の役割, 国民健康保険団体連合会の役割	”
23.	”	労働機関の役割	”
24.	”	教育機関の役割	”
25.	専門職の役割と実際	障害者にかかわる専門職の価値・倫理, 障害者自立支援法に基づく主な専門職	”
26.	”	相談支援専門員の役割と実際, サービス管理責任者の役割と実際	”
27.	”	生活支援員等の役割と実際, 居宅介護等従事者の役割と実際	”
28.	多職種連携・ネットワーク	多職種連携の意味, 医療・教育・労働関係機関との連携	”
29.	”	多職種連携の方法と実際, 施策の流れと支援のありよう	”
30.	”	多職種連携の方法と実際, 事例	”

【成績評価】筆記試験を実施し、100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 中央法規出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221558>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 和泉 .

児童・家庭福祉

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

羽田 勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内 祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 上野 由弘・非常勤講師

【授業目的】 児童が生活する環境や福祉に関するニーズと各種サービス, 児童福祉の法体系, 実施機関, 施設を理解する。児童福祉および関連分野の専門職種や相談援助活動について理解を深める。

【授業概要】 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させ, 児童福祉法を基本とした法体系とサービスや社会的支援体制について教授する。また, 児童福祉に関わる専門職とそれぞれの専門職が担う役割を理解させ, 専門機関・施設との連携の在り方を教授する。児童に対する相談援助活動の専門性について教授する。

【授業方法】 講義

【授業場所】 3 年次前期 月曜 6, 7 時限 第 5 講義室

【履修上の注意】 児童・家庭福祉の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 児童福祉の理念と意義を理解する。
2. 児童の成長・発達を理解する。
3. 成長過程における子どもを取り巻く社会的背景や問題を説明できる。
4. 児童の福祉需要の把握方法とサービス体系について説明できる。
5. 児童福祉および関連分野の専門職が果たす役割とその連携のあり方について説明できる。
6. 児童福祉の法体制および実施体制を説明できる。
7. 児童の生活場面における環境の整備と福祉用具について説明できる。
8. 児童福祉に関する相談援助の方法や留意点について説明できる。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	現代社会と子ども家庭	少子高齢社会と次世代育成支援	羽田, 竹内
2.	〃	現代社会と子ども家庭の問題	上野
3.	〃	子どもの育ち, 子育てのニーズ	〃
4.	子ども家庭福祉とは何か	子どものための福祉の原理	〃

5.	〃	子ども家庭福祉の理念	〃
6.	〃	子どもと家庭の権利保障	〃
7.	〃	児童福祉の発展	〃
8.	子ども家庭福祉にかかわる法制度	子ども家庭福祉の法体系	〃
9.	〃	子ども家庭福祉の実施体制, 行政機関と児童福祉施設	〃
10.	〃	子ども家庭福祉の実施体制, 子ども家庭福祉サービス	〃
11.	〃	子ども家庭福祉の財源	〃
12.	〃	子ども家庭福祉の専門職	〃
13.	〃	苦情解決と権利擁護	〃
14.	子ども家庭にかかわる福祉・保健	母子保健	〃
15.	〃	障害・難病のある子どもと家庭への支援, 障害児のニーズと支援制度	〃
16.	〃	障害・難病のある子どもと家庭への支援, 難病の子どもと地域生活における支援	〃
17.	〃	児童健全育成	〃
18.	〃	保育	〃
19.	〃	子育て支援	〃
20.	〃	ひとり親家庭の福祉	〃
21.	〃	児童の社会的養護サービス, 社会的養護とは	〃
22.	〃	児童の社会的養護サービス, 今後の社会的養護の課題	〃
23.	〃	非行児童・情緒障害児への支援, 非行児童について	〃
24.	〃	非行児童・情緒障害児への支援, 情緒障害児について	〃
25.	〃	児童虐待対策, 児童虐待の定義	〃
26.	〃	児童虐待対策, 児童虐待対策の課題	〃
27.	〃	子どもと家庭に関わる女性福祉	〃
28.	子ども家庭への援助活動	子ども家庭への相談援助活動	〃
29.	〃	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動	〃
30.	〃	地域援助活動とネットワーク	〃

【成績評価】筆記試験を実施し、100点満点で60点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221552>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 上野 .

公的扶助

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

羽田 勝(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内 祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 赤池 潤・非常勤講師

【授業目的】 社会保障・社会福祉の基盤をなす公的扶助について理解し, また市民社会において必要不可欠な領域としてより機能していくための手立てについて理解する。

【授業概要】 市民生活を守る最後のセイフティーネットである社会保障・社会福祉政策である公的扶助制度について教授する。

【授業方法】 講義

【授業場所】 3 年次前期 金曜 4, 5 時限 第 5 講義室

【履修上の注意】 公的扶助の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 公的扶助について説明できる。
2. 生活保護制度や低所得者対策について説明できる。
3. 貧困・低所得者に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1.	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲	羽田, 竹内
2.	〃	公的扶助の意義と役割	赤池
3.	貧困・低所得者問題と社会排除	貧困・低所得とは何か	〃
4.	〃	貧困と社会排除	〃
5.	〃	貧困・低所得者問題の現代的課題	〃
6.	公的扶助制度の歴史	海外の歴史	〃
7.	〃	日本の歴史	〃
8.	〃	貧困・低所得者対策の近年の動向	〃
9.	生活保護制度の仕組み	生活保護法の目的と原理, 原則 / 保護の種類と内容および方法	〃
10.	〃	保護の種類と内容および方法	〃

11.	〃	保護施設	〃
12.	〃	被保護者の権利および義務, 不服申し立てと訴訟	〃
13.	〃	生活保護の財源・予算	〃
14.	最低生活保障水準と生活保護基準	最低生活保障水準の考え方, 生活保護基準の考え方	〃
15.	〃	生活保護基準額の実際	〃
16.	〃	最低生活保障水準の実際	〃
17.	生活保護の動向	被保護人員および被保護世帯数	〃
18.	〃	保護の開始・廃止の動向	〃
19.	〃	医療扶助・介護扶助の動向	〃
20.	低所得者対策の概要	生活福祉資金貸付制度	〃
21.	〃	社会手当制度	〃
22.	〃	ホームレス対策	〃
23.	〃	その他の低所得者対策	〃
24.	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	国・都道府県・市町村の役割	〃
25.	〃	福祉事務所の役割, 福祉事務所専門職の役割	〃
26.	貧困・低所得者に対する相談援助活動	生活保護制度における相談援助活動	〃
27.	〃	低所得者対策における相談援助活動	〃
28.	〃	他機関・他職種との連携・協働	〃
29.	生活保護における自立支援	自立とは何か	〃
30.	〃	自立支援プログラムの位置づけと策定	〃

【成績評価】 筆記試験を実施し, 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて実施する。

【教科書】 新・社会福祉士養成講座 16 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助論 中央法規出版

【参考書】 福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221553>

【連絡先】

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 赤池 .

保健医療サービス

1 単位 (選択) 3 年 (前期)

白山 靖彦 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】医療保険制度、保健医療サービスの基本的事項について理解し、保健医療サービスに係る社会福祉士の役割を習得する。

【授業概要】相談援助活動において必要となる医療制度や保健医療サービス、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について教授する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式

【授業場所】3 年前期金曜、2 時限目、第 5 講義室

【履修上の注意】保健医療サービスの授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 医療保険制度について説明できる。
2. 診療報酬制度について説明できる。
3. 保健医療サービスの概要を理解する。
4. 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際を説明できる。
5. 保健医療サービス関係者との連携について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	医療保険制度	医療保険制度の概要	高額療養費制度など	1	白山
2.	〃	医療費に関する政策動向	診療報酬体系	2	〃
3.	診療報酬	診療報酬制度の概要	在宅療養	〃	〃
4.	〃	〃	診療報酬制度	〃	〃
5.	保健医療サービスの概要	医療施設の概要	医療法、病院、特定機能病院、地域医療支援病院など	3	〃
6.	〃	保健医療対策	健康保険 21, 健康診断	〃	〃
7.	保健医療サービスにおける専門職と実際	医師の役割	医師法	4	〃
8.	〃	インフォームドコンセント	コンプライアンス, セカンド・オピニオン	〃	〃

9.	〃	保健師・看護師	業務内容	〃	竹内
10.	〃	理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士	〃	〃	白山
11.	〃	医療ソーシャルワーカー	医療ソーシャルワーカー業務指針	〃	〃
12.	自立支援医療	概要	種類と内容	3,4	〃
13.	公費負担医療	〃	乳児医療など	〃	〃
14.	保健医療サービス関係者との連携と実際	医師, 保健師, 看護師などとの連携	連携の方法, クリティカルパス	5	〃
15.	〃	地域の社会資源との連携	まとめ	〃	〃

【成績評価】筆記試験を実施し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】必要に応じて実施する。

【教科書】新・社会福祉士養成講座 第 17 巻 保健医療サービス 中央法規出版

【参考書】福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221554>

【連絡先】

⇒ 白山 .

就労支援サービス

1 単位 (選択) 3 年 (前期)

白山 靖彦(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 就労支援制度の基本的事項を理解し、就労支援に係る社会福祉士の役割を修得する。

【授業概要】 相談援助活動において必要な就労支援制度、就労支援に係る組織、団体、専門職、就労支援分野における連携について教授する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式

【授業場所】 3 年前期金曜 3 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】 就労支援サービスの授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 雇用・就労の動向と労働政策の概要について説明できる。
2. 就労支援制度の概要について説明できる。
3. 就労支援に係る組織、団体の役割と実際について説明できる。
4. 就労支援に係る専門職の役割と実際について説明できる。
5. 就労支援分野における連携と実際について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	雇用・就労の動向と労働政策の概要	雇用・就労の動向	労働市場の動向	1	白山
2.	〃	労働法規の概要	労働基準法	〃	〃
3.	就労支援制度の概要	生活保護対策	自立支援プログラムなど	2	〃
4.	〃	障害者自立支援制度	福祉就労など	〃	〃
5.	〃	障害者雇用施策	障害者雇用促進法	〃	〃
6.	就労支援に係る組織、団体の役割と実際	国	ハローワークの設置など	3	〃
7.	〃	市町村	社会福祉事務所など	〃	〃
8.	〃	都道府県	生活保護受給者就労支援事業	〃	〃

9.	〃	ハローワーク	ハローワークの役割と概要	〃	〃
10.	〃	職業リハビリテーション機関	トライアル雇用など	〃	〃
11.	〃	障害者支援施設	授産施設など	〃	〃
12.	就労支援に係る専門職と実際	ハローワークとの連携	就労支援コーディネーターなど	4	〃
13.	〃	障害者雇用施策との連携	就労支援員など	〃	〃
14.	就労支援分野との連携と実際	障害者福祉施策との連携	ジョブコーチなど	5	〃
15.	〃	教育施策との連携	まとめ	1~5	〃

【成績評価】 筆記試験を実施し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 新・社会福祉士養成講座 第 18 巻 就労支援サービス 中央法規出版

【参考書】 福祉小六法 中央法規出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221555>

【連絡先】

⇒ 白山 .

相談援助演習

(選択) 3年(後期), 4年(前期)

白山靖彦(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 羽田勝・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】ロールプレイング等を中心とする演習形態により、専門援助技術を習得することを目的とする。特に学生が自分自身で学習し、考え主体的に行動する態度を滋養し、この演習を通して、他の機関や他職種との連携方法や注意点について理解する。

【授業概要】社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基本的な方法について、事例を通して教授する。また社会福祉の専門的な援助技術について、演習を実施しながら展開場面ごとに指導する。

【授業方法】演習形式(視聴覚教材、プリントを適宜用いる)

【授業場所】第5講義室

【履修上の注意】相談援助演習の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】ワークをとおし自己覚知・価値観・他者理解・コミュニケーションなどの人間関係に必要な基盤形成を行う。ソーシャルワーク実践の展開過程を理解する。社会福祉の援助場面における実践的な方法と技術を身につける。演習事例を通して、利用者への倫理的配慮(守秘義務・人権の尊重・権利擁護)を身につける。ソーシャルワーカーとして、他の機関や他職種との連携方法について説明できる。視聴覚教材よりソーシャルワーカーの役割を学ぶ。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1~6.	夏季集中講義(個人ワーク・グループワーク)	オリエンテーション(個人ワーク)自己覚知(グループワーク)ニーズを理解する(講義)ニーズ論(グループワーク)「うそ?ほんと?」(個人・グループワーク)ピネットを使って	竹内
7~12.	〃	社会連関図作成、(個人・グループワーク)テーマ別統計資料調査・全体発表、ハイブリッド・ライフイベント表作成	〃
13~18.	〃	(個人・グループワーク)逐語記録を使って(グループワーク)車イス探索演習・全体発表	〃
19~24.	〃	(個人・グループワーク)ジェノグラムを使って、視聴覚教材を使って	〃

25~27.	〃	(個人・グループワーク)物語からソーシャルワークを学ぶ、「とらえ方」と「かかわり方」、HIV患者	〃
28~30.	課題演習	ジェノグラムの理解と作成	大下
31~33.	〃	エコマップの理解と作成	〃
34~36.	〃	面接の位置と距離	〃
37~39.	〃	自己理解	〃
40~42.	〃	自他の価値観	〃
43~45.	〃	面接の課題と対応	〃
46~48.	〃	利用者の立場と理解	〃
49~51.	〃	ソーシャルワークの理解	〃
52~54.	〃	〃	〃
55~57.	〃	〃	〃
58~60.	〃	〃	〃
61~63.	〃	〃	〃
64~66.	〃	〃	〃
67~69.	〃	〃	〃
70~72.	〃	〃	〃
73~75.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(高齢者福祉分野①)	山下
76~78.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(高齢者福祉分野②)	〃
79~81.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(高齢者福祉分野③)	〃
82~84.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(障害者福祉分野①)	〃
85~87.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(障害者福祉分野②)	〃
88~90.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(障害者福祉分野③)	〃
91~93.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(難病①)	〃
94~96.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(難病②)	〃
97~99.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(難病③)	〃
100~102.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習(更生保護制度①)	〃

103~105.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習 (更生保護制度②)	〃
106~108.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習 (更生保護制度③)	〃
109~111.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習 (スクールソーシャルワーク①)	〃
112~114.	〃	地域を基盤としたソーシャルワーク演習 ①	白山
115~117.	〃	地域を基盤としたソーシャルワーク演習 ②	〃
118~120.	〃	地域を基盤としたソーシャルワーク演習 ③	〃
121~123.	〃	実践モデル・アプローチに関する演習①	〃
124~126.	〃	実践モデル・アプローチに関する演習 ②	〃
127~129.	〃	実践モデル・アプローチに関する演習③	〃
130~132.	〃	社会問題を基盤とした演習 ①	〃
133~135.	〃	社会問題を基盤とした演習 ②	〃
136~138.	〃	社会問題を基盤とした演習 ③	〃
139~141.	〃	対象者別の演習 ①	〃
142~144.	〃	対象者別の演習 ②	〃
145~147.	〃	対象者別の演習 ③	〃
148~150.	〃	事実に基づいたソーシャルワーク演習 (児童福祉分野①)	上野

【成績評価】 授業への出席状況，態度およびレポートにより総合的に評価する。
評価は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 社会福祉士 相談援助演習 (2009)

【参考書】 適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221556>

【連絡先】

⇒ 白山 .

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

相談援助実習指導

(選択) 3年(後期), 4年(前期)

白山靖彦(授業責任者)・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 羽田勝・教授/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座, 竹内祐子・助教/口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 社会福祉施設・機関での現場実習の意義を理解し、実習施設に応じた事前の準備や心構えを習得することで現場実習を実効性のあるものとすることを目的とする。

【授業概要】 実習の準備段階から終了まで手順に基づく指導や助言を行い、実習施設及び専門職としての社会的使命や倫理について教授する。さらに「実習をさせていただく学生」としてあるべき態度・心構えを教授し、授業で学んだ知識・技術を実践に生かせるように指導する。実習終了後にはふりかえり授業・実習報告会を実施する。

【授業方法】 講義形式、ロールプレイング、グループワーク、全体発表の形式で進める。実習施設で巡回指導を行う。実習期間中に帰校日を設けスーパービジョンを行う。

【授業場所】 第5講義室

【履修上の注意】 相談援助実習指導の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1~5.	実習オリエンテーション	実習の意義、実習形態、実習中の諸注意と心構え、実習内容、アルバイト・ボランティア・実習の相違点理解、実習計画モデルから実習のイメージを持つ	竹内
6~10.	〃	社会福祉施設の現状、職員の専門性、士法改正での社会福祉士の定義・義務の確認、社会福祉士の専門性、社会福祉士の役割、個人情報保護法	〃
11~12.	事前準備 (I)	実習の目的および内容の確認、実習生の基本的態度および心得	〃
13~14.	〃	実習指定施設の現状や課題の把握	〃
15~16.	〃	実習先選定	〃
17~18.	〃	事前訪問・実習予備体験のオリエンテーション、ハラスメントへの対応、ヒヤリハット事例検討	〃
19~20.	〃	実習指導者による講演と質疑応答(高齢者分野)	〃

21~22.	〃	実習指導者による講演と質疑応答(知的障害者分野)	〃
23~24.	〃	実習指導者による講演と質疑応答(身体障害者分野)	〃
25~26.	〃	実習指導者による講演と質疑応答(医療機関)	〃
27~28.	〃	実習計画書の作成指導	〃
29~30.	〃	実習計画書等必要書類作成	〃
31~32.	〃	〃	〃
33~34.	〃	実習分野別グループ討議(施設の概要・実習計画)	〃
35~36.	〃	相談援助技術について	〃
37~38.	〃	実習記録の記載方法、巡回指導の説明	〃
39~40.	〃	実習予備体験報告書作成	〃
41~45.	ふりかえり、フィードバック (I)	実習日誌・報告書をもとにスーパービジョン(セルフエステームの向上に配慮して)、実習分野別討議(学んだこと・反省点・後半の実習に対する心構え等)、実習分野別発表原稿作成	〃
46~50.	〃	中間発表会、全体討議、フィードバック、後半の実習に向けた準備・注意点の指導	〃
51~58.	帰校日	スーパービジョン	〃
59~66.	ふりかえり、フィードバック (I)	実習日誌・報告書をもとにスーパービジョン(個別・全体)、お礼状作成・送付	〃
67~74.	〃	実習報告書作成、実習報告会準備	〃
75~82.	〃	実習報告会、フィードバック、実習報告作成企画	〃
83~90.	実習報告集作成	実習報告書作成、編集	〃

【成績評価】 授業への出席状況および態度、課題レポートの提出状況による評価。実習日誌の内容・提出状況による評価。

【教科書】 社会福祉士 相談援助実習 (2009) 中央法規出版(株)

【参考書】 授業の中で適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221557>

【連絡先】

⇒ 白山 .

⇒ 羽田 (0886622684, hada@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 竹内 (yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

総合医科学

2 単位 (必修) 3 年 (後期)

Overview in Medicine

伊賀弘起(授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 竹内祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 歯科衛生士, 社会福祉士に必要な臨床医学を総合的に修得するとともに, これらの知識と技術を生かして, チーム医療の中で専門職としての業務を実践できるよう理解を深める.

【授業概要】 総合医科学は新・社会福祉士養成課程における「人体の構造と機能及び疾病」の教育カリキュラムに沿って構成されている. すなわち生活行動を司る人体の構造と機能, 廊下の概念, 加齢による精神的, 身体的変化, 生活機能を低下させる疾病や障害, 機能低下を回復させるリハビリテーションについてなど, 将来のチーム医療の現場で必要となる医学一般に関する知識を提供する.

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義(プリント, プロジェクター等を適宜使用する)

【授業場所】 金曜 2,3 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】 総合医科学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している. ①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること. ②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること. また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること. ③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う. ④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる.

【到達目標】

1. 身体と精神の成長・発達, 老化を理解する.
2. 人体部位の名称を説明できる.
3. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要を理解する.
4. 健康の概念を理解する.
5. 生活機能を低下させる疾病についてその概要を説明できる.
6. 生活機能を低下させる障害についてその概要を説明できる.
7. リハビリテーションの概念と範囲を理解する.
8. 病院・施設のベッドサイド, 在宅で遭遇する医療行為, 装置, 器具などを理解する.

【授業計画】

大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	人体の成長・発達	身体と精神の成長・発達	幼年期・成年期・老年期, 老化とは, 老化に伴う病変 (認知症等, 褥傷とその対策等)	1 竹内

2.	心身機能と身体構造の概要	各器官の名称・構造	解剖学総論	2	伊賀
3.	国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要	ICF の概念 健康の概念	国際傷害分類 (ICIDH) から国際生活機能分類 (ICF) への変遷 心身機能と身体構造, 活動, 参加の概念, 環境因子と個人因子の概念 健康状態と生活機能低下の概念 WHO 憲章による健康の定義など	3	竹内
4.	疾病の概要	疾病の分類 生活習慣病	疾病の分類 生活習慣病とは	4,5	〃
5.	〃	循環器系疾患	高血圧, 動脈硬化, 脳血管障害, メタボリックシンドローム	〃	〃
6.	〃	〃	虚血性心疾患, 心不全, 不整脈	〃	伊賀
7.	〃	代謝性疾患	糖尿病, 脂質代謝異常症, 肥満, 尿酸代謝異常	〃	〃
8.	〃	悪性腫瘍	悪性腫瘍とその治療, 緩和ケアと告知	〃	〃
9.	〃	感染症	感染の種類と原因, 疥癬, AIDS, 結核, 性感染症 (STD), 風疹, 麻疹, 予防接種	〃	〃
10.	〃	感染症	MRSA, 腸管出血性大腸炎, SARS, インフルエンザ, 食中毒, 日和見感染	4	〃
11.	〃	消化器系疾患	食道疾患, 胃炎・胃潰瘍, 急性腹症, 腸炎, 下痢・便秘症, 肛門疾患, 消化管腫瘍	4,5	〃
12.	〃	肝・胆道疾患	ウイルス性肝炎, 慢性肝炎, 肝腫瘍, 肝外胆管疾患	〃	〃
13.	〃	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の徴候と検査, 閉塞性気道疾患, 気管支炎, 気管支拡張症, 肺炎, 肺結核, 肺腫瘍	〃	〃
14.	〃	腎・泌尿器系疾患	尿失禁, 尿路感染症, 膀胱炎, 尿路結石, 糸球体疾患, 腎血管性疾患, 間質性腎疾患, 腎不全, 人工透析排尿障害, 尿路感染症, 神経因性膀胱, 前立腺肥大症, 前立腺がん	〃	〃
15.	〃	血液疾患	液疾患の種類 (貧血, 白血病, 血友病, 多発性骨髄腫等)	〃	〃
16.	〃	神経・精神疾患	神経疾患と保健福祉施策, パーキンソン病,	〃	竹内
17.	〃	神経・精神疾患	筋萎縮性側索硬化症 (ALS), 小脳変性症, 多発性硬化症, 筋無力症, 介護保険の特定疾病	〃	〃

18.	”	”	精神障害 (統合失調症, 気分障害, 解離性障害, 知的障害等)	”	”
19.	”	骨関節・結合組織の疾患	骨関節・結合組織の疾患と保健福祉施策, 骨粗鬆症, 変形性関節症, 関節リウマチ, 全身性エリテマトーデス (SLE), 多発性筋炎等	”	伊賀
20.	”	眼科・耳鼻科疾患	角膜疾患, 白内障, 緑内障, 網膜はく離, 視覚障害 (弱視, 色弱, 視野狭窄,) 外耳道炎, 中耳炎, 内耳疾患, 聴覚障害	”	”
21.	”	先天性疾患	先天性疾患の分類, 先天異常 (先天性心疾患, 消化管奇形, 腎奇形等), 染色体異常症, 胎児障害と周産期障害, ダウン症候群	”	”
22.	”	高齢者に多い疾患	老年性症候群, 廃用症候群, 褥瘡, 低栄養, 浮腫, 脱水症, 不眠, 嚥下障害, 褥瘡とその対策	”	竹内
23.	障害の概要	障害の概念, 定義, 種類等	視覚障害, 聴覚障害, 平衡機能障害, 肢体不自由,	6	”
24.	”	障害の概念, 定義, 種類等	内部障害, 知的障害, 発達障害 (自閉症, 注意欠陥多動性障害, 学習障害, 発達性協調運動障害)	”	”
25.	”	”	認知症, 高次脳機能障害	”	”
26.	リハビリテーションの概念と範囲	リハビリテーションの概念と範囲, 対象, 方法等	精神障害, アルコール依存症, 精神疾患の診断, 統計マニュアル (DSM-IV), その他	7	”
27.	”	”	リハビリテーションの概念と範囲, 障害評価	”	”
28.	”	”	リハビリテーションの諸段階, リハビリテーションにかかわる専門職	”	”
29.	医療と介護の概念	医療と介護の概念	医療介護とは, 保健医療とソーシャルワーカー等	8	”
30.	医療用器具	各種医療用器具の用途	膀胱留置カテーテル, 人工肛門, 人工透析, 胃管, 胃ろう, IVH, 人工肛門	”	伊賀

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217244>

【連絡先】

⇒ 伊賀弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963 (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00))

⇒ 竹内祐子(yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171 (オフィスアワー: 月~金 17:00~18:00))

【成績評価】 全講義終了後に筆記試験を行い, 総合的な理解度を評価する. 100点満点で60点以上を合格とする.

【再試験】 必要に応じて行う.

【教科書】 人体の構造と機能及び疾病 ミネルヴァ書房 黒田研二/住居広士 編 2009

【参考書】 新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版 2010

総合医科学 B

Overview in Medicine B

2 単位 (選択) 4 年 (前期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 白山 靖彦・教授 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

竹内 祐子・助教 / 口腔保健学科 口腔保健福祉学講座

【授業目的】 A コースで学んだ医学一般の知識をもとに, より実践的な臨床医学を習得し, チーム医療における専門職としての業務について理解を深める。

【授業概要】 総合医科学では A コース (必修) と B コース (選択必修) に分けて教授する。特に B コースは旧・社会福祉士養成課程においては A コースと共に必修の科目であり, A コースで学んだ「人体の構造と機能及び疾病」の知識を元に, 歯科医療や社会福祉の現場で活用できる実践的な臨床医学を学習する。すなわち有病者, 高齢者, 障害者における口腔疾患と全身疾患との関連およびその対処法, あるいは社会福祉の現場で援助や指導に必要な行動等を実際の症例を用いて総合的に教授するとともに Q&A 方式の演習も行う。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義 (プリント, プロジェクター等を適宜使用する。)

【授業場所】 金曜 2,3 時限目 共通講義室

【履修上の注意】 総合医科学 B の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習, 復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 1. 社会福祉士・歯科衛生士として必要な臨床医学の各分野の概要について理解する。
2. 1. 社会福祉士・歯科衛生士として必要な現代社会の代表的な疾患について理解する。
3. 1. 社会福祉士・歯科衛生士として必要な障害の概要を理解する。
4. 1. 社会福祉士・歯科衛生士として必要なリハビリテーションについて理解する。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1~12.	臨床医学	臨床医学の各分野の概要と現代社会の疾病	各分野の主な疾患と種々の症例の提示	1,2	伊賀
13~16.	障害	障害の概要と分類, 特徴	各分野の様々な障害と症例の提示, 障害者のための医療	3	〃

17~20.	リハビリテーション	リハビリテーションとは, 障害評価, 段階, 専門職	リハビリテーションの理念 / 運動器官・内臓器官・精神心理の廃用症候群 / 急性期・回復期・維持期リハビリテーション, 包括的リハビリテーション, 他分野との連携	4	竹内
21~22.	ソーシャルワーク	保健医療専門職	保健医療とソーシャルワーク / これからのソーシャルワーカー	1-4	〃
23~30.	まとめ	演習	Q&A	〃	伊賀・白山・竹内

【成績評価】 全講義終了後に筆記試験を行い, 総合的な理解度を評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 特に教科書は指定しないが, 下記の参考書など, できるだけ多くの関連書を参考にするとよい。

【参考書】

- ◇ 新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病 中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会
- ◇ 人体の構造と機能及び疾病 ミネルヴァ書房 黒田研二/住居広士 編 2009

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217245>

【連絡先】

- ⇒ 伊賀 弘起(iga@dent.tokushima-u.ac.jp/5F口腔保健学科・教授室/633-7963) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 竹内 祐子(yu-take@dent.tokushima-u.ac.jp/6F口腔保健学科・第1研究室/633-9171) (オフィスアワー: 月~ 金17:00~ 18:00)
- ⇒ 白山靖彦(6F口腔保健学科・教授室)

医療倫理学

1 単位 (必修) 3 年 (後期)

Medical Ethics

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 大石 美佳・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 医療・歯科医療における倫理の重要性を理解し、歯科衛生士の義務と責任に関する基本的な知識、態度及び考え方を学ぶ。

【授業概要】 新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる職業人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術や行動科学を学習する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 講義形式、視聴覚教材、プリントを適宜用いる。

【授業場所】 水曜 1 時限目 第 5 講義室

【履修上の注意】 医療倫理学の授業では授業計画の「内容」の欄に各講義事項のキーワードを掲載している。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。また予習時の内容と復習時の内容を比較して学習成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

1. 医の倫理に関する宣言や法規を概説できる。
2. 患者の権利を説明できる。
3. 歯科衛生士に必要な倫理観を説明できる。
4. 医療現場を取り巻く人間関係を説明できる。
5. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
6. 患者の自己決定権を説明できる。
7. QOL の概念及び歯科医療における QOL の捉え方を説明できる。
8. 生活行動と保健行動について説明できる。
9. 患者の症状をどのように理解したらよいか説明できる。
10. チームアプローチの意義と必要性を説明できる。
11. 生命倫理の意味とその課題を説明できる。
12. 医療コミュニケーションの目的と技法を説明できる。
13. 医療面接の重要性を説明できる。
14. 医療面接を実践できる。

【授業計画】

大項目	内容	到達目標	担当
1.	医療倫理とは	医療倫理に関連する宣言・法令	1,2 伊賀

2.	医療従事者の基本的義務	パターナリズム, 患者中心の医療, 歯科衛生士の法的義務, 役割	”	”
3.	歯科衛生士としての心構え	歯科衛生士の立場と視点	3,4	”
4.	”	臨床実習・臨地実習での人間関係	”	”
5.	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントとは, インフォームドチョイス, セカンドオピニオン	5,6	”
6.	Quality of life (QOL)	QOL の定義, QOL と歯科医療, QOL の向上のために	7	”
7.	行動科学	行動科学とは 医療現場における人の行動特性	8,9	”
8.	”	患者の行動特性 医療従事者の行動特性	”	”
9.	チームアプローチ	チームアプローチの意義と必要性 歯科医療現場でのチームアプローチ 他種職とのチームアプローチ	10	”
10.	生命倫理	生命倫理の論点と課題	11	”
11.	医療現場におけるコミュニケーション	接遇 患者理解のためのコミュニケーション コミュニケーションの技術 守秘義務	12	”
12~15.	患者面接	医療面接, 相互演習	13,14	伊賀, 大石

【成績評価】 筆記試験の評価点により総合的に判定する。評価は、100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【再試験】 必要に応じて行う。

【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第 1 版 5 刷, 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2007

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217226>

【連絡先】

⇒ 伊賀 (口腔保健学科・教授室, 088-633-7963, iga@dent.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 口腔保健学科第 1 研究室 月~金 17:00~18:00)

⇒ 大石 (088-633-9181, mi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 総合歯科 月~金 18:00~19:00)

臨床心理学

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

Clinical Psychology

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 佐藤 健二・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
 原 幸一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 境 泉洋・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
 内海 千種・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 福森 崇貴・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】臨床心理学の理論と実際の基礎を学習することを目標とする。

【授業概要】他者の気持ちを理解し、共感し、自分の気持ち、考えを伝える能力は、患者、他職種とのコミュニケーションの上で、非常に重要である。また、心と身体は密接につながっており、身体的問題の理解に際して、その心理的側面の理解は不可欠である。したがって「心の問題」の理解と制御を扱う臨床心理学の基礎の習得は、ヘルスバイオサイエンスを基盤とする医学、歯学、薬学、栄養学、保健学領域において重要と言える。そこで、本講義では、臨床心理学の定義、対象、方法(代表的な心理検査、心理療法)について、初学者を考慮して、その基礎を概説する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式。映像教材などを用いて、臨床心理学の理論と実際の基礎を学ぶ。

【授業場所】常三島キャンパス総合科学部 1 号館または共通教育 5 号館 (未定)

【履修上の注意】本講義は、歯学科、口腔保健学科、保健学科、栄養学科、薬学科との合同の集中講義である。私語厳禁(他の受講生に迷惑)。

【到達目標】臨床心理学の理論と実際の基礎を理解する

【授業計画】

	大項目	中項目	担当
1.	臨床心理学とその対象	不安障害など	佐藤
2.	臨床心理学における測定方法	質問紙法、投映法など	福森
3.	無意識を重視する心理療法	催眠療法、精神分析、分析心理学	原
4.	すべての心理療法の基礎	クライアント中心療法	〃
5.	発達障害とその支援		〃
6.	臨床心理学的コミュニケーション総説	非言語的コミュニケーション	福森
7.	〃	言語的コミュニケーション	〃
8.	行動療法	系統的脱感作法、オペラント技法	境
9.	不登校・ひきこもりへの支援		〃
10.	非行への支援		〃

11.	うつ病に対する認知療法, 認知行動療法		佐藤
12.	心身症に対する認知行動療法	摂食障害, 歯科心身症等	〃
13.	外傷経験時の心理的問題とその支援	概説	内海
14.	外傷後ストレス障害への心理療法	持続エクスポージャー法を中心に	〃
15.	遊戯療法	虐待, 外傷後ストレス障害との関連において	〃
16.	試験		佐藤・内海

【成績評価】筆記試験。100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇教科書: 使用しない。
- ◇参考書: 適宜, 紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217362>

【連絡先】

⇒ satoken@ias.tokushima-u.ac.jp

基礎看護学

1 単位 (必修) 3 年 (後期), 4 年 (前期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 多田 敏子・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 關戸 啓子・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
谷岡 哲也・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】看護学を始めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習を通して看護学に対する興味や関心を高めることをめざす。

【授業概要】看護の根底にある考え方、どのような人にまたどのような場において看護が必要とされるのか、看護をするものに求められる倫理観や人間観について学習する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義形式 (教科書を中心に講義を進める。必要に応じて、プリントを配布する)

【授業場所】木曜 1 時限目, 5 時限目 医学部保健学科大講義室

【キーワード】看護者, 人間, 健康, ケアリング

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。抽象的な内容なので、参考図書を読むなど、主体的に参加すること。グループワークでは積極的に参加すること。

【到達目標】

1. 看護の理念を理解する。
2. 看護実践の理論的な基盤を理解する。
3. 看護者に必要な態度を理解する。
4. 専門職としての看護について理解する。
5. 異職種間協働について理解する。

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1.	看護の理論	看護の概念	看護学教育の理念およびカリキュラムの考え方	1,2	多田
2.	〃	〃	看護学を学ぶことの意味	〃	〃
3.	〃	看護の原点と役割	看護の原点とケアリング (1)	2,3	〃
4.	〃	〃	看護の原点とケアリング (2)	〃	〃
5.	〃	〃	看護の原点とケアリング (3)	〃	〃
6.	〃	〃	職業としての看護	〃	〃
7.	看護の実践	看護制度と看護活動	専門職としての看護師 (1)	4	關戸
8.	〃	〃	専門職としての看護師 (2)	〃	〃

9.	〃	〃	実践科学としての看護	〃	谷岡
10.	〃	〃	看護実践のための教育の準備	〃	〃
11.	〃	〃	専門職としての看護組織	〃	〃
12.	〃	〃	看護実践のための基準と看護サービスに対する評価	〃	〃
13~15.	総括	チームアプローチ等	多職種連携教育 (IPE), 専門職間協働 (IPW)	5	伊賀

【成績評価】講義への出席 (10%), 6 回目の授業の終了時点でケアリングのレポート (40%) を課す。また定期テスト (50%) などによって総合的に行う。*遅刻および欠席などは減点の対象となる。

【教科書】

- ◇ ケアリングとしての看護, 新しい実践のためのモデル Anne Boykin, Savina O. Schoenhofer 共著, 多田敏子・谷岡哲也監訳, 西日本法規出版, 2005 年 3 月
- ◇ 看護学概論 川村佐和子ほか編, メディカ出版, 2004 年 3 月

【参考書】ケアの本質 (ゆみる出版)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217231>

【連絡先】

- ⇒ 伊賀 (口腔保健学科・教授室, 088-633-7963, iga@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~金:17:00~18:00)
- ⇒ 多田 (保健学科棟 3 階, 088-633-9033, tada@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 16:00-18:00)
- ⇒ 關戸 (088-633-9035, sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水~金:18:00~19:00)
- ⇒ 谷岡 (088-633-9021, tanioka@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】奇数回:木曜 1 時限目 偶数回:木曜 5 時限目

卒業研究

3 単位 (必修) 4 年 (前期, 後期)

伊賀 弘起 (授業責任者)・教授 / 口腔保健学科 口腔保健基礎学講座, 口腔保健学科全教員

【授業目的】本学科で学んだ知識と技術を踏まえて口腔保健学あるいは社会福祉学に関するテーマを選択し、自ら計画・立案する。さらにその計画に基づいて研究を行い、その成果を口頭で発表し、論文にまとめることによって研究への理解と意欲を養う。

【授業概要】指導教員の指導のもとにそれぞれのテーマに沿って研究をすすめ、その結果と考察を論文にまとめる。そのなかで研究テーマの計画、研究計画書の作成、グループ内での発表と討議、中間発表会を随時に行いながら研究を遂行し、最終的には研究成果報告会で発表と討論を行い、卒業論文として完成させる。

【授業形式】実習

【授業方法】実習形式

【授業場所】口腔保健学科教員室, 口腔保健学科研究室

【到達目標】

1. 将来の方向性や意欲に即して研究テーマを選定できる。
2. 研究テーマに応じた論文を検索し、その知見やエビデンスを理解できる。
3. 研究の遂行にあたって周囲の状況や環境に応じた計画・立案ができる。
4. 実験・調査などの研究を遂行できる。
5. 実験・調査等の結果を整理し、統計学的な分析ができる。
6. その結果に基づいて新たな課題を抽出できる。
7. 研究結果を発表し、討議できる。
8. 研究結果を論文にまとめることができる。

【授業計画】

	大項目	内容	到達目標
1.	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要と進め方 / 文献検索の方法 / 論文の読み方と理解 / エビデンスの評価 / 統計処理	1,2
2~3.	研究計画書	臨床試験研修セミナーの受講 / 研究テーマの検討と計画書の作成	3
4~23.	研究の実施	研究計画に基づく研究の実施 (実験・調査等) / 結果の整理と分析	4,5,6
24~26.	中間発表会	中間発表会の準備 / 中間発表会と討議, フィードバック / 中間評価に基づく研究の再検討	7
27~36.	研究の再実施	再検討に基づく研究の再実施	4,5,6
37~39.	研究成果報告会	プレゼンテーションの作成 / 発表と討論	7
40~45.	論文の作成	論文作成	8

【成績評価】出席状況, 研究計画書, 研究達成度, 中間発表, 研究成果報告会および論文により総合的に評価する。単位認定は最終論文提出後に行う。

【再試験】行わない。

【参考書】

- ◇ 歯科衛生研究の進め方論文の書き方 金澤紀子ほか編 医歯薬出版
- ◇ 新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎 中央法規出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217248>

【連絡先】

⇒ 伊賀 (口腔保健学科・教授室, 088-633-7963, iga@dent.tokushima-u.ac.jp)

MAIL

⇒ 口腔保健学科全教員

歯学科

● 歯学科

解剖学 (1)A・B 講義 ...北村・山下/2年(後期).....	5
解剖学 (1)C 講義 ...北村・角田・島田・吉田/3年(前期).....	7
解剖学 (1) 実習 ...北村・山下・角田/2年(後期), 3年(前期).....	9
解剖学 (2) A・B 講義 ...羽地・樋浦・沼子・瀬戸口/2年(後期).....	11
解剖学 (2) 実習 ...羽地・樋浦/2年(後期).....	13
解剖学 (2) C 講義 ...羽地/3年(前期).....	15
解剖学 (2) 実習 ...羽地・樋浦/3年(前期).....	16
生理学 A・B 講義 ...細井・赤松・長谷川/2年(後期).....	17
生理学 C・D 講義 ...細井・赤松・長谷川/3年(前期).....	19
生理学 実習 ...細井・赤松・長谷川/3年(前期).....	21
生化学 A・B 講義 ...野間・三好/2年(後期).....	23
生化学 C・D 講義 ...野間・三好・堀口・中田・伊藤・松本/3年(前期).....	25
生化学 実習 ...野間・三好・堀口/3年(前期).....	27
病理学 A・B 講義 ...石丸・泉・松本/3年(前期).....	29
病理学 C・D 講義 ...石丸・野地/3年(後期).....	31
病理学 実習 ...石丸・新垣・山田/3年(後期).....	33
細菌学 A・B 講義 ...三宅・弘田・村上・櫻井/2年(後期).....	35
細菌学 C・D 講義 ...三宅・弘田・村上・菅井/3年(前期).....	37
細菌学 実習 ...三宅・弘田・根本・村上/3年(後期).....	39
薬理学 A・B 講義 ...吉本・石川・水澤・岩田・福井・玉置・中屋・板東・栗島/3年(前期).....	40
薬理学 C・D 講義 ...吉本・石川・水澤・岩田・福井・玉置・中屋・板東・栗島/3年(後期).....	42
薬理学 実習 ...吉本・石川・水澤・岩田・森谷・伊井/3年(後期).....	44
歯科理工学 A 講義 ...浅岡・日浅/2年(後期).....	45
歯科理工学 B 講義 ...浜田/2年(後期).....	46
歯科理工学 C 講義 ...浅岡・浜田・関根・日浅・吉山・亘理/3年(前期).....	48
歯科理工学 実習 ...浅岡・浜田・関根・日浅/3年(前期).....	49
衛生学/公衆衛生学 講義 ...伊藤・片岡・福井・日野出・石本・井崎/3年(後期).....	51
予防歯科学 A 講義 ...伊藤・片岡・福井・日野出/3年(後期).....	53
予防歯科学 B 講義 ...伊藤・片岡・福井・中垣・滝波・酒井/4年(前期).....	55

予防歯科学 実習 ... 伊藤・片岡・福井・酒井/4年(前期).....	57
歯科保存学 (1)A 講義 ... 松尾・中江・中西・寺下/3年(後期).....	58
歯科保存学 (1)B 講義 ... 松尾・中江・中西・菅/4年(前期).....	60
歯科保存学 (1) 実習 ... 松尾・中江・中西・菅・湯本・細川・高橋・平尾/4年(前期, 後期).....	62
歯科保存学 (2)A 講義 ... 永田・木戸・笠原/3年(後期).....	64
歯科保存学 (2)B 講義 ... 永田・大石・二宮・西川/4年(前期).....	66
歯科保存学 (2) 実習 ... 永田・木戸・大石・二宮・堀部・米田・稲垣・美原/4年(前期), 4年(後期).....	68
歯科補綴学 (1)A 講義 ... 市川・永尾・友竹・本釜・長尾/3年(後期).....	70
歯科補綴学 (1)B 講義 ... 市川・羽田・岡・柏原・渡邊/4年(前期).....	72
歯科補綴学 (1) 実習 ... 市川・永尾・友竹・柏原・本釜・渡邊・長尾・内藤/4年(前期), 4年(後期).....	74
歯科補綴学 (2)A 講義 ... 西川・竹内・細木・坂東・中野/3年(後期).....	76
歯科補綴学 (2)B 講義 ... 久保・西川・細木・郡・重本・大倉・薩摩/4年(前期).....	78
歯科補綴学 (2) 実習 ... 久保・西川・竹内・細木・郡・重本・大倉・薩摩/4年(前期), 4年(後期).....	80
口腔外科学 (1)(口腔内科)AB 講義 ... 東・松本・桃田・茂木・青田・木村・由良/4年(前期).....	82
口腔外科学 (1)(口腔内科)C 講義 ... 東・松本・桃田・茂木・青田/4年(後期).....	85
口腔外科学 (2)(口腔外科)A 講義 ... 宮本・永井・藤澤・玉谷・内田・宮内・湯淺・大江・工藤・高丸/4年(前期).....	87
口腔外科学 (2)(口腔外科)BC 講義 ... 宮本・永井・藤澤・玉谷・内田・宮内・湯淺・大江・工藤・高丸/4年(後期).....	89
歯科矯正学 A 講義 ... 田中・黒田・堀内・高田/4年(前期).....	91
歯科矯正学 B 講義 ... 田中・黒田・堀内・高田/4年(後期).....	93
歯科矯正学 実習 ... 田中・黒田・堀内・泰江・藤原・川合・木内/4年(後期).....	95
小児歯科学 A 講義 ... 三留・有田・原田・郡・小口・高木/4年(前期).....	97
小児歯科学 B 講義 ... 三留・有田・原田・郡・白川/4年(後期).....	99
小児歯科学 実習 ... 三留・有田・原田・郡・尼寺・阿部・上田(山口)/4年(後期).....	101
歯科放射線学 A 講義 ... 誉田・前澤/4年(前期).....	102
歯科放射線学 B 講義 ... 細木・高橋・森田・古川/4年(後期).....	104
歯科放射線学 実習 ... 誉田・細木・高橋・前田・菅原・工藤・森田/4年(後期).....	106
歯科麻酔科学 A 講義 ... 北畑・富岡・江口・高石/4年(前期).....	108
歯科麻酔科学 B 講義 ... 北畑・富岡・江口・高石/4年(後期).....	110
内科学 (1) ... 藤中・粟飯原・遠藤・竹内・梶・佐藤・松井・和泉/4年(前期).....	112
内科学 (2) ... 岩瀬・添木・山田・若槻・岡村・岡本・木村・六車・山口・楠瀬・竹中・北村/4年(前期).....	113
内科学 (3) ... 吾妻・岸・後東・柿内・東・豊田・青野・埴淵/4年(前期).....	114
外科学 (1) ... 兼松・溝渕・神原・田代・寺嶋・三好・佐々木・他/4年(後期).....	115

外科学 (2) ... 先山・監崎・滝沢・山本・鳥羽・中川・中川/4年(後期).....	116
小児科学(隣接医学 C) ... 森・近藤・小谷/5年(前期).....	117
神経精神医学(隣接医学 B) ... 大森/5年(前期).....	118
臨床検査医学(隣接医学 C) ... 土井・安部・長井・松浦・野間・水野/5年(前期).....	119
皮膚科学(隣接医学 A) ... 石上・村尾・宮島・古北/5年(前期).....	120
整形外科(隣接医学 B) ... 加藤・高田・江川・松浦/5年(前期).....	121
耳鼻咽喉科学(隣接医学 A) ... 田村・阿部・関根・北村/5年(前期).....	122
産科婦人科学(隣接医学 B) ... 山本・加地・田中・吉田/5年(前期).....	123
眼科学(隣接医学 A) ... 四宮・江川・長澤・井上/5年(前期).....	124
泌尿器科学(隣接医学 B) ... 福森・高橋・井崎・中達/5年(前期).....	125
栄養学(隣接医学 C) ... 二川・竹谷・奥村/5年(前期).....	126
医事法制/法医学(隣接医学 C) ... 西村/5年(前期).....	127
臨床心理学 ... 佐藤・原・境・内海・福森/3年(後期).....	128
医学細胞生物学・人類遺伝学 ... 片桐・親泊・小迫・坂井・真板・高橋・谷上/3年(後期).....	129
口腔と健康 ... 徳島大学病院副院長・徳島大学病院(歯科部門)教授・他/1年(前期).....	131
歯科臨床示説 ... 臨床系研究室・診療科等教員/6年(通年).....	132
歯学概論 ... 学部長・8基礎系研究室教授/1年(後期).....	133
早期体験実習 ... 河野・他/2年(前期).....	134
研究基礎ゼミ ... 基礎系研究室教員・臨床系研究室・診療科(部)教員/3年(後期).....	135
歯科英語 ... 羽地・野間・吉本・永田/3年(後期).....	136
医の原則と態度 ... 河野・大石・篠原・吉田・村澤/4年(後期).....	137
社会と歯科医療 ... 伊藤・東・白山・寺岡・久米・早雲・吉田・薦田・森・佐藤・山上・秋田・川井/5年(後期).....	138
加齢歯科学 ... 市川・北村・吉本・伊藤・松尾・永田・北畑・羽田・日野出・永尾・久保・東・本釜・横山・森戸・佐藤・七條・宇高/5年(前期, 後期).....	139
バイオマテリアル・バイオエンジニアリング ... 浅岡・市川・重本・菅田・浜田・内藤・渡邊・久保・広田・菅原・里村/5年(後期).....	141
統合臨床講義 ... 臨床系研究室・診療科(部)教員・基礎系研究室教員/5年(前期).....	142
総合歯科学 1 ... 基礎系教員/6年(前期).....	143
総合歯科学 2 ... 臨床系教員・他/6年(前期).....	144
総合歯科学 3 ... 北村・永田・三宅・松尾・伊藤・木戸・二宮・大石/6年(後期).....	145
総合歯科学 4 ... 基礎系教員/6年(後期).....	147
総合歯科学 5 ... 臨床系教員・他/6年(後期).....	148
バイオマテリアル(口腔インプラント治療学講義) ... 市川・友竹・藤澤・郡・大江/5年(後期).....	149

口腔保健学科

● 口腔保健基礎学

解剖学・生理学・生化学 ... 伊賀・羽地・細井・野間・羽田・吉岡・吉田/1年(前期, 後期), 2年(前期).....	154
口腔解剖学・口腔生理学 ... 松山・羽地・羽田・日野出・伊賀・尾崎・吉田/1年(後期), 2年(前期).....	158
病理学・口腔病理学 ... 伊賀・石丸・尾崎/2年(前期).....	162
薬理学・歯科薬理学 ... 伊賀・吉本・石川・水澤・岩田・日野出・尾崎・吉岡/2年(前期).....	164
微生物学・免疫学 ... 日野出・三宅・弘田・根本・村上/2年(前期).....	166
口腔保健衛生学概論 ... 伊賀・羽田・日野出・尾崎・白山・松山・竹内・星野・中道・藤原/1年(前期).....	168
歯科衛生士概論 ... 日野出・伊賀・尾崎・松山・吉岡・中道・星野・大石・藤原/1年(後期), 2年(前期).....	170
歯科衛生統計 ... 日野出・吉岡/2年(後期).....	172
衛生行政 ... 日野出・吉岡/1年(後期).....	174
衛生学・公衆衛生学 ... 日野出・吉岡・佐藤/2年(後期), 3年(前期).....	175
口腔衛生学 ... 日野出・吉岡/2年(前期).....	177
医療情報処理学 ... 河野/1年(前期).....	179
医療安全管理学 ... 伊賀・河野・尾崎・松山/2年(後期).....	180
早期臨床実習 ... 伊賀・日野出・白山/1年(後期), 2年(前期).....	182
口腔衛生学基礎実習 ... 日野出・吉田・北村・山下・角田・羽地・樋浦・吉本・石川・水澤・岩田・細井・赤松・長谷川・石丸・新垣・山田・口腔保健学科全教員/2年(前期, 後期).....	184

● 口腔保健支援学

発達系歯科学 ... 尾崎・田中・三留・堀内・藤原/2年(後期), 3年(前期).....	189
保存修復系歯科学 ... 尾崎・永田・大石/2年(後期), 3年(前期).....	192
補綴系歯科学 ... 松山・河野・羽田・西川・友竹・細木・星野・藤原/2年(後期), 3年(前期).....	194
外科系歯科学 ... 伊賀/2年(後期), 3年(前期).....	197
歯科放射線学 ... 伊賀・菅田・尾崎・細木/2年(後期).....	199
歯科麻酔学・救急蘇生 ... 伊賀・富岡/2年(後期).....	201
歯科材料学 ... 羽田・浜田・尾崎・友竹/2年(前期).....	202
歯科診療補助論 ... 尾崎・中道・藤原・竹内/2年(後期), 3年(前期).....	204
チーム歯科医療学 ... 尾崎・羽田・中道・星野・藤原・谷・河野/2年(後期), 3年(前期).....	206
高齢者口腔保健衛生学 ... 松山・羽田・中道/3年(前期).....	208
障害者口腔保健衛生学 ... 羽田・三留・有田・吉岡・郡・中川・尼寺・上田(山口)/3年(前期).....	210

嚥下・摂食障害学 ... 松山・羽田・有田・星野・藤原/3年(前期)	212
栄養学・栄養食品学 ... 日野出・中屋・堤・山本・奥村/2年(後期)	214
口腔疾患予防学 ... 日野出・吉岡・星野・中道/2年(前期, 後期)	215
口腔疾患予防学実習 ... 日野出・三宅・弘田・吉岡・中道・星野・根本・村上・藤原/2年(前期, 後期), 3年(前期)	217
チーム歯科医療学基礎実習 ... 尾崎・伊賀・松山・中道・星野・竹内・高石・藤原・近藤/2年(後期), 3年(前期)	219
● 口腔保健福祉学	
歯科口腔介護学 ... 松山・羽田・中道・竹内/3年(前期)	221
現代社会と福祉 ... 白山・下泉/1年(後期), 2年(前期)	223
社会調査の基礎 ... 白山/1年(後期)	225
相談援助の基盤と専門職 ... 白山・和泉/1年(後期), 2年(前期)	226
相談援助の理論と方法 ... 羽田・竹内・山下・藤河/2年(前期, 後期)	228
地域福祉の理論と方法 ... 羽田・竹内・上地・下泉/2年(後期), 3年(前期)	233
福祉行財政と福祉計画 ... 白山/2年(後期)	236
社会福祉援助技術演習 ... 羽田・竹内・大下・山下/3年(前期, 集中), 4年(前期)	237
社会福祉援助技術現場実習指導 ... 羽田・竹内/3年(集中, 集中, 後期), 4年(前期)	239
福祉サービスの組織と経営 ... 羽田・竹内・藤河/3年(前期)	241
社会保障 ... 白山・羽田/3年(前期)	243
高齢者福祉 ... 羽田・竹内・大下/3年(前期)	245
障害者福祉 ... 羽田・竹内・和泉/3年(前期)	247
児童・家庭福祉 ... 羽田・竹内・上野/3年(前期)	249
公的扶助 ... 羽田・竹内・赤池/3年(前期)	251
保健医療サービス ... 白山/3年(前期)	253
就労支援サービス ... 白山/3年(前期)	254
相談援助演習 ... 白山・羽田・竹内/3年(後期), 4年(前期)	255
相談援助実習指導 ... 白山・羽田・竹内/3年(後期), 4年(前期)	257
● 隣接医科学	
総合医科学 ... 伊賀・竹内/3年(後期)	258
総合医科学 B ... 伊賀・白山・竹内/4年(前期)	260
医療倫理学 ... 伊賀・大石/3年(後期)	261
臨床心理学 ... 伊賀・佐藤・原・境・内海・福森/2年(後期)	262
基礎看護学 ... 伊賀・多田・關戸・谷岡/3年(後期), 4年(前期)	263

● 卒業研究

卒業研究 ... 伊賀・口腔保健学科全教員/4年(前期, 後期).....264